

# より良い教育を目指して

学生による授業アンケート結果

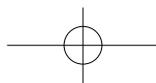
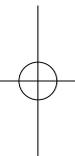
と

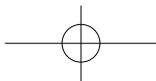
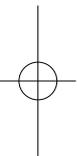
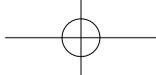
教員から学生の皆様へのコメント

Vol.24

2024年12月

神奈川工科大学  
教育開発センター





## はじめに

本冊子「より良い教育を目指して Vol.24」は2024年度（令和6年）前期に実施した学生による授業アンケートの結果をまとめたものです。全体の集計結果、教員一人一人が受講学生に向けて書いたコメント等をまとめたものです。今回のアンケートは各教員が担当科目のうちから選択した441科目（クラス）で実施されました。アンケートに真摯に取り組んでくれた学生諸君に感謝したいと思います。また、非常勤講師の先生方ならびに本学教員・職員の皆様には授業アンケート実施、そして本冊子作成に御協力いただきましたこと御礼申し上げます。

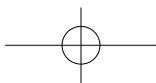
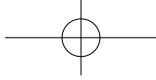
教育開発センターではこれまで教職員の協力のもと、実施結果を振り返り、実施形態、取りまとめ方法などの改善や新たな試みを行ってきました。結果、個々の先生方の努力も相俟って、着実に全学的な授業改善の流れが形成されてきました。さらに、教育課程の視点で、カリキュラムを評価するための資料としての授業アンケートの利用を意識して、一昨年度、授業アンケートの設問を大きく変更し、授業の設計・実施・評価という流れを6つの観点に集約させ、一観点一質問の設問構成としました。「教員による振り返りアンケート」を同時に実施することにより、授業アンケート実施科目での同一観点における学生・教員間の回答結果を比較することができるようにもしました。個々の授業改善のみならず、カリキュラム評価のために授業アンケートを用いる準備も進めてきたこととなります。

とは言え、今年度前期までは各教員が選択した任意の科目での授業アンケート実施でしたので、個々の授業改善は別として、カリキュラム全体を評価する資料としては完全なものとは言えないものでした。そこで、学修成果の可視化、カリキュラムの評価・改善活動を推し進めることを目的として、今年度後期から授業アンケートをすべての科目で実施することとしました。今回の結果分析も含めて、これまでの授業アンケートで得られた知見を活かして、さらなる本学の教育力向上を目指す所存です。

学生諸君、教職員各位には、今後も授業アンケートへのご協力をお願いいたします。

2024年（令和6年）11月11日

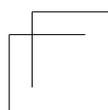
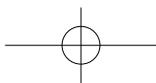
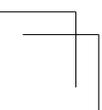
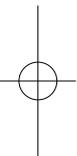
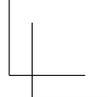
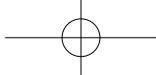
教育開発センター  
所長 山本 一雄



## 目 次

はじめに

|   |     |
|---|-----|
| I 2024年度前期 授業アンケート概要.....               | 3   |
| II 全体集計（平均点・度数分布）.....                  | 5   |
| III セグメント別平均値.....                      | 7   |
| IV 設問別クロス集計.....                        | 8   |
| V 担当教員からのコメント.....                      | 17  |
| <b>【共通基盤科目】</b>                         |     |
| 導入系（スタディスキル）.....                       | 19  |
| 倫理系.....                                | 26  |
| 人文社会系.....                              | 27  |
| 英語基礎系.....                              | 33  |
| 言語応用系.....                              | 38  |
| 数理情報系（実感する科学情報，情報・AIリテラシー，身の回りの数学）..... | 40  |
| 教職課程.....                               | 57  |
| <b>【専門基礎導入】（数理科目）</b>                   |     |
| 数学.....                                 | 63  |
| 物理.....                                 | 67  |
| 化学.....                                 | 74  |
| <b>【専門科目】</b>                           |     |
| [工学部]                                   |     |
| 機械工学科.....                              | 79  |
| 電気電子情報工学科.....                          | 87  |
| 応用化学科.....                              | 90  |
| [情報学部]                                  |     |
| 情報学部共通.....                             | 97  |
| 情報工学科.....                              | 98  |
| 情報ネットワーク・コミュニケーション学科.....               | 106 |
| 情報メディア学科.....                           | 111 |
| [創造工学部]                                 |     |
| 自動車システム開発工学科.....                       | 119 |
| ロボット・メカトロニクス学科.....                     | 123 |
| ホームエレクトロニクス開発学科.....                    | 126 |
| [応用バイオ科学部]                              |     |
| 応用バイオ科学科.....                           | 133 |
| [健康医療科学部]                               |     |
| 看護学科.....                               | 141 |
| 管理栄養学科.....                             | 152 |
| 臨床工学科.....                              | 158 |
| VI コメント教員索引.....                        | 161 |



# I 2024 年度前期 授業アンケート概要

## 1) 調査目的

本学において「学生による授業アンケート」は、各科目担当者が受講生の視点から科目の現状を点検し、改善のために資することを目的に、例年2回（前期・後期）実施されている。このうち前期アンケートについては、本冊子『より良い教育を目指して』をとおり、受講生の評価（集計結果）と声（自由記述回答）と、それに対する科目担当者の「学生に宛てたコメント」を掲載し、学生・教員間の対話の契機とすべく学内各所に配置し公開している。

2019年度からは、本授業アンケートの結果は、教員の教育評価の指標として用いられている。また、2024年度の新教育課程の導入を機に、本学のカリキュラムの点検のための間接評価資料としても用いられることとされている。

## 2) 質問票の構成

2021年度アンケートの項目は、現状に合わない項目や直感的に分かりにくい質問文などもあり改善が必要とされていた。そのため2022年度アンケートからは、利用度の極端に少なかった「教員オリジナル質問」を廃止するとともに分かりにくさを解消し、授業の設計・実施・評価という流れを6つの観点に集約させ、一観点一質問での質問項目を構成した。それに加え、従来どおり、省令で求められている単位当たりの学修時間の実現度を確認するための項目を設けた。2024年度アンケートにおいても、昨年度同様に以下の項目をもって構成した。

### 【質問項目】

1. この授業を、シラバス等で説明された目標、内容に沿って学ぶことができた[授業の設計]
2. この授業に意欲的・自発的に取り組むことができた[学生の取組]
3. この授業で設定された学習内容を理解できた[学修の到達度]
4. 意見を伝えたり質問・発表したりする機会が設けられていた[学修の環境]
5. 課題や宿題などに対して、先生はフィードバック（解説・添削・ヒントを与えるなど）を行っていた[教員のフィードバック]
6. この授業をとおして知的な関心、新しいスキルや考え方、もしくは達成感が得られた[学修の満足度]
7. この授業のための事前学修（予習・課題）は週平均でどのくらいか[事前学修時間]
8. この授業のための事後学修（復習・課題）は週平均でどのくらいか[事後学修時間]

### 【自由記述】

良い点や改善して欲しい点を書いてください

## 3) 調査方法

Manaba course を使用した web 方式にて実施した。

## 4) 実施期間

実施： 7月15日（月）～7月27日（土） 第14回～15回授業

## 5) 実施科目

担当科目から1科目以上を教員が選択し実施することとした。なお、「共通基盤教育」科目のうちの「スタディスキル」「身の回りの数学」「実感する科学」「情報・AIリテラシー」「英語Ⅰ～Ⅵ」については、原則として全授業で実施（1科目のみ実施の場合はこれらを優先）することとした。

ただし、次の科目については原則として実施を求めている：

- ①実験・実習、実技、製図科目、②同一教室を複数教員で担当する授業・オムニバス、③特別授業「(特)の科目および(特)主体の科目」、④履修登録者10人未満の科目、⑤ゼミ、卒業研究、⑥大学院科目

## 6) 実施科目数および回答率

| 内 訳   | 全 体             |
|-------|-----------------|
| 申請科目数 | 442 (441) 科目    |
| 実施科目数 | 441 (441) 科目    |
| 回 答 率 | 59.28 (62.02) % |

\* ( … ) は前回 (2023年度前期) 数値

## 7) 各教員への結果報告

「授業アンケート集計結果 (科目別) 票」(集計結果とそれをグラフ化したもの)を8月21日 (水) に専任教員に学内メール便にて配布。非常勤講師には、その前日に、自宅に宛て郵送している。

## 8) 本報告書編集に向けたコメントの収集

各教員には「授業アンケート結果」をもとに原則1科目について (回答者のより多い科目。必要に応じ、2科目以上も可)、受講生に向けたコメントの提出を依頼した (回答者数10名未満の科目については提出不要とした)。

依頼に当たっては、「自己省察的な記述 (常体で記述)」「学生とともに改善に向かうつもりで書いた記述 (敬体で記述)」の二例を付し、コメント作成にあたってのイメージ構築を図ったが、受講生に向けて「率直な回答」をいただく期待から、文体や内容は統一せず、「個人別集計」(結果数値)を公表するか否かについても各教員の裁量とした。

## 9) 全体集計・クロス集計における対象科目

上述したように、2024年度前期授業アンケートは、441科目において実施された。このうち、本学では、履修者数10名以上かつ回答者数10名以上の科目を対象とし、全体集計・クロス集計を行っている。この条件による総科目数は376科目となり、以降のⅡⅢⅣで記述している集計結果においてはこの数字が基本とされる。ちなみに、この条件による総科目数376科目での回答率は60.66% (実施科目全体では59.28%)であった。

## Ⅱ 全体集計（平均点・度数分布）

(1)この授業を、シラバス等で説明された目標、内容に沿って学ぶことができた【授業の設計】

| 回答値             | 全体件数   | 全体(%)  | 0% 25% 50% 75% |       |      |      |
|-----------------|--------|--------|----------------|-------|------|------|
| 1.「いいえ」         | 109    | 0.8%   |                |       |      |      |
| 2.どちらかといえば「いいえ」 | 328    | 2.5%   |                |       |      |      |
| 3.どちらかといえば「はい」  | 4,670  | 36.1%  |                |       |      |      |
| 4.「はい」          | 7,826  | 60.5%  |                |       |      |      |
| 合計              | 12,933 | 100.0% | 平均点            | 標準偏差  | 最低   | 最高   |
| その他／無効          | 0      |        | 3.56           | 0.589 | 2.67 | 4.00 |

(2)この授業に意欲的・自発的に取り組むことができた【学生の取組】

| 回答値             | 全体件数   | 全体(%)  | 0% 25% 50% 75% |       |      |      |
|-----------------|--------|--------|----------------|-------|------|------|
| 1.「いいえ」         | 250    | 1.9%   |                |       |      |      |
| 2.どちらかといえば「いいえ」 | 936    | 7.2%   |                |       |      |      |
| 3.どちらかといえば「はい」  | 5,588  | 43.2%  |                |       |      |      |
| 4.「はい」          | 6,159  | 47.6%  |                |       |      |      |
| 合計              | 12,933 | 100.0% | 平均点            | 標準偏差  | 最低   | 最高   |
| その他／無効          | 0      |        | 3.37           | 0.702 | 2.17 | 3.95 |

(3)この授業で設定された学習内容を理解できた【学修の到達度】

| 回答値             | 全体件数   | 全体(%)  | 0% 25% 50% 75% |       |      |      |
|-----------------|--------|--------|----------------|-------|------|------|
| 1.「いいえ」         | 233    | 1.8%   |                |       |      |      |
| 2.どちらかといえば「いいえ」 | 834    | 6.4%   |                |       |      |      |
| 3.どちらかといえば「はい」  | 5,759  | 44.5%  |                |       |      |      |
| 4.「はい」          | 6,107  | 47.2%  |                |       |      |      |
| 合計              | 12,933 | 100.0% | 平均点            | 標準偏差  | 最低   | 最高   |
| その他／無効          | 0      |        | 3.37           | 0.686 | 2.17 | 3.91 |

(4)意見を伝えたり質問・発表したりする機会が設けられていた【学修の環境】

| 回答値             | 全体件数   | 全体(%)  | 0% 25% 50% 75% |       |      |      |
|-----------------|--------|--------|----------------|-------|------|------|
| 1.「いいえ」         | 1,245  | 9.6%   |                |       |      |      |
| 2.どちらかといえば「いいえ」 | 1,884  | 14.6%  |                |       |      |      |
| 3.どちらかといえば「はい」  | 4,401  | 34.0%  |                |       |      |      |
| 4.「はい」          | 5,403  | 41.8%  |                |       |      |      |
| 合計              | 12,933 | 100.0% | 平均点            | 標準偏差  | 最低   | 最高   |
| その他／無効          | 0      |        | 3.08           | 0.971 | 1.83 | 4.00 |

(5) 課題や宿題などに対して、先生はフィードバック(解説・添削・ヒントを与えるなど)を行っていた【教員のフィードバック】

| 回答値              | 全体件数   | 全体(%)  | 0% 25% 50% 75% |       |      |      |
|------------------|--------|--------|----------------|-------|------|------|
| 1. 「いいえ」         | 550    | 4.3%   |                |       |      |      |
| 2. どちらかといえば「いいえ」 | 994    | 7.7%   |                |       |      |      |
| 3. どちらかといえば「はい」  | 4,188  | 32.4%  |                |       |      |      |
| 4. 「はい」          | 7,201  | 55.7%  |                |       |      |      |
| 合計               | 12,933 | 100.0% | 平均点            | 標準偏差  | 最低   | 最高   |
| その他/無効           | 0      |        | 3.39           | 0.805 | 2.20 | 4.00 |

(6) この授業をとおして知的な関心、新しいスキルや考え方、もしくは達成感が得られた【学修の満足度】

| 回答値              | 全体件数   | 全体(%)  | 0% 25% 50% 75% |       |      |      |
|------------------|--------|--------|----------------|-------|------|------|
| 1. 「いいえ」         | 295    | 2.3%   |                |       |      |      |
| 2. どちらかといえば「いいえ」 | 766    | 5.9%   |                |       |      |      |
| 3. どちらかといえば「はい」  | 5,278  | 40.8%  |                |       |      |      |
| 4. 「はい」          | 6,594  | 51.0%  |                |       |      |      |
| 合計               | 12,933 | 100.0% | 平均点            | 標準偏差  | 最低   | 最高   |
| その他/無効           | 0      |        | 3.41           | 0.704 | 2.17 | 3.95 |

(7) この授業のための事前学修(予習・課題)は週平均でどのくらいか【事前学修時間】

| 回答値        | 全体件数   | 全体(%)  | 0% 25% 50% 75% |       |      |      |
|------------|--------|--------|----------------|-------|------|------|
| 1. ほぼ0分    | 4,565  | 35.3%  |                |       |      |      |
| 2. 30分程度   | 5,154  | 39.9%  |                |       |      |      |
| 3. 1時間程度   | 2,216  | 17.1%  |                |       |      |      |
| 4. 1.5時間以上 | 998    | 7.7%   |                |       |      |      |
| 合計         | 12,933 | 100.0% | 平均点            | 標準偏差  | 最低   | 最高   |
| その他/無効     | 0      |        | 1.97           | 0.912 | 1.21 | 3.60 |

(8) この授業のための事後学修(復習・課題)は週平均でどのくらいか【事後学修時間】

| 回答値        | 全体件数   | 全体(%)  | 0% 25% 50% 75% |       |      |      |
|------------|--------|--------|----------------|-------|------|------|
| 1. ほぼ0分    | 2,747  | 21.2%  |                |       |      |      |
| 2. 30分程度   | 5,578  | 43.1%  |                |       |      |      |
| 3. 1時間程度   | 3,195  | 24.7%  |                |       |      |      |
| 4. 1.5時間以上 | 1,413  | 10.9%  |                |       |      |      |
| 合計         | 12,933 | 100.0% | 平均点            | 標準偏差  | 最低   | 最高   |
| その他/無効     | 0      |        | 2.25           | 0.912 | 1.47 | 3.72 |

### Ⅲ セグメント別平均値

設問項目セグメント別4段階評価平均値

| ■所属学科別 |     | 1     | 2     | 3      | 4     | 5          | 6      |
|--------|-----|-------|-------|--------|-------|------------|--------|
| 授業数    |     | 授業の設計 | 学生の取組 | 学修の到達度 | 学修の環境 | 教員のフィードバック | 学修の満足度 |
| M      | 16  | 3.54  | 3.28  | 3.25   | 2.84  | 3.61       | 3.33   |
| E      | 17  | 3.50  | 3.32  | 3.20   | 3.07  | 3.44       | 3.28   |
| C      | 3   | 3.54  | 3.39  | 3.41   | 3.20  | 3.67       | 3.52   |
| I      | 22  | 3.57  | 3.34  | 3.34   | 2.75  | 3.24       | 3.40   |
| N      | 14  | 3.60  | 3.45  | 3.45   | 3.13  | 3.56       | 3.50   |
| D      | 15  | 3.61  | 3.31  | 3.30   | 2.71  | 3.22       | 3.35   |
| V      | 9   | 3.57  | 3.26  | 3.23   | 3.12  | 3.34       | 3.30   |
| R      | 5   | 3.62  | 3.37  | 3.33   | 2.97  | 3.35       | 3.49   |
| H      | 9   | 3.56  | 3.50  | 3.47   | 3.24  | 3.62       | 3.49   |
| B      | 13  | 3.49  | 3.30  | 3.18   | 3.06  | 3.46       | 3.28   |
| U      | 29  | 3.54  | 3.47  | 3.46   | 3.35  | 3.31       | 3.52   |
| L      | 17  | 3.61  | 3.42  | 3.44   | 3.11  | 3.31       | 3.43   |
| A      | 11  | 3.61  | 3.40  | 3.39   | 3.16  | 3.43       | 3.47   |
| K      | 109 | 3.60  | 3.40  | 3.43   | 3.26  | 3.55       | 3.41   |
| T      | 4   | 3.50  | 3.25  | 3.33   | 3.25  | 3.64       | 3.44   |
| 非常勤    | 83  | 3.53  | 3.30  | 3.36   | 3.07  | 3.33       | 3.37   |
| 全体     | 376 | 3.56  | 3.37  | 3.37   | 3.08  | 3.39       | 3.41   |

| ■分類別    |     | 1     | 2     | 3      | 4     | 5          | 6      |
|---------|-----|-------|-------|--------|-------|------------|--------|
| 授業数     |     | 授業の設計 | 学生の取組 | 学修の到達度 | 学修の環境 | 教員のフィードバック | 学修の満足度 |
| 導入系     | 23  | 3.66  | 3.47  | 3.59   | 3.71  | 3.64       | 3.55   |
| 倫理系     | 5   | 3.50  | 3.34  | 3.43   | 3.16  | 3.56       | 3.41   |
| 人文社会系a群 | 15  | 3.53  | 3.23  | 3.31   | 2.93  | 3.25       | 3.35   |
| 人文社会系b群 | 3   | 3.52  | 3.13  | 3.26   | 3.04  | 3.57       | 3.38   |
| 人文社会系c群 | 4   | 3.49  | 3.32  | 3.40   | 3.10  | 3.20       | 3.41   |
| 英語基礎系   | 44  | 3.54  | 3.32  | 3.37   | 3.40  | 3.50       | 3.31   |
| 言語応用系   | 10  | 3.52  | 3.32  | 3.43   | 3.33  | 3.41       | 3.39   |
| 数理情報系   | 55  | 3.62  | 3.40  | 3.50   | 3.04  | 3.47       | 3.40   |
| 専門基礎導入  | 43  | 3.57  | 3.41  | 3.34   | 3.14  | 3.57       | 3.40   |
| 専門基礎    | 68  | 3.55  | 3.34  | 3.30   | 2.81  | 3.26       | 3.37   |
| 専門      | 103 | 3.56  | 3.40  | 3.37   | 3.14  | 3.39       | 3.45   |
| 教職      | 3   | 3.26  | 3.17  | 3.12   | 3.00  | 3.16       | 3.16   |
| 全体      | 376 | 3.56  | 3.37  | 3.37   | 3.08  | 3.39       | 3.41   |

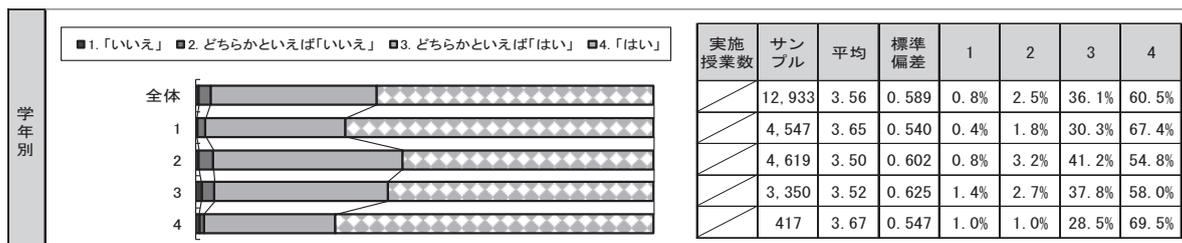
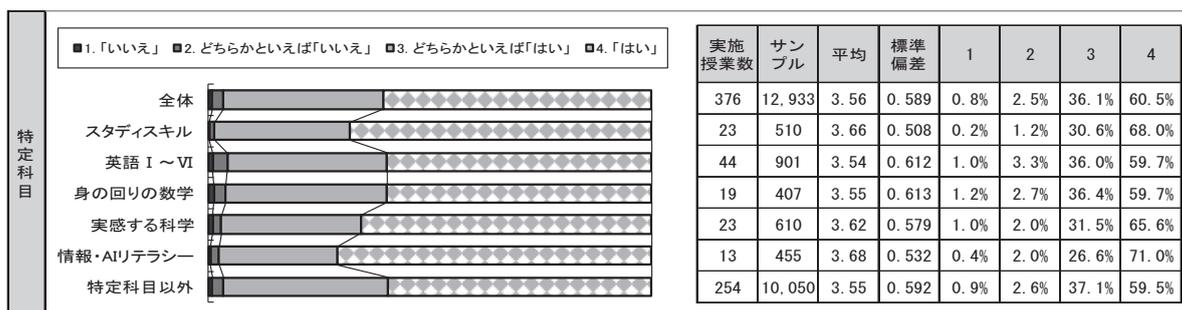
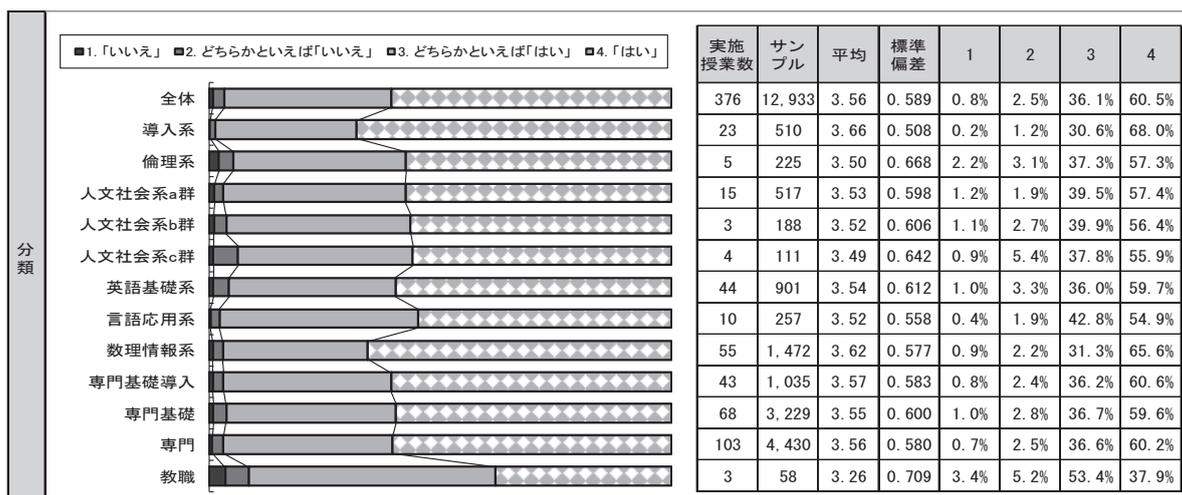
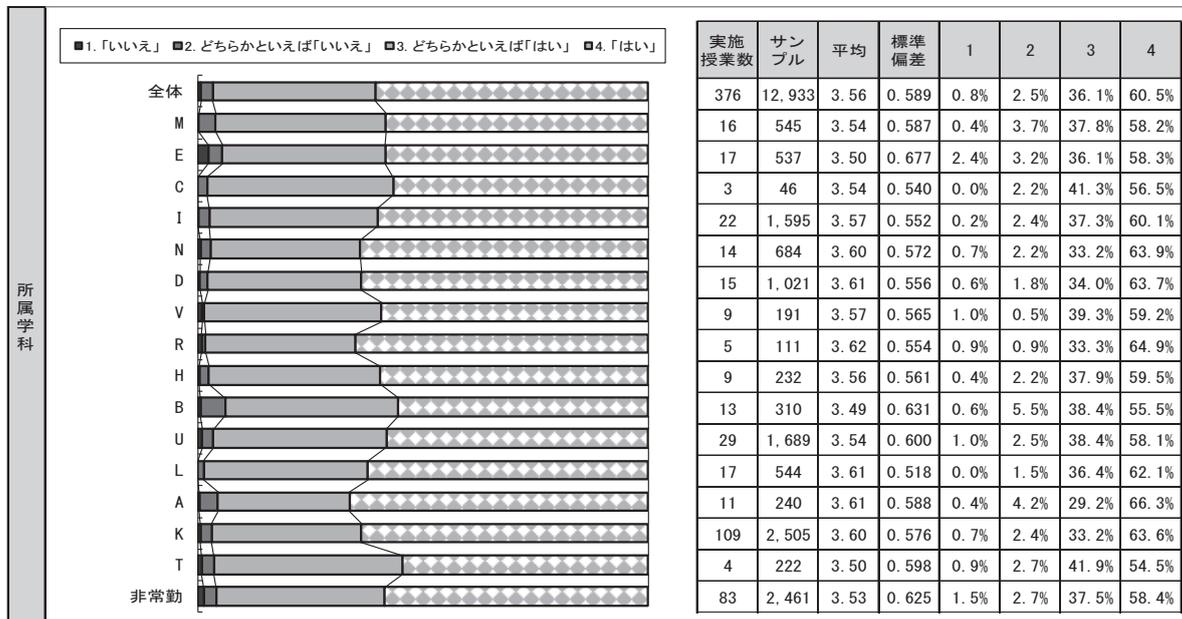
| ■特定科目      |     | 1     | 2     | 3      | 4     | 5          | 6      |
|------------|-----|-------|-------|--------|-------|------------|--------|
| 授業数        |     | 授業の設計 | 学生の取組 | 学修の到達度 | 学修の環境 | 教員のフィードバック | 学修の満足度 |
| スタディスキル    | 23  | 3.66  | 3.47  | 3.59   | 3.71  | 3.64       | 3.55   |
| 英語Ⅰ～Ⅵ      | 44  | 3.54  | 3.32  | 3.37   | 3.40  | 3.50       | 3.31   |
| 身の回りの数学    | 19  | 3.55  | 3.28  | 3.43   | 2.79  | 3.44       | 3.23   |
| 実感する科学     | 23  | 3.62  | 3.37  | 3.46   | 3.05  | 3.52       | 3.38   |
| 情報・AIリテラシー | 13  | 3.68  | 3.53  | 3.61   | 3.24  | 3.44       | 3.57   |
| 特定科目以外     | 254 | 3.55  | 3.36  | 3.34   | 3.03  | 3.36       | 3.41   |
| 全体         | 376 | 3.56  | 3.37  | 3.37   | 3.08  | 3.39       | 3.41   |

| ■学年別 |     | 1     | 2     | 3      | 4     | 5          | 6      |
|------|-----|-------|-------|--------|-------|------------|--------|
| 授業数  |     | 授業の設計 | 学生の取組 | 学修の到達度 | 学修の環境 | 教員のフィードバック | 学修の満足度 |
| 1年   | --- | 3.65  | 3.47  | 3.49   | 3.15  | 3.46       | 3.48   |
| 2年   | --- | 3.50  | 3.30  | 3.29   | 3.03  | 3.34       | 3.34   |
| 3年   | --- | 3.52  | 3.31  | 3.32   | 3.05  | 3.37       | 3.38   |
| 4年   | --- | 3.67  | 3.44  | 3.41   | 3.12  | 3.46       | 3.51   |
| 全体   | 0   | 3.56  | 3.37  | 3.37   | 3.08  | 3.39       | 3.41   |

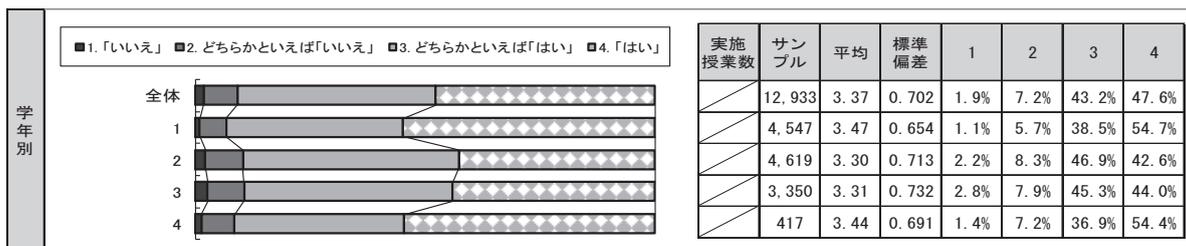
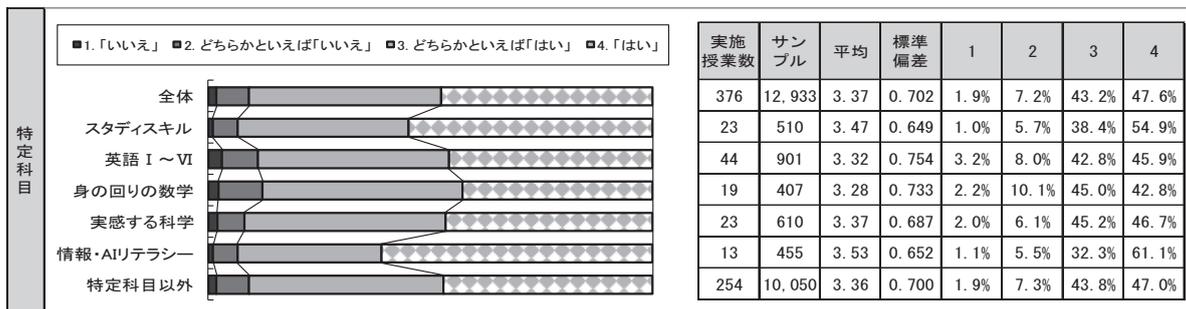
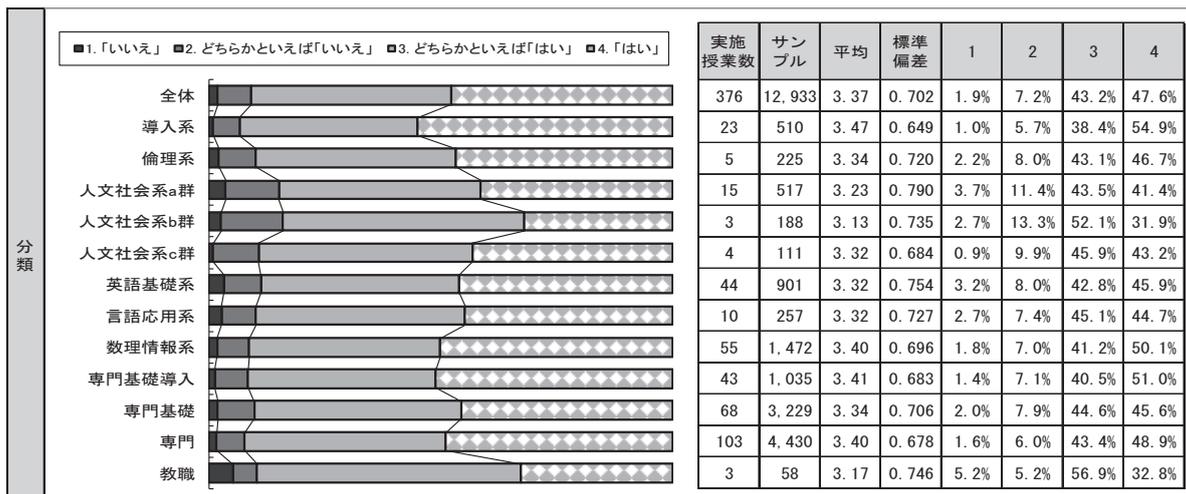
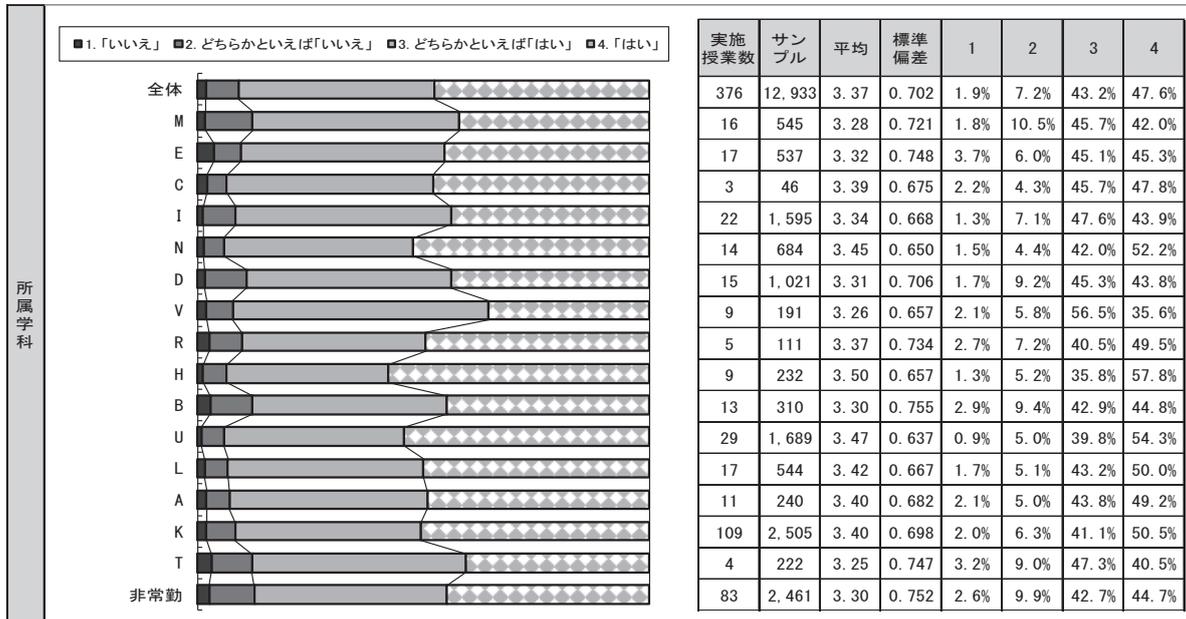
## IV 設問別クロス集計

1. この授業を、シラバス等で説明された目標、内容に沿って学ぶことができた
2. この授業に意欲的・自発的に取り組むことができた
3. この授業で設定された学習内容を理解できた
4. 意見を伝えたり質問・発表したりする機会が設けられていた
5. 課題や宿題などに対して、先生はフィードバック（解説・添削・ヒントを与えるなど）を行っている
6. この授業をとおして知的な関心、新しいスキルや考え方、もしくは達成感が得られた
7. この授業のための事前学修（予習・課題）は週平均でどのくらいか
8. この授業のための事後学修（復習・課題）は週平均でどのくらいか

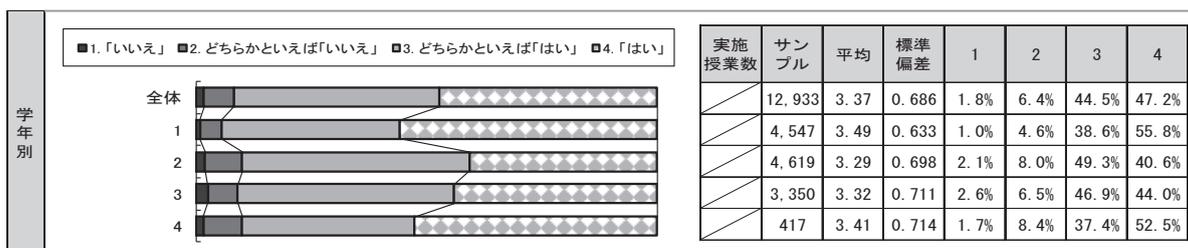
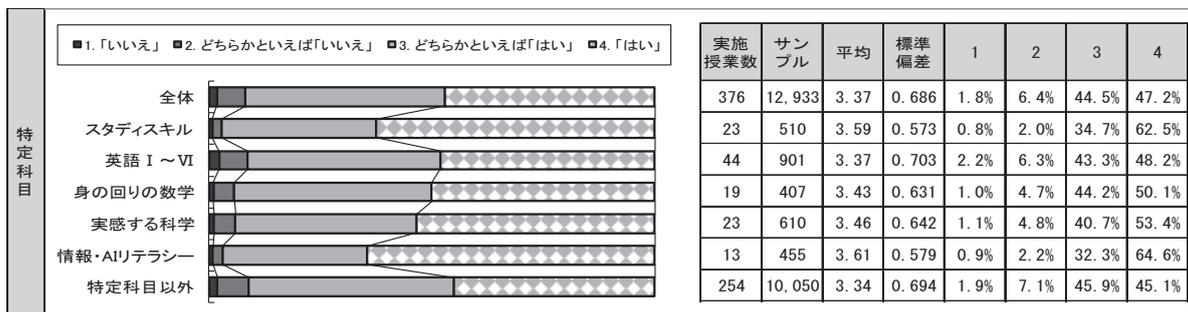
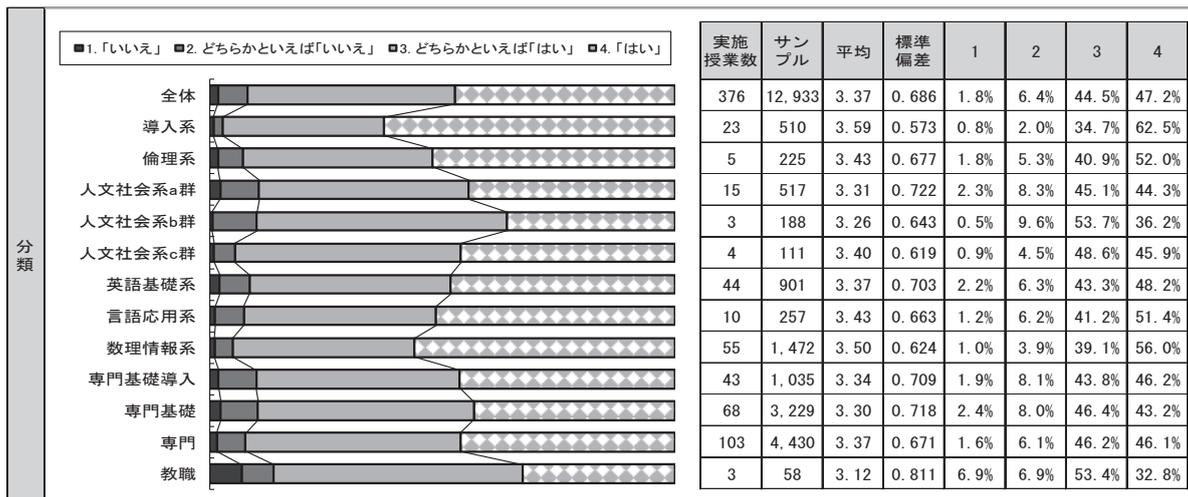
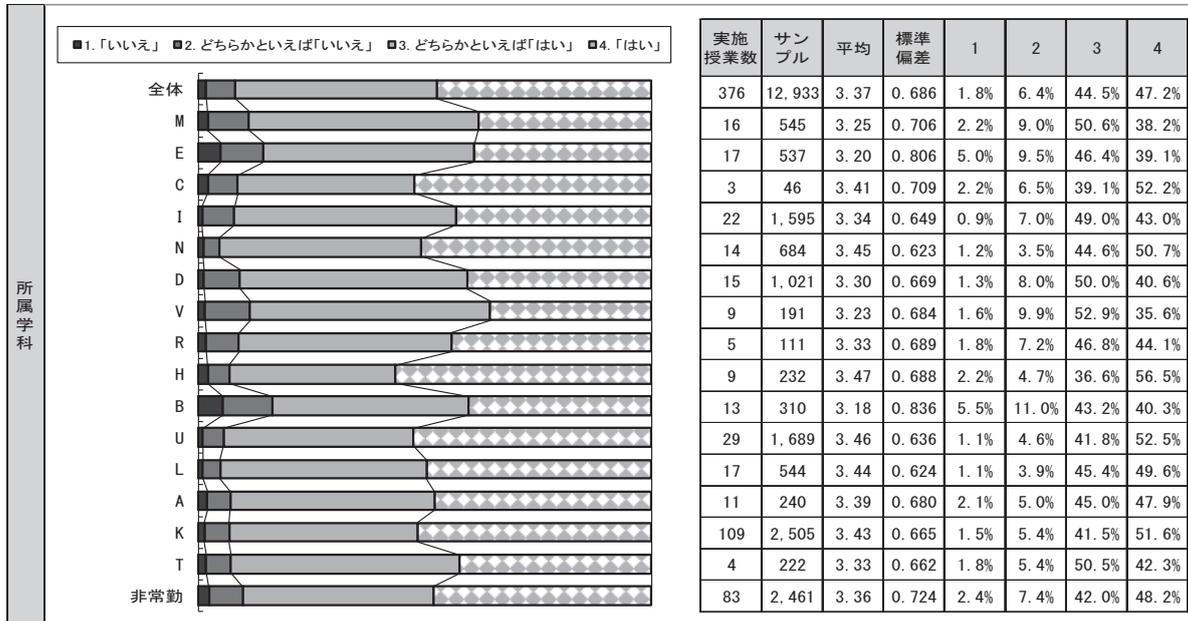
(1) この授業を、シラバス等で説明された目標、内容に沿って学ぶことができた【授業の設計】



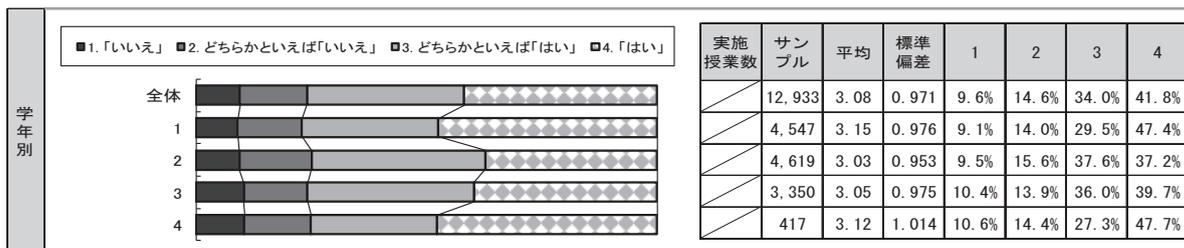
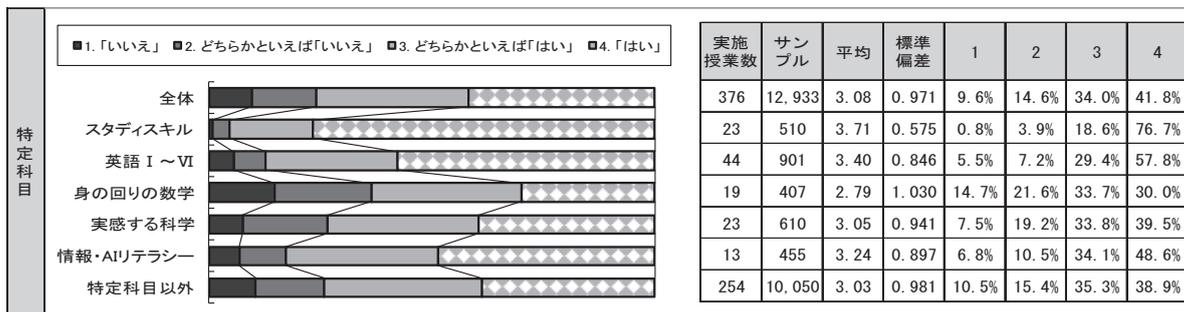
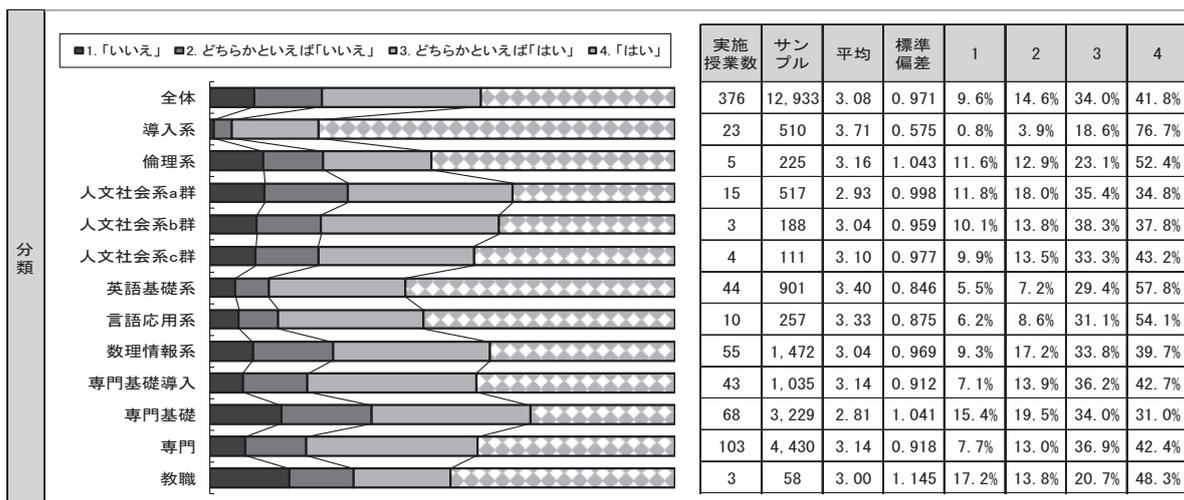
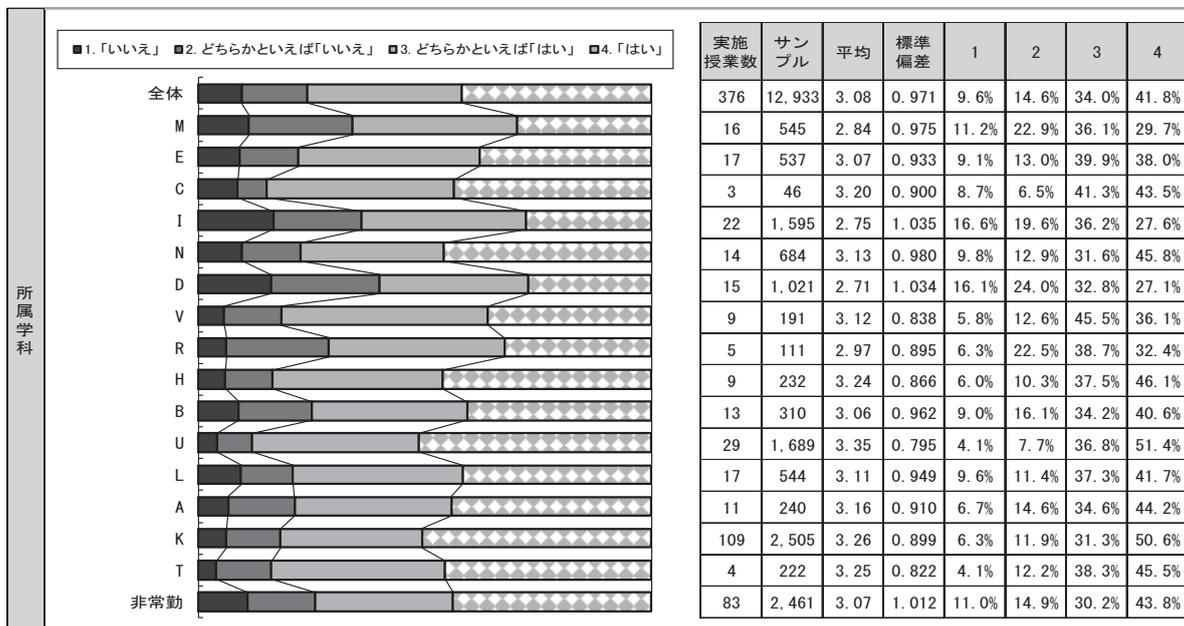
(2) この授業に意欲的・自発的に取り組むことができた【学生の取組】



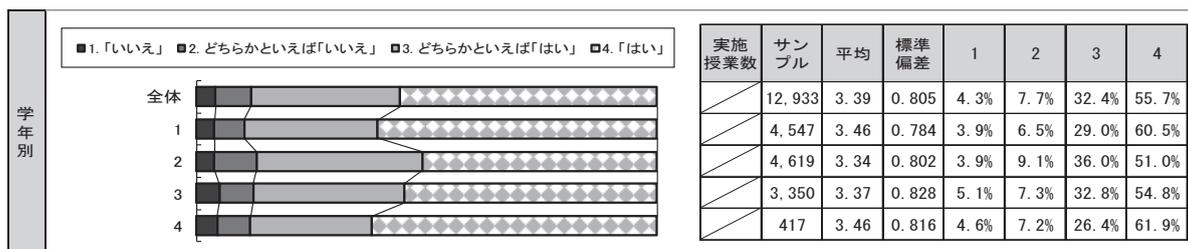
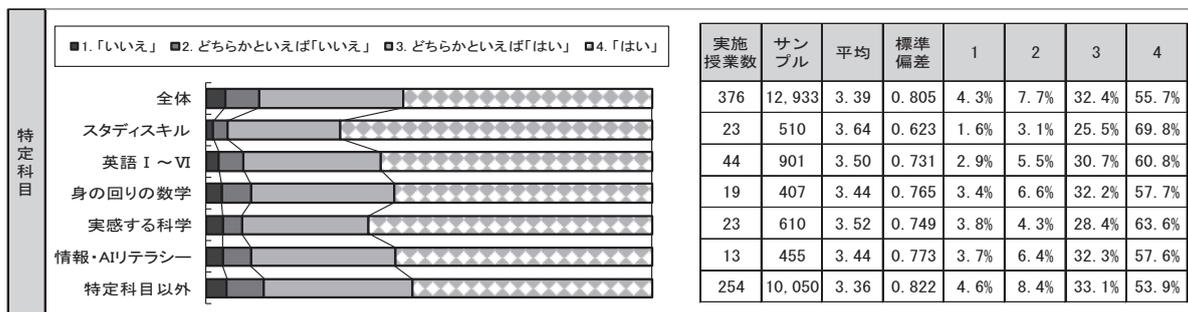
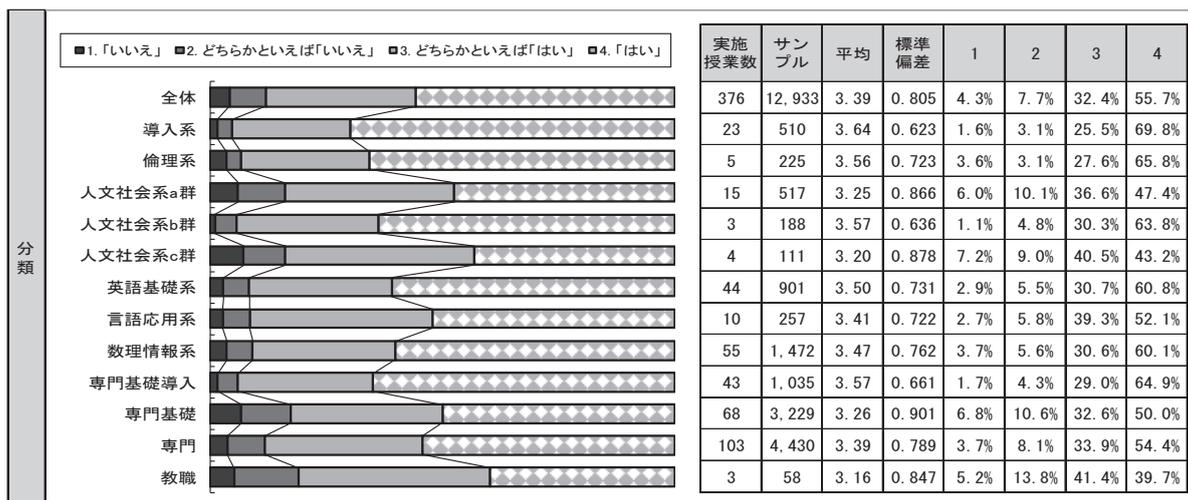
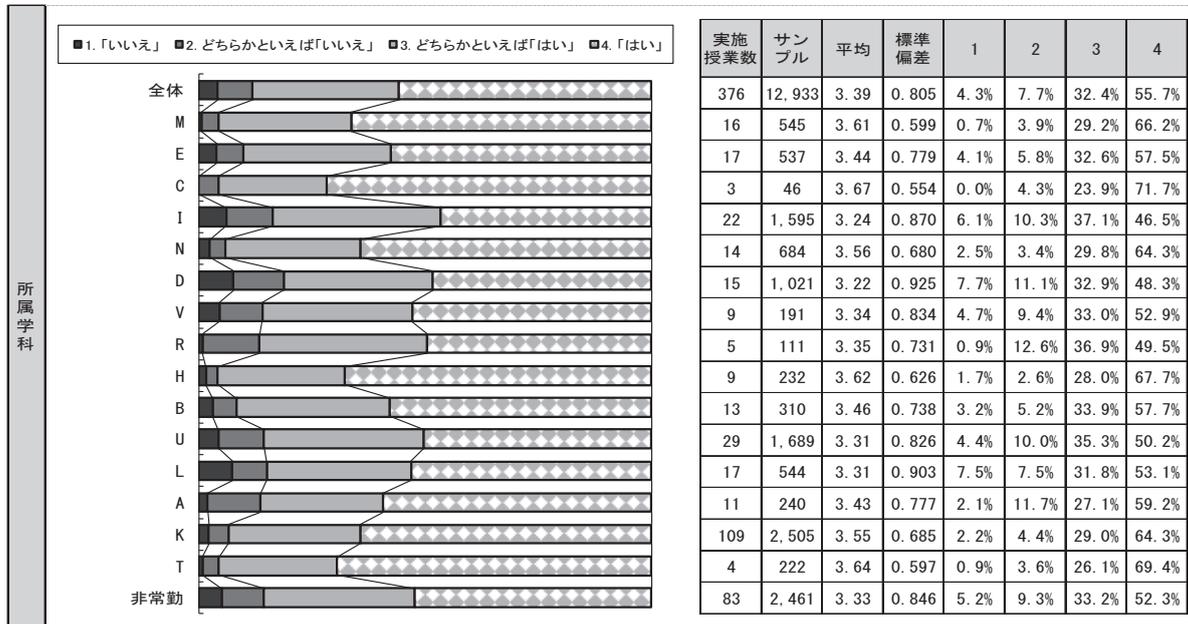
(3) この授業で設定された学習内容を理解できた【学修の到達度】



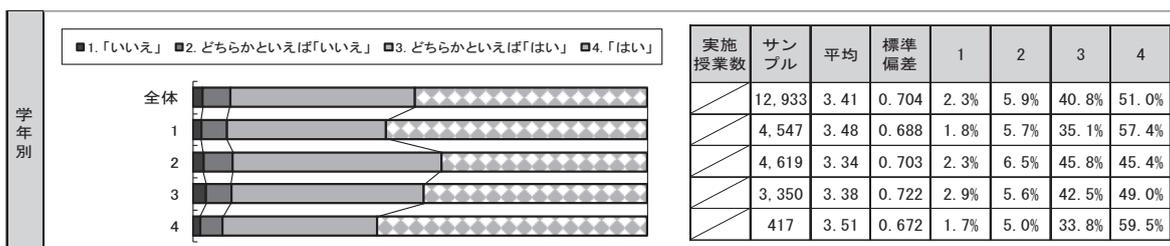
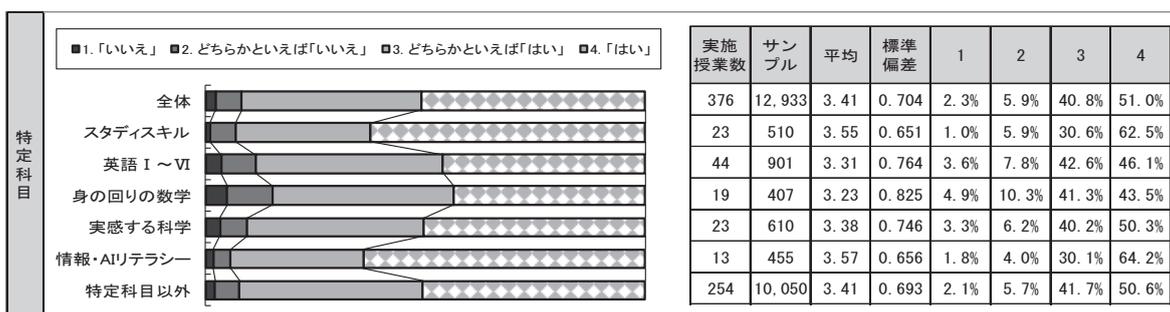
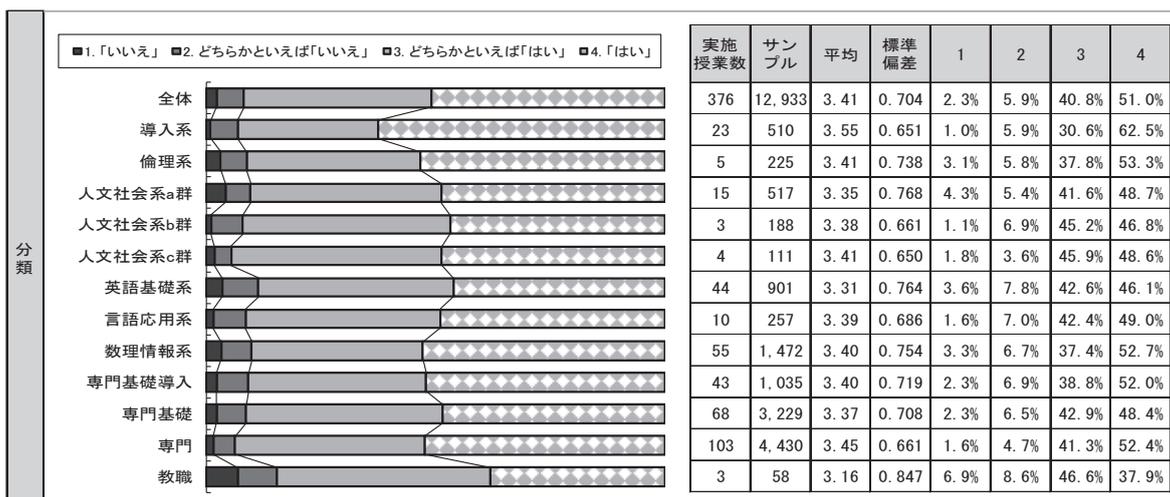
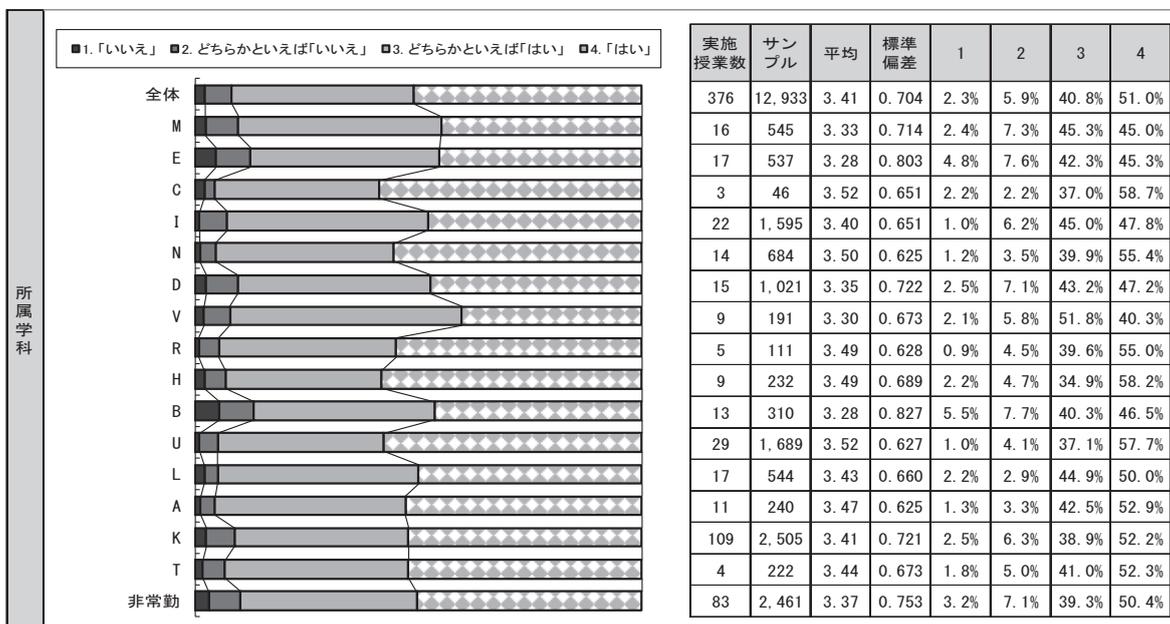
(4) 意見を伝えたり質問・発表したりする機会が設けられていた【学修の環境】



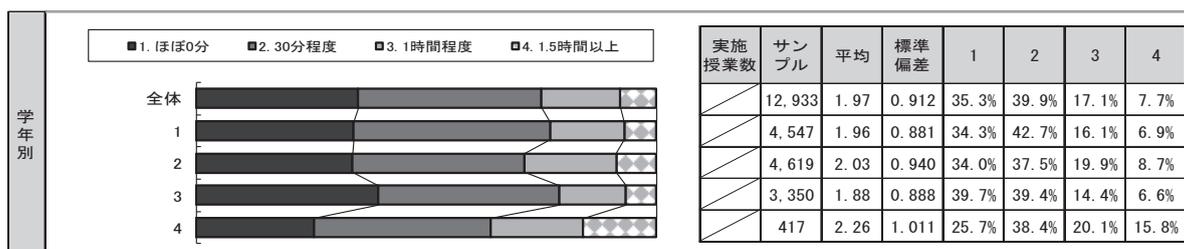
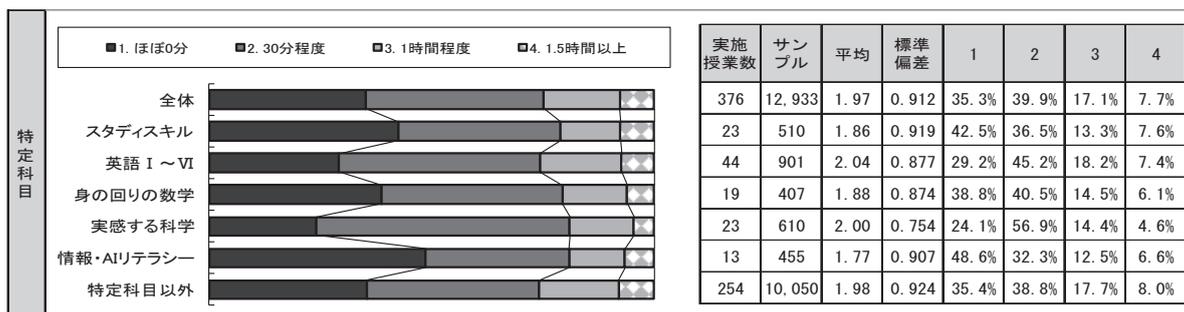
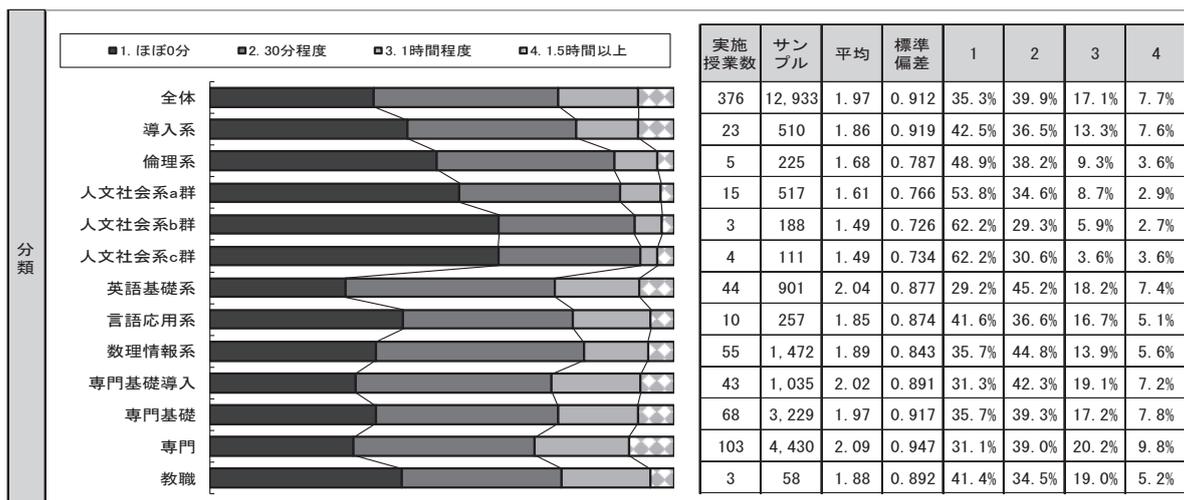
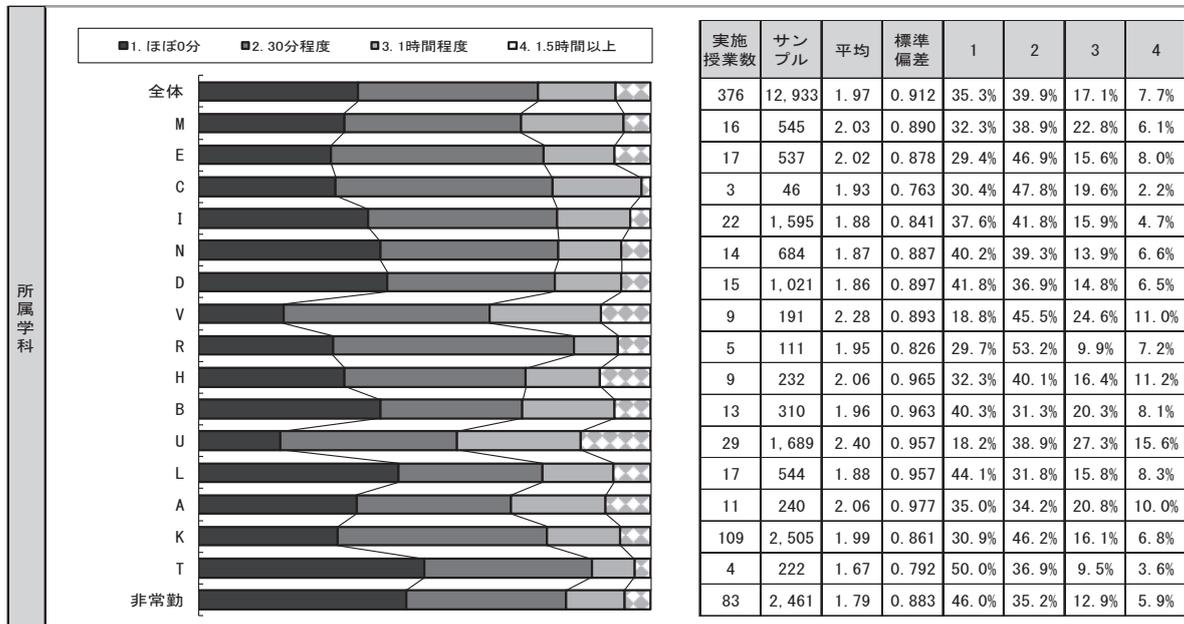
(5) 課題や宿題などに対して、先生はフィードバック(解説・添削・ヒントを与えるなど)を行っていた  
 【教員のフィードバック】



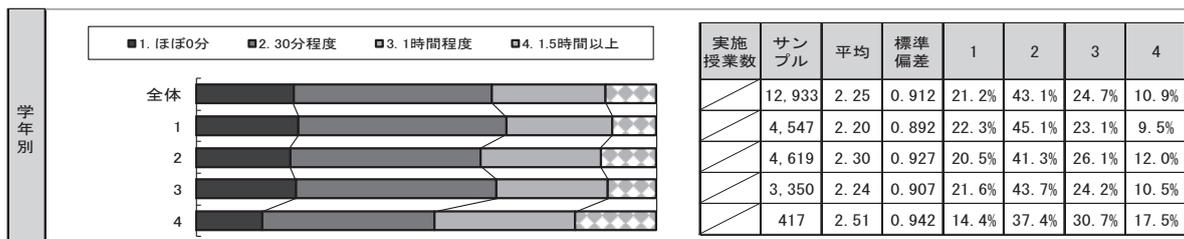
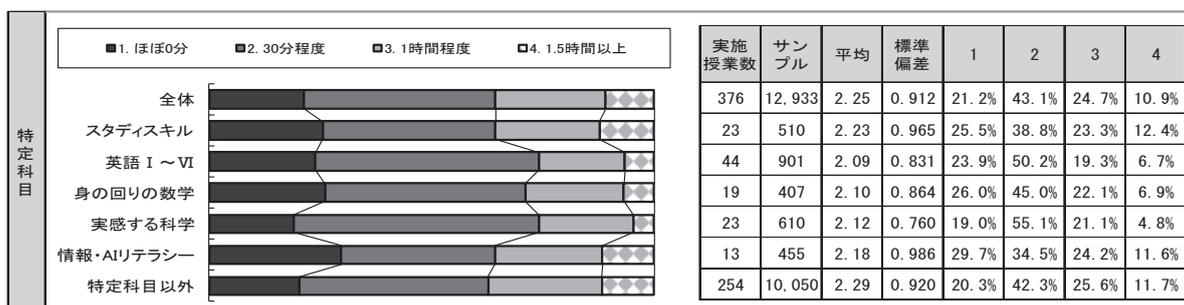
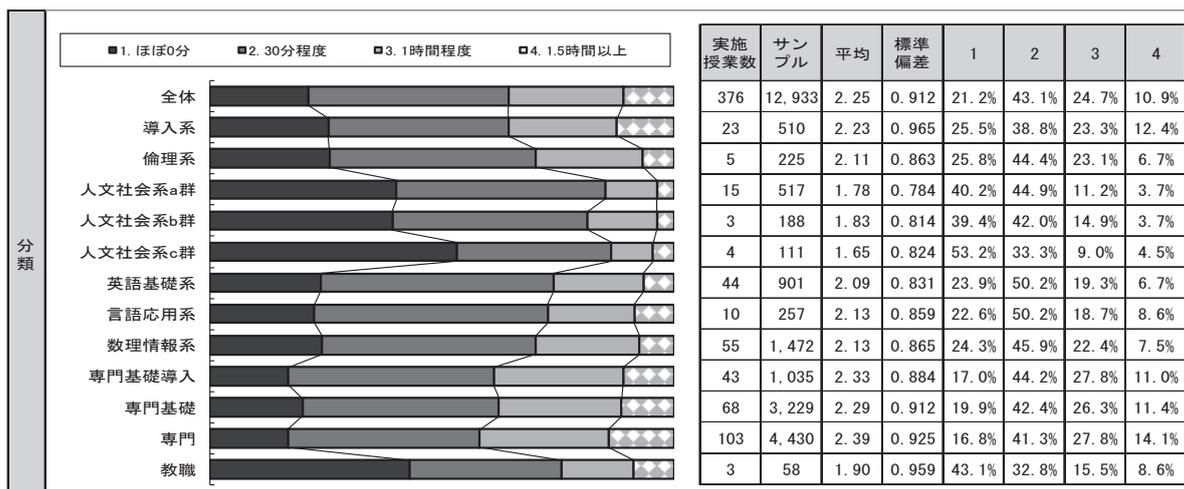
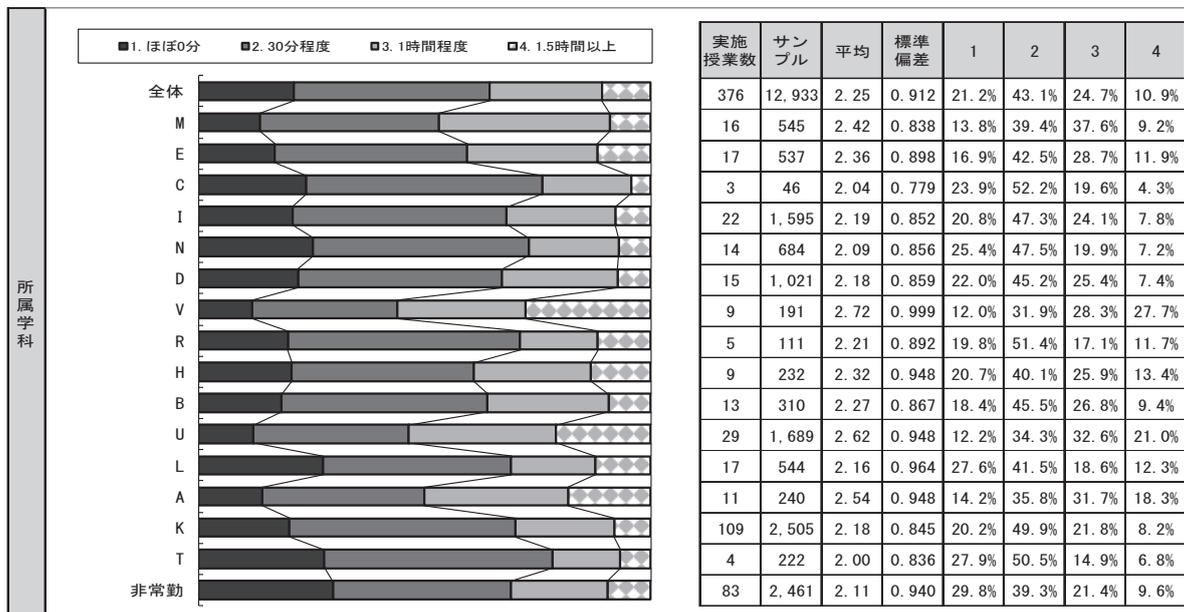
(6) この授業をとおして知的な関心、新しいスキルや考え方、もしくは達成感が得られた【学修の満足度】



(7) この授業のための事前学修(予習・課題)は週平均でどのくらいか【事前学修時間】



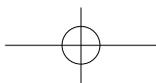
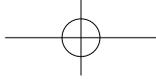
(8) この授業のための事後学修(復習・課題)は週平均でどのくらいか【事後学修時間】



## V 担当教員からのコメント

### 【共通基盤科目】

|  |    |
|--|----|
| 導入系（スタディスキル） .....                     | 19 |
| 倫理系.....                               | 26 |
| 人文社会系.....                             | 27 |
| 英語基礎系.....                             | 33 |
| 言語応用系.....                             | 38 |
| 数理情報系（実感する科学，情報・AIリテラシー，身の回りの数学） ..... | 40 |
| 教職課程 .....                             | 57 |



## 導入系（スタディスキル）

### スタディスキル（応用生物化学科1年前期・必修）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 小田切 祐詞  
 回答者数 21 名  
 月曜・2限・3306 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.95 | 2. 学生の取組      | 3.57 | 3. 学修の到達度 | 3.71 |
| 4. 学修の環境  | 3.81 | 5. 教員のフィードバック | 3.90 | 6. 学修の満足度 | 3.76 |
| 7. 事前学修時間 | 1.95 | 8. 事後学修時間     | 2.52 |           |      |

「5.教員のフィードバック」で 3.90 とかなり高い数値を得られた。一つの要因として考えられるのが、基礎教育支援センターでの指導との連携である。実際、学生からのコメントの中に、「基礎教にいったときに自分の意見を取り入れながらアドバイスをくれたのがよかった。」というものがあつた。manaba だけでなく、基礎教育支援センターでの指導も、フィードバックの一つの方法として今後も積極的に活用していきたい。

また、今年度は「4.学修の環境」でも高い評価を受けた。「先生がグループワークの機会をよく作ってくれたりしていたのでよかった」「授業の合間に話を挟んでくれていたので退屈になることがない面白い授業でした。」とあるように、グループワークや雑談を授業の合間に適宜入れたことが功を奏したようである。こうした努力も継続して行っていきたい。

#### 【自由記述(抜粋)】

ありがとうございました。/先生がグループワークの機会をよく作ってくれたりしていたのでよかった/なし/とくになし/授業の合間に話を挟んでくれていたので退屈になることがない面白い授業でした。/基礎教にいったときに自分の意見を取り入れながらアドバイスをくれたのがよかった。

### スタディスキル（看護学科1年前期・必修）

教育開発センター 教授 伊藤 勝久  
 回答者数 28 名  
 火曜・1限・1308 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.93 | 2. 学生の取組      | 3.79 | 3. 学修の到達度 | 3.71 |
| 4. 学修の環境  | 3.96 | 5. 教員のフィードバック | 4.00 | 6. 学修の満足度 | 3.79 |
| 7. 事前学修時間 | 2.68 | 8. 事後学修時間     | 3.18 |           |      |

本科目では受講生が、①大学における論証型のレポートの考え方と書き方を理解し実践できること、そして②ペア・グループ活動を基本として「チームで課題を解決」していくための知識・技能・態度を修得し実践できることを目的として支援を行いました。本科目は、火曜1限と2限の二つのクラスに分かれ同一内容・進度で進行したため、こちら（火曜1限）のクラスでは①を中心に、後述する火曜2限のクラスでは②を中心にコメントをしていきましょう。

本科目では、大学レポートを作成するプロセスを5段階に分けて、段階ごとに必要とされる知識・技能を評価し、課題を積み上げていく形で論証型のレポート作成を経験する構成をとっています。この構成での進行は今年度で5年目を迎えるため、初めて論証型レポートを書こうとする者がつまずくところが明らかになってきました。そのため、今年度の授業設計では転ばぬ先の杖のつもりで過去の受講生の提出物を匿名で活用させていただき、良い点悪い点などを説明し、課題に取り掛かるための具体的なイメージを構築していただくことを重視しました。また、課題に

関する自己の解釈や解答をグループと教室全体で共有できるようにし、意見交換を図りつつ望ましい学習成果が得られるように授業を進行していきました。

私は、学習とは学習者が「経験を再構築する行為」だと考えていますので、受講者の成長支援のために提出物へのフィードバックを重視しています。そのため本授業のフィードバックでも、できるだけ具体的にコメントをすべく心がけました。時には一人の学生の一課題のフィードバックだけに数時間も要することがあり、評価活動としては非常に効率の悪いものとなりました。その結果、初めにフィードバックをした受講生と最後にフィードバックをした受講生の間に数週間も差が開くことがありました。提出した順にフィードバックを行いましたので、課題の意図するところが未消化なまま締切間際で提出してくる受講生に対しては、手厚い対応が図れなかったのが悔やまれます。適切なフィードバック無くては受講生は「経験を再構築する」ことは出来ませんので、より効率的でかつ効果的な評価の方法を探りつつ、授業を改善していきたいと思います。

#### 【自由記述(抜粋)】

(沢山の嬉しいコメントをいただきましたが、ここでは「改善すべき」として指摘されたものだけを抜粋し回答いたします。)

グループを毎回同じではなくたくさんの人と関わればよかったなと思いました。(→今年度はグループ替えをせず、グループ内でパフォーマンスを改善していただく考え方で進行しました。しかし、ご指摘のとおり、とくに初年次生のクラスでは、多くの者と関わる機会を創出することが重要でしょう。改善いたします) / 行間隔の変更などの分かりにくいポイントのやり方を授業内で教えてほしい。(→ワードの使い方で分かりにくいところは資料を作って「掲示板」で共有しよしとしていました。しかし、受講者目線では、それだけでは分かりにくいのも事実でしょう。授業内で逐次デモンストレーションを行った方が良かったですね。改善しましょう) / 最終報告会はとても学ぶことがあり良かったが、報告の時間が短いように感じてしまいました。自分のまとめる力がないのが要因だと思うが、もう少し時間がほしいと思いました。(→指定した時間内でまとめるための工夫を考えましょう。そのための方法は「プレゼンテーションの技法」の回の資料を参照してください) / 発表の時に次の席に座ると前の人の発表が見ずらくてピア評価がしづらかった。同じ班で発表をすると役割が変わっても担当がだいたいいつもと同じになってしまっていた。学校外での図書館を使った文献探しの方法がいまいち分からなかった。(→ピア評価がやりにくかった件は改善させましょう。また、「役割が変わってもだいたいいつもと同じ…」については、グループ替えを行うことで改善していくようにしましょう。文献探し等、新しい学びにおけるの不明な点は、分からない時点で教員に声がける必要がありますので、今後実践していって下さいね)

#### スタディスキル (看護学科1年前期・必修)

教育開発センター 教授 伊藤 勝久  
回答者数 32名  
火曜・2限・1308教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.84 | 2. 学生の取組      | 3.66 | 3. 学修の到達度 | 3.69 |
| 4. 学修の環境  | 3.91 | 5. 教員のフィードバック | 3.88 | 6. 学修の満足度 | 3.69 |
| 7. 事前学修時間 | 2.50 | 8. 事後学修時間     | 3.00 |           |      |

本科目では受講生が、①大学における論証型のレポートの考え方と書き方を理解し実践できること、そして②ペア・グループ活動を基本として「チームで課題を解決」していくための知識・技能・態度を修得し実践できることを目的として支援を行いました。こちらのクラスでは②についてコメントをしていきます。

本科目では、人が集まる対面授業の利点を活かすべく、授業内でペア・グループ活動の時間が沢山取れるよう考慮しました。14回の授業のうち3回はグループ活動を基本とする議論の時間に充て、コンペ形式での発表を2度行いました。火曜1限の授業にかかるコメントでも述べましたが、日々の授業においてもペア・グループ・教室全体によるシンク・ペア・シェアを多用し、クラスメイト同士で情報や考えを共有する時間を織り交ぜました。今年度は両クラス共に、最終報告会では全員が大学の初年次生として相応しい報告ができ、素晴らしい学びの時間が過ごせたと感じ

じています。この報告会、そして皆様の提出した課題解答からは、私も大いに学ばせていただきました。ありがとうございました。

#### 【自由記述(抜粋)】

(火曜1限のクラス同様に沢山の嬉しいコメントをいただきましたが、ここでも「改善すべき」として指摘されたものだけを抜粋し回答いたします。)  
お気に入り固定で評価されていた。(→「評価」については信頼性・妥当性・公平性の観点を基本としつつも受講生の個別の学習動機を高めることを重視していました。しかし、他の受講生からは、ご指摘いただいたように捉えられることもありそうです。気を付けたいと思います) / レポートの書き方やパワポの書き方、使い方を根拠と共に詳しく説明された授業でさまざまな知識が付きました! ただ、詳しくすぎたため追いつけない部分があった。(→追いつけない部分については遠慮なくお声がけください。授業外時間の個別対応の時間こそ、学びを確実にし深めるチャンスですよ) / フィードバックを早くして欲しいです。(→学ぶ意欲を潰してしまい申し訳ありませんでした。しかし、こういう指摘が出ることをとても嬉しく思います。改善すべく努力します) / 時間に厳しすぎるところが少し気になった。もう少し柔らかくしてほしい。(→それは出来ません。「もう少し」は人により異なります。そのようなパーソナルな尺度を仕事に持ち込むことは、皆様の職業倫理的には許されないと思いますので) / 私の理解不足なのですが、たまに分らない英語や言葉が使われることがあったのもう少しわかりやすい言葉を使って頂けたら嬉しいです。(→ご指摘ありがとうございます。自己満足の学修支援にならぬよう、受講者の学びに寄り添えるよう気を付けたいと思います)

#### スタディスキル (情報メディア学科1年前期・必修)

基礎・教養教育センター 教授 師玉 真理

回答者数 20名

木曜・1限・3304教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.60 | 2. 学生の取組      | 3.30 | 3. 学修の到達度 | 3.45 |
| 4. 学修の環境  | 3.75 | 5. 教員のフィードバック | 3.75 | 6. 学修の満足度 | 3.25 |
| 7. 事前学修時間 | 2.05 | 8. 事後学修時間     | 2.25 |           |      |

この科目では、大学での学びに伴う基礎的な表現の技法を扱っており、その意義や必要性を意識させること、例えばノートをとるといった当たり前の作業であっても、視点を変えればそれがどれだけ難しく自己向上的な意識を必要とするものであるか、といったように、学生の認識を転換していくことを目的のひとつとしている。それゆえにか「6.学修の満足度」は決して高いものになりえない性質の科目であると思うが、学生側のモチベーションの度合や関心の所在を知る意味では重要な指標となると考えている。その意味で3.25という値は、本年もひとまず妥当な数字を維持できたようにおもう。

また、同時に本科目は、他人とのコミュニケーションを前提にした、礼儀や形式、また心的な姿勢について云々する陶冶的な側面も重要なファクターとしてある。さらに、個々の作業能力の習熟が、即時的、顕在的には自覚しにくいという科目上の特質もある。こうした観点からみると、本年の「2.学生の取組」の3.30、および「3.学修の到達度」の3.45という値は、学生の自覚的な側面においてある程度の効果がみられたと捉えてよいかと思っている。しかし、こと、授業運営上のバランスのとり方は、年毎に受講する学生たちの状態や雰囲気の違いに応じて臨機応変に対応せねばならないので、昨年のやり方が今年も通用するとは限らない。年を経て尚難しさを感じず科目であるが、ひき続き授業運営上のよりよい方法を模索していきたいと考えている。

#### 【自由記述(抜粋)】

友達と意見を交換したりして自分では思いつかないようなことをたくさん知れたたくさん学ぶことがあってとても勉強になりました。先生の面白い話、為になる話をたくさん知れて面白かったです。/先生の話が面白く、授業の間にためになる話をしてくれるのでやりがいがある授業だっ

た。/模範解答をしっかりと解説してくれて理解しやすかった。/先生の話も面白く、今後必要なスキルを学べて良い授業だった。/今は成長した実感がないけれど、積み重ねが実を結ぶことを祈っています。

#### スタディスキル（情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年前期・必修）

非常勤講師 松下 優一  
回答者数 12名  
木曜・2限・3103教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.75 | 2. 学生の取組      | 3.33 | 3. 学修の到達度 | 3.75 |
| 4. 学修の環境  | 3.67 | 5. 教員のフィードバック | 3.33 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 2.08 | 8. 事後学修時間     | 2.00 |           |      |

昨年度と比較して、「1. 授業の設計」「2. 学生の取組」「3. 学修の到達度」「4. 学修の環境」「6. 学修の満足度」の項目でアップし、「5. 教員のフィードバック」がダウンした。この授業の狙いは大学生としてのコミュニケーション能力の向上であるが、それは受け身な姿勢で身につくものではなく、自発的な取り組みや自分なりの試行錯誤が不可欠となる。そのために発表の機会をできるだけ設けるように心がけたので、その点は自由記述で書いてもらったようなコメントに現れているように思われる。他方で、昨年引き続きフィードバックがやや手薄になっていることがうかがえる。一昨年までのオンデマンド授業の際には文書ファイル形式で行っていたが、授業冒頭での口頭説明となったため、聞き逃したり、聞き流すだけになったり、あるいは、あまり丁寧に返すことができなかつたりしているかもしれない。時間が許せばフィードバックの仕方を文書ファイル形式にするなど、配布資料の拡充を図りたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

発表の時間が程よくあって良かったです/発表などがあってよかった/発表などをしっかりやれた

#### スタディスキル（情報工学科1年前期・必修）

非常勤講師 松井 陽征  
回答者数 41名  
月曜・1限・K3-3307教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.63 | 2. 学生の取組      | 3.41 | 3. 学修の到達度 | 3.46 |
| 4. 学修の環境  | 3.83 | 5. 教員のフィードバック | 3.73 | 6. 学修の満足度 | 3.49 |
| 7. 事前学修時間 | 2.10 | 8. 事後学修時間     | 2.54 |           |      |

今年の授業も、新型コロナによる影響もなくなり全面的に対面授業にもどった昨年同様に、スタディスキル本来の授業のあり方を強く意識しました。以下、とくに重視したポイント2点を、寄せられたコメントとともに振り返ります。

① 一方的に授業者が講義するのでなく、受講者の授業参加を促し、受講者中心で創りあげる授業  
スタディスキルは、この①の要素が大きい授業科目ですので、昨年に引き続き、例年以上に、この①を重視した授業展開を心がけました。具体的には、頻繁に受講者のみなさんを指名して回答を発表してもらい、なるべく教科書に沿って共同作業を多くとり入れる、などです。

「2. 学生の取組」と「4. 学修の環境」の数値の高さは、受講者のみなさんがこの授業に自発的・主体的な取り組みを行えたことを示しているでしょう。実際、「ランダムで発表者を決めたり、発表の機会が多いことで全員が意欲的に取り組めたと思う」「意見を伝える機会が多かった」など、こちらの意図を適切に汲んだコメントもあり、数値と併せて、①はおおよそ成功したと分析しています。

ただし、「アドランダムが嫌だった、当てるなら順番通りがいい」という否定的なコメントも見られました。こちらの意図を、つまりスタディスキルにおける①要素の重要性をうまく伝えられていなかったことを率直に反省しています。

## ② 授業内外でのフィードバック徹底による学習意欲の維持・向上

みなさんの授業内外の課題に対し、特に manaba 上で個別にコメントすることにより、学習意欲の維持と向上を狙いました。しかしながら、フィードバック作業は相応の時間がかかりますので、フィードバックの質と量について、必ずしも徹底できていない面があった、というのが私の偽らざる感想です。

「5. 教員のフィードバック」の数値をみると、受講者のみなさんには相応の評価をしていたでき、ありがたく受け止めています。自由記述にも、「課題を提出し、評価を出すまでの期間がとても早かった。また課題一つ一つにコメントがついており、丁寧に課題を評価してくださっていることが分かり、この授業を受けるにあたってのモチベーションを高く保つことができた」「課題へのフィードバックを毎回丁寧にしてくれた」などのコメントがありました。課題提出期限後になるべく早くフィードバックを行うことを徹底していましたので(具体的には、木曜日までの課題提出→日曜日までのフィードバックが原則)、それが功を奏したのではないかと分析しています。

しかしその一方で、「結構考えても課題が遅れてしまうことがあったから木曜じゃなくて金曜に1日伸ばしてほしいです」「課題の提出が木曜までで短かった」「提出期限の締め切りが早すぎる」というコメントもありました。課題提出期限には、フィードバックのためという事情があったことを伝えるべきだったと反省しています。

## スタディスキル (情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年前期・必修)

非常勤講師 牛腸 政孝

回答者数 17名

木曜・2限・201教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.47 | 2. 学生の取組      | 3.47 | 3. 学修の到達度 | 3.59 |
| 4. 学修の環境  | 3.88 | 5. 教員のフィードバック | 3.88 | 6. 学修の満足度 | 3.65 |
| 7. 事前学修時間 | 1.76 | 8. 事後学修時間     | 2.18 |           |      |

全体的にまずまずの結果であった。集計結果数値のなかで「5. 教員のフィードバック」に高い数値がついているが、教員自身としては、学生自身の取り組みの仕方が今年度は特段に印象に残っている。数値にはあまり反映されていないものの、今年度は、学生が主体的に課題に取り組む姿が多く見られた。例年であれば、授業内で提示した課題に対して主体的に取り組んでもらうために、こちらからの説明や学修の動機づけをおこなう時間を幾分か費やさなければならなかったが、今年度はその時間を学生が自分自身で考えるための時間にあてることができたように思う。その結果、机間巡視やアドバイスなどをおこなっていく機会も増え、それにより、学生ひとりひとりに対するフィードバックを手厚くおこなうことができた。課題に対して教員がコメントした段階で満足し妥協してしまう学生も少なく、むしろ、よりクオリティを向上させたいといった意欲を感じる場面にも何度か遭遇し、教員としてもやりがいを感じることもできた。実際、期末レポートも全体的に学生の努力を感じるものが多かったように記憶している。

おそらくだが、以上のようなかたちを半期継続することができた理由として、初回授業時での学生とのファーストコンタクトがうまくいったことが一つ挙げられると思う。今年度は初回に話すスタディスキル科目を学ぶこと自体の動機づけの仕方をいくらか工夫し、結果として、手応えがあったので、後期も、別科目ではあるが、引き続き工夫できるところは工夫していきたい。

### 【自由記述 (抜粋)】

とても楽しく取り組むことができた/期末の課題をもっと重点的にやりたかった。

### スタディスキル（管理栄養学科 1 年前期・必修）

非常勤講師 佐々木 千恵  
回答者数 24 名  
金曜・2 限・3103 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.38 | 2. 学生の取組      | 3.29 | 3. 学修の到達度 | 3.63 |
| 4. 学修の環境  | 3.58 | 5. 教員のフィードバック | 3.54 | 6. 学修の満足度 | 3.29 |
| 7. 事前学修時間 | 1.88 | 8. 事後学修時間     | 1.83 |           |      |

まず [1. 授業の設計] であるが、規定のテキスト中、必ず扱うべき章と時間があれば扱う章が決められていたため、優先すべき章を先にやった結果、結果としてテキスト全てを終わることができなかった。そのためシラバス通りに進めることができなかった。そういう可能性について最初に説明すべきであったと反省している。[2. 学生の取組] は、授業中に課題を出すに皆熱心に取り組んでくれたが、自発的に取り組むようにする配慮が足りなかったかと思う。ここは改善を要する点である。事前学修はあまり求めなかったが、[8. 事後学修時間] の時間が意外にも短かった。課題はそれなりに出したつもりであったが、学生にとっては思っているよりも楽だったようである。こちらとしては過大な宿題を出すことを遠慮してしまった面もあったので、もっと自宅学習を義務化すべきであったと思う。提出された課題に対しては、個別にはコメントを付して返却し、優良な例については次の授業の際に書画カメラを利用するなどして紹介した。そうして取り上げられることを励みに課題をがんばったという記述もあったので、そうした点でモチベーションを高めてくれたのはよかったと思う。

#### 【自由記述（抜粋）】

前期のまとめの発表の時間がもっとほしかった（→2回で30人以上の皆さんに発表してもらわなくてはならなかったので、一人数分しかとれず、報告も短くすませなくてはならずこちらとしても残念でした。報告は短くしても、レポートでたくさん書いてくれればよい、としっかり伝えておけばよかったと反省しました。）／グループワークで普段話さない人と話すことができ、交友関係が広がった／グループワークは毎回くじ引きしなくても近くに座った人とやれば時間短縮になったと思う（→毎回同じ人とやることになってしまうので、メンバーは変えたほうがよいと思いきじ引きにしました。）／他の人の課題を（書画カメラで）見ることができてよかった／課題は手書きである必要はなく全部 manaba による提出でよいと思う（→どの授業でも近年、課題提出は PC 入力が多いかと思いますが、就活の際にも手書きの ES を要求されることもありますし、PC 入力ばかりしていると漢字も書けなくなりますので、手書きを全て排除するのは問題があると思います。その練習にもなればよいと思い、基本手書きで出して頂きました）。

### スタディスキル（機械工学科 1 年前期・必修）

非常勤講師 福山 圭介  
回答者数 20 名  
水曜・1 限・3503 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.75 | 2. 学生の取組      | 3.55 | 3. 学修の到達度 | 3.70 |
| 4. 学修の環境  | 3.20 | 5. 教員のフィードバック | 3.65 | 6. 学修の満足度 | 3.55 |
| 7. 事前学修時間 | 1.50 | 8. 事後学修時間     | 2.05 |           |      |

「3. 学修の到達度」および「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思う。

「4. 学修の環境」の評価のみ芳しくなかった。振り返ってみれば確かに、授業時間内に学生が発言したり質問したりする機会が少なかったように思う。毎回 Manaba のアンケート機能で感想や質問を受け付け、授業内や個別指導コレクションでフィードバックは行っていたのだが、授業内で学生が発言する機会はあまり設けることがなかった。来年度以降は増やしていこうと思う。

## 【自由記述（抜粋）】

レポートの書き方や文章の書き方について正しいものを学ぶことができ、他の教科に活かせるスキルを身に付けることができた/レポートやプレゼンの書き方を知れてよかった。/期末レポートで使う技術などを授業で行い、レポートで自分で書いてみるというような授業でした。とても自分のためになる授業でした。/動画視聴する授業が楽しかったです。/教室が大きすぎるからもう少し小さいほうが集中して聞けそうだなって思った（→人数に見合った教室にしてもらおうよう来年度から教務に要望します）/課題を通して自分に力がついてきているのが分かった。/全部良かったです。

## スタディスキル（電気電子情報工学科1年前期・必修）

非常勤講師 福山 圭介  
回答者数 18名  
水曜・3限・1406教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.56 | 2. 学生の取組      | 3.28 | 3. 学修の到達度 | 3.39 |
| 4. 学修の環境  | 3.22 | 5. 教員のフィードバック | 3.50 | 6. 学修の満足度 | 3.28 |
| 7. 事前学修時間 | 1.33 | 8. 事後学修時間     | 2.06 |           |      |

同一科目である1限M科のクラスより、全体的に低い数値となってしまった。授業も課題も同じ内容で行っているし、むしろ3限E科のクラスのほうが1限での反省点を活かして良い授業ができていないはずなのだが、それでも毎年変動するクラスの雰囲気や学生たちの性質の違いに私がかたく対応できなかったということだろう。1限がおとなしい学生が多いのに対して、3限は比較的賑やかなクラスだったので、もっとクラス内での発言や質問を引き出してもよかったかもしれない。1限クラスと同じコメントになってしまうが、来年度はクラス内での議論や質問の機会を増やすようにしたい。

## 【自由記述（抜粋）】

レポートを作る経験ができたのが良い点だと思います。/授業内で期末レポートが完成できるころが良かった。また、授業で少し触れて、「この先は〇〇〇という授業で詳しく解説します。」という感じに授業の勧誘がとても上手いなと思った。

## スタディスキル（電気電子情報工学科1年前期・必修）

非常勤講師 小林 雅博  
回答者数 12名  
水曜・3限・1409教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.83 | 2. 学生の取組      | 3.83 | 3. 学修の到達度 | 3.67 |
| 4. 学修の環境  | 4.00 | 5. 教員のフィードバック | 3.83 | 6. 学修の満足度 | 3.75 |
| 7. 事前学修時間 | 1.67 | 8. 事後学修時間     | 1.83 |           |      |

このクラスのアンケート結果から鑑みると、全体的に満足度の高い授業を学生の皆さんと作り上げることが出来ていたと考えることが可能である。とりわけ、学修の環境に対する学生の評価が高いことを踏まえると、この授業で学んだ事柄を活用した個人研究発表やそれに対する質疑の時間は、学生たちの知的探求心を高めるものであったということが理解できる。客観的に振り返っても、発表時における学生同士の質疑応答は、初歩的な知識の確認から非常に鋭い本質的な問い出しに至るまで、その態度は真剣なものが多かったように思える。アンケート全体に対する反省としては、他の項目と対比して、学修の到達度と満足度が相対的に低いので、来学期からはこれらの到達度を上げるために意識的に授業計画を練り直した。最後に、事前・事後の学修時間が低いことには猛省を促された。学生たちが主体的に楽しみながらこの授業の事前事後学修に臨め

るように創意工夫していきたい。収穫としては、教員の教育態度に比例して学生の研究意欲も高まるということが実感できた。今後も邁進していきたい。

【自由記述（抜粋）】

- ・人の前で発表する機会が増えたので成長することができました
- ・これから必要になる発表技術の向上のために良かった
- ・社会に出てからも日常的に使うことの多い事を学べてよかったと思う
- ・先生の教え方が良かった

## 倫理系

### 情報社会と情報倫理（情報メディア学科3年前期・必修）

基礎・教養教育センター 教授 三浦 直子  
回答者数 42名  
金曜・4限・3606教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.69 | 2. 学生の取組      | 3.48 | 3. 学修の到達度 | 3.55 |
| 4. 学修の環境  | 2.67 | 5. 教員のフィードバック | 3.26 | 6. 学修の満足度 | 3.62 |
| 7. 事前学修時間 | 1.43 | 8. 事後学修時間     | 1.98 |           |      |

「6.学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思う。

一方、「4.学修の環境」での評価が芳しくなく、これと「5.教員のフィードバック」での評価を併せて考えると、授業時に詳細な解説や考察のヒントなどを伝えるように心掛けてはきたが、授業後やオフィスアワー等に意見や質問をもらうことは少なく、やや一方的な発信になっていたと考えられる。オフィスアワーの活用を呼び掛けるとともに、授業中に履修生同士で意見交換の時間を設けるなど授業の設計に更なる工夫を凝らして改善したい。

また、「7.事前学修時間」や「8.事後学修時間」の結果からは、manabaを用いた事前学修用教材の紹介や、事後学修のための課題の難易度が、適切に機能していない可能性もうかがえる。教室で授業を聞くだけで終わってしまわないように、manabaの活用方法を見直して、履修生に事前・事後学修への取り組みを促していきたい。

【自由記述（抜粋）】

内容を詳しく説明してくれて、わかりやすい／身近な内容を題材として問題となっていることについて学び、それについて自分なりに考えることが出来る／教科書にもとづきながらも、実際に今起きているような事例を元に参考映像から学ぶことが出来たのが良かった／学生が想像しやすい話題を扱うので、非常に分かりやすい

### 生命倫理（看護学科1年前期・必修）

非常勤講師 田中 美穂  
回答者数 56名  
火曜・4限・3505教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.64 | 2. 学生の取組      | 3.41 | 3. 学修の到達度 | 3.50 |
| 4. 学修の環境  | 3.82 | 5. 教員のフィードバック | 3.52 | 6. 学修の満足度 | 3.54 |
| 7. 事前学修時間 | 1.86 | 8. 事後学修時間     | 2.20 |           |      |

学生の授業アンケート結果から、総合的にはまずまずの評価であると考え。特に、4. 学修の環境に関する評価は全項目の中で最も高く、これは、各講義においてほぼ毎回、学生らによるスモール・グループ・ディスカッション (SGD) とその結果の発表を行ったことが影響している可能性がある。その一方で、2. 学生の取組については、全項目中で最も低かったことにも注目する必要がある。講義に意欲的、自発的に取り組めたと感じる学生が比較的少なかったことに対しては、学生が、あらかじめ指定された資料を読んだり指定されたトピックについての調査をしたりするなどして、その結果を次の講義で発表するなど、講義内の SGD の時間以外にも、自ら考える機会を提供する必要がある。本講義は、1 週間に 2 限、あるいは、1 日に 2 限、という不規則な形をとったため、学生の負担も大きかったと考えるが、学生は積極的にディスカッションに参加するなどできる限り努力していたと考える。

#### 【自由記述 (抜粋)】

全員のコメントを毎回確認、返答と対応をしていただいで、助かりました。→ (講師の回答：コミュニケーション・ペーパーが学生の感想や意見を述べる良い機会になっていたと思います。できれば講義中にも質問してもらえると全員が共有できるのでより良いと思います) / グループディスカッションで色々な意見を共有することができて良かったです。→ (講師の回答：今後は、話し合った内容の発表の仕方を工夫できればと思います。黒板発表以外にも、グーグルドキュメントやパワーポイント等の活用も検討します) / 世界や日本の終末期医療についてして、看護師としての知識が身につきました / グループワークが多かったため他の人の意見を聞く機会が沢山あっていいと思いました。 / 資料が多いのはありがたいのですが、前置きが長くて結局何が言いたいのか、何を求めているのかが分からない → (講師の回答：生命倫理学で取り上げるトピックの性質上、普遍的な解答を提示することが必ずしもできないため、背景事情をしっかりと説明し、自ら考えるための枠組みを提供する、という形をとっています。ただ、毎回の講義において取り上げるトピックをもう少し減らし、一つのトピックについては 20 分程度の短時間に区切った上で、講義の概略の説明について講義の前後で要約・小括を繰り返す、という形が良いかもしれません) / グループワークを行うことで他の人の考え方を知り、自分の考えをより深めることができた。 / 安楽死について考えるのが難しかったけどたのしかったです。 / グループディスカッションや発表の場が設けられていて良かった。 / 動画を見る時間はもっとあってもよかった → (講師の回答：動画の視聴環境を改善する必要があるかなと思います) / わかりやすくてグループワークが多くて良かったです。ありがとうございました。 / 説明や動画、グループワークの機会が沢山設けられていて理解を深めることができた。

その他：教室が寒い、マイクの音量が小さいという意見もありました。また、ブルーレイや DVD、インターネット上の動画を用いた視聴がうまく作動しないことが間々ありました。ご対応願います。

## 人文社会系

### 心理学 (人文社会系 b 群・選択)

教職教育センター 准教授 佐藤 史緒  
回答者数 111 名  
月曜・4 限・202 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.55 | 2. 学生の取組      | 3.20 | 3. 学修の到達度 | 3.34 |
| 4. 学修の環境  | 3.29 | 5. 教員のフィードバック | 3.77 | 6. 学修の満足度 | 3.44 |
| 7. 事前学修時間 | 1.55 | 8. 事後学修時間     | 1.98 |           |      |

本科目の目標は、心理学の考え方を学び、人間の行動を捉えることにより、人間への理解を深めることであった。受講者は、ほとんどが3年生であり、大変落ち着いて受講してくれていたように感じる。また、コメントの内容も大変スルドイものが多く、私自身にも刺激ある授業時間であった。授業ではフィードバックを大事にしている。他者がどのような考えをもっているのかを共有できる場であるからである。ただ、フィードバックが少し長くなってしまいうことも多かった。その辺をもう少しコントロールできるようにしていきたい。心理学は、大変身近な内容であり、自分を振り返る機会でもある。履修者の日常生活の疑問を考える機会になるように、工夫していきたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

イメージしていたものとは違っていたがとても面白く、興味を引かれるものだった。/毎回の課題が200字は多いと思った/200文字の感想文は少し面倒ではあるものの意外と書ける量な気がしますので続けても良いと思います。(⇒200字は多いと感じる方と以外と書けるという方がいます。全体的には講義が進むにつれて、みなさんのコメント量も増えているように感じています。また授業を聞いて考えたことを書く内容です。大学生には200文字くらいは書いてほしいという想いもあります)講義資料が非常にわかりやすかった/授業の冒頭で前回の課題のフィードバックをしてきていたので前回の内容を忘れていても何について学んだのか、他の人がどんな考えを持っているのかを知ることができた/授業内で response での問いかけがあり、ただ聞く授業ではなく考える授業になっていたのが良かった/大変なことだと思うが、授業内で取ったアンケート結果などを公開していただく他人の意見をじっくり見る機会があつていいと思った (⇒ご提案ありがとうございます。他者に対する関心を高まったとも考えられますね。嬉しいです。どのように提示するのがよいか検討してみます)

#### 国際化と異文化理解（人文社会系 a 群・工学部 2 年前期・選択）

非常勤講師 義澤 幸恵  
回答者数 31 名  
月曜・3 限・K3-3401 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.77 | 2. 学生の取組      | 3.35 | 3. 学修の到達度 | 3.42 |
| 4. 学修の環境  | 3.29 | 5. 教員のフィードバック | 3.74 | 6. 学修の満足度 | 3.39 |
| 7. 事前学修時間 | 1.48 | 8. 事後学修時間     | 1.65 |           |      |

毎回、ミニツッペーパーを提出してもらっていたため、「4.学修の環境」はもっと高評価が得られると期待していた。しかし「いいえ」と答えた生徒が1名、「どちらかといえばいいえ」と答えた生徒が5名いたことから、ミニツッペーパーだけでは学修の環境が十分とは言えないことがわかった。次回からは学修の環境になんらかの工夫をするよう努める必要があるようだ。もしかすると、「発表する機会」がないことが評価に影響しているのかもしれない。しかし文系の授業であるため、発表の機会を設けると学生に過度な負担となることが容易に想像できるので、発表の機会を設けることは難しい。

またミニツッペーパーにおいて質問があった場合には、できるだけ次の時間に解答するようにしていたため、「5.教員のフィードバック」に対する評価が高かったことに満足している。フィードバックに対して「はい」と答えた生徒の中では、100%が「3.学修の到達度」および「6.学修の満足度」でも「はい」と答えていることから、教員のフィードバックは授業の到達度、満足度に大きく関係していると思われる。今後とも、きめ細かなフィードバックをしていきたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

前回の質問に対してのフィードバック等を丁寧に行ってくれる／話はものすごく面白かったです。国際という広いワードをどのように伝えられるのかを考えている講義だったのですごく引き込まれました／授業に関する映画や音楽の鑑賞があることでより授業に関心が持つことができた／やっぱり教授の活舌がよくなく、大事だなと思うところで聞き取れないことが何度かありまし

た。授業中に聞き直すのも恥ずかしいですし、時間も取られるので、しっかり分かるように喋ってほしいです。周りが喋っていなかったとしても聞こえない時があります。

### ヨーロッパの歴史と文化（人文社会系 a 群・2 年前期・選必・選択）

非常勤講師 竹村 厚士  
回答者数 66 名  
水曜・2 限・3102 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.59 | 2. 学生の取組      | 3.32 | 3. 学修の到達度 | 3.39 |
| 4. 学修の環境  | 3.35 | 5. 教員のフィードバック | 3.45 | 6. 学修の満足度 | 3.39 |
| 7. 事前学修時間 | 1.53 | 8. 事後学修時間     | 1.55 |           |      |

上述の項目 1～6 に関して、肯定的な評価——3.どちらかといえば「はい」／4.「はい」——が 9 割前後に達しており、多くの学生にとって満足いく、充実した授業をすることができたと考えられます。このあたりは毎回実施したリアクション・ペーパーのやりとりを通じて、肌身で感じておりました。他方、項目 7、8 の事前／事後の学修時間に関しては低い数値——大半が「30 分程度」～「ほぼ 0 分」——となっていますが、これは宿題や課題提出といった形で授業前後の予習・復習を敢えて強制しなかったからでしょう。とはいえ、全 14 回が終了したのちに最終レポートを書いてもらったので、トータルで（授業外の）学修時間は相応に確保されていると思われます。

#### 【自由記述（抜粋）】

- ・たまにあるクイズみたいのが面白かった。タメになることもあって聞いて面白かった。  
→楽しんで学んでもらえたのなら幸いです。
- ・日本の歴史ではなく、世界全体の文化を知ることによって想像力への関心が深まりました。  
→この関心をぜひ今後にも活かしてください。
- ・話がどれも面白くとても良かったです。  
→こちらとしても、歴史の面白さを伝えることができ良かった。
- ・聞きづらい時が何度かありました。騒がしい生徒に注意してくれるとありがたいです。  
→大教室ゆえか、私の目（耳？）の届かない死角が生じてしまったようです。お許しあれ。
- ・色々な情報を知ることができてよかったです。  
→「賢者は歴史に学ぶ」を体感していただけたでしょう。
- ・内容がわかりやすく説明もわかりやすかったので理解できました。  
→教員冥利に尽きるお言葉ですね。
- ・最高!  
→ありがとう！
- ・丁寧な授業内容。  
→毎回百数十名のリアクション・ペーパーをさばくのは正直大変でしたが、そうした苦勞が報われた気がします。
- ・この大学には文系の学部はないことから文系科目は興味を持たれづらく、退屈に思われがちであることはイメージできると思います。先生の授業はその配慮がない、もしくは、考えていない授業でした。理系大学で文系科目を扱うならよりポップにして分かりやすいようにするか、理系の要素をいれるかなど工夫は必要かだと思います。私は改善を求めているわけではないですが、先生の授業を受けている学生で意欲的な学生はとて少ないと思うので改善のための資料の 1 つとして考えてもらえたらと思います。  
→科学、テクノロジー、発明（家）諸々を各回のテーマとするなど、私としては最大限の配慮をしたつもりですが、それが伝わらなかったのなら残念です。ただ歴史の授業にこれ以上の「理系の要素をいれる」のは、そもそも不可能かと。そして個人差はあるのですが、意欲を持ってくれたり満足してくれた学生が多数いることは、アンケート結果が示す通りです。

**環境論（人文社会系 a 群・2 年前期・選択）**

非常勤講師 兼頭 ゆみ子  
 回答者数 79 名/38 名  
 月曜・2 限/3 限・2205/3306 教室

最初の授業で試験の形式を正誤問題と発表したからか、意欲的に取り組まず、ノートテイクを行わない受講生が散見されました。他方で、熱心に取り組んでいる受講生も見受けられました。授業アンケートの結果を参考に、授業内容により質問を投げかけたり、意思表示を求めることなどをより積極的に行っていきたいと思います。

**【自由記述（抜粋）】**

課題を増やして意見を発信する機会を増やしてほしい（→検討します）／wifi のある教室にしてほしい(2 限)（→私に講義室を決定する権限はありません。大学の設備に関することは大学の事務等に要望してください）／質問の機会がない（→時間配分がうまくいかず設けられない時もありましたが、今期は多くの回で授業の最後に質問の機会を設けました）／音量を大きくしてほしい（→改善します。その場で要望してほしかった）

**現代社会の心理学（人文社会系 a 群・工学部 2 年前期・選択）**

非常勤講師 三橋 大輔  
 回答者数 10 名  
 月曜・3 限・K1-B101 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.60 | 2. 学生の取組      | 2.90 | 3. 学修の到達度 | 3.10 |
| 4. 学修の環境  | 2.40 | 5. 教員のフィードバック | 3.00 | 6. 学修の満足度 | 3.40 |
| 7. 事前学修時間 | 1.40 | 8. 事後学修時間     | 1.90 |           |      |

アンケートへの回答者数が 10 名と少数であるため、このデータから妥当な評価がなされるとみなすことは難しいが、現時点で見受けられる回答の傾向についてコメントする。明らかに評点の低い「事前学修時間」および「事後学修時間」については、教科書などを用意せず、一般的な心理学の講義とは異なったシラバスを用意したため、学生が自習する教材がなかったためと考えられる。これについては、毎回、講義時に新たな話題に触れることで驚きを提供するというあらかじめ想定していた講義の進行であるため問題ない。この評点による講義内容の変更はない。また、「学修の環境」については、一方向的な講義をした結果である。これについては何らかのワークなどを取り入れることも検討している。

本年度より内容を刷新したため、学生からの評価を訊きたいところではあったが、アンケートへの回答が少なく、自由記述での回答も少なかったことが残念である。可能な限りよりよい講義づくりを目指していこうと思う。

**【自由記述（抜粋）】**

「講義のはじめに前回の復習、講義の終わりに今回のまとめを話してくれたのでより深く理解できた。」とのコメントがあった。扱う内容が広範囲に亘るので、簡単なブリーフィングをすることで内容の確認と知識の定着を試みたが、好評であったようである。

## 日本近現代史（人文社会系 a 群・2 年前期・選択）

非常勤講師 荒船 俊太郎  
 回答者数 9 名  
 水曜・2 限・3308 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.56 | 2. 学生の取組      | 3.00 | 3. 学修の到達度 | 3.22 |
| 4. 学修の環境  | 3.78 | 5. 教員のフィードバック | 3.33 | 6. 学修の満足度 | 3.22 |
| 7. 事前学修時間 | 1.44 | 8. 事後学修時間     | 1.67 |           |      |

最初のガイダンスで、受講生の皆さんには、第 1 に、できる限り暗記科目ではない歴史の勉強を目指すこと（流れの重視）。第 2 に講義中心の科目ながら、可能な限り双方向の授業スタイルを貫くことで、「歴史を学ぶ楽しさ」を実感していただきたいと申し上げ、度々立ち止まってあるテーマについて意見を述べ合う時間（クイズ形式）をとるなど、楽しい授業運営への試行錯誤を繰り返しました。その結果が、「学修の環境」に表れているのではないかと思います。

その一方で、より積極的に励んでいただけるような、「授業時間外の取り組み」に対する配慮が足らなかったことを反省しています。また、全員で議論した風刺画や古写真などの考察と解説に時間がかかりすぎてしまい、毎回授業の後半は時間が押してしまいました。そのしわ寄せから、1 2 回目と 1 3 回目の授業が早口の講義になってしまいました。それらが到達度や満足度の低迷につながったものと反省しています。

今後も、「日本近現代史」の授業が、皆さんたちにとって、心地よい「学び合いの場」にできるよう、教材や授業構成の見直しを進めたいと思っております。一緒に学びの時間を共有してくれた皆さん、ありがとうございました。皆さんのご活躍を祈っております。

## 倫理学（人文社会系 b 群）

非常勤講師 高橋 明史  
 回答者数 60 名  
 水曜・3 限・2206 教室

アンケート結果を見ると、学生が意見を表明する機会についての評価が特に低かった。授業ごとの小レポートを真剣に書いてくれた受講生に対して、非常に申し訳なく思う。私自身も非常に残念に思っている。当初の予定では、小レポートを manaba で提出してもらい、その回答を私が編集し、PDF ファイルで受講生に閲覧してもらうつもりであった（学期開始時は私に時間の余裕がなく、編集が遅れてしまった。申し訳ない）。しかし、教室の様子を見ると、出席調査の不正を行う者が非常に多く、オンラインでの提出は途中で断念し、紙での提出に切り換えざるをえなかった。そのため、受講生の意見を編集して資料にすることが困難になってしまった。また、授業資料の PDF 配布も昨年度は行なっていたのだが、先述のレポート提出方式と併せて勝手にオンライン授業として済ませてしまう受講生がいたようなので、今学期は PDF 資料の配布は中止した。

今学期の不正対策は私自身も良かったとは思っていない。来学期は、授業の進め方を見直し、真面目に取り組んでいる受講生にとってつまらない授業とならないようにしていきたい。

## 【自由記述（抜粋）】

授業資料のプリントが余ることについて manaba で pdf でダウンロードできるようにすればいいと思う。／ピ逃げ(カードリーダーをタッチして逃げる)の対策を後半から行われていてよかった。／期末がレポートでテストでないのがいい。／自然光の当たり具合でプロジェクターの映像が見えづらいことがありましたので、改善していただけると嬉しいです。／倫理学としては面白かった。(ご意見をくださった方々、ありがとうございます。高橋)

### 文学（人文社会系 b 群・機械工学科 3 年前期）

非常勤講師 松本 拓真  
回答者数 17 名  
月曜・3 限・K2-1409 教室

本科目では、皆さんが「多様な解釈に拓かれる文学作品に対し、自分なりのテーマを設定し論理的な作品理解に努めると共に、作品が成立した頃の時代背景を併せて多面的に考察することで、作品が有する批評性について考えることができる力を身につける」ことを目標に掲げ授業を行いました。

学生の最終レポートから、文学史という歴史的背景を踏まえることで、文学作品を読み解くための多角的視野を学び、作品理解を深める力を養うという到達目標は達成できたと思います。しかし、学生が質問や発表する機会を十分に確保することができなかつたため、授業の学修環境を見直す必要があると思いました。毎回のリアクションペーパーを見ても、授業の内容をしっかりと理解している層と、理解が怪しい層に二分していたため、その都度、学生の声を聴く時間を確保する授業設計と運営を心掛けたいです。今回のアンケート結果では、学生の意欲的・自発的な取組の評価点が低調でしたので、文学作品の読みを吟味する時間を設け、その読みを議論する場を作りたいと思います。

なお、自由記述欄に「スライドが見にくい」とあったので、スライド資料を見直します。

#### 【自由記述（抜粋）】

資料に関しては紙媒体より、PDF の資料に直接入力して書き込むような形式のほうが、楽だと感じた／前回の自分のリアクションペーパーへの反応があること／スライドが見にくい

### 日本国憲法（人文社会系 a 群・2 年前期・選択必修）

非常勤講師 渡辺 演久  
回答者数 37 名  
水曜・3 限・3606 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.59 | 2. 学生の取組      | 3.35 | 3. 学修の到達度 | 3.49 |
| 4. 学修の環境  | 2.95 | 5. 教員のフィードバック | 3.30 | 6. 学修の満足度 | 3.57 |
| 7. 事前学修時間 | 1.57 | 8. 事後学修時間     | 1.57 |           |      |

「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、ありがたい評価だと思う。

「1. 授業の設計」に関してもしっかりと評価してもらえたと思う。この講座の目標を初回に説明し、レポートの評価項目として設定している旨がしっかりと伝わったのだと思う。これと「3. 学修の到達度」での評価を併せて考えると、授業時に掲げる目標の到達は多くの学生が達したのではなかろうか。次回開講時には、学生からの質問の時間について改善し、充実をはかっていきたい。また、「7. 事前学修時間」や「8. 事後学修時間」の結果からは、本科目での学修が毎回の授業時のみに終始し、十分な予習・復習につながっていないことがわかる。適切な課題や資料を示し、学生が主体的に取り組めるように工夫していきたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

新聞記事が役に立つ→評価していただいてありがたい。日本国憲法が社会でどのように機能しているのかを、事例を考えながら理解を深めてほしい。

**芸術論（人文社会系c群）**

非常勤講師 陶山 大一郎  
 回答者数 54 名  
 金曜・2限・B5-2306 教室

この授業では、ごく限られた範囲のものではありますがさまざまな芸術作品や芸術家の言葉を紹介し、その内容に関して毎回レスポンスシートを課題として提出させることで、自分にとっての興味深い点や問題点などを学生がを見つけ出し、それについて自分なりの言葉で考え、論じられるようになることを目標としました。

アンケートでの回答結果を見るかぎりでは、授業内容に関して概ね満足してもらえたようで安心しました。また、一方的に教える形にはならないよう、レスポンスシートに対しては毎回、翌週にいくつかを取り上げてこちらからもコメントをするよう心がけましたが、自由記述での回答を見ると、これによって前の週の内容を思い出すことができた学生もいたようです。授業内容の確認にも効果的だったと思われるので、この作業は今後も続けたいと思います。

ただし、反省すべき点もありました。まず、毎回の授業の進め方に関してですが、シラバスで予定していたとおりにスムーズに区切って進めることがなかなかできませんでした。また、予想以上に時間的な余裕がなかったため、当初計画していたものの取り上げられなかったトピックが残念ながらいくつかありました。今学期から初めて担当する科目であったということもあり、これらの点はすべて教える側が不慣れであったために生じました。今後は時間配分などをうまく組織できるよう心がけたいと思います。

さらに、予想以上の履修者数であったため、急遽大講義室での講義となりましたが、そのせいもあり授業中の私語などについて注意をしなければならないことが何度かありました。こういったことも授業の進行を若干ながら遅れさせる要因になったと考えられますので、今後は初回の授業であらかじめ注意を促すなどして、以降の授業を滞りなく進められるようにしたいと思います。

なお、学生の側からの質問や要望に関しても、manaba などを通じて随時受け付けて、授業の進行に役立てるつもりです。

**【自由記述（抜粋）】**

生徒目線での授業でした/授業後の manaba のアンケートの時間を長くしたり、コンセントがある部屋で講義を行ってくれると嬉しい/講義を真面目に受けたい人を最優先していただける点がいいと思いました/質問を募集して、授業はじめにこたえてくれるので、前回の内容がより分かりやすくなった/芸術の歴史や偉人(?)の考えやその歴史が知れてとても興味深い内容だった/芸術がどのようなものを学べたと思います/授業について振り返りする機会が多くていいと思う/楽しく学べたので良かったです

**英語基礎系****英語Ⅱ（情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年前期・選択）**

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 浅川 友幸  
 回答者数 8 名  
 月曜・4限・3402 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 4.00 | 2. 学生の取組      | 4.00 | 3. 学修の到達度 | 4.00 |
| 4. 学修の環境  | 4.00 | 5. 教員のフィードバック | 3.88 | 6. 学修の満足度 | 3.88 |
| 7. 事前学修時間 | 2.25 | 8. 事後学修時間     | 2.38 |           |      |

この授業では、英語に対する苦手意識のある学生が多いように思われた。授業はできるだけ丁寧に、大切なところは言い方を変えながら何度も繰り返すようにした。LMS もパワーポイントもほとんど使わない口頭と板書が中心となる古いスタイルの授業だが、学生と向き合い、学生と汗をかくことは大切にした。評価のスコアと自由記述のコメントから、おおよそ学生の期待に応えられたのではないかと考えているが、引き続き魅力的な授業になるよう学生とともに頑張っていきたい。

なお、「7. 事前学修時間」、「8. 事後学修時間」については、学生にとって過度な負担とならない範囲で、今後も検討していきたい。

【自由記述（抜粋）】

[全文掲載（修正なし）] すべてそのままご紹介します。

授業のテンポがよくてわかりやすかった／難しい問題もあったが先生が親身になって教えて下さった

**英語Ⅱ（機械工学科・管理栄養学科1年前期・選択）**

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 浅川 友幸  
回答者数 23 名  
月曜・5 限・3402 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.91 | 2. 学生の取組      | 3.74 | 3. 学修の到達度 | 3.70 |
| 4. 学修の環境  | 3.83 | 5. 教員のフィードバック | 3.74 | 6. 学修の満足度 | 3.57 |
| 7. 事前学修時間 | 1.70 | 8. 事後学修時間     | 1.83 |           |      |

この授業は、終了時刻が19時となる5時間目であったことから、学生の集中力が続かないのではないかと心配した。しかし、どの学生も一生懸命授業に臨んでくれた。眠くなるような冗長な解説は極力避けて、授業では学生が自主的に課題に取り組み、主体的に発表してもらうことにした。評価のスコアと自由記述のコメントから、おおよそ学生の期待に応えられたのではないかと考えている。

なお、「7. 事前学修時間」、「8. 事後学修時間」については、学生にとって過度な負担とならない範囲で、今後も検討していきたい。

【自由記述（抜粋）】

[全文掲載（修正なし）] すべてそのままご紹介します。

私は英語が苦手ですが楽しく授業をすることができました。／授業が分かりやすく問題に取り組みやすかった／時間などしっかりとられていて授業内容が分かりやすかった。／授業の要点がまとめられていてわかりやすかったです。／問題の後の補足説明がとにかくわかりやすかったです。／分かりやすい説明でよいと思いました／楽しい授業でした／特になし

**英語Ⅲ（1年前期・必修）**

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 宮城 学  
回答者数 12 名  
金曜・1 限・3401 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.92 | 2. 学生の取組      | 3.50 | 3. 学修の到達度 | 3.58 |
| 4. 学修の環境  | 3.92 | 5. 教員のフィードバック | 3.25 | 6. 学修の満足度 | 3.75 |
| 7. 事前学修時間 | 1.75 | 8. 事後学修時間     | 1.92 |           |      |

「満足度」が3.75というのはどのように判断してよいか正直なところわからない。授業が各自の学習スタイルや好みに合っているか否かによる判断評価が必ずしも学力の向上に結び付いて

いるとは限らないからである。むしろ「学生の取組」の数値がこの授業の意味合いを表していると思いたい。数値的には3.50であるが、幸いにして全員が「はい」または「どちらかといえばはい」と回答してくれていることから、学生の学修意欲を損なうことなく彼らの各スキルの向上に役立ったかなと思っている。とは言え、意欲があっても一回の説明や練習で全員が理解し、身につくはずがないともこちらは心得ている。学習内容を理解できたかどうか評価する「到達度3.58」を教師の力量を問うている数値として見るならばまだまだである。

### 英語Ⅲ（英語基礎系・1年前期・必修）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 河野 智子  
回答者数 11名  
金曜・2限・3418教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.64 | 2. 学生の取組      | 3.64 | 3. 学修の到達度 | 3.79 |
| 4. 学修の環境  | 3.43 | 5. 教員のフィードバック | 3.36 | 6. 学修の満足度 | 3.57 |
| 7. 事前学修時間 | 1.57 | 8. 事後学修時間     | 2.00 |           |      |

本授業は、音読によって英語学習効果を上げることを目指す本学英語教育プロジェクトの実践授業として、できるだけ英語の音読が授業の中心になるよう、意識して行ったものである。授業時間の制約があるので当然のことではあるが、音読の量を理想的なものとするには及ばなかったものの、学生ひとりひとりが自分で英語を話す機会をできる限りもうけ、教員と学生の間で、簡単な英語でコミュニケーションが取れるように心がけた。さらに、音読による学習効果をできる限り上げるために、音読とともに文法や語彙の解説を行った。学生が、教員の説明を聞きながら、その場で自分でも英語を発音してみることで、その英文を確実に理解できるようになる、という成果を目指して授業を行った。実践中心の授業であったので、授業の雰囲気は和気あいあいとしたものとなり、教員も、それぞれの学生とコミュニケーションをとりながら、できる限り理解度などを確認して授業を進めるように意識した。アンケートでは、「3.学修の到達度」と「6.学修の満足度」で良い評価が得られ、学生が満足できていたことに大変うれしく思う。自由記述でも、授業が楽しんでいたことがうかがえ、教員自身も楽しみながら学生とコミュニケーションをとることを目指していたので、満足している。

一方、「7.事前学修時間」や「8.事後学修時間」の結果から、授業時間以外での学修ができていなかったことがうかがえる。音読は日々の習慣にすることで初めて大きな効果をもたらす学修法であるので、今後は、授業前後の学修方法を学生にきちんと指示できるよう、授業計画を工夫していきたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

音読での学習の良さがわかりました/楽しい授業だった

### (特)英語Ⅲ

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 大平 道広  
回答者数 1名  
火曜・5限・3307教室

今年度は本授業において、神奈川工科大学が開発している独自の教材を試験的に用いました。この教材では、従来の一般的な教材とは大きく異なり、文法に関する細かい説明は一切行いません。代わりに、各回で用意されている長文を、全履修生が音声を通して何度も聞き、次に各自が発音しながら英語を体得することに重点を置いています。

このように、本教材の構成は、従来の教材のそれとは一線を画するものとなっています。こうしたことが原因だったのか、授業開始当初は、各履修生は授業内容に戸惑いを持ち、若干気後れしているように見受けられました。

しかし、中盤以降、各履修生は独自の速度を維持しながら、比較的スムーズに長文を読み上げるようになると同時に、自分なりの日本語で長文を理解するようになりました。またこうした作業を徹底する中で、細かい文法の内容を説明しなくても、自然に正しい英文法を身につけていきました。こうした成果は極めて高く評価できると思います。

問題はむしろ授業以外の細かい事務内容についてです。本授業は再履修ということもあり、私は授業の進め方、評価方法、課題の内容とその提出方法、期日などについて、何度も周知徹底したにもかかわらず、相当数の履修生はこれらの情報を全く聞いていませんでした。またこちらの説明直後から、全く違う独自のやり方で事を進める履修生も多く見受けられました。何度も指摘しましたが、こうした態度は思わぬところで命取りになり、ときには取り返しのつかないことになります。

授業中、こちらの言動が、高校時代のホームルームや生活指導に近い状態になることも多々ありましたが、そうした言動の真意について、今一度自分自身の学生生活を見つめ直しながら、是非考えて頂きたいと思います。

#### 英語Ⅳ（機械工学科・ホームエレクトロニクス開発学科2年前期・選択）

基礎・教養教育センター 教授 大木 富

回答者数 25 名

金曜・3限・3602 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.44 | 2. 学生の取組      | 3.44 | 3. 学修の到達度 | 3.32 |
| 4. 学修の環境  | 3.56 | 5. 教員のフィードバック | 3.64 | 6. 学修の満足度 | 3.40 |
| 7. 事前学修時間 | 1.92 | 8. 事後学修時間     | 1.84 |           |      |

「毎年、継続的に文法説明等を中心として広く授業改善をおこなってきているが、今年度も「1. 授業の設計」、「2. 学生の取組」、「3. 学修の到達度」、「4. 学修の環境」、「5. 教員のフィードバック」、「6. 学修の満足度」の各項目のアンケート結果を見ると、授業改善の効果は、多少ではあるが、反映されていると思われる。今後も、わかりやすい授業となるように改善をおこなっていくつもりである。一方、「7. 事前学修時間」や「8. 事後学修時間」の項目に関しては、例年のことではあるが、予習・復習が十分であるとは言えない状態である。授業中によく理解できたことでも、それを着実に自分のものにするためには、しっかりと予習・復習することが必要である。今後も、その必要性をより強く実感し、主体的に学修していく意欲が持てるように、教授法等を含め、様々な面で授業改良をおこなっていく考えである。最後に、毎年、皆さんに言ってきていることであるが、どのような科目でも簡単にはわからないことが多くある。「我慢する力」を養ってもらいたいと思う。

#### 英語Ⅴ（情報学部2年前期・必修）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 町田 直子

回答者数 29 名

木曜・1限・3602 教室

本科目では、事前・事後学修、特に事前学修である予習の徹底を心掛けました。100分全て集中するのは困難なので、授業前にわからないところを明確にすれば効率よく取り組めることを学生に説明しました。これまで予習をしているかどうかの確認を出席者全員にしていませんでした。確認しないと予習をしてこない学生が多いので、manabaに提出させて評価対象にしました。それにより事前学修を着実に解かせることができました。事後学修は授業で扱った単語を使った英作文を課題として出して次の授業でその解説をしました。

授業は単語の類義語、対義語、派生語を中心に行い、語彙力の強化を図りました。単語の確認テストを一回しか実施していなかつたので、回数を増やしていくべきだったと反省しています。授業中に指名することがあまりなかつたので改善したいです。

## 【自由記述（抜粋）】

「英語の類義語の説明や意味を随時説明されていてよかった」「たまに授業に出てくるなぞなぞなどが面白く、とてもいい息抜きになった。今後もやってほしい」「英語についての熱意があった。とても分かりやすく英語を教えて下さり、良かった」などのコメントを頂きました。時間帯を見計らって英語でなぞなぞを出しています。少しでも英語に関心を持ってくれればと思い取り入れましたが、好意的な意見があったので安心しました。類義語・対義語も単語の確認の時に必ず質問しています。語彙力を増やす一環として訊いているのですが、その熱意が学生に伝わったようで嬉しいです。

## 英語Ⅴ（英語基礎系・2年前期・必修）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 山本 桂  
回答者数 28名  
木曜・2限・3602教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.64 | 2. 学生の取組      | 3.61 | 3. 学修の到達度 | 3.61 |
| 4. 学修の環境  | 3.79 | 5. 教員のフィードバック | 3.57 | 6. 学修の満足度 | 3.57 |
| 7. 事前学修時間 | 1.75 | 8. 事後学修時間     | 2.07 |           |      |

本科目では、TOEIC400点レベルの力をつけることを目標に、リスニング、スピーキング、文法、リーディングというサイクルで授業を行いました。また授業後にテキスト付属のオンライン教材を活用して定着を図りました。狙いとしては、英語の語彙レベルを上げて少し難しい文章を文頭から英文のまま読めるようにするという事、さらに、音読を通して役立つ表現の引き出しを増やしてほしいということでした。授業での皆さんの能動的な態度を感じていましたし、「2. 学生の取組」の数字にもそれが表れています。一方で、「5. 学修の満足度」の数値が「2. 学生の取組」を下回ったのには、内容に物足りなさを感じた学生がいたのではと、自由記述のコメントから推察しています。この点は改善を図っていきたいと考えています。

また、英語に対して苦手意識を感じている方もいたように思いました。苦手を得意に変えることは難しいかもしれませんが、苦手科目との向き合い方を見つけることはできるでしょう。そのために、授業の設計やフィードバックの仕方について工夫をしていきます。

## 【自由記述（抜粋）】

今までで受けた英語の授業の中で一番わかりやすかったです/席が決まっているのはよかったので続けてほしい/リングポルタの課題をmanaにのせるか載せないかどちらかにしてもらいたい/リングポルタを利用することで事後学修が意識的に出来るようになり、テスト前の確認でも使用できたのでとても理解しやすい授業でした/学生に学習させるために多角的に講義を展開する形が、英語を学ぶときのモチベーションに繋がりました/学ぶ単語の量が少し少ないと思いました/基本的には高校でやった内容を復習するいい機会になりました/個人的には英語で取れる資格系統の授業が欲しいと感じました/リスニングを通して英語に触れられる

## 言語応用系

### 科学技術英語Ⅰ（言語応用系・3・4年前期・選択）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 河野 智子  
 回答者数 75名  
 オンデマンド配信型授業

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.49 | 2. 学生の取組      | 3.29 | 3. 学修の到達度 | 3.39 |
| 4. 学修の環境  | 2.83 | 5. 教員のフィードバック | 3.31 | 6. 学修の満足度 | 3.33 |
| 7. 事前学修時間 | 1.80 | 8. 事後学修時間     | 2.05 |           |      |

科学技術に関する英語を身に着けることを目的としたこの授業では、最新の科学技術に関するニュース動画を用いて学ぶ授業を行うことで、英語の総合力の向上を目指した。英語の難易度は高かったと思うが、毎回の授業で配信する授業動画とともに、確認テストを配信し、授業で学んだことをその日のうちに確実に理解できるように、授業方法を工夫した。受講者の人数が259名と非常に多く、対面での授業は難しかったのが事実ではあるが、毎回、動画を見ることと課題を出すことをセットで行ったために、多くの学生が授業についてこられたように感じている。学修の到達度、学修の満足度がそれぞれ良かったことから、受講者の人数が多くて対面授業ができない場合でも、動画の授業内容を工夫することで、効果的な授業を提供できると実感している。また、教員のフィードバックとしては、毎回の授業後に行う課題テストを自動採点方式とし、学生が提出すると、直後に自動採点され、設問の正解や解説を学生がその場で確認できるようにしたことが、よかったと思う。小テストのフィードバックが、時間を空けずにその場で提供できることは、オンライン授業ならではの利点だと思う。これからも授業作成や課題の出し方などをさらに工夫し、効果的な授業を提供したい。

#### 【自由記述（抜粋）】

丁寧な解説のおかげ英語に対する理解力が高まりました/期末テストの難易度が高すぎると思った。もう少し簡単にして欲しい/期末試験の期間が普段の小テストと違い短くなっているのですがそのことについてmanaba上でしか記載がなくまた再テストなどで取り返すこともできないので体調不良などで試験が受けられない場合は単位を落としてしまうことになるので何かしらの救済措置がほしいです/押さえるポイントや、リスニングを途中までやって後に細かく解説してくれるところはとても良かった。英語苦手でもちゃんとついてこれました

### 科学技術英語Ⅰ（言語応用系・看護学科3年前期・必修）

非常勤講師 森山 誠二郎  
 回答者数 22名  
 火曜・3限・K2-1408教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.41 | 2. 学生の取組      | 3.27 | 3. 学修の到達度 | 3.50 |
| 4. 学修の環境  | 3.45 | 5. 教員のフィードバック | 3.32 | 6. 学修の満足度 | 3.23 |
| 7. 事前学修時間 | 2.05 | 8. 事後学修時間     | 2.00 |           |      |

この授業を8年間担当させていただいた。過去のデータと見比べたわけではないが、全般に評価はあがっていると思う。

科学技術英語を標榜しているが、授業内容は、看護の現場で使用されると予想される病気の症状や治療についての会話である。毎年最初の授業で、授業に何を期待するか一言ずつ意見を聞くが、希望に沿った内容である。英語は日々の積み重ねであるので、毎回の小テストを評価の柱と

した。英語力の基礎は単語力であるが、残念ながら単語力が弱い学生が多い。そこで、オンライン教材のMikanの中からTOEIC英単語2500の修了を評価の対象に加えた。

アンケート結果を見ると、否定的な回答をした学生が少数だが一定数居る。基礎的な英語力が不足しているため、授業についていけず、学習意欲を失ってしまったように見える。授業時間中に授業に集中できず、また、復習もしないため、小テストの成績も非常に悪い。点数が取れない場合、救済手段として、レポートを提出させ点数を与えたが、レポートをイヤイヤ提出するだけで学習の不足を補う効果があったかは疑わしい。講義時間中に居眠りをしたりおしゃべりをしたりせず、授業に集中してくれさえすれば、小テストは前回の授業内容からの出題なのだから、出来ないはずは無いと思うのだが、現実はそのようにならない。

数年前までは、毎回小テストを満点取る学生が居た。ゲームを楽しむような熱気があった。その熱気は、授業についてこれていない学生にもなんらかの影響を与えていたように思う。最近はその熱気が少なくなってきたように感じる。学生のレベルに合わせて、テストのレベルを調整したり、授業についてこれない学生にも楽しめるゲーム的な要素を取り込む工夫があっても良かったのかも知れない。

機械翻訳技術の進歩により、科学技術文献の調査や作成は容易になった。しかし現場でのコミュニケーションは会話が主体であり、瞬時の対応には基礎的な英語力は必須である。授業が終われば卒業ではなく、英語スキルは継続的に磨いていって欲しい。

### プレゼンテーション技術（言語応用系・前期・選択）

非常勤講師 竹村 厚士  
回答者数 10名  
水曜・4限・3103教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.50 | 2. 学生の取組      | 3.40 | 3. 学修の到達度 | 3.20 |
| 4. 学修の環境  | 3.30 | 5. 教員のフィードバック | 3.60 | 6. 学修の満足度 | 3.20 |
| 7. 事前学修時間 | 1.60 | 8. 事後学修時間     | 1.70 |           |      |

・1.について複数の教員間での共通シラバスであったため、履修者の数や顔ぶれに合わせて若干のアレンジを施しました。無論、その旨は初回授業の際に学生に伝達し、了承を得ております。  
・元のシラバスがややビジネス寄りであったことから、アカデミックなプレゼンテーションに求められる問題の設定、発表の目的、および参考資料&文献の選び方などを追加講義しました。  
・中盤までは座学中心でしたが、それ以降はワーク形式に移り、教室内を巡回しつつ、学生からの質問に答えたり、必要なアドバイスを行いました。  
・履修者の数に鑑み、5～6人のグループ毎に最終プレゼンテーションの準備をしてもらいました。チーム作業における協業と責任感、困難が生じた際の自己解決といった、各自は今後に活課される経験を積んだのではないのでしょうか。

全体的に悪くない結果です。実際に上述の項目1～6に関して、「いいえ」の回答は一つもなく、また「どちらかというといいえ」も僅かでした。もちろん上積みの余地もありますが、とりあえず一定水準以上の授業ができたと自負しています。みなさんの学習成果としても、グループ毎に行ったプレゼンテーションでは、——事前リハーサルと本番のクラス対抗戦を合わせて——まだまだ荒削りな部分が見られるものの、基本的な軸や作法が定まっていたように思われます。

授業において改善が求められるのは、項目7と8の事前／事後の学修時間（の少なさ）でしょうか。最終のリハーサル前にはパワーポイント資料提出の締め切り期限を設け、未完成の場合は授業時間外での作業をしてもらいましたが、それ以外は予習や復習を特に強要しませんでした（学生諸君も何かと多忙なゆえ）。ただ今日ではネットの動画配信など、様々なプレゼンテーションに触れる機会が沢山ありますので、授業の要点を思い出しながらそうしたコンテンツを批判的に視聴し、無形の学修時間として、自身のスキルアップに繋げていただければと存じます。

## 数理情報系（実感する科学，情報・AI リテラシー，身の回りの数学）

### 実感する科学 I（自動車システム開発工学科 3 年前期・必修）

基礎・教養教育センター 教授 石綿 良三  
 回答者数 20 名  
 月曜・4 限・K1-306 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.70 | 2. 学生の取組      | 3.30 | 3. 学修の到達度 | 3.60 |
| 4. 学修の環境  | 3.10 | 5. 教員のフィードバック | 3.40 | 6. 学修の満足度 | 3.30 |
| 7. 事前学修時間 | 2.05 | 8. 事後学修時間     | 2.20 |           |      |

本授業は各科の専門にこだわらずに物理・化学・生物・地学などの広い科学分野を対象とした共通基盤科目であり、入学初期の学生向けに構成されたものである。自動車システム開発工学科ではかつては1年次に開講していたが、カリキュラム改訂に伴い数年前から3年次開講となった。そのため、3年生が受講すると内容が易しすぎるようである。特に、物理系科目は専門科目でもっと高度な内容を学習している物足りなさを感じている学生もいたかもしれない。それにも関わらず、前向きに取り組んでいる学生も多く、合格率は高かった。もう少し新鮮な内容を盛り込めれば良かったと考えている。

### 実感する科学（情報工学科 1 年前期・必修）

基礎・教養教育センター 教授 山本 一雄  
 回答者数 41 名(履修者数 51 名)  
 月曜・2 限・3503 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.73 | 2. 学生の取組      | 3.49 | 3. 学修の到達度 | 3.68 |
| 4. 学修の環境  | 3.22 | 5. 教員のフィードバック | 3.73 | 6. 学修の満足度 | 3.49 |
| 7. 事前学修時間 | 1.93 | 8. 事後学修時間     | 2.02 |           |      |

本科目では、Kait-Moodle での演習課題の自動採点、Zoom による授業録画などオンライン授業で使ってきた技術は踏襲しつつ、オンライン授業だけでは難しかった課題答案の回収返却によるフィードバックにも力を入れた。問題を答案用紙に解答させた上で Moodle で結果確認させるのは、正しい解答のプロセスを経て正答に至ること、答えを間違えたら軌道修正することを自覚しながら学習してもらうことを目的としている。これは当然やるべきことではあるが、手続きとしてやや面倒だったかもしれないこちらの要求に応じてくれた学生諸君には感謝している。

上記のポイントに関しては、全体的には昨年とほぼ同様であったが、詳細にみると「5. 教員のフィードバック」が 0.1 点弱上昇していた。単に上記のフィードバックに力を入れた結果というより、対面授業における Moodle 等のオンライン技術の使い方、連携がよりスムーズになってきた結果と考えている。

なお、昨年度の授業アンケートの反省を受けて、授業回ごとに Moodle を使ったアンケート（質問や感想など）を取り、次の授業で学生と内容を共有し、授業が一方通行にならないように工夫しているが、これを評価している学生コメントもあった。

### 実感する科学（電気電子情報工学科 1 年前期・選択）

基礎・教養教育センター 教授 神谷 克政  
 回答者数 39 名  
 水曜・2 限・3305 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.67 | 2. 学生の取組      | 3.59 | 3. 学修の到達度 | 3.59 |
| 4. 学修の環境  | 3.31 | 5. 教員のフィードバック | 3.64 | 6. 学修の満足度 | 3.54 |
| 7. 事前学修時間 | 1.77 | 8. 事後学修時間     | 1.97 |           |      |

この授業では、科学全般（物理・化学・生物・地学）に対する好奇心を引き出し、大学時代だけでなく、生涯にわたり科学を学び続ける動機付けを与えることを重視しました。また、科学の内容を「暗記ではなく理解しようとする」ことを大切にしました。受講した皆さんが、今後も楽しんで科学を学び続けてくれることを願っています。

授業では特に次の4点に注力しました。（1）NHK for School などの実験映像や演示実験を取り入れ、皆さんの興味を引き、楽しく授業に参加できるよう工夫をしました。（2）科学に対する想像力を刺激し、教員を含めた科学者・技術者の科学に対する熱意が伝わるように、声の強弱をつけた「熱い説明」を心がけました。（3）スライド資料は紙で配布し、資料を使った理解度チェックを授業の最後に行うことで、振り返る機会を提供しました。（4）皆さんが安心して授業を受けられるよう、どの場面でも丁寧な言葉使いと態度を大切にしました。

これらの取り組みが、アンケート項目 1 から 6 までの高評価につながったと感じています。自由記述欄でも多くの肯定的な意見を頂きました。これらの結果を受け、次年度以降も現在の授業方針を継続していく予定です。

オンライン課題については、授業中だけでなく授業時間以外にも積極的に取り組んでもらいました。アンケート結果によると、「7. 事前学修」が 1.77、「8. 事後学修」が 1.97 でした。これらの数値を、アンケート項目の 1.5 時間以上、1 時間程度、30 分程度、ほぼ 0 分をそれぞれ 120 分、60 分、30 分、0 分として分換算すると、事前学修は 25 分、事後学修は 31 分、合計すると週 55 分の時間を使ってもらいました。「科学を含むあらゆる学問の習得には一定量の勉強が必要である」という大学での学びの一步を皆さんが踏み出せたように感じます。今後も、この学びの姿勢を大切にしてください。

一方、自由記述欄には、Moodle (LMS) の入力方法が難しかった、スライド資料は電子的にも配布してほしい、との声がありました。次年度の授業設計で留意したいと思います。

#### 【自由記述（抜粋）】

毎回授業中に動画を流してくれるため、内容理解のスピードがものすごい速い。また、解く問題も多く身につく知識が多い。／授業が面白くて退屈せずに授業を受けることができた。／動画などを使って解説して下さったので分かりやすかった／道具を用いた説明があつて内容を理解しやすかったです。／最後に毎回テストするのがいいと思った。／授業の途中で基本問題をやるのはとてもいいと思った。理解度チェックも授業の最後にやるとまとめの感じで覚えやすかった。／毎回レジュメが紙で配布されるためスクリーンに写される内容を理解しやすいこと。また、課題も授業内で終わるものがほとんどなので取り組みやすかった。／毎回スライド資料が配られて、メモが取りやすい。また、見直したときに図や写真がそのまま載っているので復習しやすい。／理解度チェックがムードルと紙の 2 つがあつたのでどちらかに統一してくれたらとてもやりやすくていいなと思いました。／moodle での学習がほとんどだったんですが入力したい内容がなかなか入ってくれないというのがたびたびあつたので、もう少し詳しく moodle の使い方について説明して欲しかったです。／本当にできれば良いのですが、プリントの PDF 的なものを manaba に上げてくれるとありがたいです／わからない部分の公式などを載せられるようにして見られるとうれしいです。

**実感する科学**（応用化学生物学科・情報ネットワーク・コミュニケーション学科 1 年前期・必修）  
**実感する科学 I**（応用バイオ科学科 2 年前期・必修）

基礎・教養教育センター 教授 藤村 陽  
 回答者数 1C 15 名/1N 24 名/2B 20 名

1C 水曜・1 限/1N 木曜・1 限/2B 金曜・4 限・3101 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.71 | 2. 学生の取組      | 3.57 | 3. 学修の到達度 | 3.61 |
| 4. 学修の環境  | 3.37 | 5. 教員のフィードバック | 3.75 | 6. 学修の満足度 | 3.60 |
| 7. 事前学修時間 | 2.22 | 8. 事後学修時間     | 2.30 |           |      |

実感する科学を 3 つの学科で担当した。表の評価結果は、3 つの学科の平均値を記載したもので、ほぼすべての項目で 1C が 1N と 2B よりも 0.2 ほど点数が高かった。また、昨年と同 3 学科の平均値よりも全項目で 0.1~0.2 ほど点数が高くなっていった。

今年から 100 分授業になったことで、問題演習のフォローや事後学修の課題の要領の説明などを手厚くすることができ、学生も取り組みやすくなったことが自由記述からも伺えた。

授業は、科学に関連する興味や疑問を引き出し、楽しく学ぶことを狙って、科学を日常の現象と結びつけ、考え方を分かりやすく説明するとともに、動画や簡単な実験も活用している。自由記述欄には、こうした点についての肯定的評価が多く、授業の狙いの大きい部分は達成できたと感じている。

授業のもう一つの狙いには、理工系学生の基礎的なスキルとして、問題演習を通して物理量の単位を意識した計算を身に付けることがある。そのために課題のフィードバックは丁寧に行っている。そのことが「5.教員のフィードバック」の評価に現れているのだと思う。

【自由記述（抜粋）】

中高でなぜなんぞという疑問を持ったまま放置していた、なぜこの公式が成り立つのか、なんでこうなるのかの原理等、様々なことを学びました/とても分かりやすかった。知っていたことでも自分の分からない視点から説明してもらえるのでとても興味深かった/自分の学科では学ぶ機会がなさそうな分野も触れられてよかった/動画を見る回が多くて、授業内容を把握しやすかった。また、発展問題や基本問題、予習課題もあり、授業についていけました/実験の映像や様々な器具を使い説明してくれたので分かりやすく楽しい授業でした/発展問題の解説があったので簡単に解くことができた。気になってマナバに書いたことを授業の時に答えてくれるのがよかった/予習課題にかかる時間が、1 科目にかけられる時間を超えていると感じた/授業を休んで次の週に前回の課題を貰い、欠席時の参加者と同じ一週間で取り組んだにも関わらず点数を 3 割引かれるのはおかしいので改善してほしい→長期欠席でなければ次週以前に教員室に取りに来れるし、課題は基本的に授業終了後に manaba に配信してあるので、このような扱いにしています。説明不足だった点は申し訳ありません。

**実感する科学**（情報メディア学科 1 年前期・必修）

基礎・教養教育センター 教授 兒玉 健  
 回答者数 33 名  
 月曜・1 限・3101 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.45 | 2. 学生の取組      | 3.24 | 3. 学修の到達度 | 3.18 |
| 4. 学修の環境  | 3.06 | 5. 教員のフィードバック | 3.48 | 6. 学修の満足度 | 3.18 |
| 7. 事前学修時間 | 2.03 | 8. 事後学修時間     | 2.12 |           |      |

本科目では、「身の回りの現象や身近な科学技術を切り口の題材に使い、簡単な実験や動画など皆さんの興味をひくかたちで授業を進め、大卒としての自然科学の素養として、物理・化学・生物・地学にわたる広い分野を扱うとともに、これらの分野が密接に関連していることを感じてもらうこと」を目標の一つにしていました。「1. 授業の設計」の評価から、目標はある程度達成

できたのではないかと思います。「5. 教員のフィードバック」についての評価、自由記述のコメントから、フィードバックについては、ある程度できていたのではないかと思います。返却した課題について、コメントすることができていなかった点が、改善すべきところと思います。

【自由記述（抜粋）】

生徒にとって辛い、程よいペースだったと思う/授業のスピードのバランスが良い/好奇心が刺激され、学びにもなり、やりやすかった/追加で説明される予備知識などが面白く、興味をそそるような内容でした/質問や疑問を授業後のアンケートですると先生が大体答えてくださったのが良かった/教室のエアコンが寒かったので、抑えたほうが良いと感じた(→暑い人、寒い人が混在して、室温の調整はなかなか難しかったです) /身の回りの現象に関することを理論的に学ぶことができた。高校で学んだ内容のものもありよき復習になった。ただ個人的にはもう少し専門的な内容を取り入れても良いと思う(→なかなか時間の制約があって、発展的な内容を扱えなかったかもしれません。授業をきっかけにして、自分でいろいろと調べてみるようにしていただけると嬉しいなどと思います。)/課題でわからないところは返却される際にヒントが欲しかった。(→そうですね。改善していこうと思います)

**実感する科学（電気電子情報工学科 1 年前期・必修）**

電気電子情報工学科 教授 広井 賀子  
回答者数 20 名/41 名  
水曜・2 限・1406 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.60 | 2. 学生の取組      | 3.45 | 3. 学修の到達度 | 3.60 |
| 4. 学修の環境  | 3.35 | 5. 教員のフィードバック | 3.65 | 6. 学修の満足度 | 3.70 |
| 7. 事前学修時間 | 1.95 | 8. 事後学修時間     | 2.15 |           |      |

「6. 学修の満足度=3.7」を総合評価とした場合、ほぼ全ての学生に満足感のある講義を提供できたのだと思う。また自由記述の内容から考えても、大方の学生の理解を促すことができたのだと思う。

その他のパラメータも 3.0 を下回るものは、7,8 の事前・事後学修時間のみとなっており、全体的に多くの学生に興味を持って授業を受けてもらえたという手応えである。これは、基礎・教養教育センターの先生方が、Moodle の準備から授業中のデモ実験、さまざまな動画まで、面白く、かつ必要な内容が身につくようにデザインされた演習などをしっかり用意し、全体がうまく進むように教員の準備まで念入りに助けてくださっている成果だと考える。

引き続き協力を深め、より良い講義を提供していきたい。

【自由記述（抜粋）】

よく分かった/伝わりやすかった/moodle を使った授業はとてもよかったと思う。またパソコンに多く触れられてよかったと思う。/授業、課題を通してわかりやすく理解できた。/話の内容が面白くて授業が楽しかった

**実感する科学（情報ネットワーク・コミュニケーション学科 1 年前期・必修）**

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 講師 須賀 弘道  
回答者数 19 名  
木曜・1 限・306 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.47 | 2. 学生の取組      | 3.16 | 3. 学修の到達度 | 3.47 |
| 4. 学修の環境  | 3.00 | 5. 教員のフィードバック | 3.58 | 6. 学修の満足度 | 3.58 |
| 7. 事前学修時間 | 2.05 | 8. 事後学修時間     | 2.16 |           |      |

この授業は「実感する科学」において1N2クラスの学生を対象としたものである。

授業アンケートの結果については、昨年度とほぼ同じ傾向であり、概ね良好であったと受け止める。敢えて改善すべき項目を挙げるとすれば、「7. 事前学修時間」および「8. 事後学修時間」の2つが挙げられる。授業では毎回、その回の授業の復習のための課題と次回の授業内容の予習のための課題を課しているのだが、難易度が低いということであろう。しかし、本科目自体が高校理科全般の復習的な内容を扱うものであるため致し方ない面もある。

#### 【自由記述（抜粋）】

中学、高校ですでにある程度やっていることなのでこの授業の時間を使ってもっと発展的なことをしたかった。もちろんこの授業でやったことが抜けている人もいると思うので必要ではあるが必修である必要はないと思う。

### 実感する科学（機械工学科1年前期・必修）

機械工学科 専門教育講師 熊谷 俊司  
回答者数 35名  
金曜・3限・3502教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.86 | 2. 学生の取組      | 3.66 | 3. 学修の到達度 | 3.57 |
| 4. 学修の環境  | 3.20 | 5. 教員のフィードバック | 3.74 | 6. 学修の満足度 | 3.54 |
| 7. 事前学修時間 | 2.17 | 8. 事後学修時間     | 2.37 |           |      |

「2. 学生の取組」、「3. 学修の到達度」、「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思ふ。

「4. 学修の環境」が昨年度に比べ向上し、皆さんから発言する時間をより多く設定できるように改善することができたと思ふ。

本科目は毎回テーマを変え、広く浅く様々な分野に触れることで、これまで試験のための暗記中心から、本質をとらえて納得できる科学を実感することを目指します。実感するということで、実験のできるものは、映像で終わることなく、実際に目の前で事象の体験ができるように努めました。どこまで伝わったのか不明ですが、少なくとも自由記述に関連するコメントをもらえてうれしく思います。

毎回分野が変わり、学生の興味にも変化が感じられたが、本科目の学修を通して様々な分野に興味をもち、疑問点を後回しすることなく自ら解決していける行動を心掛けてほしい。

#### 【自由記述（抜粋）】

➤良い点：毎回の課題が授業の復習と来週の予習になっているので授業内容をより深く学べることができた/科学の幅広い分野を扱っているところ、生活に関連した内容で意欲的に取り組みやすかった/授業の内容に関連する動画や、身近な例を授業に取り入れてあったおかげでかなりわかりやすかった（⇒良い点として継続実施していきます。）

➤改善点：基本問題や発展問題などの解答をmanabaなどに載せてほしかった（⇒授業の冒頭で毎回解説を行ったが、確認できないところもあったようなので、改善し対応していきます。）

### 実感する科学（情報システム学科1年前期・選択）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 南葉 利道  
回答者数 10名  
月曜・2限・1307教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.40 | 2. 学生の取組      | 3.10 | 3. 学修の到達度 | 3.10 |
| 4. 学修の環境  | 2.20 | 5. 教員のフィードバック | 2.70 | 6. 学修の満足度 | 3.10 |
| 7. 事前学修時間 | 2.10 | 8. 事後学修時間     | 2.40 |           |      |

「1. 授業の設計」での評価からシラバス通りに実施することができたと考える。「2. 学生の取組」では予習・基本・応用問題を全て manaba で実施する事で自発的な取り組みへつながったと考えられる。「3. 学修の到達度」も学生は概ね達成できていると考えられる。「4. 学修の環境」「5. 教員のフィードバック」では、成績の途中集計に時間がかかり、学生への伝達が遅くなってしまったことが、質問・再提出やフィードバックに上手く活用できなかったのではないかと考え、改善の必要を感じた。「6. 学修の満足度」も学生は概ね達成できていると考えられる。「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」共に 30 分程度という解答が多かったが、課題の内容としては想定範囲内である。授業全体として、もう少し小道具を導入した方が学生の「実感」につながると感じている。

#### 実感する科学（情報工学科 1 年前期・必修）

情報工学科 専門教育講師 若原 拓己  
回答者数 30 名  
月曜・2 限・306 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.77 | 2. 学生の取組      | 3.47 | 3. 学修の到達度 | 3.70 |
| 4. 学修の環境  | 3.07 | 5. 教員のフィードバック | 3.67 | 6. 学修の満足度 | 3.63 |
| 7. 事前学修時間 | 1.90 | 8. 事後学修時間     | 2.07 |           |      |

「6. 学修の満足度」を見ると、総合的な評価はよかったものとする。その他の項目を見てもおおむね肯定的な回答が得られているように思える。「4. 学修の環境」については、若干低くなっている。「4. 学修の環境」は質問や発表する機会についての設問であった。本授業の性質上、発表をする機会はなく、そのため他と比べて低くなったのだと考える。質問については、毎回の授業後に Web アンケートで受け付け、次の授業でピックアップして回答する形をとっていたため、授業時間中に質問を受け付ける機会は設けなかった。Web アンケートでの質問に対する回答や毎回の小テストの解説などを授業開始時に行っており、このことは「5. 教員のフィードバック」の評価が高くなったことにつながったのではないかと考える。これについては、自由記述からも読み取ることができる。「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」についてはいずれも点が低く、これは時間外学修に割く時間が少ないことを意味する。この授業では、復習となる問題や予習課題などを設定していたが、それでも低くなっている。学生はこれらの問題を実施していないわけではないため、適切な分量であったかを見直す必要があるだろう。

#### 【自由記述（抜粋）】

動画を交えたわかりやすい解説でとてもストレスフリーに受けられよかった。/授業の最初に基本問題の解説を行って来てみんなが理解できるように説明してくれるところが良い点/良い点:問題をたくさん解けたこと/アンケートの質問に丁寧に答えてくれたのはとてもよかったです

#### 実感する科学（応用化学生物学科 1 年前期・必修）

応用化学生物学科 専門教育講師 齋藤 礼弥  
回答者数 20 名  
水曜・1 限・3304 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.60 | 2. 学生の取組      | 3.55 | 3. 学修の到達度 | 3.55 |
| 4. 学修の環境  | 3.15 | 5. 教員のフィードバック | 3.75 | 6. 学修の満足度 | 3.45 |
| 7. 事前学修時間 | 2.00 | 8. 事後学修時間     | 2.15 |           |      |

シラバスで掲げた目標、毎回の講義で示した到達目標に沿って講義を進めた。また、課題の解説やヒントを示し課題における問題点を明確にし、考える方向性を提示するなど学修内容の理解度向上に努めた。それらに対する評価と「学修の満足度」の評価から、履修生からは概ね満足の

いく内容になったのではないかと思う。毎週、予習、復習の課題が設定されるなど必ずしも低負担な科目ではなかったかもしれないが、履修生は適宜事前・事後学修に努め、また、学期を通じて意欲的に学修に取り組み、「学修の到達度」の評価に示されるように学習内容の理解につながったと考えられる。

一方で、「学修の環境」の評価と関連する意見・質問機会の設定は十分とは言えなかったのだと考えられる。毎週の授業で意見入力フォームは設定したが、それだけでは不十分で、吸い上げられなかった意見があるものと思われる。次回開講時には、改善策を用意したい。

#### 【自由記述（抜粋）】

分かりやすくて良かったです/実際にモノを持ってきてもらっておもしろかった/勉強する面白さ楽しさを学ぶ事が出来ました。/改善してほしい点がありません。わかりやすい授業でした。/動画や実験の様子を見ることで実際にどのように活かされるのかについて知り、興味や関心をもった/講義としてならう内容としてどれも興味を引くものばかりでいい授業だった/技術の発展とそれに伴う代償とその対抗策がこの授業を通していろいろ知ることができました。/自身で間違えた問題についてなぜ間違えたのかの説明をしてほしい（→個別での質問も受け付けます。）

#### 実感する科学（情報メディア学科1年前期・必修）

情報メディア学科 助教 山内 俊明  
回答者数 32名  
月曜・1限・K3-3103 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.56 | 2. 学生の取組      | 3.25 | 3. 学修の到達度 | 3.13 |
| 4. 学修の環境  | 2.19 | 5. 教員のフィードバック | 2.91 | 6. 学修の満足度 | 3.16 |
| 7. 事前学修時間 | 1.97 | 8. 事後学修時間     | 2.03 |           |      |

この講義の肝は、高校までに苦手意識を持ったり、よい成績をとるために受け身で履修していた理科に対する興味・関心を惹起させることにある。従って、アンケートで重要な設問項目は「2. 学生の取組」と「3. 学修の到達度」の2つである。昨年はそれぞれ3.47, 3.38であったのに対し、今年度はそれぞれ3.25, 3.13と若干下降した。受講生は1年生なのだが、昨年とは異なり教室の後ろに固まって着席している様子が印象に残った。前方の席に座って授業をかぶりつきで聴くような学生が皆無だったことは、返す返すも残念である。前期はカリキュラム変更+授業時間変更+1部担当授業の環境激変で、この講義の準備に注力する時間も十分ではなかったことも事実である。状況が改善される来年度は、しっかり時間をかけて十分な準備をして臨みたいと思う。

#### 【自由記述（抜粋）】

動画の紹介もあったので、わかりやすかった/分かりやすく教えてくれた/kbookでの問題はいいけど記述式の問題が自分があるのか間違っているのかわからないからそこだけ改善してほしい/具体的に提示されていたので理解しやすい授業だった/高校で習えなかった範囲なども含まれていて学習できたので良かった。課題で問題文と回答がわけられているのが少しややこしいと思った。自分の出した課題の回答などほしかった。

#### 情報・AIリテラシー（電気電子情報工学科1年前期・必修）

電気電子情報工学科 准教授 宮田 統馬  
回答者数 25名  
木曜・3限・K1-B102 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.68 | 2. 学生の取組      | 3.44 | 3. 学修の到達度 | 3.52 |
| 4. 学修の環境  | 3.00 | 5. 教員のフィードバック | 3.52 | 6. 学修の満足度 | 3.56 |
| 7. 事前学修時間 | 1.44 | 8. 事後学修時間     | 1.88 |           |      |

本科目は、主にコンピュータを利用したレポートや報告書、プレゼンテーションの作成方法や、データサイエンスの基礎を身に付けることを目的としています。アンケートの1から6の項目に関してまずまずの結果であったと思われませんが、項目4.学修の環境が他の項目よりも若干低い結果となった。これは意見を伝えたり質問・発表したりする機会が設けられていたかといったものであるが、授業では内容等を説明し作業に移るため、説明が多い場合には質問等を受け付けるタイミングが不足していたものと考えられる。また、7.事前学修時間が1.44、8.事後学修時間が1.88と低い結果になった。事前学修では次回の授業で何を行うかといった説明等が不足していたものと反省しており、また事後学修は課題によっては皆さんの頑張りで授業時間内に終わることもあり、それぞれこのような結果になったと考えられる。アンケート結果や自由記述も参考にし、改善を図り授業を行っていききたいと思う。

【自由記述（抜粋）】

とてもよかったです。／分かりやすかったです。／改良してほしいところはありません。ですが説明が少し早い時やわかりづらい時があるので改善をお願いします。（→気を付けたいと思います。）  
／TAさん含め、先生がわかりやすかった。

情報・AI リテラシー（情報工学科1年前期・必修）

情報工学科 専門教育講師 若原 拓己  
回答者数 32名  
木曜・2限・306教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.78 | 2. 学生の取組      | 3.56 | 3. 学修の到達度 | 3.69 |
| 4. 学修の環境  | 3.16 | 5. 教員のフィードバック | 3.41 | 6. 学修の満足度 | 3.72 |
| 7. 事前学修時間 | 1.69 | 8. 事後学修時間     | 1.97 |           |      |

「6. 学修の満足度」を見ると、総合的な評価はよかったものと考えられる。その他の項目を見ても、総じて高い評価となっており、バランスの取れた授業ができたのではないかと考えている。しかし、「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」は大幅に低くなっている。授業の内容が特段難しいものではなかったためとも考えられるが、課題や復習してもらいたい点などはあったので、少し残念に思う。あまり学生に負担をかけるのも好ましくないかと思うが、もう少し課題などを増やしてもよいのかもしれない。自由記述では「アカデミック ICT スキル」と内容がかぶっている点が指摘された。実際その通りであり、その内容もオフィスソフトの操作面であることから、次年度では内容のかぶりの内容に授業内容を変更すべきであると考え。その他、自由記述を見るとおおむね好評であったようだが、次年度以降も担当することがあればよりよい授業ができるよう努めたい。

【自由記述（抜粋）】

[改善して欲しい点]「アカデミック ICT スキル 2024」と授業内容の多くが重複していた点/wordやexcelの操作について、演習を通じて理解できた/分かりやすい授業だった/要望など柔軟に対応してくださってありがたかった。/Word, Powerpoint, Excelの使い方を詳しく学べて良かった。/動画を見せて手を動かすところはよかった。/授業だけでなく、課題込みでしっかり基礎を学ぶことができよかったです。

## 情報・AI リテラシー（機械工学科 1 年前期・必修）

機械工学科 専門教育講師 熊谷 俊司  
 回答者数 23 名  
 金曜・2 限・C5-226 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.78 | 2. 学生の取組      | 3.87 | 3. 学修の到達度 | 3.83 |
| 4. 学修の環境  | 3.17 | 5. 教員のフィードバック | 3.96 | 6. 学修の満足度 | 3.91 |
| 7. 事前学修時間 | 1.78 | 8. 事後学修時間     | 2.74 |           |      |

「2. 学生の取組」、「3. 学修の到達度」、「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思ふ。

今年度より初等教育の「アカデミック ICT スキル」を先に受講していたので抵抗なく本授業に入ることができたと思ふ。毎回例題を練習して、各回の課題を仕上げ提出する形になっているが、回を重ねるごとに難易度が上がり、提出課題を正確に完成させるためには、例題だけでなく自らのトライや調査が必要になってきます。ここでの調査とは担当教員への質問も含め、能動的に取り組む習慣を身に着けることも期待しています。office は今後の学生生活や社会へ出てからも有効活用できるツールである。ツールは目的を達成するために活用する手段であるが、ツールの使い方や課題を提出することが目的になっている学生も多いと感じます。授業は前期で終了しますが、office というツールを手段としての有効性を高められるように、様々な場面で積極的に活用して行ってください。

## 【自由記述（抜粋）】

➤良い点：毎回の授業内容が今後生きていくうえでとても重要な内容になっており、とても興味深い内容ばかりでとても良かった/わからないことをすぐに聞くことができよかった/関わりやすい先生で授業が楽しかった/提出した課題に問題があった際、適切なアドバイスを戴けた/分からないところがあれば、ヒントを教えてくれたのでただ教えてもらうだけでなく、自分で考える力も少しついたと思ふ/質問しやすい授業だったのでよかった（⇒良い点として継続実施していきます。）

➤改善点：土日に用事があると課題の提出が難しくなるので、提出期間を延ばしてほしい/企業現場での話をもう少し多くしてもらえると嬉しい（⇒検討し反映させます。）

## 情報・AI リテラシー（情報工学科 1 年前期・必修）

専門教育講師 信田 勝美  
 回答者数 26 名  
 木曜・2 限・B102 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.73 | 2. 学生の取組      | 3.58 | 3. 学修の到達度 | 3.62 |
| 4. 学修の環境  | 3.31 | 5. 教員のフィードバック | 3.19 | 6. 学修の満足度 | 3.54 |
| 7. 事前学修時間 | 1.54 | 8. 事後学修時間     | 1.69 |           |      |

「6. 学修の満足度」を総合評価として捉えると、まずまずの結果であるといえる。ただし、「5. 教員のフィードバック」の評価がやや低く、「3. 学修の到達度」との関連を考慮すると、ある程度は理解できているが、よりフィードバックを望んでいる部分もあり、授業の時間配分など改善の余地があると思ふ。次回の開講においては、学生が目指すべき方向をより明確に示す授業設計と運営を心掛けたいと思ふ。

また、「7. 事前学修時間」や「8. 事後学修時間」の結果からは、本科目での学修が毎回の授業時のみに終始し、事前準備と事後学修を適切に行えるガイドラインが必要と思われる。これは「1. 授業の設計」を再考することによって改善を図りたい。

自由記述欄では、「動画を交えた説明が理解しやすく良かった」「シンプルなパソコンの使い方の授業があつて安心しました」「グループワークがあつて良かった」という好意的な意見が寄せ

られている。これらのコメントを参考にしつつ、今後もより良い授業を提供できるよう意見を取り入れていきたいと思う。

【自由記述（抜粋）】

動画を交えた説明で理解がしやすく良かった／シンプルなパソコンの使い方の授業があって安心しました／グループワークがあって良かった

情報・AI リテラシー（電気電子情報工学科1年前期・必修）

専門教育講師 セーナーナーヤカ シヤシカ

回答者数 28名

木曜・3限・B101教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.61 | 2. 学生の取組      | 3.50 | 3. 学修の到達度 | 3.50 |
| 4. 学修の環境  | 3.36 | 5. 教員のフィードバック | 3.64 | 6. 学修の満足度 | 3.61 |
| 7. 事前学修時間 | 1.86 | 8. 事後学修時間     | 2.46 |           |      |

全体的に3.5前後の結果であった。「4.学修の環境」が3.5を下回った理由としては、自由記述にもあるように、演習中に一部の学生間で私語が多かったからと考えられる。今後は席を指定するなど改善をしていきます。

【自由記述（抜粋）】

授業中に課題ができるのはとてもいいと感じた/その時に質問したり課題についてわからないことがあれば聞けたりできるので良かった/丁寧に教えてくださったところ、なに言っているのかわからないことが多かったです(→もう少し予習と復習に力を入れましょう)/少し課題の数が多かったような気がします(→手を動かして学ぶ科目ですので、課題の数を減らすのは難しいです)/1年生が非常に騒がしかった。もう少し厳しくしても良かったと感じる(→今後は席を指定して、少し厳しくします)

情報・AI リテラシー（機械工学科1年④-2前期・必修）

非常勤講師 松山 英人

回答者数 23名

金曜・1限・3307教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.78 | 2. 学生の取組      | 3.61 | 3. 学修の到達度 | 3.57 |
| 4. 学修の環境  | 3.04 | 5. 教員のフィードバック | 3.39 | 6. 学修の満足度 | 3.61 |
| 7. 事前学修時間 | 1.87 | 8. 事後学修時間     | 2.61 |           |      |

今年度から、前年度までとは異なるシラバスと一般の教科書を使用した内容の授業を担当することになり、試行錯誤しながら授業を進めることになりましたが、アンケート結果を拝見すると、受講者の皆さんにある程度納得される授業を提供できていたようで安心しました。今年度も、多くの問題・課題を出題しましたが、皆さんが熱心に取り組んで下さったおかげで有意義な内容で授業を進めることができました。特に、データサイエンスの課題では、皆さんが関心のある地域のデータを分析・解析・考察し、予想以上に多くの方々が積極的に発表されたのには驚きました。皆さんには今後の研究活動などに活用できるさらなるスキルを身につけられることを期待します。

【自由記述（抜粋）】

内容は初めてにしては課題が多く感じた。しかし、その分多くのスキルを身に付けることができた。/実用的な内容だったと思います。/自分のためになる課題を出してもらったのでパソコンについて詳しくなれました。/講義内容がとても実践的で将来、様々な場所で役に立つ講義だと感じ

ました。日常生活においても役立つ場面が多いと思うので、習ったことを活用していきたいです。  
/大学からパソコンに触り始めたので課題が多すぎて追いつけなかった。課題は1から新しく作る  
のではなくあらかじめ用意された資料に追加する形式だとありがたかった。/先生がとても優しく  
かったです。

#### 情報・AI リテラシー（機械工学科1年④-4前期・必修）

非常勤講師 松山 英人  
回答者数 14名  
金曜・2限・3307教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 4.00 | 2. 学生の取組      | 3.50 | 3. 学修の到達度 | 3.71 |
| 4. 学修の環境  | 3.50 | 5. 教員のフィードバック | 3.36 | 6. 学修の満足度 | 3.86 |
| 7. 事前学修時間 | 2.07 | 8. 事後学修時間     | 3.00 |           |      |

今年度から、前年度までとは異なるシラバスと一般の教科書を使用した内容の授業を担当することになり、試行錯誤しながら授業を進めることになりましたが、アンケート結果を拝見すると、受講者の皆さんにある程度納得される授業を提供できていたようで安心しました。今年度も、多くの問題・課題を出題しましたが、皆さんが熱心に取り組んで下さったおかげで有意義な内容で授業を進めることができました。ただ、データサイエンスの課題では、皆さんには関心のある地域のデータを分析・解析・考察していただきましたが、多くの方々には発表していただけなかったもので、次回は何か工夫したいと思います。皆さんには今後の研究活動などに活用できるさらなるスキルを身につけられることを期待します。

#### 【自由記述（抜粋）】

解説が丁寧。/説明が分かりやすく、授業の進め方もとてもスムーズだった。/特になし。

#### 情報・AI リテラシー（看護学科1年前期・必修）

非常勤講師 中山 裕之  
回答者数 48名  
木曜・2限・1407/1307教室

本科目では、皆さんが「パソコンを使えるようになる」「DS、AIに関する基本を理解する」ことを目標に掲げ、パソコンの基本操作から Word、Excel、PowerPoint の使い方の実習及び、各注意事項、AIに関する概要の解説を行い目標が達成できるよう支援を行いました。

授業を終えての感想ですが、パソコンを使うのが初めての人やすでに使いこなしている人などがおり、全体のスキルに大きなばらつきがありましたが、回を重ねるごとに習熟が進み、ばらつきが小さくなっていったように思いました。これは、授業で毎回パソコンを操作すること、ほかの授業でも使う機会のあることなどで操作になれていったものと思います。パソコンや各ソフトの使い方や機能については、そのすべてを14回の授業で説明することは不可能ですが、皆さんが自身で機能を理解し、使い方をマスターしていける基礎については理解してもらえたと思っています。今後も継続して使用することになるので未使用の機能についても積極的に使用し使い方をマスターしてください。もし、パソコン操作で困ったことなどあれば遠慮なくメールで連絡ください。

今回のアンケート結果では、おおむね合格点をもらえたと思っていますが、説明に不十分な点のあったこと、習熟度の高い方には物足りなかった等、まだ改善すべき点のあることも授業毎のアンケートから把握しています。この点は、今後の課題として取り組んでいきます。

**身の回りの数学（電気電子情報工学科 1 年前期・必修）**

基礎・教養教育センター 教授 竹田 裕一  
 回答者数 20 名  
 火曜・2 限・3306 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.55 | 2. 学生の取組      | 3.45 | 3. 学修の到達度 | 3.50 |
| 4. 学修の環境  | 2.65 | 5. 教員のフィードバック | 3.20 | 6. 学修の満足度 | 3.30 |
| 7. 事前学修時間 | 1.70 | 8. 事後学修時間     | 2.00 |           |      |

毎年授業アンケートに関しては、この「身の回りの数学」で行っているが、集計結果については例年とほぼ変わりのないものであった。また、今年度は 3 学科の「身の回りの数学」を受け持ったが、学科間でも事前事後学修の時間を除けば大きな差は見受けられなかった。事前事後学修の時間については、どうしても数学が得意な学生が多い方が短くなってしまうのは致し方がない部分で、ある意味予想通りの結果であった。

次に自由記述の部分であるが、数が少なかったため 3 学科の内容を一緒に記載したが、概ね肯定的な意見が多かった。また、「課題がなぜ紙であるのかの理由が知りたい」との意見があったが、成績に対して毎回の演習の比重が高いため、採点して学生に返却し、解説を行う事が重要と考えている。さらに電子的に出されると個別の採点が難しく、解説の際に自分の提出した解答があった方が確認がしやすいと考え紙での提出を基本としている。何らかの理由で期日内に紙での提出が困難な場合は一時的に電子的な提出を認めているので、そちらを利用していただきたい。

**【自由記述（抜粋）】**

高校の内容を復習することができてよかった(E) / 数学について改めて広く学ぶことができた。(D) / 課題がなぜ紙であるのかの理由が知りたい(D) / 前回の課題の解説をしてくれたので理解を深めることが出来た。(D) / 分かりやすくて良かったです。(C)

**身の回りの数学（管理栄養学科 1 年前期・必修）**

管理栄養学科 教授 澤井 淳  
 回答者数 15 名  
 月曜・1 限・3602 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.87 | 2. 学生の取組      | 3.73 | 3. 学修の到達度 | 3.73 |
| 4. 学修の環境  | 3.00 | 5. 教員のフィードバック | 3.67 | 6. 学修の満足度 | 3.60 |
| 7. 事前学修時間 | 2.07 | 8. 事後学修時間     | 2.20 |           |      |

本科目では新教育体系の導入に伴い、全学必修として設置された「身の回り」の数学を題材として数量的スキル、論理的思考力、問題解決力を養うことを目的としています。管理栄養士として、食品のプロとして、どのような場面で各章の項目が繋がるか、生かせるかをなるべく説明したつもりです。

概ね例年通りの評価ですが、今年は説明を重視しゆっくり解説して各項目の内容がどのように今後役立つかに時間をかけました。その分、皆さんに黒板で解いてもらうなどは行わないでやってみました。それは、「4. 学修の環境」は 0.6 ポイントのダウンに端的に表れています。次年度への反省としたいと思います。

**【自由記述（抜粋）】**

たとえばわかりやすかったり、例題が今後のための計算であったり、楽しく達成感があって良かったです。 / 演習があり、勉強の復習がしやすかったのが良かった部分だと思った。

## 身の回りの数学（共通基盤・数理情報系1年前期・必修）

情報工学科 教授 納富 一宏  
回答者数 40 名  
月曜・3 限・3101 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.48 | 2. 学生の取組      | 3.20 | 3. 学修の到達度 | 3.40 |
| 4. 学修の環境  | 2.80 | 5. 教員のフィードバック | 3.68 | 6. 学修の満足度 | 3.23 |
| 7. 事前学修時間 | 2.28 | 8. 事後学修時間     | 2.68 |           |      |

本授業では、普段の生活の中に現れる数学を題材として扱っており、中学・高校での数学の復習的な位置づけであった。情報工学科としては、プログラミングの学修が重要であるが、数学的な発想や数式の扱い方、数値データの計算など、基礎的な部分の理解と応用面での数学的手法の適用については、しっかりと学んでおく必要があることから、身近な具体例を交えながらテキストに沿って解説することを心がけた。100分授業であるため、解説時間と演習時間をそれぞれ設けているが、「4.学修の環境 (2.80)」のポイントが低かった。ポイントから判断すると「1.授業の設計 (3.48)」「2.学生の取組 (3.20)」「3.学修の到達度 (3.40)」「5.教員フィードバック (3.68)」「6.学修の満足度 (3.23)」についてはいずれも良好であると思われる。演習時間での個別質問は全体に共有しているが、今後はもっと個別質問し易い環境づくりを工夫し、コミュニケーションを取りやすくしたい。今年から、LMS (Moodle) を用いた確認テストを毎回実施することで、基本ポイントや基礎部分については練習できるようにした。課題レポートは基礎問題を解くうえで役に立つので積極的に活用して欲しい。計算のスキルアップについては受講者の日頃の努力に期待したい。

## 【自由記述（抜粋）】

【良かった点】わかりやすく、理不尽な点がなかったのでよかったです。/確認テストがあつてわかりやすかった/授業で前回までの課題の答え合わせや重要な点がわかりやすく解説してくれたのが良かった。/数学の基礎から学ぶことで理解がしやすくて良かった。/満足しています/(⇒確認テストは基礎問題を中心に毎回実施しました。今後も分かり易さを優先します)【意見】回答を授業内だけでなく、PDFとして解説とともに復習したかった(⇒毎回授業へ出席し、授業時間内にノート作成をし、自分のノートを見て復習するようにしましょう)

## 身の回りの数学（共通基盤・電気電子情報工学科1年前期・必修）

電気電子情報工学科 教授 広井 賀子  
回答者数 10 名/18 名  
火曜・2 限・1407 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.30 | 2. 学生の取組      | 3.21 | 3. 学修の到達度 | 3.40 |
| 4. 学修の環境  | 3.01 | 5. 教員のフィードバック | 3.50 | 6. 学修の満足度 | 3.30 |
| 7. 事前学修時間 | 1.75 | 8. 事後学修時間     | 1.94 |           |      |

「6.学修の満足度=3.3」を総合評価とした場合、大方の学生の理解を促すことができたのだと思う。また自由記述の内容から考えても、大方の学生の理解を促すことができたのだと思う。

その他のパラメータも 3.0 を下回るものは、7, 8 の事前・事後学修時間のみとなっており、授業の内容としては、学生にもう少し前に出て答えてもらう機会を作るなどの工夫を加えるという形で現状より改善できそうである。

一方、私が担当したクラスは、プレイスメントテストの成績が最も低い学生を集めたクラスであったことから、意図的に講義時間中に必要な内容を繰り返し演習できるようデザインしており、講義時間外に多くの学修時間を割くようには計画していなかった。次年度はもう少し、講義時間外の学修時間を増やす演習等を考えてみたい。

## 【自由記述（抜粋）】

先生の解説が分かりやすかった。/優しく教えていただいたので分かりやすかったです。/わかりやすかった/説明がわかりやすかった

## 身の回りの数学（応用化学科3年前期・必修）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 三浦 嵩広  
回答者数 10名  
月曜・4限・1404教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.80 | 2. 学生の取組      | 3.80 | 3. 学修の到達度 | 3.60 |
| 4. 学修の環境  | 3.10 | 5. 教員のフィードバック | 3.90 | 6. 学修の満足度 | 3.80 |
| 7. 事前学修時間 | 1.90 | 8. 事後学修時間     | 2.20 |           |      |

毎回の授業を「講義（約50～70分）」「演習時間（約30～50分）」の配分で行った。演習時間中に取り組んだ課題を授業終了時に提出してもらい、採点・添削をして翌週の授業開始時に返却することで、理解度の向上・定着とその把握に務めた。また、平常点の評価方法において、内容の理解度だけでなく質問や感想なども評価の対象とすることにより、毎回、一定数の学生から授業内容についての意見を得ることができ、授業の質の向上に繋がった。「1. 授業の設計」「2. 学生の取組」「3. 学修の到達度」「4. 学修の環境」「5. 教員のフィードバック」「6. 学修の満足度」で3点を超える高ポイントとなったのは、以上の工夫によるものだと推測される。授業では中学数学・高校数学の分野を取り扱うことも多かったため、すでに内容を十分理解していると思われる学生が多数受講していたようである。このことが「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」が低ポイントにとどまった要因であると考えられる。

## 【自由記述（抜粋）】

調度良い難易度と時間だったと思います/中学数学、高校数学を速習することができた/今までの復習という意味では有効的な授業であったと思う/解説が分かりやすかった  
(→着任初年度ということで、授業設計や課題の難易度設定に多少なり不安もありましたが、毎回の授業で感想や意見を残してくれる学生が多くいたおかげで、結果として、学修満足度の高い授業を実践できましたし、私自身も色々なことを学ばせていただきました。とても有意義な時間でした。ありがとうございました。)

## 身の回りの数学（情報メディア学科1年前期・必修）

情報メディア学科 専門教育講師 金森 克洋  
回答者数 30名  
木曜・2限・3101教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.57 | 2. 学生の取組      | 3.30 | 3. 学修の到達度 | 3.33 |
| 4. 学修の環境  | 2.67 | 5. 教員のフィードバック | 3.77 | 6. 学修の満足度 | 3.30 |
| 7. 事前学修時間 | 2.17 | 8. 事後学修時間     | 2.37 |           |      |

本授業の設計は事前学修（manabaドリル）と授業での説明と授業内演習（manabaドリル）、そして授業後の紙によるレポート課題提出と添削フィードバックという形式である。事前学修と事後学修がバランスよく実施され、授業が100分となり授業内演習にかかる時間の余裕ができたので学生からは一定の評価が得られたと感じる。半面、学生からの質問・発表の機会が少ないことが以前より課題であり今回も学生から質問しづらい雰囲気がある旨の意見が出たことは反省点である。また手書きレポートが負担という意見もあったが、数学では数式、図、グラフを短時間にフリーハンド的に書くことが重要という私見をもっているため、敢えて実施している。特に数人

の学生は「レポート用紙数枚に手書きで解答をして最後に指定の表紙をつけてステープラで留めて提出する」という行為自体が初めての経験だったらしく一から指導する機会となった。

【自由記述（抜粋）】

レポートの間違った点を詳しく教えてもらったのでよくわかった/たのしくやれました。レポート課題が難しかったがやりごたえがある/課題に対してフィードバックがあったので、自分の苦手な分野を克服することが出来た点がよかった/授業自体は、一部の個人的苦手科目を除いて頭に入る事が多かったので楽しかったです。ただ提出物が手書きのみであり中学から手書きをほとんど行ってきていない私からすると非常に負担だったこと、授業の最後に「返却されたレポートについての質問の時間」のような物が設けられていたのですが、それをする時に「文句がある人は〜」等と言っていて高圧的には感じてしまいました。（→レポート採点に異議がある人は・・・という趣旨でしたがそれが高圧的とのことなので今後は言い方を熟慮します）

身の回りの数学（電気電子情報工学科 1 年前期・必修）

専門教育講師 セーナーナーヤカ シヤシカ  
回答者数 29 名  
火曜・2 限・1406 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.45 | 2. 学生の取組      | 3.17 | 3. 学修の到達度 | 3.28 |
| 4. 学修の環境  | 3.24 | 5. 教員のフィードバック | 3.31 | 6. 学修の満足度 | 3.07 |
| 7. 事前学修時間 | 1.90 | 8. 事後学修時間     | 2.03 |           |      |

全体的に 3.0 以上の結果であった。「2. 学生の取組」今後予習がスムーズに出来るように、事前に配布している講義プリントに加えて、講義スライドと事前課題も配布します。「5. 教員のフィードバック」スムーズに出来るように今後、課題の提出とフィードバックをマナバにより行います。

【自由記述（抜粋）】

スライドがわかりやすかった/授業中にしっかりと問題を解く時間と講義を聞く時間を分けられていて授業の進め方がとてもよくやりやすかった/難しくはあったが先生のおかげで少し理解出来た/問題の解説動画はマナバにあげてくれて助かりました/授業使った資料を見えるようにして欲しかった（→今後事前にマナバにアップロードします）/課題がいつ出たのかがわかりにくかった（→今後マナバで連絡します）/質問の機会が設けられるのは良いのですがしつこく聞いてくるので講義の進みが遅いです（→次回から質疑の時間を調整します）/スライドがあったのは良かったと思います。授業プリントが少しわかりづらかったので、それを改善すればもっといいと思います（→今後分かりやすい資料を作成して配布します）/授業中に授業資料をパソコンで見ることを禁止されているのが理解できませんでした（→必要な資料をスクリーンに映したので、パソコンを使う必要性がありません）/あまり授業の内容が入ってこなかった（→復習して授業内容の理解を高めるために、今後マナバを使って復習用動画などを配布予定です）

身の回りの数学（自動車システム開発工学科 2 年前期・必修）

機械工学科 助教 川口 隆史  
回答者数 12 名  
月曜・4 限・3301 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.33 | 2. 学生の取組      | 2.92 | 3. 学修の到達度 | 3.00 |
| 4. 学修の環境  | 2.33 | 5. 教員のフィードバック | 3.42 | 6. 学修の満足度 | 2.42 |
| 7. 事前学修時間 | 1.58 | 8. 事後学修時間     | 1.83 |           |      |

無効回答はなく、すべて有効回答で、平均点が低かった「4. 学修の環境」と「6. 学修の満足度」は、標準偏差が高く、つまりばらつきが大きく、平均点が高かった「5. 教員のフィードバック」と「1. 授業の設計」は、標準偏差が低く、ばらつきが小さいという結果でした。3回の試験結果から得られた得点の分布は、上位層で一つの山があり、中間層で得点の低い方がすそ野が広いもう一つの山がある形になりました。

多分、高校で学習した数学の内容が履修者毎に違うので、自由記述欄にあるように簡単と感じる人、進みが早くて理解が不十分のままと感じる人、その中間の人とか、色々な人がいたと思われます。このようなこともあって、多くの履修者が満足する授業が望ましいのですが、ここではそれが達成できなかったようです。

ほぼ高校でやることを4カ月でやるという時間当たりの密度が濃い、内容豊富な授業となりました。したがって、説明は見通しが良くなるように心がけましたが、果たしてどれだけ達成できたか、アンケートを見ると疑問です。意識的に定義と命題（公式）を明確に区別することも見通しが良くなるだろうと思ってしたことです。今後もこのことを意識して数学等の学習を続けてほしいと願っています。また、それぞれの単元でツボは押さえたつもりだったのですが、特に、「数え上げ」、「確からしさと確率」、「データの統計処理」辺りが、履修者からするとどうだったのか、気になります。試験は一部の人を除いて、できていましたが、成績の良い人の中にも思わぬ所を間違えている例もありました。

個人的には、全学同じ内容なのが何故かという気がしています。V科の場合、高校数学の復習が必要な人向けの科目を配当していましたが、学科の実情に合わせて学科で違って良いように思います。専門科目では、身の回りは大概数学だらけになります。やったことが専門科目或いは社会に出てから少しでも役立つとありがたいです。

#### 【自由記述（抜粋）】

やる必要があるのか疑問の科目だし先生もいっていたが100分でできる内容でない。高校の内容ができてるのが前提らしいがすこし難しいし、専門知識でもないし。/最初の確認テストの三項間漸化式はトリッキーで難しかったが、それ以外のテストの問題は簡単だった。数え上げ、確率は忘れがちでいい復習になったがそれ以外は簡単だった。/教えてほしい場面で時間が無くなる。もしくは、巻きになってしまうことが多々あった。時間配分を決めて教えていただきたいと感じた。/授業のペースがちょうどよかった

#### 身の回りの数学（応用化学生物学科1年前期・必修）

非常勤講師 ラザフィマナンテナ エドワード  
回答者数 13名  
火曜・4限・3401教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.23 | 2. 学生の取組      | 3.07 | 3. 学修の到達度 | 2.76 |
| 4. 学修の環境  | 2.31 | 5. 教員のフィードバック | 2.69 | 6. 学修の満足度 | 2.85 |
| 7. 事前学修時間 | 2.00 | 8. 事後学修時間     | 2.08 |           |      |

授業では、説明の正確さ、復習のしやすさを重視していて、学生が自分の意見を述べることはあまり意識していませんでした。今後は、学生意見交換が可能となるようコミュニケーションを取りやすくしたい。また、より自由に質問してもらえる環境づくりのための工夫をしたい。

課題レポートについては注意喚起しているが、分かり易く伝えるよう心掛けたい。

事前事後学修にも時間をとってもらえればと考えています。演習時間が足りないという意見があるので、説明にかかる時間を減らし、演習にかかる時間を増やすべきだと思います。

理解してもらうためには日本語を上達させなければなりません。

最後に、全ての受講生、また今回のアンケートでコメントを書いてくれた受講生には感謝します。

## 【自由記述（抜粋）】

講義の先生は話が長くて日本語もお世辞にも聞き取れたものじゃないので、やはり日本人の先生に数学は教えてもらいたいです。私は日本人なので、日本語で教育を受ける権利を有しているはずですが、パワーポイントがみやすく理解しやすかった。良い点はパソコンを用いてスライドで説明している点で、改善してほしい点は解き方についての公式や導き方についての教え方が全く何にもわからない説明をしていて、講義を受けたときの黒板の書き方が英語で書かれていて教え方がよくないと思います。そのため数学の理解度が低く、成績がかなり悪い点数を取り、今後の数学の授業についていけるか心配です。課題提出が少なかった

## 身の回りの数学（情報工学科1年前期・必修）

非常勤講師 ラザフィマナンテナ エドウアルド

回答者数 36名

月曜・3限・3308教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.44 | 2. 学生の取組      | 3.08 | 3. 学修の到達度 | 3.42 |
| 4. 学修の環境  | 2.47 | 5. 教員のフィードバック | 2.97 | 6. 学修の満足度 | 3.16 |
| 7. 事前学修時間 | 1.77 | 8. 事後学修時間     | 1.94 |           |      |

授業では、説明の正確さ、復習のしやすさを重視していて、学生が自分の意見を述べることはあまり意識していませんでした。今後は、学生意見交換が可能となるようコミュニケーションを取りやすくしたい。また、より自由に質問してもらえる環境づくりのための工夫をしたい。

課題レポートについては注意喚起しているが、分かり易く伝えるよう心掛けたい。

事前事後学修にも時間をとってもらえればと考えています。演習時間が足りないという意見があるので、説明にかける時間を減らし、演習にかける時間を増やすべきと思います。

理解してもらうためには日本語を上達させなければなりません。

最後に、全ての受講生、また今回のアンケートでコメントを書いてくれた受講生には感謝します。

## 【自由記述（抜粋）】

これまで学んできた数学について、簡易的に振り返り学びなおすことができた。数学の存在を感じた上で、その計算方法について学ぶことができた。公式がしっかりまとめられていて理解しやすく良かった。ラザフィ先生が担当してくださったが正直何を言っているかわからない部分が多かった。説明などを聞いても言い間違えや、教えてる内容が違い少し戻って同じようなところを再度説明するなど授業のやる気が削がれるような内容だった。日本語が饒舌かどうかでほかのクラスとの授業の質に差が出ると思うので日本語が苦手な先生には補助の先生が必要だと思う。解答解説でわかりづらいところが少し多かった。

## 身の回りの数学（情報メディア学科1年前期・必修）

非常勤講師 ラザフィマナンテナ エドウアルド

回答者数 17名

火曜・3限・3407教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.35 | 2. 学生の取組      | 2.71 | 3. 学修の到達度 | 3.18 |
| 4. 学修の環境  | 2.29 | 5. 教員のフィードバック | 3.11 | 6. 学修の満足度 | 2.82 |
| 7. 事前学修時間 | 1.59 | 8. 事後学修時間     | 1.88 |           |      |

授業では、説明の正確さ、復習のしやすさを重視していて、学生が自分の意見を述べることはあまり意識していませんでした。今後は、学生意見交換が可能となるようコミュニケーションを取りやすくしたい。また、より自由に質問してもらえる環境づくりのための工夫をしたい。

課題レポートについては注意喚起しているが、分かり易く伝えるよう心掛けたい。

事前事後学修にも時間をとってもらえればと考えています。演習時間が足りないという意見があるので、説明にかける時間を減らし、演習にかける時間を増やすべきと思います。

理解してもらうためには日本語を上達させなければなりません。

最後に、全ての受講生、また今回のアンケートでコメントを書いた受講生には感謝します。

#### 【自由記述（抜粋）】

良い点:高校数学の全体的な総復習になっていてわかりやすかった。

改善してほしい点:自分的には大丈夫であったが、ラザフィ先生の喋りは少し難しいところがあった(ラザフィ先生すみません)。/これまで通りで大丈夫/学生の口を動かせる機会がより多くとりたいと感じた。/急な連絡があったり、連絡が遅いことが多々あった部分を改善してほしいと感じました。/最初のテストのやり方が分かりづらく答えをどこに書いていいのかが分からなかった。/ラザフィという先生の授業が分かりにくすぎて何言っているのかほぼ分からなかった。/もともと高校数学が苦手でしたが、授業を通して高校数学も振り返ることができたのでよかったです。ありがとうございます!/答案をもう少し具体的に書いてほしい

## 教職課程

### 技術科教育法Ⅰ（教職）

教職教育センター 教授 門田 和雄

回答者数 84 名

土曜・1限・3301 教室

1. 3.4, 2. 3.8, 3. 3.8 など、こちらもほぼ予想通りの結果である。中学校技術科の教職科目の第一歩で多くの学生は既に教員志望を強くもっているため、より意欲を高めて取り組むことを心がけた。木材や金属などの実習は他の科目があるので、こちらでは機械や電気、情報に関する基本的な内容に関して、実験・実習を取り入れながら取り組んだ。この科目はⅠ～Ⅳまでであるので、引き続きⅡ以降につなげることも心がけた。一人でも多くの教員を送り出すために、今後も尽力したい。

### 木材加工概論（教職）

教職教育センター 教授 門田 和雄

回答者数 5 名

水曜・1限・3308 教室/KAIT 工房

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.80 | 2. 学生の取組      | 3.60 | 3. 学修の到達度 | 3.80 |
| 4. 学修の環境  | 3.40 | 5. 教員のフィードバック | 3.40 | 6. 学修の満足度 | 3.80 |
| 7. 事前学修時間 | 2.00 | 8. 事後学修時間     | 2.00 |           |      |

ほぼ予想通りの結果である。中学校技術科の教職科目で実技の割合が多い授業であるため、製作に関する意欲をたかめるための講義を心がけ、実際の実技のさいには常に安全に留意しながらも委縮することなく、のびのびと作業ができる環境になることを心がけた。多くが2年生であるため、将来教員採用試験を受験するときまでには、今回学んだ知識や技術を思い出して取り組んでほしい。事前・事後学修の数値が少なかったが、毎回のレポートは課しているもので、きちんと評価はできている。さらに意欲的な学生向けの課題を出すことも検討したい。

**理科教育法 I (教職教科専門科目・必修)**

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 押鐘 由理子  
 回答者数 4 名  
 月曜・4 限・C2-W508 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.25 | 2. 学生の取組      | 3.25 | 3. 学修の到達度 | 3.75 |
| 4. 学修の環境  | 3.50 | 5. 教員のフィードバック | 3.75 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 2.00 | 8. 事後学修時間     | 1.50 |           |      |

今年度、初めて本科目を担当させていただきました。中学校・高等学校の理科の授業方法について、毎回なるべく学校現場に即したテーマを取り入れた授業づくりを心掛けました。

各回の授業後に受講生の皆さんから提出して頂いた課題の中から、翌週の授業内で一部抜粋して紹介させて頂いていました。学校教育をテーマにした課題については、考え方が多様であるため、クラス全体で共有することにより、様々な考え方・価値観を学んでほしいという狙いでした。このような時間を設けたことが、「5. 教員のフィードバック」のポイントに反映された一要因となったのかもしれませんが。

今後は更に、受講生の皆さんの学修状況を把握し、事前・事後学修の充実化を図りながら、授業を実施していきたいと思えます。

**栽培概論 (教職選択)**

教職教育センター 非常勤講師 石塚 英雄  
 回答者数 9 名  
 土曜・3 限・3302 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.77 | 2. 学生の取組      | 3.89 | 3. 学修の到達度 | 3.77 |
| 4. 学修の環境  | 3.67 | 5. 教員のフィードバック | 3.89 | 6. 学修の満足度 | 4.00 |
| 7. 事前学修時間 | 2.11 | 8. 事後学修時間     | 2.22 |           |      |

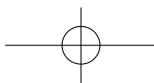
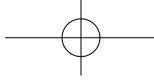
学生による授業アンケートと教員による振り返りアンケートの平均点比較において、「6. 学修の満足度」がどちらも 4.00 で授業を受ける側も授業を行う側も、満足のいく前期であったととらえている。毎年、シラバスについては授業後にもチェックや見直しをすることにより、自分の授業を見つめ直す機会となっているだけでなく、常にシラバスを意識した授業やプレゼンを心掛けた。さらに、毎時間、授業の振り返りカードを記入させ、本時に学生が獲得した知識や技術、学習内容の理解度や事前学修の有無を見取り、次の時間に生かす取組に努めた。そして、毎時間、manaba のスレッドの活用により、講義内容の補足や解説を行い事後学修に活かせるようにした。しかし、「4. 学修の環境」においては、全体の中でやや低い数値になっていた。授業の振り返りカードに「何でだろうと疑問に思ったこと」「もっと深く知りたいこと」を毎時間記入させていたが、双方向のやり取りをさらに重視して、緊張感や理解度、興味・関心を高めていきたいところである。

「7. 事前学修時間」や「8. 事後学修時間」の結果からは、課題提示を初回に行い、計画的取組を促しているところであるが、例年のことながら、事前学修・事後学修ともに低い値で、毎時の授業のみに終始しているきらいがある。さらに学修を深化させるべく指定図書の利用等、自戒しつつも工夫をしていきたいところである。今後も少人数の特性を生かしつつ、質問や発表の機会を増やししながら学生が興味・関心を持って学びに向かう力を育むことを第一に、中学校技術科「生物の育成」領域に自信を持って指導できるよう教授努力を重ねていきたいと思っている。また、週一回の授業で授業回数も一回減ってしまったため、適切な時期の作業・収穫がやや難しくなっていると感じたので、扱う作物を精査して次年度に臨みたい。

**【自由記述 (抜粋)】**

植物を栽培したりするのが大変だったが、パワーポイントなど見やすくプリントを埋めないといけないというところがよかった/中学技術以来の生物育成の学習で知識的なところはより深く学

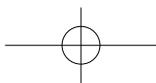
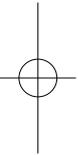
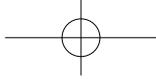
ぶことが出来た。また、実際に作物を栽培することもでき、とても面白い授業でした/家庭菜園で野菜を育てた経験はあるが、摘芽をする理由、方法、原産地を知ることの大切さ、日本独自の作物の特徴、コンパニオンプランツの有効性、実習の大切さ等、多くの知らない知識を得ることができた/授業を通して、作物についての基礎知識から栽培の仕方の違いなど、たくさん学び体験することができた。普段、買い物に行った際、野菜コーナーで作物の品種を見たり、その特徴について調べたりするようになったことが大きな変化であると感じた/授業の中で、土壌管理、畝作りでは、基礎知識を学んだ後に、実際に行うことでより理解が深まったと感じることが多かった。また、座学や実習を行うにつれ、作業に慣れ、効率よく行うことができるようになったと感じた/今まで自分が受けてきた栽培では、どんな作物を育てたかは少しは覚えているが、育成の楽しさは印象が薄いものだった。今回、自分の育成した作物が、日々生長していく様子をじっくり観察できたことが一番楽しかった/夏野菜の栽培は、とても暑く、汗だくになったり、泥だらけになったりとても苦勞したなど感じたため、出来た野菜を食べてみてとても達成感を感じることができた/最後の講義では、今まで学んだことの復習、及び実際に教員になった時にどのような点に気をつけて行すべきかについて学んだ。技術科教員を目指す上で、行事などの特別な日に収穫日を合わせて、生徒と一緒に食べることは技術科にしかできないとてもステキなものだなと感じた/学んだことを振り返りながら、自分の家で作物を育て、結果を独自でまとめ、学びを深めていきたい/技術科の教員になった時に、今回学んだことを参考に、授業の進め方や予算の組み方、どんな作物を題材に選び、子ども達に何を教えたいかをしっかりと考えて授業を行っていききたい/家に野菜を持って帰った際、家族からはどの野菜も美味しく、サイズが大きくて、とても助かっているとされました/授業当初は夏野菜が何なのか、理解もしていなかったが、授業資料を見返したりすることで、夏野菜にはどんな種類があり、どんな育て方をすると良いのかを授業全体を通して理解できた部分だと感じている/畑の実習では、2回目の畝づくりがとても地獄で、とうていできないと思っていたが、収穫の時期になって色々食べてみて、畑の畝づくりは本当に大切であると感じることができ、家庭での栽培でも最初から丁寧に行っていきたいと感じることができた/14回の授業を通して、興味を持ったり、内容を良く理解したりすることができたのが土壌の pH(酸度)に関する授業で、アルカリ性・中性・酸性等そのようなことを理解するのが中学の頃から嫌いだったが、野菜に適する pH を見ながら学ぶことで、とても詳しく学ぶことができ、楽しく学ぶことができたと感じることができた/最終講義は、栽培計画の立て方、注意点がわかりやすくまとめられ、栽培例等、実際に行ったことを踏まえて技術科の授業の進め方に理解を深めることができた/トマトの収穫時に、糖度計による糖度の測定がとても楽しかったので、自分が教師になったら同じようなことをしてみたいと感じた/今回の栽培経験を通して、害虫に食べられたり、上手に発芽しなかったりと様々なことがあったが、美味しく大きく育ち、今回の育て方のような形で、自分が先生になった時、同じようなものを作って楽しく学べるような授業づくりをしていきたい。また、教師になるために大学以外でもどんどん学ぶようにしていきたいと感じる授業であった/これまでの授業を通して、植物のことを多く知れ、これから教師になるための道筋や授業の進め方が大いに参考になった/栽培概論を受けて、植物を育てるためにどのようなことが必要なかを再確認し、今までの植物育成の大変さは1~2割ほどしか体感してこなかったと感じ、学校で何かを育てる時も先生が色々大変なことは率先して行っていたので自分自身が大変と思うことは少なかった。しかし、本当はもっと大変だということを実感できた。今後、教職の授業を取っていくが、授業を受ける時は、今まで考えていた以上に大変だということを入念に入れて、授業に臨んでいきたいと思った/一人暮らしであり野菜を食べる機会がなかったため、栽培概論で育てた野菜のおかげで、野菜を良く食べるようになった。先生から教えてもらったレシピで調理し、レパートリーが増えた。自分が何かを作る時に、今回作ったような美味しい野菜を育てられるように努力していきたいと思う/授業を通して、栽培するための目的と計画を立てて、それに沿った形で育成できるように環境を管理していくための術を学び、実際に育てていく喜びを体験することができた/最後の授業では、先生が実践された事例を紹介され、自分が授業をするときにも体験を通した授業を展開したいと思った/技術科の教員として知っておかなくてはならないこととして、生物育成に関する知識だけでなく、生徒理解も必要であると感じた。また、生物育成を通じて学校に貢献できることも知り、技術科という教科の面白さも再確認できた。



## V 担当教員からのコメント

### 【専門基礎導入】(数理科目)

|          |    |
|----------|----|
| 数学 ..... | 63 |
| 物理 ..... | 67 |
| 化学 ..... | 74 |



## 数 学

### 電気電子数学（電気電子情報工学科 1 年前期・必修）

電気電子情報工学科 専門教育講師 岩城 孝明

回答者数 78 名

月曜・2 限/3 限・3605/3603/3606/3604 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.60 | 2. 学生の取組      | 3.47 | 3. 学修の到達度 | 3.45 |
| 4. 学修の環境  | 3.04 | 5. 教員のフィードバック | 3.58 | 6. 学修の満足度 | 3.41 |
| 7. 事前学修時間 | 2.14 | 8. 事後学修時間     | 2.37 |           |      |

本科目は講義と演習で週 2 コマで、講義 2 クラス、演習 4 クラスに分かれて行われたが、アンケートは全クラスまとまっている。科目の内容としては高校の数学の復習を中心に電気系で使われる項目(微積分以外)について学修を行ったが、基礎電気回路 I と平行してカリキュラムが組まれており、両科目での連携とその適応を学べる構造となった。

「6. 学修の満足度」は知的な関心、新しいスキル、達成感を問うアンケートだが、基本復習の科目でもあるにもかかわらず 3.41 と良い結果が得られたのは、前述の他科目連携がとれたことも一因と考えられる。(他科目の同項目も 3.40)

「4. 学修の環境」は意見を伝えたり、質問発表する機会について、いいえ、どちらかというといえが多く 3.04 とアンケート内最低となった、数学という科目の特徴とも見えるが、昨年 3.57 より低くなったのは、大教室の大人数で質問がしにくい環境があったかもしれない、授業運営の改善のポイントと思われる。

#### 【自由記述（抜粋）】

- 授業で使ったスライドをマナバに流して欲しい。(→関係者で検討します)
- 板書が字が小さく汚い/見やすい字で書いてほしい(→はい、極力資料で提示します)
- 答えだけでなく解説も一緒に提示してほしい/解説を配ってほしい(→意図して答えのみの提示の場合があり、不明な場合はよろず相談室や授業前後で個人指導で聞いてほしい)
- 時々説明が早かったりして、書くのが置いてかれてしまったりする/演習、課題が難しくその日に終わらないため次の日などにやっていたがあまり時間がなかった/解説がよくわからない/もっと基礎的なことから(→よろず相談室や授業前後で個人指導をします)
- スライドを使ってとてもわかりやすかった/課題の方が演習よりやりやすくてよかった/課題の量も事後学修に影響の出ない量でよかった/問題を実際にやって解説してくれるのが分かりやすくよかった/演習や、課題でわからないところを分かりやすく教えてもらった/講義の授業、演習の授業と分かれていてとても取り組みやすかった

### 微分積分学 I - c（機械工学科 1 年前期・必修）

基礎・教養教育センター 准教授 藤森 雅巳

回答者数 14 名

水曜・3 限/木曜・2 限・3304 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.79 | 2. 学生の取組      | 3.64 | 3. 学修の到達度 | 3.50 |
| 4. 学修の環境  | 3.43 | 5. 教員のフィードバック | 3.57 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 2.14 | 8. 事後学修時間     | 2.86 |           |      |

機械工学科の微分積分学は、初めて担当しましたが、皆さん熱心で反応も良く、楽しく授業を行なう事ができました。学生さんの多くがうなずいてくれるのを確認しながら、説明を進めて

いたのですが、一部の人には聴きづらかったのに気付かず、済みませんでした。是非その様な時は遠慮せずに、伝えてください。

【自由記述（抜粋）】

解説が丁寧/このまま続けてください。/難しかったです。/公式や定理の説明がわかりやすくてよかったです/課題をマナバで回答できるようになって欲しいです。/声がこもっており、マイクには入っておるが、活舌が悪かったり、声がこもっていて本当に何を言っているのかわからない。もう少しはっきりしゃべってほしい。/問題を解く上でのポイントをもう少しわかりやすく教えてもらいたかった。/例題を出し、その解説を丁寧に行ってくれたおかげでそのあとの問題が解きやすくなった。(以上、原文のまま、「抜粋」ではなく「全部」掲載。)

微分積分学Ⅱ-c（電気電子情報工学科2年前期・選択）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 望月 厚志

回答者数 11名

月曜・2限・1406教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.82 | 2. 学生の取組      | 3.55 | 3. 学修の到達度 | 3.55 |
| 4. 学修の環境  | 3.09 | 5. 教員のフィードバック | 3.73 | 6. 学修の満足度 | 3.73 |
| 7. 事前学修時間 | 2.09 | 8. 事後学修時間     | 2.55 |           |      |

アンケート結果に関して、「授業の設計」「学生の取組」「学修の到達度」「教員のフィードバック」「学修の満足度」の各項目の設問について、肯定的な回答を選択された方が多かったことは、恐らく、履修人数が17人と少数であったことに拠る所が大きいように思えます。授業のテーマは「問題を繰り返し繰り返し解けば、どんな人であっても数学を修得することができる」というもので、授業のスタイルとしては、例題、演習問題、レポート問題、テスト対策問題、中間試験問題、期末試験問題とそれらの解答を全てpdf形式でmanabaにアップロードし、問題によっては類題を6題以上、反復して解けるように工夫を加えたものでした。しかし、結果として、授業内容は問題の演習とその解説に偏重し、(仮にそれが授業内における受講者の方々の主体的な学習姿勢の確立に寄与する側面を持っていたとしても)コミュニケーションは一方的で偏頗なものとなってしまっていたように思います。その証左が「学修の環境」に関する点数の低さであり、自由記述中の「100分間、集中するのが辛かった」という趣旨のコメントにもそうした難点の片鱗を読み取ることができます。また、大量の問題とその回答の作成のために作業量は膨大なものとなってしまい、後半に至って、解答がその精度を欠くようになり、アップロードにも遅れが出るなどの弊害により、受講者の方々にご迷惑をお掛けしてしまったことに関しては、大変申し訳なく思っています。更に、「教える側と教えられる側という非対称性の解消」という(今思えば)私の勝手な考えに基づいて、自己演出のために積極的に活用するようにして、可能な限り私自身の間違いを授業内で包み隠さず開示していましたが、却って、受講者の方々はそうした態度の中に自信のなさ、指導力の不足を読み取り、中には不快に思われていた方もいたようで、こちらに関しても大変申し訳なく思います。以上を総合して、向後においては、よりミニマルで授業に余裕を持って取り組むことのできるような授業設計を心掛け、双方向的なコミュニケーションが可能となる方策(具体的には、小休止を兼ねた質問時間を予め授業内に組み込んでおくことや、可能な限り対面、乃至は、個別のフィードバックを行うこと)を採用し、受講する方々が心安らかに授業に集中できる環境を整えつつ、しかしながら、教育における理念的な核を失うことなく、学生本位主義に則り、受講者の方々が純粋に主体的に数学を修得することのできるような授業の理想像を探究し続けたいと考えています。

【自由記述（抜粋）】

一問一問解説してくれるので理解しながら進むことができました。/演習なども全部解説してくれたので学びやすかった。/異なるタイプの問題について説明できるのは非常に良い点だと思います。/百分ずっと集中するのが辛かった/小テストのような理解度チェックは必要不可欠の存在でした。

演習問題との相違点として、問題に対する時間のかけ方を把握することが出来ていたと感じました。/ひとつひとつ丁寧に解説してくれるのは良い点ですが、問題の誤植や間違いが多い点は改善して欲しい。後半の方はほとんど manaba にテキストがアップロードされていなかったため復習のときや授業を休んでしまったときに不便だった。小テストの問題数が少し多くて時間がかかって授業の時間が少なくなる点は改善した方が良かった。/先生にはもっと自己肯定感を持ってほしい。(以上、抜粋ではなく、記入して頂いた全ての自由記述回答を記載しています。)

#### 微分積分学Ⅱ-d (電気電子情報工学科 2 年前期・選択必修)

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 菊地 哲也

回答者数 8 名

月曜・2 限/金曜・4 限・1404 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.13 | 2. 学生の取組      | 3.25 | 3. 学修の到達度 | 3.63 |
| 4. 学修の環境  | 2.63 | 5. 教員のフィードバック | 3.25 | 6. 学修の満足度 | 3.38 |
| 7. 事前学修時間 | 1.88 | 8. 事後学修時間     | 2.38 |           |      |

シラバスの到達目標には、偏微分・重積分に関する様々な概念やその意味を説明できることが掲げられているので、授業の課題では問題演習に加え、授業のノートか又は授業のポイントをまとめたノートの提出を課すことにした。結果としては、こちらが予想していたよりきれいなノートや、独自にまとめたノートを提出する学生もおり、前向きに取り組んでいることが感じられた。一方では、未提出の回数が多い学生や、説明不足なノートも見られたので、課題の目的や意義をより詳しく伝え、学修の質を上げられるようにしたい。さらに質問 4 に関連して、授業内容に対する興味や理解に関して学生の意見を聞く機会を増やすようにしたい。

#### 【自由記述 (抜粋)】

定義だけでなく授業中で例題も扱ってくれるのでその後の課題がやりやすかった。/テストの結果や毎回の課題をしっかりと見てくれたのがうれしかった。/黒板に問題番号を書いてくれるとありがたいと思いました。(→ノート提出の課題では、前もって授業のポイントとなる項目に問題番号をつけて公開していましたが、これは便宜的なものであり授業自体が答え合わせではないので、問題番号と授業内容の対応は口頭で注意するのみとしました。後半の授業では問題番号自体をつけるのをやめ、教科書の見出し番号のみ指示したので、課題のどの部分を話しているかはわかりやすくなったと思います。まとめのノートについては、今後もよい出題方法がないか考えているところです。)

#### 線形代数学Ⅰ-a (機械工学科 1 年前期・選択)

非常勤講師 ラザフィマナンテナ エドワード

回答者数 12 名

月曜・2 限・1403 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.50 | 2. 学生の取組      | 3.33 | 3. 学修の到達度 | 3.08 |
| 4. 学修の環境  | 2.83 | 5. 教員のフィードバック | 3.00 | 6. 学修の満足度 | 3.16 |
| 7. 事前学修時間 | 2.41 | 8. 事後学修時間     | 2.58 |           |      |

授業では、説明の正確さ、復習のしやすさを重視していて、学生が自分の意見を述べることはあまり意識していませんでした。今後は、学生意見交換が可能となるようコミュニケーションを取りやすくしたい。また、より自由に質問してもらえ環境づくりのための工夫をしたい。

課題レポートについては注意喚起しているが、分かり易く伝えるよう心掛けたい。

事前事後学修にも時間をとってもらえればと考えています。演習時間が足りないという意見があるので、説明にかける時間を減らし、演習にかける時間を増やすべきと思います。

理解してもらうためには日本語を上達させなければなりません。

最後に、全ての受講生、また今回のアンケートでコメントを書いた受講生には感謝します。

【自由記述（抜粋）】

もう少し授業の教え方を分かりやすく教えてもらえるように改善して欲しいと思いました。/スライドなどの資料はわかりやすかったがとても話し声が聞こえづらかったので自主学習に力を入れることにした。/授業の復習を踏まえての授業が聞き取りやすかった。/もう少し分かりやすい文字で書いてほしい。

線形代数学 I-b（機械工学科 1 年前期・必修）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 神谷 亮  
回答者数 17 名  
月曜・1 限・1308 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.65 | 2. 学生の取組      | 3.35 | 3. 学修の到達度 | 3.24 |
| 4. 学修の環境  | 3.82 | 5. 教員のフィードバック | 3.65 | 6. 学修の満足度 | 3.53 |
| 7. 事前学修時間 | 2.18 | 8. 事後学修時間     | 2.24 |           |      |

学生を指名し、対話を通じて用語の意味を確認しながら進めたり、Zoom のアンケート機能で理解度調査を適宜行ったり、Zoom の Q&A 機能により匿名で質疑応答できるようにしたことなどが項目 4 の好評につながったと思われる。これは継続していきたい。

一方で、講義時間外の学修時間（項目 7,8）と、関連して項目 2,3 が芳しくない。前年度までは成績に影響する小テストは実施しなかったが、今年度前期は、形成的評価として小テストをほぼ毎回の授業開始時に実施した。しかし、おそらく適切な例題が十分な量なかったことや、勉強法の伝達不足などが原因で、小テストのための勉強がしづらい状況だったようである。そのため、勉強しづらい→得点できない→やる気減となってしまった学生もいたのではないかと反省している。次回は、理解を育むための例題を増やし、小テストの勉強をしやすいつ感じてもらえるようにしたい。また、例題の使い方（解説を理解したと思った後に、解説を見ずに解ききろうとするなど、自分の理解を試すためにも使う）など、勉強法についても伝えていきたい。

【自由記述（抜粋）】

- とても分かりやすく、時々理解度調査などをして学生を第一に考えて授業をしている印象でした。
- もっと例題を出して、練習する機会を増やしてほしいです。（→授業内の練習機会は増やしにくいのですが、例題を増やして、授業外に練習しやすいようにします）
- 講義に参加した学生の誰もが理解できるよう何度もわかりやすく解説してくれました。そのおかげで、ほとんどの内容が理解できました。

## 物 理

## 基礎力学 I -a (応用化学科 2 年前期・必修)

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 門田 英子  
 回答者数 24 名  
 火曜・1 限・3407 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.54 | 2. 学生の取組      | 3.00 | 3. 学修の到達度 | 3.25 |
| 4. 学修の環境  | 3.17 | 5. 教員のフィードバック | 3.83 | 6. 学修の満足度 | 3.46 |
| 7. 事前学修時間 | 2.54 | 8. 事後学修時間     | 2.67 |           |      |

去年に比べて「2. 学生の取組」や「6. 学修の満足度」が多少小さくなりましたが、「7. 事前学修時間」が大幅に高くなりました。変な格好までして予習ビデオに登場しておいて、それが授業で話題になったのが良かったのだと思いました。

また、「5. 教員のフィードバック」は相変わらず高いのですが、「6. 学修の満足度」に影響していないように思えます。これは、私がフィードバックを重視している反面、1 年生と違って 2 年になって専門分野もかなり入ってきていることを考えると、それとの関係が見えにくいのだらうと思いました。間違っただ確認テストは直さないと、そこから試験に出るのですから、フィードバックは大切ですが、C 科に合わせたようなもっと興味が湧く設定の問題を作っていく必要があるのだらうと感じました。それが去年の「特に、1 年生とは違った授業形態を探さなくてはならないような気がします。」への答えかと思いました。

## 【自由記述 (抜粋)】

「毎回課題のフィードバックをしているので、解き方が理解出来る機会が出来て良い。」「毎回、確認テストのフィードバックをしてくれるので確認テストで分からないことがあってもしっかりと理解することができる」「フィードバックでどんな間違いがあったのかを示しているのだからわかりやすいが、間違えた人の名前を出すのをやめてほしい」

→確認テストから試験に出るのですから、ちゃんと復習して欲しいので、フィードバックには力を入れていますし、それが、その日にやる単元の予習になるので、おろそかには出来ません。そして、私は一般的に「こんな間違いがありましたよ～」という程度では、その人が聞いていないこともあるので、基本、名前をあげています。これまでそんな反応はありませんでしたので、気にしていませんでしたが、いい機会なので、後期は名前をあげてフィードバックするのか、名前を伏せてそうするのかを聞いてからやるようにしましょうか。

「事前に映像で予習をするので、授業での内容がずっと頭に入ってきやすい。」

→変な格好をして予習ビデオに出た甲斐がありましたね。

「kait moodle を使った課題が良いと思いました」

→KaitMoodle に成績の途中経過を示したことで、KaitMoodle へのアクセスが増えました。これに伴って KaitMoodle の問題への取り組みも大きく増えたので、良かったです。

「途中で遅刻してきた人で授業が止まること」→それは意識したことがありませんでした。気をつけます。

「確認テストの答えのプリントが欲しかったです。」

→フィードバックをしているので、答えを渡そうかどうかと考えたのですが、多分欠席した時に困るのだらうと思いました。あれば、安心して欠席、遅刻が多くなるだらうし、思案のしどころです。試験の直前に公開して試験対策にしてもらいましょうか。

**基礎力学 I -c (機械工学科 1 年前期・選択必修)**

基礎・教養教育センター 教授 石綿 良三  
 回答者数 20 名  
 水曜・2 限/木曜・3 限・3407 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.79 | 2. 学生の取組      | 3.71 | 3. 学修の到達度 | 3.29 |
| 4. 学修の環境  | 3.14 | 5. 教員のフィードバック | 3.50 | 6. 学修の満足度 | 3.57 |
| 7. 事前学修時間 | 2.57 | 8. 事後学修時間     | 2.86 |           |      |

週 2 回の授業で、1 回目は講義と演習、2 回目は演習中心で行っている。本クラスは、高校の物理基礎、物理の内容の補間も含めて基礎から学習し、専門科目へとつなげることを目標としている。アンケート全体で高評価であるが、何よりもほとんどの学生が前向きに授業に臨み、熱心に演習に取り組んでいることが根本にある。中には、高校時代に物理基礎と物理を両方とも履修していないという高校時代の学習機会に恵まれていない学生、あるいは受講したがしっかりとまでは身につけていない学生もいるが、一所懸命に取り組んでいる姿勢がよい。質問も多数飛んでくるのもよい。理解不足の学生には基礎教育支援センターに通うことを勧めてそのようにしている学生も多そうである。ただし、結果的には習熟不足で単位取得に至らなかった学生もいた。あきらめずに、後期の特別授業基礎力学 I -a で補ってくれることを期待している。また、後期の基礎力学 II -c も頑張ってもらいたい。

**基礎力学 I -c (機械工学科 1 年前期・選択必修)**

基礎・教養教育センター 教授 山本 一雄  
 回答者数 17 名(履修者数 26 名)  
 水曜・2 限/木曜・3 限・3503 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.76 | 2. 学生の取組      | 3.65 | 3. 学修の到達度 | 3.65 |
| 4. 学修の環境  | 3.41 | 5. 教員のフィードバック | 3.82 | 6. 学修の満足度 | 3.76 |
| 7. 事前学修時間 | 2.24 | 8. 事後学修時間     | 2.24 |           |      |

本科目では、Kait-Moodle での演習課題の自動採点、Zoom による授業録画などオンライン授業で使ってきた技術は踏襲しつつ、オンライン授業だけでは難しかった課題答案の回収返却によるフィードバックにも力を入れた。問題を答案用紙に解答させた上で Moodle で結果確認させるのは、正しい解答のプロセスを経て正答に至ること、答えを間違えたら軌道修正することを自覚しながら学習してもらうことを目的としている。これは当然やるべきことではあるが、手続きとしてやや面倒だったかもしれないこちらの要求に応えてくれた学生諸君には感謝している。

上記のポイントに関しては、期待通り、「5. 教員のフィードバック」のポイントが高かった。比較的少人数クラスであった点、100分授業になって、授業内での演習にかかる時間が増えたことも関係しているかもしれない。また、対面授業における Moodle 等のオンライン技術の使い方、連携がよりスムーズになってきた結果とも考えている。授業録画がいつでも聴講できて、復習ができる点の評価してくれた学生もいた。

**基礎力学 I -c (電気電子情報工学科 1 年前期・必修)**

基礎・教養教育センター 教授 神谷 克政  
 回答者数 22 名  
 水曜・1 限/木曜・2 限・3305/3408 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.77 | 2. 学生の取組      | 3.68 | 3. 学修の到達度 | 3.73 |
| 4. 学修の環境  | 3.68 | 5. 教員のフィードバック | 3.77 | 6. 学修の満足度 | 3.68 |
| 7. 事前学修時間 | 2.05 | 8. 事後学修時間     | 2.55 |           |      |

この授業では、皆さんが「力学の基礎を暗記するのではなく、理解しようとする姿勢を身につけること」を目標にしました。対面授業では、皆さん一人一人との対話を重ねながら、力学の内容の理解を深めるとともに、力学に向き合うときの態度や心構え、そして楽しさを感じてもらうことを意識しました。また、できるだけ演示実験を取り入れ、その結果をもとに物理の概念をわかりやすく解説するよう努めました。アンケートの自由記述欄に、「なんとなく覚えていた内容が理解につながった」という意見があったことから、一定の成果が得られたと感じています。また、皆さんが安心して授業を受けられるように、どの場面でも丁寧な言葉使いと態度を大切にしました。これが「4. 学修の環境」の高評価につながったのではないかと思います。さらに、「1. 授業の設計」、「2. 学生の取組」、「3. 学修の到達度」、「6. 学修の満足度」も高評価でした。これらの結果を受け、次年度以降も現在の授業方針を継続していく予定です。

また、皆さんに「力学（に限らず、どんな学問でも）の習得には一定量の勉強量が必要である」ことも理解してもらうことも重要な目標でした。アンケート結果によると、「7. 事前学修時間」は2.05、「8. 事後学修時間」は2.55でした。これらの数値の内訳を、アンケート項目の1.5時間以上、1時間程度、30分程度、ほぼ0分をそれぞれ120分、60分、30分、0分として分換算すると、事前学修は34分、事後学修は50分、合計すると週85分の時間を使ってもらいました。大学での学びの第一歩を皆さんが確実に踏み出せたように感じています。今後もこの学びの姿勢を大切にしてください。

最後に、自由記述欄に解説をもう少し具体的に言ってほしいとのご意見を頂きました。次年度以降の授業改善に向けてしっかりと検討したいと思います。

#### 【自由記述（抜粋）】

なんとなくしか覚えていなかったが分かりやすい説明のお陰で理解することができた。／質問しやすかったりわからない問題を丁寧に教えてくれたところが良い点だと思いました。／とても親切に教えて貰えて授業も分かりやすくて助かりました。ありがとうございました。／プリントが分かりやすくてよかったです。／解説をもう少し具体的に言ってほしい／答えがないのでやりづらい／テスト前のプリントの解説がほしいです

#### 基礎力学 I -c（電気電子情報工学科 1 年前期・必修）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 格和 純

回答者数 19 名

水曜・1 限/木曜・2 限・K3-3401 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.63 | 2. 学生の取組      | 3.37 | 3. 学修の到達度 | 3.11 |
| 4. 学修の環境  | 3.16 | 5. 教員のフィードバック | 3.37 | 6. 学修の満足度 | 3.42 |
| 7. 事前学修時間 | 2.21 | 8. 事後学修時間     | 2.37 |           |      |

本講義では、講義内容がほとんどそのまま書かれている穴埋め形式のプリントを用意し、これに沿って講義を進めた。自由記述ではプリントについて述べているものがほとんどで、本講義の印象的な点であったかもしれない。理工系の教科書を「読む」ことに似た機会を早めに提供し慣れることが、この先、技術的課題を自分の力で解決しなければならない場面で大切になるという考えの下、プリントは要点のみをまとめたものにはしなかった。その反作用として、量が最終的に膨大になってしまった点を反省している。演習に関しては、学生の取り組む時間をかなり確保したが、解説時間とのバランス、問題の配列の仕方に、学生の理解向上のための大きな工夫の余地があると理解し、次の機会に改善したい。

#### 【自由記述（抜粋）】

プリントを扱ってとてもわかりやすかったです。／力学のことをわかることができよかったですと思う／問題の解説をわかりやすく説明していて良かった／プリントなどを使用し、わかりやすい授業だった。／授業の解説がとても早かった。書き進めるのと話すのが早くて聞き取れないことが多くあった。（→振り返ると確かにそう思う場面もあったと思います。参考にします。）／もっと勉強を

して、自分の力の方になれるよう頑張る。エアコンが少し寒かったです。(→気温の調整に気を配るようにします)

### 基礎力学 I -c (機械工学科 1 年前期・選択)

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 南葉 利道  
回答者数 7 名  
水曜・2 限/木曜・3 限・3601 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.71 | 2. 学生の取組      | 3.00 | 3. 学修の到達度 | 3.00 |
| 4. 学修の環境  | 3.29 | 5. 教員のフィードバック | 3.57 | 6. 学修の満足度 | 3.14 |
| 7. 事前学修時間 | 2.71 | 8. 事後学修時間     | 3.14 |           |      |

「1. 授業の設計」は概ね良好であったと考える。「2. 学生の取組」では小テスト・課題を複数回実施する事で学生の自発的な学習への取り組みへ少なからずつながり、このことは「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」どちらも想定以上の時間をかけ学生は取り組んでいる事がうかがえた。「3. 学修の到達度」「6. 学修の満足度」は回答の範囲では概ね良好であるが、成績分布を見る限り、基礎学力が不足している学生も多いと感じる。「4. 学修の環境」は、授業時間内での質問などの機会をより多くとる必要があると感じられ、質問や「5. 教員のフィードバック」につながるように改善して行きたい。教員側の視点からは、manaba を多く利用した事が質問や意見交換の場を減らしてしまっただのではないかと反省点として挙げておきたい。また、本年度は 14 週授業以降への過渡期であり、基礎クラスとしての「1. 授業の設計」の仕方を見直すことによって少しでも多くの学生に満足してもらえるよう改善を図り授業を行って行きたい。

#### 【自由記述 (抜粋)】

少しわかりづらい部分はあったが毎回の小テストに向けて勉強する機会があったので良かったと思う (→ありがとうございます)

### 基礎力学 I -c (電気電子情報工学科 1 年前期・選択必修)

電気電子情報工学科 講師 岩城 孝明  
回答者数 13 名  
水曜・1 限/木曜・2 限・1308 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.38 | 2. 学生の取組      | 3.31 | 3. 学修の到達度 | 3.15 |
| 4. 学修の環境  | 3.46 | 5. 教員のフィードバック | 3.46 | 6. 学修の満足度 | 3.15 |
| 7. 事前学修時間 | 2.23 | 8. 事後学修時間     | 2.15 |           |      |

本科目は講義と演習で週 2 コマで、4 つにクラス分けされた 1 クラスで講義、演習を行ったそのクラスでのアンケート結果となっている。科目の内容としては、工学に広く応用される、高校の物理の力学の復習を中心に学修を行った。

「4. 学修の環境」は意見を伝えたり、質問発表する機会について 3.46 とアンケート内最高となった。少人数のため白板を活用し回答してもらったためかと思われる。

一方で知的な関心、新しいスキル、達成感を問うアンケート「6. 学修の満足度」は、復習の科目のためか 3.15 と低い結果だったが、ほぼ同内容の昨年は 3.67 であったことから、本年度は他クラス共通のシラバスから一部微積分を割愛したため、大学っぽさが薄まった可能性があり反省すべき点となった。

#### 【自由記述 (抜粋)】

- 授業の進むスピードが速いような気がしました。(→了解)
- 問題が難しいです。(→よろず相談室や授業前後で個人指導をします)

●先生が黒板に書く時間を作ってくれたおかげで覚えやすかったです。(→ありがとうございます、参考になります。)

●先生が優しく質問しやすかったうえに、授業プリント(ノート)を配布してくれたのでテスト勉強もしやすかったし、毎回の課題や演習プリントもあって毎回授業内容が理解できました。(→了解)

### 基礎力学 I -d (機械工学科 1 年前期・選択必修)

基礎・教養教育センター 准教授 栗田 泰生  
回答者数 21 名  
水曜・2 限・3402 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.57 | 2. 学生の取組      | 3.48 | 3. 学修の到達度 | 3.14 |
| 4. 学修の環境  | 2.81 | 5. 教員のフィードバック | 3.52 | 6. 学修の満足度 | 3.24 |
| 7. 事前学修時間 | 2.19 | 8. 事後学修時間     | 2.43 |           |      |

この科目は、M 科 1 年生の学生さんにとってかなり重要な科目の一つだと思います。その分、教員側も相当な気合が入る・・・というか、学生さんから見るとなにやら「教員の圧が強い」授業だったかもしれません。ですが、学生の皆さんも重要性を感じてくれていたのか、皆さんとてもよく頑張っていたのではないかと思います。お疲れ様でした。

過去数年は、オンライン形式というか LMS (Moodle など) を活用する形式でしたが、今年は LMS を授業で一切使用しない形態に[進化]させました(教育先進国の事例にならって、です)。この点は非常によかったと思います。具体的には、皆さんの計算内容を細かく確認できたこと、皆さんの授業時における集中力が高まったこと、物理的に「手を動かして書く」体験が増えることによる定着効果や試行錯誤回数増加などのメリットがあげられます。デメリットには教員側の処理時間が増えたことがあげられますが、それはメリットに比べればとても小さなことです。

自由記述欄に「難しかった」と記述してくれた方もいるように、本当に難しかったと感じた人もいたことでしょう。なにせスタート時点から、前提知識・計算能力などがまるで違う人が集まっているのですから。授業では前提知識をできるだけ必要ないように、本当に基本的なことから扱うようにしました。4 月の数回の授業では、皆さんついてきていたと思います。ですが、次々と新しい内容を扱うようになっていくと、少しずつわからない箇所がいくつも膨らんでしまい、わからない・・・となってしまったのではないのでしょうか。わからないことを作らないようにする意識を大切にもらえるとういのかもしれません。特に「ベクトルや関数などの数学を用いて何かする」経験が少ない人は、むずかしいと感じることが多かったかと思います。そうした皆さんに対するケアをもっと充実できたらと思います。

#### 【自由記述 (抜粋)】

まとめプリントなど分かりやすく、課題や小テストなどにより復習する機会が多くあり、定着度も上がったと思う。/説明が細かくてわかりやすかったです。/今の授業のやり方でも問題ありません。/ほんとにわかりやすいです。/難しかったです(←できましたらどう点が難しいと感じたのか、どうして難しいと感じたのかなど、直接教員に話してもらえると教員も助かると思いますし、皆さんにとってもよい授業になると思います。)/1 週間に一回程度小テストがあり授業で扱った問題を翌週まで勉強することで単元についての理解が深まった。

**基礎力学 I-d (機械工学科 1 年前期・必修)**

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 門田 英子

回答者数 15 名

水曜・2 限/木曜・3 限・3602 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.80 | 2. 学生の取組      | 3.67 | 3. 学修の到達度 | 3.40 |
| 4. 学修の環境  | 3.27 | 5. 教員のフィードバック | 3.93 | 6. 学修の満足度 | 3.53 |
| 7. 事前学修時間 | 2.07 | 8. 事後学修時間     | 2.73 |           |      |

「6. 学修の満足度」がまずまずだったので安心しましたが、それ以上に「2. 学生の取組」のポイントが高く、KaitMoodle の獲得点数も高く、皆さんが日々基礎力学に真面目に取り組んできてくれたことがわかって安心しました。

一方、「7. 事前学修時間」での評価が一見芳しくないように見えますが、予習ワークシートへの取り組みが 30 分～1 時間程度の人がほとんどだったので、まずまずの予習状況かと思われました。また、事後学修についてはかなり長く、1.5 時間以上の人もありました。確認テストは難しいものもあったかと思いますが、それにもメゲずに立ち向かってきている様子が目に浮かびました。

**【自由記述 (抜粋)】**

力を入れていたフィードバックについてのコメントが圧倒的に多かったです。

「途中からフィードバックがすぐにやってくれて分かりやすくなりました。」

→あまりにも確認テストを遅れて提出する人がいるので、それを待っていたら、フィードバックが遅くなってしまい、真面目に確認テストを提出していた方には申し訳なかったです。

「フィードバックをやってくれて助かった。自分のミスだけでなく他の人がどんな間違え方をしているのか知ることができ、自分の対策に繋がった。」

→毎回の確認テストで間違えるところは大体みんな同じなので、一人だけが間違っているのではなく、みんな間違えるんだと分かたら落ち込まないし、漠然とこんな間違いがあったという紹介だけでは、自分ごととして考えないだろうと思っているので、かわいそうですが、名前もあげてフィードバックしています。その趣旨を理解してもらえたようで、安心しました。

「機械での基礎となる物理について知ることができた」「前でわかりやすく説明されていて良かった。」「講義中に出てくるイラストがかわいかったし、全体を通して面白くて楽しい講義だった。」

→私は、基本的に 2 年、3 年になった時のことを考えて授業をしています。皆さんの学修意欲が湧くようになればなんでもやりたいと思っています。

「講義中に飲食をしている学生がいたのが気になった、もう少し強く注意してほしかった」

→そうします。

**基礎電磁気学 I-a (応用化学科 3 年前期・選択)**

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 南葉 利道

回答者数 19 名

月曜・1 限・1307 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.32 | 2. 学生の取組      | 3.21 | 3. 学修の到達度 | 3.00 |
| 4. 学修の環境  | 2.63 | 5. 教員のフィードバック | 3.32 | 6. 学修の満足度 | 3.11 |
| 7. 事前学修時間 | 2.32 | 8. 事後学修時間     | 2.58 |           |      |

「1. 授業の設計」での評価は概ね良好であったと考える。「2. 学生の取組」では小テスト・課題を複数回実施する事で学生の自発的な学習への取り組みへ少なからずつながった。「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」合わせて平均 1 時間という回答から学生諸氏の努力が伺える。「4. 学修の環境」は他の項目より若干低く、授業時間内での質問などの機会をより多くとる必要があると感じられた。これに対して「5. 教員のフィードバック」に関して評価は良いが、教員側の視点からは、manaba

を多く利用した事が質問や意見交換の場を減らしてしまったのではないかと反省点として挙げておきたい。「3.学修の到達度」「6.学修の満足度」は概ね良好であることから、学生のより広い視野を持つという目標を概ね達成できたと考えている。ただし、14週授業移行への過渡期であり、本科目を苦手とする学生も散見されることから基礎クラスとしての「1.授業の設計」の仕方を見直すことによって少しでも多くの学生に満足してもらえるよう改善を図り授業を行っていききたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

解説のときに途中式なども解説していただけたので分かりやすく、復習のときも解き直しがしやすかったのが良かったです。（→ありがとうございます）／1限に必修科目で授業前テストの公式暗記及び応用を行う授業置くの正直やめてほしいです、天気などの影響を受けやすく、通学直後かつ朝とかだと脳があまり働かないので正直しんどいです（→カリキュラムの対応は難しい）／少し進みが遅いような気がする。（→改善します）／最後のテストの方式がやりやすかった。（→みなさん頑張りました）／宿題のテストの答えとかがそもそもマナバで正解した人しか分からないから後から答え合わせができない。わかるまでちゃんと説明みたいなのがあんまりやってもらえなかった気がする。途中式も授業中しか出てこないが、それが zoom とかでもリアルタイムで見れないし後からも見えないのがテスト勉強時に困る。（→改善します）／期末テスト(中間テスト2)の方式が、面白くてよかった。こういう形式のテストだとかなりやる気が出る。（→みなさん頑張りました）

#### 基礎電磁気学Ⅱ-a（機械工学科2年前期・選択）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 南葉 利道

回答者数 23名

火曜・1限・3306教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.39 | 2. 学生の取組      | 3.22 | 3. 学修の到達度 | 3.26 |
| 4. 学修の環境  | 2.83 | 5. 教員のフィードバック | 3.48 | 6. 学修の満足度 | 3.22 |
| 7. 事前学修時間 | 1.78 | 8. 事後学修時間     | 2.30 |           |      |

「1.授業の設計」での評価は基礎電磁気学Ⅰaからの続きでありベースができていることから概ね良好であったと考える。「2.学生の取組」ではプリントとmanabaを組み合わせることで自発的な取り組みにつながられたと考える。「3.学修の到達度」「6.学修の満足度」は概ね良好であることは、最終的な成績分布にもあらわれており初期目標は平均以上に達成できたと考えている。ただし、本科目を苦手とする学生も散見される。14週授業移行の過渡期であることから「1.授業の設計」の仕方を見直すことによって少しでも多くの学生に満足してもらえるよう改善を図り授業を行っていききたい。「4.学修の環境」は多項目より低めだが、演習の時間をできるだけ増やし、質問や「5.教員のフィードバック」へつながるような改善の必要を感じる。「7.事前学修時間」「8.事後学修時間」では比較的事後学修に重点を置く学生が多いようであった。ⅡaはⅠaと比較して難解な点も多く、事前学修にも力を入れてもらえるような工夫を取り入れて行きたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

プリントがあるのでわかりやすかった（→ありがとうございます）

## 化 学

### 基礎化学 I-a (応用化学生物学科・電気電子情報工学科・1年前期・選択)

基礎・教養教育センター 教授 藤村 陽

回答者数 1C 36名/1E 40名

1C 火曜・3限・1406教室/1E 木曜・4限・305教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.68 | 2. 学生の取組      | 3.56 | 3. 学修の到達度 | 3.59 |
| 4. 学修の環境  | 3.39 | 5. 教員のフィードバック | 3.64 | 6. 学修の満足度 | 3.44 |
| 7. 事前学修時間 | 1.87 | 8. 事後学修時間     | 2.14 |           |      |

基礎化学 I-a を 2 つの学科で担当した。表の評価結果は、2 つの学科の平均値を記載したもので、ほぼすべての項目で 1Cの方が 1Eよりも 0.2ほど点数が高かった。また、昨年の同 2 学科の平均値よりも全項目で 0.3~0.6ほど点数が高くなっていた。昨年に比べて今年は、どちらの学科も受講者の授業に対する気持ちが積極的で、教員との心理的な距離感が近く感じられ、そのことが数字に表れていると思う。

今年から 14 回授業になることで講義内容を見直し、やや難しめの内容なため丁寧に説明することでボリュームが大きくなりすぎていた部分を大幅にカットした。授業資料も表現を見直し、図も増やすなどして、理解がしやすいように改善した。こうしたことも良い評価につながったと思う。

授業内容は、Zoom で録画し、説明をしながら配布資料への書き込みや板書に相当する事項をペンタブレット上で文書に残して授業後に配信した。この点については自由記述欄や、期末試験時に実施した独自アンケートでも評価が高かった。また、授業内容の簡単な確認問題とアンケートを毎回実施し、次回の授業でつまずきの多い点の解説、質問への回答をする進め方も全体的には好評だったので、更に良い形で継続していきたい。

#### 【自由記述 (抜粋)】

授業録画で復習できるのでとても助かります/先生が面白い方法で伝えてくれたから覚えやすかった/化学が苦手な自分からしたらとても丁寧に一から説明してくれて有意義な時間になったなと思ってます/授業内で演習プリントをやる時間を作って良かった/とても授業が楽しくできた/優しく接して下さった/プリントに内容がわかりやすくまとめてあったのでわかりやすかった/プリントが少し見づらい

### 基礎生物学 (専門基礎導入・化学 2年前期・選択)

非常勤講師 新井 健太

回答者数 37名

木曜・3限・1403教室

今年度から 100 分授業 14 回への変更がなされ、手探りの部分もありました。受講して下さったみなさん、ありがとうございました。本科目では、科学的判断力を持った市民や教員として必要なリテラシーを形成することを目指しました。生物学の基礎的な範囲から、重要性とおもしろさにもとづいて抜粋したことがらを紹介しました。

昨年に引き続き、知識の定着と、調べたり考えたりする習慣をつけるために、宿題とその解説によって学修の支援を行うスタイルにしました。学生の自宅学習の時間は、去年と同等かやや少なかったようで、30 分程度でした。年度によるランダムな変動か、課題の難易度がやさしくなったためかはわかりませんので、来年度も経過観察が必要と思われます。

授業自体へのアンケート結果は、いずれの項目も平均点 3 以上とポジティブな結果でした。授業中の質問・発表機会の得点については、昨年度よりも多めに設けたおかげか、改善が見られた

ようです。しかし、学生のみなさんは発言や質問に消極的な様子でした。教員側が工夫していくことはもちろんですが、学生側も何のためにどのように学ぶのか、意識を変える必要があります。

【自由記述（抜粋）】

＞講義で使用したパワーポイントなどを **manaba** にアップロードしてほしかった。

＞テスト対策や復習のために毎回の授業ごとに講義資料を配布してほしかったです。

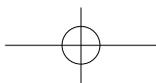
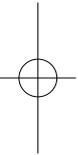
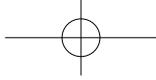
資料は **manaba** のコースニュースに毎週アップロードする方式でした。必要な方はこちらからダウンロードしていただくよう、授業中も複数回言及したのですが、見逃してしまったのでしょうか…。また、講義中の質問タイムや、授業前後の休み時間に質問していただければ、お伝えできたかなと思います。いずれにしても、来年度はもう少し案内を強調させていただきます。

＞小テストの内容を授業内で習ったこと以外に **WEB** で調べて答えを出すものがあるが、サイトによって答えが違うので良くないと思った。

こちらのコメントは、「サイトによって答えが違うので、どれが正しいか判断できなかった」という意味でしょうか。情報を収集し、科学的判断ができる大人になることが本科目の目的です。情報収集の前提として、講義で学んだ基礎的な内容を理解している必要があります。また一般的に、大学の講義は授業時間外に自習時間を確保することが前提となっています。

さて、「**WEB** で調べて答えを出す」宿題ですが、このようなタイプの問題は全体のうちわずかしかなかったと思います。また、すべての問題は三択から答えを選ぶもので、難易度はそれほど高くなかったと思うのですが…。そして、正しい選択肢はひとつでした。多様な価値観があるような題材は扱いませんでした。ですからもし、ある問題が未だによく分からないのであれば、それは、あなたが復習すべきポイントを発見したということです！もう一度、落ち着いて取り組んでみてはいかがでしょうか。

また、インターネット検索にコツのいるものは、「どのように調べるか」を授業冒頭の復習時間に解説しましたので、ライブの授業を十分に活用していただけたらと思います。解説に「よくわからない」ところがあれば、ぜひそのときに指摘してください。みなさんからのフィードバックがあれば、教員側も難易度、問題の内容、文章表現を改善することができますし、その場で補足説明ができるので受講生にもメリットがあります。あなたが気になったことは、他の学生さんも気になっているはずですよ。ご検討ください。

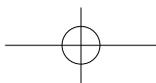
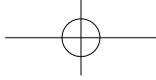


## V 担当教員からのコメント

### 【専門科目】

#### [工学部]

|                |    |
|----------------|----|
| 機械工学科.....     | 79 |
| 電気電子情報工学科..... | 87 |
| 応用化学科.....     | 90 |



## 機械工学科

### 機械力学 I (機械工学科 2 年前期・必修)

機械工学科 教授 川島 豪  
回答者数 42 名  
月曜・3 限・5324 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.36 | 2. 学生の取組      | 2.86 | 3. 学修の到達度 | 2.71 |
| 4. 学修の環境  | 2.45 | 5. 教員のフィードバック | 3.43 | 6. 学修の満足度 | 2.83 |
| 7. 事前学修時間 | 2.29 | 8. 事後学修時間     | 2.48 |           |      |

授業中の学生さんの反応が少なく心配しました。上記アンケート結果の分布をみると真摯に勉強している学生さんとただ出席している学生さんの 2 極化しているようです。勉強は自分のためにするものなので自分の目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。授業の最後に必ず質問がないか確認したときに「ありません」と元気に答えてくれていたので安心していましたが「学修の環境」が低いのが残念でした。また、授業で学習した内容をしっかり理解してもらうために毎回課題を課していましたが、事前学修時間と事後学修時間が例年より低いことが気になります。100 分の授業に対して 100 分の事前学修と 100 分の事後学修を含めて 2 単位となっていますので、しっかり自習することで授業内容を理解するよう心がけてください。

#### 【自由記述 (抜粋)】

「ホワイトボードの字が見にくい」との意見を数名からいただきました。可能であれば黒板の教室に変更したいと思います。「その分野を勉強するのに必要な知識は何があるか教えてほしいですね」との意見をいただきました。工学は積み重ねです。今までに勉強してきた数学や物理の知識が全て必要です。授業ではそれらを駆使して新たな知見を導いています。授業はその場限りのドキュメンタリー番組とは違います。人は忘れるものです。忘れたら復習すればよいのです。それを繰り返すことで自分が成長していきます。「式と図だけでは何をしているのかがイマイチわかりにくいので、身近な事例の紹介もしてほしいです」との意見をいただきました。授業の最初に機械力学がどのように社会に应用されているか説明しました。前に説明したことをしっかり覚えておいてください。毎回同じことを説明していたのでは進歩はありません。「もう少し授業のプリントや資料など復習に役立つようなものが欲しい」との意見をいただきました。そのために教科書を指定しています。「授業内の解説をもっとしっかり丁寧にしてほしいです。」「ただ黙々と式をズラズラ書いてこうなりますだと理解出来ません。」との意見をいただきました。導出した式が何を意味しているかを説明し、到達度確認試験にも出題しました。「どうやったらその式になるのか理由が説明されていたので基本問題を解けるようになりました。」ありがとうございます。そう言っただけのことがやりがいとなります。

### ロボット工学 (機械工学科 4 年前期・選択)

機械工学科 教授 有川 敬輔  
回答者数 12 名  
金曜・2 限・1401 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.75 | 2. 学生の取組      | 3.50 | 3. 学修の到達度 | 3.42 |
| 4. 学修の環境  | 3.50 | 5. 教員のフィードバック | 3.75 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 1.67 | 8. 事後学修時間     | 2.17 |           |      |

機械工学を学ぶ学生にとって、「ロボット」という言葉は、興味を誘う言葉ではないかと思えます。ところが、「ロボット工学」で学ぶ内容はその期待を裏切るものではないかと想像します。例

えば、ロボットの設計や制御には運動学問題を解くことが欠かせませんが、これには三角関数が複雑に絡み合った方程式を解くことが要求されます。また、ロボットの機構としての特徴を詳しく理解するためには、多変数関数の微分や線形代数の知識も必要になります。ロボット工学の授業では、この落差をできる限り円滑に乗り越えられるように意識していました。内容を理解できるということは、学修へのモチベーションの維持にとって最も重要なファクターの一つだと思っております。内容の理解のためには自分で問題を解くことが重要と考え、毎回宿題を出し、翌週、前回の復習を行いながら宿題の解説を行うというスタイルで授業を行いました。また、本年度から授業時間が100分になりましたが、増えた時間を授業時間内に行う演習の強化に充てることにしました。これらの効果は「授業の設計」や「教員のフィードバック」の結果に反映されているようです。今後、内容の理解はもちろんのこと、ロボット工学の面白さをさらに伝えられるよう、授業を工夫していきたいと思っております。

#### 【自由記述（抜粋）】

演習などの解答方法の説明が大変わかりやすかったため、難しい内容も理解することができた。

#### 生産加工学（機械工学科3年前期・必修）

機械工学科 教授 今井 健一郎  
回答者数 119名  
月曜・4限・3102教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.50 | 2. 学生の取組      | 3.21 | 3. 学修の到達度 | 3.18 |
| 4. 学修の環境  | 2.73 | 5. 教員のフィードバック | 3.63 | 6. 学修の満足度 | 3.32 |
| 7. 事前学修時間 | 2.01 | 8. 事後学修時間     | 2.42 |           |      |

「2. 学生の取組」の改善を図るため、今年度から授業内課題および提出を試みた。提出率は毎回95%程度であり、それなりに効果があったと思っていたが、アンケート結果の数字は昨年並みでした。また、「4. 学修の環境」は3点に大きく届かず、苦慮しています。履修者が130名を超えることを言い訳にしたいところですが、「2. 学生の取組」と合わせて、さらなる工夫が必要であると考えています。

一方、他の3点以上の項目は、今後もこれを維持するよう努めます。

「7. 事前学修時間」は30分程度が一番多く、授業2、3日前に配布している資料に目を通す時間としては適当でしょう。「8. 事後学修時間」は1時間程度が一番多く、レポート課題の難易度についても適当であったと判断しています。

なお、自由記述欄に多くのコメントをいただき、ありがとうございました。改善できる点については来年度の講義に反映するようにします。

#### 【自由記述（抜粋）】

土日に前もって課題が送られてくるのをやめて欲しい、気が休まる暇が無くストレスがたまる。  
(→月曜授業のため土曜に授業の配布資料とレポートを送ることが多かったと思います。できるだけ、金曜日にします) /課題のヒントであったり、フィードバックが分かりやすかった点、また、映像を何本か見せてくださり理解が深めやすいと思った点、説明が丁寧でわかりやすい/加工方法や材料などについて詳しく知れたので良かった。/課題のフィードバックを毎回する点はよかったです。/教科書に沿った非常に見やすい資料でした/試験が意外ときついでA4のノートまたは教科書を持ち込み可にしてほしかった(←試験なので今後もこのスタイルを維持します)/記述形式のテストが苦手だった(←慣れていきましょう。必要なことだと考えています)/課題の量を取り組みやすかったです。/課題の内容や授業でも知識として残る勉強ができたのでタメになりました。/不思議と頭に残る授業だった。興味をそそられる余談が多く、毎度の授業が楽しかった。/課題の復習を必ず説明してもらえるので間違えてたとしても理解ができるため良かった。/スライドがわかりやすく、授業後のレポートも解きやすいです。/難しいかもしれないけれど課題の回答を公開して欲しいです。(←解答は“例”であることと、出回ることを防ぎたいので難しいです)/資料がもう少

し欲しいです。(もしかすると講義で使う資料を全て欲しいのかもしれませんが、“余白”が重要だと考えています。自分なりの考えも資料に反映してもらいたいため、要点を絞って配布しています)

### 流れ学 I (機械工学科 2 年前期・必修)

機械工学科 准教授 萩野 直人  
回答者数 44 名  
金曜・4 限・3404 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.48 | 2. 学生の取組      | 3.39 | 3. 学修の到達度 | 3.39 |
| 4. 学修の環境  | 2.98 | 5. 教員のフィードバック | 3.52 | 6. 学修の満足度 | 3.41 |
| 7. 事前学修時間 | 2.11 | 8. 事後学修時間     | 2.45 |           |      |

本授業では機械技術者として最低必要と思われる流れに関する基礎を学び、技術的課題に対処できる能力を得ることを心掛けた。1. 授業の設計 3. 学修の到達度の評価より、授業のポイントを示した事で目標が明確に理解する事が出来たと思う。授業中に課題を出題したが、そのときに周りの学生と相談しても良いこととした。そのため学生が議論しながら問題を解くためより理解出来たようである。その結果、2. 学生の取組 3. 学修の到達度 6. 学修の満足度はまずまずの評価になったと思う。ただし、十分に時間が取れたわけでは無くもう少し時間配分を見直したい。4. 学修の環境では「どちらかと言えばいいえ」と答えが複数いた。100 分、14 回授業に対応するよう内容の見直しをしたが、少々詰め込みすぎた部分があったように思う。授業内課題の見直し等対応するようにしたい。7. 事前学修時間および 8. 事後学修時間のスコアはかなり低いが昨年度よりも向上した。特に事後学修はほぼ 0 分という学生が半減した。復習の重要性を授業内で繰り返し伝えた効果が現れたものと考えている。

### 熱力学 I (機械工学科 2 年前期・必修)

機械工学科 准教授 林 直樹  
回答者数 34 名  
木曜・1 限・3406 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.41 | 2. 学生の取組      | 2.91 | 3. 学修の到達度 | 3.18 |
| 4. 学修の環境  | 2.32 | 5. 教員のフィードバック | 3.50 | 6. 学修の満足度 | 3.29 |
| 7. 事前学修時間 | 1.82 | 8. 事後学修時間     | 2.03 |           |      |

「3. 学修の到達度」や「6. 学修の満足度」でまずまずの評価をつけてくれた学生が多かったようであり、学習成果としてはよかったかと思えます。

一方、「4. 学修の環境」の結果が低いですが、演習時間中などに質問は随時してもらえればと思っています。また、授業時間内で演習時間を多くとっていることもあります。7, 8. 事前事後学修時間が短いことも今後の課題だと思っています。

自由記述欄に「遅刻に厳しい」というコメントがありましたが、1 限の授業ということから、遅れてくることに対する認識が甘い学生が複数いることがわかりました。これから社会人になるにあたってそのような意識でいることは非常に問題だと考えており、この方針を変えるつもりはありません。ギリギリの電車やバスに乗るのではなく、余裕のある時間に大学へ来るよう意識をしてください。

#### 【自由記述 (抜粋)】

遅刻に厳しすぎる/毎回、演習問題を出して頂いているので理解を深めやすいと思う点

応用熱力学（機械工学科 3 年前期・選択）

機械工学科 准教授 小池 利康  
 回答者数 6 名  
 月曜・3 限・K3-3602 教室

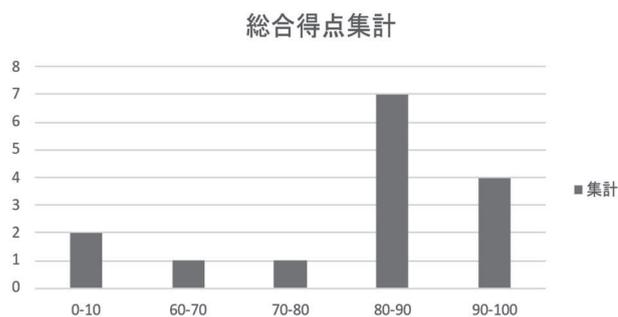
|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.83 | 2. 学生の取組      | 3.83 | 3. 学修の到達度 | 3.50 |
| 4. 学修の環境  | 3.17 | 5. 教員のフィードバック | 4.00 | 6. 学修の満足度 | 3.67 |
| 7. 事前学修時間 | 1.83 | 8. 事後学修時間     | 2.17 |           |      |

本講座は、「エネルギー管理士（熱）」資格取得のための準備講座と位置付けて授業を実施した。何も分からない新任講師による本校としても初めての試みであったが、「6. 学修の満足度」を総合評価（ $3.67/4 = 91.8/100$ ）と考えれば、平均点（M 科 3.38、2 年生 3.33）超であり、まずまずの結果だと思う。

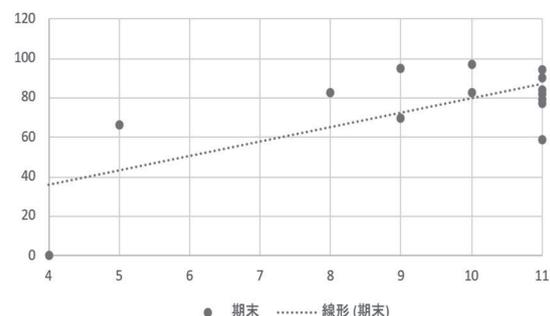
一方、「4. 学修の環境」での評価が芳しくない。こちらからの一方的な教育となってしまったところを反省する。ほぼ半分の時間を演習問題に割いたが、演習問題だけでなく、グループ討議や質疑応答の時間を設けても良かったかも知れない。ただし、資格取得に焦点を当てた場合には、演習問題に慣れることが最も効率的であるため、悩ましい問題である。

総合得点は、課題提出状況、中間テスト、期末テストの 3 つの成績を総合評価した。課題提出状況と期末テストの結果には正の相関があり、日々の課題提出状況が成績を左右するとあらためて実感した。

■ 回数 / 総合得点



課題提出数と期末テストの点数



自由記述欄は 1 件のみで、アンケートの実施、回答について授業内での案内が不足していたと反省します。その 1 件は、「テスト問題量がちょっとだけ多いと思った」との内容であった。ただし、期末テストの平均点は中間 87.8、期末 81.5 点ととても高く、若干多いと思える程度が適量と考える。

【自由記述（抜粋）】

テスト問題量がちょっとだけ多いと思った

機械設計法 I（機械工学科 2 年前期・必修）

機械工学科 准教授 小池 利康  
 回答者数 21 名  
 木曜・2 限・K3-3405 教室

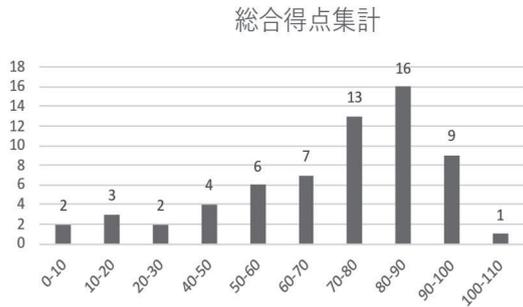
|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.62 | 2. 学生の取組      | 3.43 | 3. 学修の到達度 | 3.24 |
| 4. 学修の環境  | 3.10 | 5. 教員のフィードバック | 3.62 | 6. 学修の満足度 | 3.33 |
| 7. 事前学修時間 | 2.19 | 8. 事後学修時間     | 2.43 |           |      |

機械部品の形状決定をどのように行うのか、設計未経験者を対象とした経験不足な新任講師による講座であったが、「6.学修の満足度」を総合評価 (3.33/4 = 83.3/100) と考えれば、ほぼ平均点 (M科 3.38, 2年生 3.33) であり、まずまずの結果だと思う。

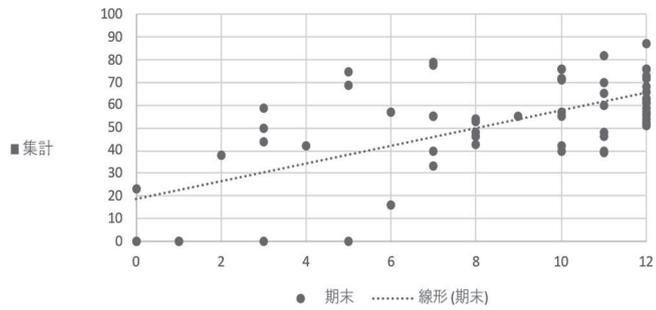
一方、「4.学修の環境」での評価が芳しくない。こちらからの一方的な教育となってしまったところを反省する。8割方の時間を演習問題に割いたが、演習問題だけでなく、グループ討議や質疑応答の時間を設けても良かったかも知れない。ただし、設計初学者と新任講師には、演習問題に慣れることが最も効率的であるため、悩ましい問題である。

総合得点は、課題提出状況、中間テスト、期末テストの3つの成績を総合評価した。課題提出状況と期末テストの結果には正の相関があり、日々の課題提出状況が成績を左右するとあらためて実感した。

■ 集計



課題提出数と期末テストの点数



合計

自由記述欄は0件でした。アンケートの実施、回答について授業内での案内が不足していたと反省します。

**機械設計法 I (機械工学科 2 年前期・必修)**

機械工学科 准教授 小池 利康  
 回答者数 19 名  
 木曜・3 限・K3-3405 教室

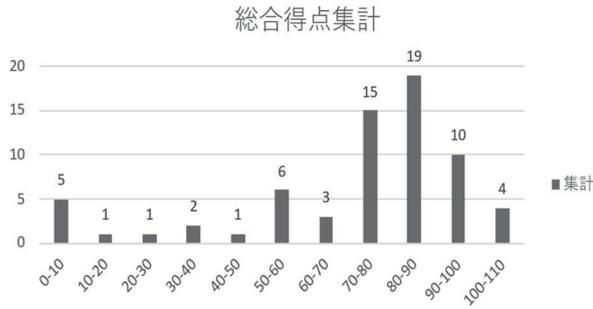
|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.58 | 2. 学生の取組      | 3.47 | 3. 学修の到達度 | 3.37 |
| 4. 学修の環境  | 2.95 | 5. 教員のフィードバック | 3.74 | 6. 学修の満足度 | 3.47 |
| 7. 事前学修時間 | 1.89 | 8. 事後学修時間     | 2.05 |           |      |

機械部品の形状決定をどのように行うのか、設計未経験者を対象とした経験不足な新任講師による講座であったが、「6.学修の満足度」を総合評価 (3.47/4 = 86.8/100) と考えれば、平均点 (M科 3.38, 2年生 3.33) 超であり、まずまずの結果だと思う。

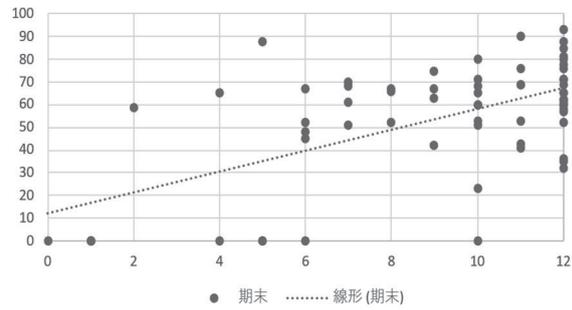
一方、「4.学修の環境」での評価が芳しくない。こちらからの一方的な教育となってしまったところを反省する。8割方の時間を演習問題に割いたが、演習問題だけでなく、グループ討議や質疑応答の時間を設けても良かったかも知れない。ただし、設計初学者と新任講師には、演習問題に慣れることが最も効率的であるため、悩ましい問題である。

総合得点は、課題提出状況、中間テスト、期末テストの3つの成績を総合評価した。課題提出状況と期末テストの結果には正の相関があり、日々の課題提出状況が成績を左右するとあらためて実感した。

人数 / 合計



課題提出数と期末テストの点数



合計

自由記述欄は「特になし」の 1 件でした。アンケートの実施、回答について授業内での案内が不足していたと反省します。

**プログラミング基礎（機械工学科 2 年前期・必修）**

機械工学科 専門教育講師 吉川 紀夫  
 回答者数 30 名  
 木曜・4 限・3406 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.50 | 2. 学生の取組      | 3.20 | 3. 学修の到達度 | 3.20 |
| 4. 学修の環境  | 3.10 | 5. 教員のフィードバック | 3.60 | 6. 学修の満足度 | 3.33 |
| 7. 事前学修時間 | 1.80 | 8. 事後学修時間     | 2.40 |           |      |

「6. 学修の満足度」が 3.33、項目 1～項目 6 の平均値も 3.32 と、まずまずの結果でした。

「ものづくり」を行うメカニカルエンジニアにとって、機械の設計・製造・評価などのさまざまな場面で「ソフトウェアの知識」が必要とされます。この「ソフトウェアの知識」を身につけるためには、まずプログラミングの文法の基礎を学ぶことが重要です。本授業では、機械工学を含むさまざまな実際的な例題や課題を通して、プログラミングの基礎を教えるよう心がけてきました。授業で学んだ内容が実践に役立ち、プログラミングを自ら進んで行う機会が増えれば幸いです。

さて、今年度も Zoom を併用した授業を実施しました。これは一昨年度まで、講義室のモニター画面の文字が見えにくいという問題を改善するための取り組みでした。特に、Zoom を使ってクイズ形式の課題を出した第 11 回の授業では、多くの学生さんが利用していました。今後もこの形式を活用し、みなさんが授業に積極的に参加できる方法を考えていきたいと思えます。

自由記述では「レジユメが見つらなかった」という指摘がありました。資料の内容や文字の大きさが原因かは明確ではありませんが、今後の改善点としたいと思います。また昨年度までのアンケートでは PC の充電不足が指摘されていましたが、今年度は延長ケーブルタップを授業で貸し出した結果、その指摘は 1 件もありませんでした。今後も PC を使用する授業は増えると予想されますので、引き続き延長ケーブルタップの貸し出しを検討します。なお、貸し出し時に注意喚起を行い、授業中の移動を控えるようにしたことで、ケーブルでつまづく事故も発生しなかった点は良かったです。

manaba に提出してもらった毎回の課題には、時間をかけてコメントを記入してきました。特にプログラムの誤りに関しては、できる限り詳細に指摘するよう努めました。コメントを読み返し、理解できない点があった場合は、授業後や manaba を通じて、ぜひ質問してほしいと思えます。

今回のアンケート回答者数は、授業内試験を行った第 14 回授業後にアンケート回答をお願いしたため、履修生 48 名中の 30 名と回答率が 63% と高い結果でした。その一方、自由記述欄の記入数が少なかったことが残念です。

「プログラミング基礎」の授業は終わりましたが、「プログラミング」に限らず、なにかわからないことがあれば、どうぞ気楽にC2号館E421の部屋を訪ねてくるか、メールで連絡してください。

【自由記述（自由記述は原文のまま）】

- ・レジュメ(スライド)が見つらなかった。
- ・先生の説明は理解しやすい
- ・特にない

### 材料力学Ⅱ（機械工学科2年前期・必修）

機械工学科 専門教育講師 熊谷 俊司  
回答者数 35名  
火曜・3限・3406教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.46 | 2. 学生の取組      | 3.20 | 3. 学修の到達度 | 3.11 |
| 4. 学修の環境  | 2.80 | 5. 教員のフィードバック | 3.69 | 6. 学修の満足度 | 3.29 |
| 7. 事前学修時間 | 2.31 | 8. 事後学修時間     | 2.60 |           |      |

「2. 学生の取組」、「3. 学修の到達度」、「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思う。

本科目は安全なものづくり（機械や構造物に適した材料と形状で設計）のための基礎となる学問です。安全なものをつくるためには、“ものに働く力”や“ものが壊れる理由”を知ることが重要です。授業で行った計算は、材料に力が加わったときに、①壊れないかどうか、②材料がどの程度変形するのか、を評価するためのものです。これは機械の設計はもちろん、建築や家電製品に至るまで様々な製品で広く活用されております。材料力学だけではありませんが、力学系の学問はニュートンの力学の基礎に従い、数学の手法を駆使して展開されております。生産現場では力学を上手く使って製造工程や製品を設計し、製造しております。授業の中で展開が難しくてわかり難いと感じた学生は、ところどころで使われる数学の手法を確認することが理解の早道と考えます。

【自由記述（抜粋）】

➤良い点：内容の説明を詳しく分かりやすく丁寧にしてくれて、とても良かった。/やや難しかったが、パワーポイントや先生の解説で材料力学の根本を理解できた（⇒良い点として継続実施していきます。）

➤改善点：発展課題の問題がわかりません。もう少し類似した例題を授業内で解きたい（⇒事前の学修で予習が行えるように検討します）

### 材料工学（機械工学科2年前期・必修/選択）

非常勤講師 大場 宏明  
回答者数 29名  
木曜・2限/3限・3403教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.31 | 2. 学生の取組      | 3.14 | 3. 学修の到達度 | 3.18 |
| 4. 学修の環境  | 2.64 | 5. 教員のフィードバック | 3.45 | 6. 学修の満足度 | 3.18 |
| 7. 事前学修時間 | 1.76 | 8. 事後学修時間     | 2.06 |           |      |

集計結果は昨年よりも改善されている傾向にあり、総合評価として、「3. 学修の到達度」、「6. 学修の満足度」を考えれば、目標とする学習内容を理解した上で授業に向き合い、ある程度の新しい知識を習得出来ていたものとは思っている。また、「5. 教員のフィードバック」についても、毎回の

小演習の実施や解答の解説を通して、授業で学んだことの確認が出来ており、配布資料も含め小演習は役立っていたものと考えている。それに対して、「4. 学修の環境」、「7. 事前学修時間」、「8. 事後学修時間」については、昨年よりはやや改善がみられるものの低い評価の傾向は変わっていない。授業中の質問の有無に対する問いかけだけでは反応がない状況であり、積極的に取り組んでもらうために、学生に質問して回答させる機会を設けることも必要ではないかと考えさせられた。それによって予習復習時間の改善につながり、授業内容の理解を深められるのではと思われる。また、自由記述にあるように、小演習の評価が学生によりわかるようにすることで内容理解や学習意欲につながると考えられ、授業の進め方などを改善することで、もっと関心を持ってもらい知識習得出来るような授業にしていきたいと考えている。

**【自由記述（抜粋）】**

授業内で演習翌週に回答解説があるが、生徒回答が正しいのかわからない場合もあり、○×があるとより理解とその後の質問などにつながると感じた。

## 電気電子情報工学科

### 電子デバイス（電気電子情報工学科 3 年前期・選択）

電気電子情報工学科 教授 工藤 嗣友  
回答者数 26 名  
火曜・4 限・3406 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.50 | 2. 学生の取組      | 3.27 | 3. 学修の到達度 | 3.23 |
| 4. 学修の環境  | 2.92 | 5. 教員のフィードバック | 3.35 | 6. 学修の満足度 | 3.31 |
| 7. 事前学修時間 | 1.96 | 8. 事後学修時間     | 2.35 |           |      |

今年度より 100 分授業となり、授業時間構成は前半 40 分の講義、前半の内容に関する 10 分の演習・解説、後半 40 分の講義、後半の内容に関する 10 分の演習・解説として実施しました。当初は、演習終了後の解説にて質問時間を設けたいと考えていましたが、時間配分のバランスが取れず、質問しづらい状況でした。これは今後の改善点だと考えています。昨年度も同様、2 年次後期開講の半導体工学を受講していない学生が全体の 4 割程度居ることから、本科目をより理解してもらうためにも上記科目の受講を強く呼びかけたいと思う。昨年度より、オープンソースツールを用いたレイアウト設計に関しては、初期設定を各学生にやらせようとして PDF、解説動画を設けましたが、思ったほど活用してもらわず授業当日に改めて設定を問う学生も居た。よって、次年度にむけ早めの対応で学生がスムーズに授業が受けられるよう改善していきたい。

### 基礎電気回路 I（電気電子情報工学科 1 年前期・必修）

電気電子情報工学科 教授 瑞慶覧 章朝  
回答者数 72 名  
火曜・3 限/4 限・3403 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.56 | 2. 学生の取組      | 3.50 | 3. 学修の到達度 | 3.14 |
| 4. 学修の環境  | 3.29 | 5. 教員のフィードバック | 3.57 | 6. 学修の満足度 | 3.40 |
| 7. 事前学修時間 | 2.19 | 8. 事後学修時間     | 2.61 |           |      |

事前事後学修以外は、いずれも 3.1 以上であった。基本を丁寧に説明し、簡単な例題の解説を増やした結果と思われる。「学修の到達度」が比較的低く、十分に理解できていない学生が多くいるのがわかる。交流回路における複素数・フェーザ・瞬時値の変換で躓いている学生が多く見られ、今後工夫したい。「学生の取組」も比較的低い。質問し易い雰囲気づくりを心がけたい。また、学生同士で教え合う時間なども積極的に取り入れたい。事後学修をあまり行わない学生が半数近く存在した。毎回の宿題（提出物）の重要性もしっかり伝えていきたいと思う。自由記述では、記述方式の独自ノートが好評のようであった。今後も続けたいと思う。

#### 【自由記述（抜粋）】

丁寧な説明でわかりやすい進むのが早い授業中の例題を増やしてほしい/ヒントや解説をしてくれる所が良い/ヒントを書き出してほしい/授業中のスライドがわかりやすかった/難しい問題をだしてほしい/わからないところを聞くと優しく教えてくれた/すごく理解しやすかった/授業ノートがテスト勉強で役に立った/説明がわかりづらい/テストが難しすぎる/問題の解き方が明確でわかりやすかった/電気回路の計算などを学べて良かった/講義と演習に分かれてよかった/授業ノートを使いわかりやすく理解できた/難しかった/良くわかった

**エネルギーと電力システム制御（電気電子情報工学科 3 年前期・選択）**

電気電子情報工学科 准教授 高橋 宏

回答者数 49 名

水曜・1 限・3505 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.55 | 2. 学生の取組      | 3.45 | 3. 学修の到達度 | 3.37 |
| 4. 学修の環境  | 3.51 | 5. 教員のフィードバック | 3.65 | 6. 学修の満足度 | 3.37 |
| 7. 事前学修時間 | 1.84 | 8. 事後学修時間     | 2.10 |           |      |

「事前・事後学修時間」を除いて、3 点以上となり、まずまずの評価だと考えられる。本年度から 14 週 100 分授業となったため、授業計画全体を見直して再設計した。その結果、昨年度コメントがあった「授業の回によって速さが違う」という指摘はなくなり、適切な授業配分になったのではと考える。一方で、「事前・事後学修時間」については、毎回課題は出していたものの、学生によってはあまり時間をかけずに提出できていたものと思われる。課題については授業計画の再設計とともに見直していたものの、もう少し課題設定を検討したい。

なお、自由記述欄に「課題のフィードバックがわかりやすくよかった」などのコメントがあった。引き続き、丁寧な説明・解説を心掛けたい。また、「左右前後の人と授業内容を確認し合う方法は、記憶にも残りやすいので良かった」とのコメントもあった。コメントの効果を狙って取り入れた方法であるが、その通りの感想を得られて安心した。次年度も継続して取り組みたい。

**コンピュータ工学（電気電子情報工学科 3 年前期・選択）**

電気電子情報工学科 准教授 宮田 統馬

回答者数 21 名

火曜・1 限・3406 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.48 | 2. 学生の取組      | 3.24 | 3. 学修の到達度 | 3.05 |
| 4. 学修の環境  | 2.57 | 5. 教員のフィードバック | 3.10 | 6. 学修の満足度 | 3.19 |
| 7. 事前学修時間 | 1.62 | 8. 事後学修時間     | 2.05 |           |      |

本科目は、ハードウェア分野の情報技術に関する知識と、それらを応用できる能力を身につけることを目的としています。アンケートの 1 から 6 の項目に関して 4. 学修の環境 (2.57) を除きまずまずの結果であったと思われる。項目 4. 学修の環境は、意見を伝えたり質問・発表したりする機会が設けられていたかといった内容であるが、授業中に質問等を受け付ける時間を設けていたが、反応が薄くうまく機能していなかったと考えられるため、何かしらの工夫が必要であると感じている。また、7. 事前学修時間が 1.62 と低く、次回の授業で何を行うかといった説明等が不足していたものと反省しています。今年度からの担当でいろいろと至らない点があったと考えられるため、自由記述等も参考にしつつ授業内容の改善を図っていききたいと思う。

**【自由記述（抜粋）】**

分かりやすかった／プリントを用意してくれたおかげでスムーズに進行することができた。／ノートに書き写しているときに説明をしていたので、理解できなかったのが残念。（→学生の様子に気を配り授業を進めていきたいと思います。）／前半と後半で板書からスクリーンに変わったのでどちらかに統一した授業をして欲しい。多分字が汚すぎてプリントにしたと思うのでもう板書する際は少し字を綺麗に書いて見やすくしてほしい。（→後半にかけて内容が多くなるため、プリントを用意しました。また、板書に関しては丁寧にするように心がけたいと思います。）

**基礎電気回路Ⅱ（電気電子情報工学科 2 年前期・必修）**

電気電子情報工学科 講師 端山 喜紀  
 回答者数 24 名  
 月曜・3 限/火曜・3 限・1403 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.67 | 2. 学生の取組      | 3.29 | 3. 学修の到達度 | 3.42 |
| 4. 学修の環境  | 3.00 | 5. 教員のフィードバック | 3.63 | 6. 学修の満足度 | 3.42 |
| 7. 事前学修時間 | 1.96 | 8. 事後学修時間     | 2.54 |           |      |

まず総合評価となる「6. 学修の満足度」は平均で 3.42 と昨年度よりも 0.1 ポイント改善した。また「3. 学修の到達度」は 3.42 ポイントと昨年度よりも高く、「5. 教員のフィードバック」は 3.63 ポイントとこちらは昨年度と比較し、同程度の値となった。本年度は 100 分、14 回という授業形態への変化があり、それに対応して授業計画の変更を行った。1 コマあたり 10 分時間が増えたことで、講義では例年一部しか行えていない演習問題の解説を全体を通して行うことができ、理解度の向上が図れたのではと考える。演習問題にも一部手を加えた、すべてではないが、基本の問題と、基本問題では物足りない学生への応用問題を設けてみたが取り組み易かっただろうか？また本科目は内容として計算手法に目が行きがちである。講義で紹介している応用例など、計算だけでなく、物理現象や応用技術に少し興味を持たせたい。今後も電気回路の原理・現象への学生の理解が深まるようにしていきたい。

**【自由記述（抜粋）】**

プリントが見やすくて学びやすかった/プリントの書き込みで授業を進めていくのがわかりやすく良かったです。→講義の穴埋めプリントは改良していくつもりです

**電気電子材料（電気電子情報工学科 3 年前期・専門選択必修）**

非常勤講師 江澤 弘和  
 回答者数 25 名  
 水曜・4 限・K3-3403 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.24 | 2. 学生の取組      | 3.16 | 3. 学修の到達度 | 3.00 |
| 4. 学修の環境  | 2.68 | 5. 教員のフィードバック | 3.00 | 6. 学修の満足度 | 3.04 |
| 7. 事前学修時間 | 1.84 | 8. 事後学修時間     | 2.40 |           |      |

本科目では、固体結晶中を運動する電子の波動性に基ついて機能材料の多様な性質を理解する視座を学生が獲得することを主眼としました。「1. 授業の設計」は昨年度(3.29)と同様に相対的に高い評価(3.24)をいただきました。「7. 事前学修時間」(1.84)は昨年度(1.86)と同等でしたが、「2. 学生の取組」は昨年度(3.00)より上昇し(3.16)、「8. 事後学修時間」(2.40)も昨年度(2.29)より増加したことから、学生は本科目の学修に意欲を持ち、授業後に興味を深めていったことが窺えます。最近の材料開発に関する産業界の話題提供や基礎物性に関する参考動画視聴の推奨の効果と推察しています。「3. 学修の到達度」「6. 学修の満足度」の評価は昨年度と同等であった一方、「5. 教員のフィードバック」は昨年度(3.52)より低い評価(3.00)であったこと、「4. 学修の環境」の評価(2.68)も昨年度(2.76)より低下したことは学生との対話不足を示唆しており、次回開講時には、本科目の前提となる基礎事項に遡った質疑応答の機会を増やし、学生の学修支援の充実に努めて参ります。

**【自由記述（抜粋）】**

計算課題の解説をして欲しい。(教員回答：演習時間増や解説動画の配信を検討します。) / 授業資料が残っており復習しやすかった。(回答：毎授業回の事前に配布する授業資料の有用性を認めていただきましたが、理解増進のためには授業資料の事前学修を促進する授業前課題の導入を検討します。)

## 応用化学科

### 環境保全・エコロジー（応用化学科3年前期・選択）

応用化学生物学科 教授 齋藤 貴  
回答者数 8名  
金曜・3限・1403教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.38 | 2. 学生の取組      | 3.25 | 3. 学修の到達度 | 3.38 |
| 4. 学修の環境  | 3.13 | 5. 教員のフィードバック | 3.38 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 1.88 | 8. 事後学修時間     | 2.00 |           |      |

アンケートの実施について徹底していなかったと思われ回答者数がかなり少なかった(昨年度は22名)。そのため、個々の評価点の差で平均値が大きく変動することを前提として記載しています。教員の授業計画に関わる「1. 授業の設計」では、授業期間の中間時に学事での出張に伴いシラバスに変更を生じたことが何回もありこれが強く印象に残ったものと思われ、昨年度より大きく低下した要因と推測します。また「2. 学生の取組」～「8. 事後学修時間」に関しても、昨年度と比べ低下している傾向にあり反省すべき点です。同日の午前中に新規の動機付け授業(1年必修)が加わり、この科目の準備に毎週多くの時間が取られたため、本科目に充てる時間が明らかに減ってしわ寄せを生じていることは解決しがたい課題です。次年度は、授業内での進め方にもう一工夫、手を入れることを考えたいと思っており、印象に残る満足度の高い授業としていきたいと考えています。

なお、自由記述欄において、1回の授業で完結型のテーマ展開をしていますが、幅広く理解や知識が身に付いた印象がプラスに働いているようです。また授業での説明やそれを補うレジュメなどは、満足している意見が多くありました。特に授業では、環境へ影響する現象のその裏にある隠れた見えない因子を提起し、なるべく深く掘り下げた見方や考え方で授業展開していますが、それを感じ取っている学生がいることは嬉しいです。

#### 【自由記述(抜粋)】

説明が分かりやすかったです。プリントも見やすかったです。本講義では、環境のトピックスごとに一回の授業が行われ、地球環境の現状、問題、課題、改善に向けた動きなど様々なことを学ぶことができました。齋藤貴先生の内容の濃い授業などもあって、レジュメを超えた学びをすることができました。(原文のまま記載)

### 有機官能基の化学（応用化学科2年前期・JT必修・A選択必修）

応用化学生物学科 教授 山口 淳一  
回答者数 8名  
水曜・1限・1408教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.25 | 2. 学生の取組      | 3.13 | 3. 学修の到達度 | 3.00 |
| 4. 学修の環境  | 3.13 | 5. 教員のフィードバック | 3.25 | 6. 学修の満足度 | 3.38 |
| 7. 事前学修時間 | 2.50 | 8. 事後学修時間     | 3.13 |           |      |

本科目はJコースに対する科目であり、平行して設置されている「医薬品の効果と反応」よりも達成度を高く設定した授業である。「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思う。事後学修時間が多いのは毎回演習を課している為と考えられ、これを機に学修する癖がついてもらえると嬉しい。有機化学の入口の授業として、有機化学を専門とする学生が1人でも増えてくれることを願うばかりである。

## 【自由記述(抜粋)】

なし→無い理由を書いてくれると嬉しい/毎回出る課題の分からないところをアドバイスしてくれるためとてもありがたかった。→直接質問があると、どこが分からなかったのかを知ることが出来、こちらも助かります/実例をもっと聞きたかった→実例を知りたいときは直接尋ねてくれるといくらでも話します/演中間や期末の答案も欲しかった。→張り出したはずです/雑談の中で興味深い知識を学ぶことができたことが良かった。→よかったらもっと雑談しに来てください

## 有機反応化学 (応用化学科 3 年前期・I 必修・JA 選択必修)

応用化学生物学科 教授 山口 淳一  
回答者数 8 名  
水曜・2 限・3302 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.50 | 2. 学生の取組      | 3.63 | 3. 学修の到達度 | 3.25 |
| 4. 学修の環境  | 3.13 | 5. 教員のフィードバック | 3.50 | 6. 学修の満足度 | 3.13 |
| 7. 事前学修時間 | 3.00 | 8. 事後学修時間     | 3.38 |           |      |

本科目は J コースの科目であり、平行して設置されている「医薬品の効果と反応」よりも達成度を高く設定した授業である。「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思う。本科目の内容は、難関大学院入試問題が 2/3 程度解けるようなレベルであり、苦勞した学生も多いと思う。最後まで頑張った学生には賞賛を送りたい。

一方、問題点の 1 つと考えられるのが回答率が低いことである。すなわち、実質的受講者は約 25 名のことから回答率は 30~40% と言え、本アンケート結果が授業の実態を反映しているかについては? である。今後回答率を上げるのが課題であるが加えて、自由記述欄を充実させることが学生の声を聞くこととなる。サイレントマジョリティーの意見を聞きたいところであり、サイレントを脱却する学生を少しでも増やすことが教員の仕事と感ずる。

## 【自由記述(抜粋)】

復習のときにたくさんお世話になりました。ありがとうございます。→こちらこそありがとうございます/山口先生は授業が分かりやすく、我々がイメージしやすい例えなどをふんだんに使って我々に訴えかけてくれるのがとても良い。演習課題の分からないところなども丁寧に解説していただいたりなど、授業後のサポートなどもしっかりと行ってきて、とても勉強になった。→満足したようでよかったです/特にない→よい意味で捉えておきます/授業はわかりやすかったが、黒板が見にくかった。→改善を目指します/分からないところを質問すれば全て答えてくれるので理解度が深まった→有機化学の勉強を続けてくれると嬉しいです/平均 41 点はえぐいて→褒め言葉として捉えておきます

## コンピュータ技術の応用 (応用化学科 2 年前期)

応用化学生物学科 准教授 大庭 武泰  
回答者数 12 名  
木曜・2 限・3303 教室

|          |      |               |      |           |      |
|----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計 | 3.50 | 2. 学生の取組      | 3.17 | 3. 学修の到達度 | 3.25 |
| 4. 学修の環境 | 2.83 | 5. 教員のフィードバック | 3.42 | 6. 学修の満足度 | 3.58 |

自由記述としては講義の動画が良かったという声、課題の答えや解き方を知りたいという声がありました。

履修者へは教員からのコメントとして下記を学習支援システムにて掲載済みです。

昨年度はそれぞれ 3.43, 3.07, 3.02, 2.98, 3.35, 3.24。

この科目で扱ったエクセルでのデータ解析は、他の授業や卒論や就職後にも必ず使うので全員合格して欲しいところ。

操作手順等はすべて授業内の例題で示しているのので、課題や達成度確認をそのまま適用すればできます。

講義ビデオを何度も見直し、その通りにすればよいのですが、きっちりとその通りにしないと誤りになる点が難しいところでしょう。

### 金属元素の化学（応用化学科2年前期・選択必修）

非常勤講師 北折 典之  
回答者数 18名  
月曜・3限・3408教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.78 | 2. 学生の取組      | 3.56 | 3. 学修の到達度 | 3.44 |
| 4. 学修の環境  | 3.33 | 5. 教員のフィードバック | 3.72 | 6. 学修の満足度 | 3.67 |
| 7. 事前学修時間 | 3.00 | 8. 事後学修時間     | 2.78 |           |      |

昨年と比較すると1.～6.の数値大きく変わらない。授業自体はほぼ満足できる評価と思う。

「7. 事前学修時間」と「8. 事後学修時間」の数値は少しではあるが昨年度より向上したが、良くなったと思えない。事前学修時間と事後学修時間の改善を、開講時に学生たちと相談し、改善を試みましたがこの程度の数値でした。次回開講時には、更なる工夫が必要であると思っています。直接関係するかわからないが、100分授業も学生から見ると学修意欲に影響するのではないかと思う。

昨年同様、授業を終えての感想ですが、授業に積極的に参加してくる学生が少ないように見えました。疑問点は、是非積極的に聞いて欲しいものです。宜しくお願いします。

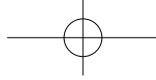
### 身の回りの金属元素（応用化学科2年前期・選択必修）

非常勤講師 高見 実智己  
回答者数 12名  
金曜・2限・K2-1303教室

本科目では、1年次に習得した無機化学の知識を発展させるべく、遷移金属元素を中心とする元素の性質について学んでももらいました。遷移金属元素は工業的にも幅広く用いられる有益な元素ですが、それらの特徴がどのように発現されるのかを、電子配置を紐解くことで基本から学んでももらいましたが、難易度が高い内容もありましたので、なるべく全体像が捉えられるよう、考え方を整理しながら講義を進行しました。また、「講義」と「小テスト」を一繋ぎと考え、講義内で学んだ直後に小テストを実施することで、理解や知識の定着を図りました。このやり方は昨年の同講義において学生から高評価だったやり方で、今年も同様に実施しました。

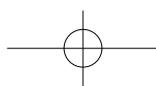
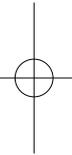
アンケートの結果では、「この授業に意欲的・自発的に取り組むことができた」および「この授業で設定された学習内容を理解できた」の項目に対して「いいえ」と答えた学生は0人であり、皆さんが前向きな姿勢でこの科目に臨んでくれていたことが分かり、かつ理解度も深まったことを大変嬉しく思います。更に、「この授業をとおして知的な関心、新しいスキルや考え方、もしくは達成感が得られた」の項目では、「はい」および「どちらかといえば、はい」を合わせて11名/12名%であり、多くの学生が手応えを感じてくれていることに安堵しています。

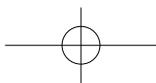
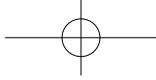
自由記述では、何れも好意的な意見を頂きました。皆さんの今回の評価・意見を参考にして、更に分かりやすく、知的好奇心を充足できるような講義内容を目指していきたいと思っています。



## 【自由記述(抜粋)】

先生が優しいからよかった/先生がとても良い人でわかりやすく楽しい授業だった/プリントを配布して穴埋めをする方式で授業が進むので、理解がしやすかった。時折例題も出るので、覚えた知識を活かしやすい。





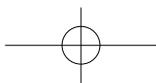
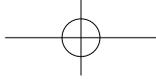
## V 担当教員からのコメント

### 【専門科目】

#### [情報学部]

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| (情報学部共通) .....             | 97  |
| 情報工学科.....                 | 98  |
| 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 ..... | 106 |
| 情報メディア学科.....              | 111 |

**【 100 】**



## 情報学部共通

### 情報と文化（情報学部2年前期・専門基礎導入）

非常勤講師 伊藤 伸也  
回答者数 22名  
火曜・4限・3405教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.59 | 2. 学生の取組      | 3.32 | 3. 学修の到達度 | 3.41 |
| 4. 学修の環境  | 3.64 | 5. 教員のフィードバック | 3.41 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 1.73 | 8. 事後学修時間     | 1.82 |           |      |

今年、受講生が1年生中心から2年～4年生へとシフトしたこともあり、授業内容の一部変更し、演習時間を多くとり、シラバスも一部変更し実施したので、どのような評価になるか心配でしたが、概ね3点台後半の評価を頂きました。ただ、昨年と比較すると、若干ですが全体的に評価を下げる結果となりました。

項目4.の「意見を伝えたり質問・発表したりする機会が設けられていた」（学修の環境）については、評価が高く（3.64）、これは例年、様々な企業の人材育成研修を事例に取り入れる工夫をしており、講師から一方的に説明するのではなく、学生の参加型という形式で授業をしていることで、高い評価になったものと思う。

また、積極的に発言してくれた学生に「積極加点」として加点するなど、飽きない工夫をしており、それが評価につながったと考えている。

項目6.「知的な関心、新しいスキルや考え方、もしくは達成感が得られた」（学修の満足度）（3.50）については、社会人になってから学ぶものをテーマに、分かり易く説明。毎回、タイムリーな時事をトピックスとして取り上げ、就活に役立つ情報も交えながら、興味をもって取り組んでもらった結果だと思う。

一方、項目2.「授業に意欲的・自発的に取り組むことができた」（学生の取組）は、最も低く（3.32）、これは、授業時間に集中して取り組んでもらう理由から、課題等（宿題）は、ほとんど課していないため、この結果となったと考えられる。

来年度は、この結果を踏まえ、さらに工夫を凝らしながら、引き続き、楽しんで学べる授業にしていきたいと思う。

#### 【自由記述（抜粋）】

様々な企業の特徴や仕組みを知ることができた/毎週とても楽しい授業だった/これまで知らなかったホスピタリティを学ぶことができた/ホスピタリティとサービスの違いがわかった/事例研究は、毎回とても興味深い内容だった/そのときの話題が、トピックスとして解説してくれるのがいい/授業内容が一方的ではなく、発言する時間を多くつくっている/いろんな企業のことが聞けて、とても勉強になった/授業が受けるのが楽しく、飽きることがなかった/この授業を受けて良かったと思う

## 情報工学科

### コンピュータ概論（情報工学科1年前期・必修）

情報工学科 教授 木村 誠聡  
回答者数 155 名  
水曜・1限・3506 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.61 | 2. 学生の取組      | 3.43 | 3. 学修の到達度 | 3.24 |
| 4. 学修の環境  | 2.95 | 5. 教員のフィードバック | 3.15 | 6. 学修の満足度 | 3.39 |
| 7. 事前学修時間 | 2.39 | 8. 事後学修時間     | 2.48 |           |      |

本年度も本科目を1名で講義を実施し、今年は受講者が250名を大幅に超えたため、大教室においてプロジェクトのみでの講義であった。「6. 満足度(3.39)」を総合評価と考えれば、必修科目でもあり、昨年同様まずまずの評価と思われる。「3. 到達度(3.24)」および「5. フィードバック(3.15)」を教員の評価と考えると、こちらも昨年同様まずまずの評価と思われる。なお「4. 学修の環境(2.95)」については大教室であり、知識を伝えることが主であるため一方的な講義になりがちであるため、現時点では質問の有無についての問いかけをしている。また受講者数に対して教室自体がやや窮屈に感じることもあるかと思われる。「7. 事前学修時間(2.39)」および「8. 事後学修時間(2.41)」はe-learning systemによる予習・復習の時間と考えられ、30分から1時間程度の学修をきちんと実施していることが伺えるため、次年度も同様に行う予定である。なお、昨年度よりは事前・事後の学修時間がやや少なくなっていることは気になる点である。本科目は1年生の初期において基本的かつ専門的な事柄を学ぶため、その部分で難しいと感じる者が多いと思われるが、前述の様に本科目が情報工学の中でも基本的なものであるかを良く理解して貰うかを丁寧に説明する必要がある。なお本年度は不明点を各自で解消してもらう為に授業動画を授業日から2週間公開しており、引き続き来年度も公開予定としている。以上の点について総合すると、講義内容・方法については昨年度同様このままで十分と考えられる。

#### 【自由記述欄（抜粋）】

「基礎的な知識を理解することが出来た」「教科書・資料を見ながら理解することができた」「程よい情報量でした」→これからも頑張ってください、「授業の進行が速い」→学ぶ量が多くあるため進行を遅くするのは困難です。なお不明な所があれば授業後に動画を確認するか是非話に来て下さい、「小テストの時間が短い」→きちんと予習復習をしていれば問題無く解ける時間となっています。

### ソフトウェア理論概論（情報工学科2年前期・選択）

情報工学科 教授 五百蔵 重典  
回答者数 46 名  
金曜・3限・3102 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.43 | 2. 学生の取組      | 3.12 | 3. 学修の到達度 | 3.04 |
| 4. 学修の環境  | 2.53 | 5. 教員のフィードバック | 3.24 | 6. 学修の満足度 | 3.24 |
| 7. 事前学修時間 | 1.88 | 8. 事後学修時間     | 2.35 |           |      |

本授業は、本学科のカリキュラムで不足しているソフトウェア系の理論を学ぶ場である。そのため、扱う範囲がすごく広がってしまっている。学びづらい授業ですが、評価値は高めであり、自由記述欄も好意的な意見ばかりでした。しかし、受講者に対して回答者数が圧倒的に少ないので、届いていない声があるはずですので、その声にも寄り添うようにしていきたいと考えています。

## 【自由記述（抜粋）】

ソフトウェア基礎論でやった内容以外のソフトウェア関係を学ぶことができた。/分かりやすかったです/課題について、わからないことが多かったため少し、詳しくヒントあってもいいと思う/課題をやる時間をもう少し増やしてほしい/計算問題は分かりやすいが、そのほかの問題は答える枠組みが分かりにくい/授業内でもう少し練習問題があったら良かったなと思いました/講義内で、課題に取り組む時間があり、助かりました。/課題締切後に解答例が上げられるので、復習がしやすかったです。/学ぶ範囲が広く駆け足になってしまっている感は否めないなので、もう少し内容絞ってもいいかなあとは思っています。

## C++言語Ⅰ（情報工学科 2 年前期・選択必修）

情報工学科 教授 五百蔵 重典  
回答者数 85 名  
月曜・1 限/2 限・3404 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.48 | 2. 学生の取組      | 3.29 | 3. 学修の到達度 | 3.00 |
| 4. 学修の環境  | 2.82 | 5. 教員のフィードバック | 3.36 | 6. 学修の満足度 | 3.29 |
| 7. 事前学修時間 | 2.25 | 8. 事後学修時間     | 2.80 |           |      |

本年度の学生は、例年より質問が多く、やる気に満ちている印象を受けました。しかし、試験の出来は良くなく、学生さんの理解が追いついていないような印象を受けました。アンケートの自由記述では、「解答例を見せて解説するだけでなく、解答例を紙面で求める」声は例年出ていますが、本年度はこの声が多い印象を受けます。これらから、最近の学生さんは、実例（問題と解答例）から学ぶことが多いのではないかと思います。解答例の公開を検討したいと思います。

## 【自由記述（抜粋）】

課題解説だけでは理解できないところがあったので課題の答えを PDF で送ってほしいです。（表現は様々だが、同様の声多数）/毎授業小テストを行ってほしい/資料が見やすかったです。/資料があまりにも分かりにくいので、改善してほしいです。

## C++言語Ⅱ（情報工学科 2 年前期・選択必修）

情報工学科 教授 五百蔵 重典  
回答者数 40 名  
月曜・1 限/2 限・3404 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.43 | 2. 学生の取組      | 3.33 | 3. 学修の到達度 | 3.30 |
| 4. 学修の環境  | 3.13 | 5. 教員のフィードバック | 3.53 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 2.25 | 8. 事後学修時間     | 2.95 |           |      |

C++言語Ⅱは、C++言語Ⅰの単位を取得したのみ受講できる科目であるため、単元への理解度が高くなっていることが予測されます。その予想通り、学修の到達度などはC++言語Ⅰよりも高くなっています。一方、履修者に対してアンケート回答者が少ないので、上がっていない声もあり、気を付けないといけないと思いました。C++言語Ⅰ同様、解答例を求める声が数件ありました。C++言語Ⅰと同様に解答例の公開を検討したいと思います。

## 【自由記述（抜粋）】

提出期限を過ぎてからでも答えをもらえるとより理解が深まると思います。/C++1 の時から通して、PDF が分かりやすくて助かりました。/シングルトンなどはC++の本を漁っても出てこない

内容だったので専門的な知識という点でお得感があり良かったです。/演習の時、先生2人とTA2人で質問がしやすかったです。

### 経営情報システム（情報工学科3年前期・選択）

情報工学科 教授 稲葉 達也  
回答者数 94名  
火曜・2限・K3-3102 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.66 | 2. 学生の取組      | 3.32 | 3. 学修の到達度 | 3.29 |
| 4. 学修の環境  | 2.73 | 5. 教員のフィードバック | 3.62 | 6. 学修の満足度 | 3.48 |
| 7. 事前学修時間 | 1.91 | 8. 事後学修時間     | 2.55 |           |      |

概ね3点台の評価となっていることから、意図したことが学生に伝わり、それが評価されていると考える。例年、「4.学修の環境」の評価点が他の項目よりも低くなっており、responの利用を充実させることで対応してきたが、今回も評価点は上がらなかった。講義型の授業であるため、ある程度はやむを得ないとは考えるが、次年度以降、別の対応も検討したい。

本年度は予想よりも履修者が多く、途中で教室を変更せざるを得なかった。結果として、電源がない教室にてPCを使った演習をせねばならず、学生に不便をかけてしまった。次年度はこのような状況にならないよう、対処していきたい。学生からのコメントでも本件についてのものが一番多く、反省すべき点として改めて認識した。

### スポーツ情報科学概論（情報工学科2年前期・選択）

情報工学科 教授 谷代 一哉  
回答者数 99名  
火曜・2限・K3-3504 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.55 | 2. 学生の取組      | 3.33 | 3. 学修の到達度 | 3.40 |
| 4. 学修の環境  | 3.56 | 5. 教員のフィードバック | 3.38 | 6. 学修の満足度 | 3.36 |
| 7. 事前学修時間 | 1.85 | 8. 事後学修時間     | 1.98 |           |      |

「6.学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思う。

一方「事前学修」および「事後学修」が芳しくないため、課題量を増やすなど、今後の改善を考えたい。

今回、講義中にスマホおよびPCから匿名で直接、質問や意見コメントを投稿できるシステムを導入した。

学生は疑問に思ったこと、わからなかったことなど、その質問内容を投稿し、その内容がスクリーン上にリアルタイムに掲載され、受講者の皆で共有するシステムであった。講義中に小休止の質問時間を設け、学生に質問をさせては、こちらが回答をしたり、更に受講者に考えさせると言う事の繰り返しであった。

学生からの自由コメント欄には、この質問ができるシステムが好評であり、こちらの講義内容にもより深く興味を抱きながら受講できたものと思われる。

事前に講義資料を配布して欲しい旨のコメントがあったが、講義の中に於いて、話の展開により微修正を行いながらの資料をしているため、可能な限り学生にはメモを取りながら講義を受講して欲しい旨を伝えている。

**データベース基礎論**（情報工学科 2 年前期・選択）

情報工学科 教授 大塚 真吾  
 回答者数 26 名  
 水曜・4 限・K1-202 教室

本科目では、ビジネス情報処理の分野で最も普及しているデータモデルであるリレーショナルデータベース（RDB）を中心に、データベースの基本概念、使い方と設計方法、および、リレーショナルデータベース言語 SQL について講義を行った。また、授業の最後には簡単な課題を出題し、学習内容の理解を深めてもらった。今回のアンケート結果から、ほとんどの設問において 8 割程度の学生が満足しているという結果を得ることができ安心した。しかしながら、「事前学修」や「事後学修」の時間が少ない傾向が見られるため、来年度はこの点について改善を行いたいと考えている。また、学生の理解度に関しては、合格者が比較的多いことから、授業内容について学生はある程度理解していると考えているが、今後も理解度向上についても改善していきたいと考えている。この結果に満足せずに、今後もより良い評価が得られるよう努力していきたい。

**【自由記述（抜粋）】**

問題数を少し増やしたら理解度が深まりそう。  
 動画で復習できるのはとても良いと感じた。  
 データベースの基礎を学ぶことができた。

**モバイルコンピューティング**（情報工学科 3 年前期・選択）

情報工学科 教授 田中 博  
 回答者数 65 名  
 水曜・3 限・K1-202 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.35 | 2. 学生の取組      | 3.06 | 3. 学修の到達度 | 2.92 |
| 4. 学修の環境  | 2.72 | 5. 教員のフィードバック | 3.43 | 6. 学修の満足度 | 3.17 |
| 7. 事前学修時間 | 1.97 | 8. 事後学修時間     | 2.42 |           |      |

教科書を順序正しく講義したことは評価されていると感じた。一方、学修の環境、すなわち、意見を伝えたり質問・発表したりする機会が設けられていた、の点数が悪い。これは大人数講義によるものでやむをえない、と考えているが、改めて質問時間を設けるなどの対応を来年度は考えたい。学修の到達度の点数が低い。自由記述にもあるが、分からない、理解しづらい、とあるコメントがそれを反映していると思う。基礎的ではあるものの対数や行列を扱う場合もあること、教えている領域が多岐にわたっていることから、この結果は理解できる。来年度は課題や問題の解説に時間をかけることで、自由記述にあった課題はある程度解決できると考えている。

**【自由記述（抜粋）】**

演習問題の実施とその解説があったのがよかった/授業内容が理解しづらい場面が多々あった/第 12 回の特別講義は、非常に良かったです。今後も続けてほしいと思いました。/通信技術の知識を手に入れることができたと感じました。/課題の解説がわかりやすい点/毎授業でカンニングペーパーを作っていたので、それによって授業に集中できた(教員注：カンニングペーパーとは持ち込み可能なメモのことです)/自分の気になるところを自主的に調べることができた。/章末問題で授業の復習ができたのは良かったです。/演習問題の解き方が解答を読んでもわからなかったり、必要な知識が説明されないまま引用されたりなどして混乱することがとても多く困った。

**認識処理工学（情報工学科 3 年前期・選択）**

情報工学科 教授 宮崎 剛  
 回答者数 49 名  
 木曜・3 限・3504 教室

期末試験の受験者数に対する回答率が 41.9%とかなり低いため、回答に偏りがある可能性も考えられますが、もらった回答分についてコメントします。

今年度から授業回数が 14 回となったことにより、少し詰め込むような形になってしまいましたが、約 88%の人が学習内容を理解できたという回答がありましたので、良かったと思っています。自由記述にも、説明や解説が丁寧だった、図やグラフを活用してわかりやすかったという回答がありましたので、来年度以降も継続していきたいと思います。ただ、後半の授業資料の提示が遅れることがあったため、一部事前学修に時間が取れなかった人がいたことは反省しています。事後学修の方には、ほとんどの人が取り組んでいたことがわかりましたが、もう少し課題や練習問題を出しても良かったと思っています。今年の実験や結果を来年度の授業に活かしていきたいと思っています。

**【自由記述（抜粋）】**

もっと演習課題や例題等をだしても良かったと感じた。／授業内容を丁寧に説明していて、わかりやすかった／中間試験の解説が丁寧で分からなかったところを理解することができた。／講義資料について、文だけでなく、図やグラフを活用していて、とても分かりやすかったです。／教授との距離が近くて楽しかった／講義内で適宜休憩の時間があり集中して学ぶことが出来た／全体的に難しい内容だったが、わかりやすい講義だった。

**人工知能基礎論（情報工学科 2 年前期・選択）**

情報工学科 准教授 須藤 康裕  
 回答者数 53 名  
 火曜・3 限・3506 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.53 | 2. 学生の取組      | 3.49 | 3. 学修の到達度 | 3.24 |
| 4. 学修の環境  | 2.92 | 5. 教員のフィードバック | 2.81 | 6. 学修の満足度 | 3.34 |
| 7. 事前学修時間 | 1.81 | 8. 事後学修時間     | 2.08 |           |      |

今年からこの科目を担当したので、学生諸君の理解度を探りながらの実施でした。しかしながら 200 人近くも教室にいと、どうしても質問したり意見を言ったりしにくい側面がありますね。ミニットペーパーの質問にもなるべく回答できるよう努力します。演習課題の解説をその場ですると欠席者が不利になるので、数週遅れで実施するよう改善して参ります。次年度、より良い授業ができるよう、いただいたアンケートの結果を活用していきたいと思っています。回答者数が少ないのが気になりますが、ご協力ありがとうございました。

**【自由記述（抜粋）】**

人工知能の最先端の技術についてより深く、体系的に学ぶことができた。／内容が難しくついていくので精一杯でした。／分かりやすかったです。／演習の答えや答えの例などを解説してほしかったです。演習で回答してもそれがあっているのかやり方が分からないまま授業が進むのでかなり厳しかったです。／課題やミニットペーパーに対してのフィードバックが欲しかったです。

**初級 IT 国家資格取得支援講義（情報工学科 1 年前期・選択）**

情報工学科 専門教育講師 石川 敢也  
 回答者数 35 名  
 火曜・2 限・3605 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.69 | 2. 学生の取組      | 3.54 | 3. 学修の到達度 | 3.54 |
| 4. 学修の環境  | 3.46 | 5. 教員のフィードバック | 3.63 | 6. 学修の満足度 | 3.66 |
| 7. 事前学修時間 | 2.11 | 8. 事後学修時間     | 2.23 |           |      |

昨年同様、突出して目立つ評価の項目があるわけではなく、どの項目もそれなりの評価を得たと感じている。強いて挙げれば事前・事後の学修時間が少ない点が気になる。「授業の設計」や「教員のフィードバック」が高い評価であったことから、振り返りを交えたオーソドックスでシンプルな毎回の構成が受け入れられたと思いたい。

自由記述欄では、ありがちなお世辞とはいえ「解説が理解しやすかった」や「先生の人柄が良く、モチベーションの一部になっていました」という旨の記述があった。また、「教科書の内容を都度深掘りする形での授業だったので、学習した知識が定着しやすかった」や「要点や、それぞれの名称などの活用例などについて学ぶことができた」という回答も見られたことは、講師として教科書にしている「インプレス イモヅル式」シリーズの著者として安堵している。そして、情報処理技術者試験に合格できた旨の合格報告もあったことは、この科目の目標が達成されたことであり、大きな成果だと思う。

今後も、これらの声に奢ることなく、阿ることなく、改善を進めていきたい。

**【自由記述（抜粋）】**

IT パスポート試験の用語に関する解説が理解しやすかったです。 / 先生の人柄が良く、モチベーションの一部になっていました / 教科書の内容を都度深掘りする形での授業だったので、学習した知識が定着しやすかったです。 / 改善してほしい点は特にないです。 / いいね / IT の勉強をする際の要点や、それぞれの名称などの活用例などについて学ぶことができた。 / IT パスポートでわからなかった内容を講義を通して理解することができた。

**コンピュータシステム入門（情報工学科 1 年前期・必修）**

情報工学科 講師 岡崎 秀俊  
 回答者数 180 名  
 水曜・2 限・1201 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.64 | 2. 学生の取組      | 3.41 | 3. 学修の到達度 | 3.56 |
| 4. 学修の環境  | 2.09 | 5. 教員のフィードバック | 2.93 | 6. 学修の満足度 | 3.39 |
| 7. 事前学修時間 | 1.69 | 8. 事後学修時間     | 1.90 |           |      |

今年度から情報学部 1 年生の共通科目として開講された科目の 1 つで、情報学部で学ぶ上で理解すべき基礎的な知識を身に着けることを目指している。そのため平易な説明を心掛けた。「1. 授業の設計」「2. 学生の取組」「3. 学修の到達度」「6. 学修の満足度」の評価はまずまずだと思う。一方、「4. 学修の環境」「5. 教員のフィードバック」での評価が芳しくなく、次回開講時には学生が気軽に質問・発言できる仕組みを設定したいと考えている。

**【自由記述（抜粋）】**

/自分のペースで小テストを行えることが、授業についていきやすくてよかった。/資料が読みづらかった、羅列だけでなく単語同士のつながりをもう少し強調できると読みやすいかと思いました。/学科共通授業なので仕方ない側面はあると思うが、情報工学科のコンピューター概論の内容にほとんど全て含まれているので、あまり楽しくはなかった。/少し声が小さいので後ろの席

だと聞き逃すところも少々あった。/学生に配られる資料には無い、先生独自の資料も学生に配布してほしい。/テストのとき回線が悪すぎて時間が削られていく度に焦った。

### ソフトウェア入門（情報工学科1年前期・必修）

情報工学科 専門教育講師 若原 拓己  
回答者数 156 名  
金曜・3限・1201 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.65 | 2. 学生の取組      | 3.38 | 3. 学修の到達度 | 3.40 |
| 4. 学修の環境  | 2.35 | 5. 教員のフィードバック | 3.00 | 6. 学修の満足度 | 3.44 |
| 7. 事前学修時間 | 1.63 | 8. 事後学修時間     | 1.78 |           |      |

「6.学修の満足度」を総合評価と考えると、よい結果であったと思う。そのほかの項目についてもおおむね良い点が得られていると考える。「4.学修の環境」では点が低くなっている。この設問は発表や質問の機会についての設問であり、本授業は約 180 人を対象に行う講義形式の授業であり、全体でそのような機会を設けることはできなかった。ただし、授業時間外での質問対応等は行ってはいた。「7.事前学修時間」「8.事後学修時間」の点数が低くなっている。つまり、授業時間外での学修時間に割いていた時間が少ないということであるが、この点については入門科目であり、それほど深い内容ではなく、小テストなども授業時間内に完了することができ、試験も資料等を参考に実施できたことから時間外学習への動機づけとならなかったのであろう。ただ、授業の立ち位置としては入門科目であることから、授業時間内で完結することは問題とは考えておらず、この科目をきっかけに授業で学修した知識を深める、周辺知識の知識を深めるなどを期待したい。ただ、一部ではあるが事後課題などがあった方がよいなどの声が自由記述から見られるので、検討を行ってもよいのではないか。学部共通科目であり、本授業の授業資料は自分が作成したものではないが、アンケートの自由記述からは好評であったようだ。ただ、入門科目であるためか、他の授業と内容がかぶっている点について自由記述で言及があった。相互に予習・復習になるので問題ないと考えているが、学生によっては混乱をしてしまうものもあるようである。この点については次年度以降で内容の検討が必要であろう。また、授業を行い、すぐに小テストを実施する形式で知識の定着を図ることについては好評であったと考える。

#### 【自由記述（抜粋）】

ほかの授業とかぶっている内容があり、思い出しながら学ぶことができた。/コンピュータ概論と同じような内容ばかりで授業中に聞いたことがあったり、聞いたことがなかったりで、内容がごちゃ混ぜになってしまってる感じがした。/配られていない資料での説明が多くて復習がしづらかった（→そのような資料は使っていなかったと思います。口頭での説明であったのであれば、ノートをとるなりしてあとで調査するなど工夫をするとよいでしょう。）/事後課題があったらより理解度が高まると思いました（→検討します。）/良い点:切りのいいところで小テストを挟むところ/毎回資料が配られてわかりやすく授業に取り組むことができた/パソコンの外部というよりは内部的、運用法や中身についての知識について深めることができた。/開発手法などの、「何となく名前は聞いたことあるけどわかんないな」となる事への説明はとても良かった。/コンピュータ概論と被ってる部分があったが、そこはそんなに面白くなかった。/内容ごとに毎回テストがあるのが、復習できてよかった。/図を活用してわかりやすく説明がなされていて、授業資料以外も使用し細かく解説してくれたのでとても理解がしやすく良かった。/個人的には授業を聞きながら問題が解けたほうが頭に入りやすいので、説明中にも問題を解けるようにしてほしい。（→知識の定着という意味では、復習を行う形で確認テストを実施した方がよいと思いますので、変更の予定はありません）/確認テストがあるので、わからないところや苦手なところが発見できた。また、コンピュータ概論、コンピュータシステム入門、ソフトウェア入門でそれぞれ共通している部分があったので理解を深められた。/ソフトウェアの基本的なところから、実際の運用・保守の流れを分かりやすく学ぶことができました。/こまめに小テストを行っていたので良かった/良い点は一つ一つしっかりスライドの内容を詳しく解説してくれるとこ

ろです/授業内のスライドでの資料が理解しやすくまとめられていたため、とても分かりやすかった。/ソフトウェアに関する学習内容は、他のコンピュータ系の科目ともリンクしており、学びやすかった。/授業中に問題を解くことで頭の中を整理することができた。/色々と理解が出来たので、良かったと思いました。/これからも忘れないように頑張りたいと思いました。/テストなどで出る可能性の内容やキーワードなどを注意書きの様に解説していただくとありがたいです。(→それではテストを解くための勉強になってしまいます。どこが重要かという点ではすべてが重要ですので、幅広く理解するようにしましょう)

### ネットワーク入門 (情報工学科 1 年前期・必修)

情報工学科 専門教育講師 若原 拓己  
回答者数 137 名  
金曜・3 限・1201 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.58 | 2. 学生の取組      | 3.39 | 3. 学修の到達度 | 3.45 |
| 4. 学修の環境  | 2.58 | 5. 教員のフィードバック | 3.08 | 6. 学修の満足度 | 3.47 |
| 7. 事前学修時間 | 1.53 | 8. 事後学修時間     | 1.72 |           |      |

「6. 学修の満足度」を総合評価と考えると、よい結果であったと思う。そのほかの項目についてもおおむね良い点が得られていると考える。「4. 学修の環境」では点が低くなっている。この設問は発表や質問の機会についての設問であり、本授業は約 180 人を対象に行う講義形式の授業であり、全体でそのような機会を設けることはできなかった。ただし、授業時間外での質問対応等は行ってはいた。「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」の点数が低くなっている。つまり、授業時間外での学修時間に割いていた時間が少ないということであるが、この点については入門科目であり、それほど深い内容ではなく、小テストなども授業時間内に完了することができ、試験も資料等を参考に実施できたことから時間外学習への動機づけとならなかったのであろう。ただ、授業の立ち位置としては入門科目であることから、授業時間内で完結することは問題とは考えておらず、この科目をきっかけに授業で学修した知識を深める、周辺知識の知識を深めるなどを期待したい。学部共通科目であり、本授業の授業資料は自分が作成したものではないが、アンケートの自由記述からは好評であったようだ。また、授業を行いすぐに小テストを実施する形式で知識の定着を図ることについても好評であったと考える。

#### 【自由記述 (抜粋)】

分かりやすかった/スライドがとても分かりやすく良かった。/資料がかなり見やすかった/ネットワークを構成するものや使用しているものなど、基礎的な知識から、名称、役割などを知ることができた。/確認テストを満点取るまでやることにより覚えやすくなった。/凄く分かりやすかったです。でも、とても難しかったです。凄く難しかったけど、諦めずに取り組むことが出来たので良かったです。/周りを静かにさせてくれたのはとても良かったです/パワーポイントもわかりやすく、授業ごとに確認テストですぐ復習できるシステムは良かった。/毎回の授業で確認テストがあったので、内容の理解を深められた。/資料枚数が多すぎる気もしましたが、その分事細かな記述がされていてわかりやすかったです。/講義が分かりやすかった/演習問題の難易度が易しすぎると感じました。

## 情報ネットワーク・コミュニケーション学科

### プログラミング入門B (情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年前期2Q・必修)

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 井上 哲理

回答者数 61名

月曜・2限/3限・1201教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.57 | 2. 学生の取組      | 3.39 | 3. 学修の到達度 | 3.28 |
| 4. 学修の環境  | 3.02 | 5. 教員のフィードバック | 3.56 | 6. 学修の満足度 | 3.46 |
| 7. 事前学修時間 | 1.98 | 8. 事後学修時間     | 2.28 |           |      |

「1. 授業の設計」、「2. 学生の取組」、「3. 学修の到達度」および「6. 学修の満足度」が比較的高いことから、皆さんが授業の目標を理解して、授業課題に積極的に取り組んで、ある程度の学修達成をしたことがわかります。一方、「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」の点数が低いことから、予習復習がやりにくい資料だったかもしれず、来年度の改善事項としたいと思います。「5. 教員のフィードバック」も高得点の評価となっていますが、私自身は説明・ヒントが全体には少なく、適切でなかったと反省しています。

この授業は、プログラミング入門の授業ですので、深い理解よりも、プログラムの考え方やプログラム作成に慣れてもらうことを狙いとしています。その点では、目標とおりに授業に取り組んでもらえた面と、事前事後学修が少ないなどテキスト資料の工夫が必要と思える面が、授業アンケートからわかりました。例えば、自由記述欄に「テキストに解答例が欲しい」「毎回取り組んだ問題の解答例を配布してほしい」とありましたが、予習復習のためには効果がありそうですので、来年度の改善事項として検討したいと思います。

#### 【自由記述 (抜粋)】

説明をしながら作業を進めているところが良かった/全体的に自分でプログラムを打ち込むことができたので面白かった/自分のペースで進められる(→各自のペースで進めてもらえたことは、良かったです)/資料に乗っている言葉をしっかり深掘してほしい/フレームワークも学びたかった(→応用面の演習も検討したいと思います)

### インターネットアプリケーション (情報ネットワーク・コミュニケーション学科2年前期・選択)

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 岡本 剛

回答者数 70名

木曜・2限・K1-202教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.70 | 2. 学生の取組      | 3.56 | 3. 学修の到達度 | 3.40 |
| 4. 学修の環境  | 3.51 | 5. 教員のフィードバック | 3.71 | 6. 学修の満足度 | 3.49 |
| 7. 事前学修時間 | 1.87 | 8. 事後学修時間     | 2.20 |           |      |

今年度から100分授業になりましたので、授業のフィードバックと小テストの時間を長めにしました。その結果、下記の自由記述の感想からわかるとおり、フィードバックが効果的であることがわかりました。来年度も引き続きフィードバックの時間を大切にしようと思います。一方、事前学修と事後学修の時間が減りました。これは授業時間中に小テストに取り組む時間を増やした副作用と考えられます(帰宅後に小テストをやらなくてすむことが多くなったと考えています)。来年度は授業時間中の課題とは別に事前/事後学修に有益な課題、例えば、Windowsのコマンドやツールを活用して理解を深める演習課題など、を検討してみようと思います。

## 【自由記述（抜粋）】

前回の課題をフィードバックする時間を設けられているのが良かった/授業の最初に前回の小テストの解説があって復習が毎回でき、小テストに質問や感想を入力できる場所があり、生徒から教員へ質問がしやすくなっているところがいい点だと思います/授業で出た質問に対してかなり丁寧に回答して下さるのがとてもよかった/学生の質問に親切に対応しており、また、授業はなるべくわかりやすいようにかみ砕いた表現してあったりなどとてもためになる授業で良かった/フィードバックや講義の説明が丁寧でわかりやすいです/セキュリティに関する幅広い知識を知ることが出来たのでこの授業を取ってよかった

## 電子認証（情報ネットワーク・コミュニケーション学科3年前期・選択）

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 岡本 学  
回答者数 36名  
水曜・1限・202教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.61 | 2. 学生の取組      | 3.56 | 3. 学修の到達度 | 3.61 |
| 4. 学修の環境  | 3.11 | 5. 教員のフィードバック | 3.50 | 6. 学修の満足度 | 3.56 |
| 7. 事前学修時間 | 1.56 | 8. 事後学修時間     | 1.83 |           |      |

今年度から、100分講義に合わせて大幅に講義の進行方法を変えた。このため一部分まだ不備等残る内容ではあったが、アンケート結果としては目標値に近いものになった。事後学修時間の値が低いが、講義内で事後学修の説明を行う時間をかなりとったので、その時間中に回答できる学生は回答してしまった結果だと思われる。事後学修を全回に今回新たに設けたことで、期末試験の結果等をもみても、学習効果は高かったと評価できる。来年度は、今年度の不備等を補いながら、フィードバック部分にも新たな試みを追加する形で実施したいと考えている。

## ネットワークルーティング（情報ネットワーク・コミュニケーション学科3年前期・選択）

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 塩川 茂樹  
回答者数 82名  
木曜・2限・1201教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.74 | 2. 学生の取組      | 3.56 | 3. 学修の到達度 | 3.59 |
| 4. 学修の環境  | 3.66 | 5. 教員のフィードバック | 3.88 | 6. 学修の満足度 | 3.62 |
| 7. 事前学修時間 | 1.70 | 8. 事後学修時間     | 1.95 |           |      |

アンケートの結果を見る限りは、満足してもらえたのではないかと思います。毎回実施する到達度確認テストとその解説に力を入れましたので「5. 教員のフィードバック」で高い評価を得られたことはよかったと思います。今後の課題として、事前学修・事後学修時間の少なさがあげられるので、工夫を重ねて少しでも皆さんの力がつくような講義にしていきたいと思っています。

## 【自由記述（抜粋）】

説明やスライドが分かりやすく理解がスムーズにできた/質問にすべて答えていたり復習や授業内演習があり定着しやすいように工夫されていた/ためになる話が聞けて良かった/スライドをみれば基本的に理解できてわかりやすく難しいときは丁寧に説明をしていた/フィードバックがとても丁寧に説明もわかりやすく、今まで受けた授業の中で一番良かった/資料が分かりやすく時間配分がきちんとされている/なんでそうなるのかなどがよくわかる授業だった

**ネットワークプログラミング (情報ネットワーク・コミュニケーション学科 3 年前期・選択)**

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 准教授 井家 敦

回答者数 41 名

月曜・3 限・K1-1201 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.73 | 2. 学生の取組      | 3.56 | 3. 学修の到達度 | 3.61 |
| 4. 学修の環境  | 3.12 | 5. 教員のフィードバック | 3.66 | 6. 学修の満足度 | 3.68 |
| 7. 事前学修時間 | 1.78 | 8. 事後学修時間     | 1.93 |           |      |

ネットワークプログラミングは、WinSock や OpenGL といった C 言語のライブラリを駆使してソケット通信のプログラムを作成し、「インターネット」を「プログラミング」することに少しでも関心を持ってもらうことを講義目標としている。アンケート結果を見る限り、昨年度とほぼ変わらず、全体的に高い評価であった。

本年度は、履修者数がある程度絞られ、特に優秀な学生が集まったおかげか、例年に比べ 1・2 年次の C 言語の講義内容を把握している学生が多く、授業進行が非常にスムーズだったように思う。成績についても、全体的によかった印象がある。ただ、できる学生にとっては多少物足りなさを感じる授業だったように思われるため、来年度以降はできる学生向けの特別課題等を増やすことを 1 つの課題としていきたい。

**データベース (情報ネットワーク・コミュニケーション学科 3 年前期・選択)**

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 准教授 凌 暁萍

回答者数 23 名

木曜・3 限・1201 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 2.91 | 2. 学生の取組      | 2.83 | 3. 学修の到達度 | 2.70 |
| 4. 学修の環境  | 2.78 | 5. 教員のフィードバック | 3.43 | 6. 学修の満足度 | 2.83 |
| 7. 事前学修時間 | 2.22 | 8. 事後学修時間     | 2.70 |           |      |

本科目では、授業時間の変更を機に、従来の「教える」講義型授業に主体的学習を目指しアクティブラーニングの手法を組み入れることを実践した。「教える」解説や質疑回答を中心とする対面授業と「自主的反復学習」を狙った演習を中心とするオンデマンド授業を組み合わせることで学ぶべき知識の学習と理解するための演習を実現した。そのうえ、自主性、協調性と自己表現力を身に付けるため、ジグソー活動や PBL などを採用した対面授業による総合演習を行った。人数が多いため、個人、グループ、班、全体の 4 層に分けて活動を展開した。まず、それぞれの履修者がデザインし作成したデータベースシステムをグループで発表し、グループ内評価を行い、その中からそれぞれのグループの代表を選出した。次に班ごとに所属するグループの代表による発表し、班代表評価を行い、その中から班の代表を選出した。最後にそれぞれの班代表が全体に対して発表し、全員による評価を行い、順位を決定した。

評価方法についても工夫した。「教える」対面授業と「反復演習」のオンデマンド授業については到達度確認をその都度実施した。合格に至らなかった履修者に対して、翌週の前半の振り返りで説明した後再確認を行うことにより、最終的には全員合格になることができた。アクティブラーニング手法を中心とした「応用演習」では、個人活動、グループ活動、班活動、そして全体活動における活動状況に対する他者評価（教員からの評価を含む）と、最終到達度確認による自己評価を合わせて定量的に評価した。

授業アンケートの結果（カッコ内は 2022 年度からの変化を示す）、2022 年度のアンケート結果と比べ、(3) 学修の到達度 (2.59/2.70) と (4) 学修の環境 (2.59/2.78) がわずかによくなった。また、(2) 学生の取組 (2.65/2.83)、(7) 事前学修時間 (1.71/2.22) と (8) 事後学修時間 (2.11/2.70) があがった点はアクティブラーニング手法を採用した授業の影響だと考えられる。

2022 年度もコロナ禍の中でいろいろな工夫をしていたため (1)、(5) は共に高かった。今回は大きな変更があるため心配していたが、アンケートの結果、(1) 授業の設計 (3.18/2.91) と

(5) 教員のフィードバック (3.52\3.43)、わずかな低下だった。初回の不慣れによるものと考えられる。同様に、(6) 学修の満足度 (2.88\2.83) もほぼ維持できた。

但し、今回の授業アンケートの実施は講義中にアナウンスしなかったため、回答率は65名中23名で、低かった。そのため、この結果が限定的だと考えられる。次学期からは、「教員による振り返りアンケート」や「自由記述」を含めて授業中にアンケートを実施するようにし、回答率を上げる。授業内容については、冗長性をなくし、よりわかりやすい授業を目指したい。

### コンピュータシステム入門 (情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年前期前半・必修)

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 専門教育講師 大平 哲史

回答者数 76名

水曜・2限・K3-3504 教室

本科目は、情報学部共通科目で、情報学部で学ぶ上で理解すべき基本的なコンピュータシステムの構成要素や動作原理、制御の仕組み等について理解し、基礎的な知識を身に着けることを目指しました。共通教材のスライドや確認テストとは別に、ミニレポートの出題や小テストの実施により、学生の皆さんの理解をより深めるように工夫しました。皆さんの授業アンケートの回答を踏まえると、授業内容についてはおおむね好評だったように思います。一方で、質問の時間は十分にあったものの、学生の皆さんが発表する機会は、履修者が110名程度と多いこともあり、あまりありませんでした。この点は反省点として、来年度の授業で改善を試みたいと思います。また、事前学修・事後学修時間が、どちらも平均30分程度で、シラバスの要件を満たしてはいませんが、自由記述の回答の中で、「わからないことがわからないまま進んでしまった。復習の時間を設ける大切さを後になって理解した。」「もう少しテストの点数をよくしたい。」とありますように、もう少し長くても良いと思います。この点についても、来年度の授業で改善を試みたいと思います。受講いただき、ありがとうございました。

#### 【自由記述 (抜粋)】

確認テストで復習ができるのが良い/実際に操作してみると理解が深まると思う。コースウェアは私にとって非常に役に立ち、授業後の復習にとっても役立つ。/一回のスライドにまとめが何回かあって講義中にも復習できた/資料がとても分かりやすく良かった/資料がまとまっていて復習しやすかった。また、講義内の小テストも複数回あり、やりやすかった。

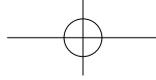
### マルチメディア入門 (情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年前期後半・必修)

情報ネットワーク・コミュニケーション学科 専門教育講師 大平 哲史

回答者数 52名

水曜・2限・K3-3504 教室

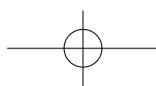
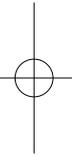
本科目は、情報学部共通科目で、コンピュータシステムにおける様々なデータ表現方法について着目し、基礎的な技術や応用例について、身近にある例をとりあげながら学びました。学期前半科目のコンピュータシステム入門と比較して、共通教材のスライドや確認テストのボリュームが多く、学生の皆さんにとっては、やや難しいと感じたのではないかと思います。そのため、補助資料を多く提示して、学生の皆さんの理解をより深める工夫をしました。授業アンケート時期が学期末だったためか、回答者数が少なめで、この点は少々残念に思いますが、皆さんの回答を踏まえると、授業内容についてはおおむね好評だったように思います。しかしながら、コンピュータシステム入門と同じく、学生の皆さんが発表する機会が少なかったことが反省点として挙げられますので、この点については、来年度の授業で改善を試みたいと思います。事前学修・事後学修時間についても、事後学修時間はコンピュータシステム入門よりわずかに長いものの、どちらも平均30分程度しかなく、本科目の難易度を踏まえると、もう少し長くても良いと思います。また、自由記述の回答の中で、昼食時間確保の配慮について感謝のコメントをいただきましたが、授業内容的にはコンピュータシステム入門と比較して多かったため、授業終了時刻はむしろ遅め



だったと思います。こうした点についても、来年度の授業で改善を試みたいと思います。受講いただき、ありがとうございました。

【自由記述（抜粋）】

確認テストが少し難しい/情報分野でこれから役に立つ知識をたくさん得られたのが良かった点/  
わかりやすかった/色々なことを知れた



## 情報メディア学科

### 画像情報処理（情報メディア学科 2 年前期・選択）

情報メディア学科 教授 春日 秀雄  
回答者数 61 名  
水曜・4 限・3405 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.59 | 2. 学生の取組      | 3.49 | 3. 学修の到達度 | 3.38 |
| 4. 学修の環境  | 2.59 | 5. 教員のフィードバック | 3.23 | 6. 学修の満足度 | 3.43 |
| 7. 事前学修時間 | 1.72 | 8. 事後学修時間     | 2.13 |           |      |

履修者の多い科目で「2.学生の取組」、「3.学修の到達度」、「6.学修の満足度」が比較的高いことから、おおむね学生の需要に合った授業が提供できていると考えられる。「4.学修の環境」が低いのは、教員が一方的に話をするスタイルで学生が発言する機会がないからだと思われる。学生が積極的に発言する機会を設けるような授業スタイルの検討も必要であると考えられる。事前事後学修については、レポート課題で事後学修の時間をある程度必要とするが、事前学修は非常に少ない。バランスのよい学修時間の確保については検討する必要がある。

自由記述欄にはレポートに関する不満が見られた。レポートの書き方の指導や結果に対するフィードバックを十分に行うことが必要である。

#### 【自由記述（抜粋）】

レポートのまとめ方の例がもう少しないと画像の何を見たいのかの意図が分からないこちら側からしたらまとめるのが難しい。(→レポートに関する説明を増やします)

### グラフィックス基礎論（情報メディア学科 2 年前期・選択）

情報メディア学科 教授 佐藤 尚  
回答者数 69 名  
金曜・4 限・3506 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.57 | 2. 学生の取組      | 3.26 | 3. 学修の到達度 | 3.32 |
| 4. 学修の環境  | 2.33 | 5. 教員のフィードバック | 2.94 | 6. 学修の満足度 | 3.20 |
| 7. 事前学修時間 | 1.62 | 8. 事後学修時間     | 2.06 |           |      |

「1. 授業の設計」、「2. 学生の取組」、「3. 学修の到達度」、「6. 学修の満足度」の平均が3点台ということを考えれば、まずまずの結果だと思います。「1. 授業の設計」や「2. 学生の取組」の評価は高かったものの、「7. 事前学修時間」および「8. 事後学修時間」での評価が芳しくありませんでした。また、「5. 教員のフィードバック」の評価も低く、授業時間外の学修を促進するための工夫と、それに対する適切なフィードバックが必要であると感じました。

「4. 学修の環境」の評価も低かったです。授業終了時などには積極的に質問に応じていたつもりですが、大きな教室での講義であったため、何らかの工夫が必要であったことを痛感しています。次回開講時には、これらの点を改善したいと考えています。

#### 【自由記述（抜粋）】

CGについて興味を持つことができた/先生のスライドの使い方と説明で講座がわかりやすかったと思った/映像を用いた分かりやすい説明で、新たな体験価値を知ることが出来た。映像・画像知識について深く知ることが出来た/授業で教科書の解説は行っていたが、ほとんど口頭での解説のため聞き取れなかったら、良くわからないという感じでおしまいだった。この授業を受ける

ように、教科書を読んで過去問を解いているだけの方がためになった/クイズの答えが分かるようにしてほしい (→解答例などを公開するようにします)

### 画像認識システム (情報メディア学科 3 年前期・選択)

情報メディア学科 教授 西村 広光  
回答者数 83 名  
金曜・3 限・3404 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.78 | 2. 学生の取組      | 3.42 | 3. 学修の到達度 | 3.25 |
| 4. 学修の環境  | 2.34 | 5. 教員のフィードバック | 3.14 | 6. 学修の満足度 | 3.51 |
| 7. 事前学修時間 | 1.70 | 8. 事後学修時間     | 1.99 |           |      |

「3. 学修の到達度」と「6. 学修の満足度」が本講義の総合評価としてみると、概ね良好な評価であったと感じています。

「4. 学修の環境：質問発表の機会」と「7/8 事前事後の学修時間」がやや低い評価であった。manaba の活用に加えて、質問時間は毎回講義時間の最後にとるようにしていましたが、より質問しやすい環境づくりをしていきたいと思えます。事前・事後学修に関しては、より講義内容の理解が深まる具体的課題を提示していくことも今後検討したいと思えます。

よりよい学びをどう作っていくのか、しっかり分析し、改善していきたいと思えます。ありがとうございます。

#### 【自由記述 (抜粋)】

進め方に関して…

内容を映すだけではなく、自分で理解して内容をまとめることでより理解を深めることができる授業形式がとても良かった。/重要なところをスライドでもっとわかりやすくしてほしい/とても聞きやすく、わかりやすい説明だと感じた。/話が聞き取りやすくとてもわかりやすい授業だと思いました/ノートにまとめさせることで内容が頭に入ってくるので良かったです。ありがとうございます。/復唱してほしい/画像認識について様々なことを学ぶことができた。/ノートの取り方や、授業の進め方、評価の付け方など、すべて明瞭な説明があったことで、安心して授業を受けることが出来た。/事後課題としてノート提出がありますが、授業中に重要箇所を1度しか伝えられないことが多いため、頭の中で処理する前に次々へと進んでいってしまい、内容定着まで行きませんでした。なので、ノートを取るなら重要箇所については1度だけ伝えるのではなく、何度か伝えるなどの対応を取る方が良いかと思えます。/ノート提出によりただ聞く授業ではなく自分で内容を整理してまとめる記憶に定着しやすい授業になっていていいと思えました。また、授業に関連した最新技術を紹介する回があり身の回りの技術などに目を向ける良い機会になったし、興味を引き立てられる良い授業だと思えました。/進むのが早くてノートを書くのが間に合わなかったのもう少しゆっくり進んでほしいなと思えました。/基本的には授業時間内に取ったノートを提出するという課題のため、授業に出席さえしていれば課題に取り組むハードルが低く、かつ知らないことを学ぶという勉強の本質に沿った講義であったと思う。

ノートをとって写真を撮って提出が、皆さんの理解に繋がったことが確認できました。

復唱やもっとゆっくり進めて欲しいという意見がありました。毎回、事前にスライド資料は公開し、

- ・講義の最後に今日のまとめを説明
- ・前回の講義の要点を確認してから講義を始める

としてきました。事前学修の充実やもっと短い間隔での繰り返し説明といった形で皆さんの意見を取り入れていきたいと思えます。

提出物や期限に関して…

ノート提出にあたって、提出の時間をできれば次の日の夜まで伸ばしてほしい。/ノートを書き終えて、写真を撮って確認となると、授業終了後の授業中だと短すぎて焦ってしまうため。また、授業後はすぐに大学を出てアルバイトに行くため、できれば夜もっと遅くまで提出可能にしてほしいです。/家が大学から遠く、次の時間の講義があったため、ノートを提出するのにかける時間があまりなかった。写真を撮って送る前に(向き調整のために)ペイントツールで一度開かないとまらないため、せめてノートの提出時間を講義日の23時55分までにしてくださいと本当にありがたかった。/また、もとはといえばこちらがミスっていたので申し訳ないが、課題提出後に再提出ができずファイル形式を間違えたときに修正ができなかった。よければmanabaの再提出を許可してほしい。

ノート提出は、復習としての目的ではなく、要点を書いて覚えるためのものですので、講義で説明したとおり、全体と綺麗にまとめたものを求めています。授業でリアルタイムに書いたものをその場で写真提出してもらうことを求めています。ただ写真の調整時間はもう少し余裕をもってできる期限設定を検討します。

### ビジュアルシミュレーション (情報メディア学科3年前期・選択)

情報メディア学科 教授 服部 元史  
回答者数 61名  
月曜・1限・K1-202 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.33 | 2. 学生の取組      | 2.95 | 3. 学修の到達度 | 3.26 |
| 4. 学修の環境  | 2.39 | 5. 教員のフィードバック | 2.82 | 6. 学修の満足度 | 2.98 |
| 7. 事前学修時間 | 1.52 | 8. 事後学修時間     | 2.18 |           |      |

高校数学でベクトルや行列を学んで来なかった人達にも(にこそ)、3次元空間における平行移動や姿勢変化を3次元座標で設定するアニメーションを理解いただけるように、3DCG制作ソフトウェア“Blender”を今年度から使用しました。最後まで履修を続ける受講生が増えたこと(履修キャンセルが無かったです)とReport課題に熱心に取り組んでくれる受講生が増えた事から、Blender活用を来年2025年度も継続いたします。

「平行移動ベクトルや姿勢回転行列の数式まで理解する必要がありますか?」という疑問を抱いた受講生もいらっしゃるようですが、3DCG Art Designへの数学理論を理解していると、力学・幾何学・光学など科学を応用した制作に進んで行けます(美術大学では修得でき無い技法に進んで行けます)ので、本講義を更に分かり易く改善して参ります。

2024年後期ゲームAIは、ゲーム開発エンジンUnityを稼働させながら進めて行き、数式を表に出しませんので、2024年前期ビジュアルシミュレーションに苦勞した人も是非に受講を続けてください。

#### 【自由記述(抜粋)】

「講義資料の項目番号が細か過ぎてしんどい」との御意見も頂きましたが、受講生からEmailで質問いただく時も教員からEmailで返信する時も講義資料の箇所を特定できて便利ですので、項目番号を廃止はしませんが、やり方を工夫してみます。

**ゲームプログラミング（情報メディア学科 3 年前期・選択）**

情報メディア学科 教授 酒井 雅裕  
 回答者数 15 名  
 木曜・3 限・303 教室

|          |      |               |      |           |      |
|----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計 | 3.53 | 2. 学生の取組      | 3.40 | 3. 学修の到達度 | 3.47 |
|          |      | 5. 教員のフィードバック | 3.60 | 6. 学修の満足度 | 3.67 |

意見・発表の機会と事前事後学修時間以外は上記のように 3 を超えている。このようなことから学生諸君の満足度はまずまずと思う。次年度からは内容を大きく変え、他のゲーム系の科目とのすりあわせを実施する。具体的には扱うゲームエンジンを変更する。その結果、2 年生の前期からの学習内容は一貫性が担保されると予想している。

**【自由記述（抜粋）】**

「ゲームエンジンの魅力をしれて良かった」との意見がありました。今後もこのような意見が寄せられるように内容の研鑽をすすめます。

**Web システム（情報メディア学科 2 年前期・選択）**

情報メディア学科 教授 渡部 智樹  
 回答者数 118 名  
 月曜・4 限・K1-202 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.67 | 2. 学生の取組      | 3.31 | 3. 学修の到達度 | 3.21 |
| 4. 学修の環境  | 2.74 | 5. 教員のフィードバック | 3.61 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 1.82 | 8. 事後学修時間     | 2.37 |           |      |

項目 1～6 については、比較的良好な結果であったと捉えています。しかし、「4. 学修の環境」に関する「意見を伝えたり質問・発表したりする機会が設けられていた」というアンケート項目については、低い点数となりました。本授業には 120 名近い学生が在籍しており、授業中に全員に発表の機会を設けることは難しい状況でした。ただし、学生からの意見や質問は、毎回の課題提出時にコメント欄を通じて受け付けており、何件かの質問や要望が寄せられました。また、直接教員室に質問に来る学生もいました。共通する質問や要望については、次回の授業で情報共有を行い、資料やサンプルコードの改善を図ることで対応しました。

「8. 事後学修時間」については、30 分～1 時間程度を費やした学生が多く、この時間は授業終了時に毎回出題していた確認課題に取り組んでくれた時間と思われる。一方で、授業前の「7. 事前学修時間」では、0 分または 30 分程度が多く、比較的少なめでした。次回の授業資料は土日を挟んで事前配布していましたが、事前学修の機会が十分に活用されていなかった可能性があります。

**【自由記述（抜粋）】**

実践しながら学んだので、経験を積めたのが非常に良かった/楽しく学べた/manaba の運用がしっかりされていた/スライドでの講義が分かりやすく、穴埋め形式は内容を覚えるのに良かった/前回の課題解説を丁寧にしてもらったので間違いや分からなかった問題も理解できた/実習の説明が少し早く感じたので、進行を少し遅らせるか資料に詳しい説明が欲しい/課題が難しかったのもう少し簡単にするか再提出可能にしてほしい/教室が暑かった/大人数なので大講義室でやった方が良い（→広い教室を確保できませんでした）

## コンピュータ音楽制作（情報メディア学科 3 年前期・選択）

情報メディア学科 准教授 黒川 真毅

回答者数 51 名

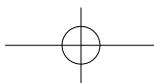
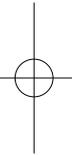
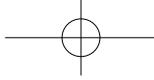
月曜・4 限・1201 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.65 | 2. 学生の取組      | 3.31 | 3. 学修の到達度 | 3.33 |
| 4. 学修の環境  | 2.43 | 5. 教員のフィードバック | 3.00 | 6. 学修の満足度 | 3.45 |
| 7. 事前学修時間 | 1.65 | 8. 事後学修時間     | 2.18 |           |      |

事前学修と事後学修の時間について、授業の方法を特に変更していないにも関わらず、減ってしまっている。これは、学生が授業外の時間に学修に取り組む時間が減ってきているのではないかと推測している。逆に授業の設計や学生の取組については向上していることから、授業の内容そのものへの興味を引くことはできていると思われる。同時に、学修の到達度と満足度も向上していることから、資料や教材の見直しや修正については、良い方に結果が出たと考えられる。学修の環境が低い点については、受講者数や授業の形式上、あまり前向きな対策を取ることができず、毎回の小レポートで対応しようとしていることが、あまり良い方に反映されていないと思われる。今後対策を考えていきたい。

## 【自由記述（抜粋）】

シンセサイザーやコンプレッサーについて、図や音声を用いて説明していたのがとても分かりやすかった。DTMの基礎について学ぶことができた/実際に音の聞こえ方がどう伝わるか、試して聞かせてくれて理解しやすい点良かったです/やむを得ず欠席した場合でも資料を見て課題を提出できる点/かなり実践的な内容になるので、数回程度で良いので実践するようなものを課題として出題してもよかったですのではないかと思います/講義での実演が多いため、理解が深まりやすい点良かった。一方、ソフトウェアのトラブルで授業が止まることがあったため、その点を改善していただきたいと思った（→OSのアップデートが原因のため難しいですが、可能な限り対処します）/14回の授業を通して1曲作る、みたいなものができれば、授業の内容がもっと理解しやすいのかなと思った（→授業形式上難しそうですが、是非考えてみたいと思います）

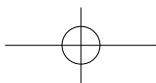
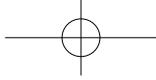


## V 担当教員からのコメント

### 【専門科目】

#### [創造工学部]

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 自動車システム開発工学科 .....    | 119 |
| ロボット・メカトロニクス学科 .....  | 123 |
| ホームエレクトロニクス開発学科 ..... | 126 |



## 自動車システム開発工学科

### 制御工学（自動車システム開発工学科 3 年前期・選択）

機械工学科 教授 脇田 敏裕  
回答者数 23 名  
火曜・2 限・C5-5224 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 1.29 | 2. 学生の取組      | 1.67 | 3. 学修の到達度 | 1.79 |
| 4. 学修の環境  | 1.58 | 5. 教員のフィードバック | 1.13 | 6. 学修の満足度 | 1.38 |
| 7. 事前学修時間 | 2.42 | 8. 事後学修時間     | 1.38 |           |      |

学修の到達度（理解度）が 1.79 とやや芳しくない。この要因として、近年基礎学力が低下しつつあることが一因である。例えば基礎力学で学習済の運動方程式や微分に関する理解が十分でない。よって講義する内容自体を減らし、その分丁寧な説明を増やすことで改善したい。

また学修の環境（質問など）に関しては、毎回ミニットペーパーなどで機会を設けているが、授業時間内に学生が発言する機会を増やすなどの対応をしたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

演習があつてよかった / 学生からの意見を取り入れているので良かった / 課題の解説が丁寧 / 毎講義に課題があることで復習にもなりありがたかった / パワーポイントが見やすくてよかった / PDF の授業内資料や、講義中の演習でより内容が覚えやすくてよかった

### 自動車のための情報通信入門（自動車システム開発工学科 2 年前期・必修）

機械工学科 教授 脇田 敏裕  
回答者数 19 名  
月曜・3 限・C5-5224 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 1.35 | 2. 学生の取組      | 1.50 | 3. 学修の到達度 | 1.75 |
| 4. 学修の環境  | 1.85 | 5. 教員のフィードバック | 1.20 | 6. 学修の満足度 | 1.35 |
| 7. 事前学修時間 | 2.65 | 8. 事後学修時間     | 1.70 |           |      |

学修の到達度（理解度）が 1.75 とやや芳しくない。この要因として、近年基礎学力が低下しつつあることが一因である。よって講義する内容自体を減らし、その分丁寧な説明を増やすことで改善したい。

また学修の環境（質問など）に関しては、毎回ミニットペーパーなどで機会を設けているが、授業時間内に学生が発言する機会を増やすなどの対応をしたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

プログラミングが少し理解できた / 自動車の EUC が理解できた / 課題と解説がよく理解できた / ミニットペーパーでの質問と回答が良かった / フィードバックがしっかりされていた / 教科書をあまり使わなかった（→次回から参考図書とする）

**熱力学（自動車システム開発工学科 2 年前期・選択）**

機械工学科 准教授 岡崎 昭仁  
 回答者数 25 名(履修者数 34 名)  
 木曜・1 限・1409 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.36 | 2. 学生の取組      | 3.08 | 3. 学修の到達度 | 2.84 |
| 4. 学修の環境  | 2.84 | 5. 教員のフィードバック | 3.00 | 6. 学修の満足度 | 2.92 |
| 7. 事前学修時間 | 2.28 | 8. 事後学修時間     | 2.24 |           |      |

まず、授業においてアンケートに回答する時間を確保したが、回答率は 73%である。授業に関しては、「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、2.92 であり、まずまずだと思う。その他の項目は決して良いとは感じないが、より一層の授業改善を図りたい。『対面式は授業効果が高い』との一般論があるが、本年度はさらに成績分布が下方に推移した。エビデンスに基づく検討が必要かと思われる。学習効果を高めるために、事前動画→小テスト（回答説明）→理論説明→例題説明→演習（回答説明）→まとめ課題（次回に回答説明）の流れで繰り返し経験学習できるようにしているが、問題文を読解できていない学習者が散見される。

なお、昨年度の後期に本授業コンテンツを非常勤先で実施した際、5 段階評価の授業アンケートにおいて、全項目が 4.5 を超えていた。学習者による授業アンケートは、このように同一コンテンツでも結果に差が生じる。今後、実施に関して検討の余地があると考ええる。

**【自由記述（抜粋）】**

毎回の授業にてミニットペーパーに授業の改善要望を記載して頂いており、随時改善に務めた。一方で次のように批判的なコメントもあった。『途中のオンライン授業はやりづらいし、そのせいでミニ課題をだせなくなったので絶対に対面授業がやりやすいです。manaba でも担当教員のやり方なのか見づらいし、ファイル名を統一してほしい。タイマーうるさいです。』／『説明の内容が詳細が無さ過ぎてどういったことについて説明しているかもわからず、唐突に解き方のわからない問題を解かされるが、毎回解説を待ってる状況。単位を落とす人が半分以上と本人が説明しているが、正直納得できるほど質が悪い』、推測であるが、事前・事後学修を 0 分と回答する学修者が 2 名いることを記しておく。本授業は冒頭に事前学修前提の小テストを行うので、事前学修が 0 分であれば、回答は難しい。

**自動車エンジン工学（自動車システム開発工学科 3 年前期・選択）**

機械工学科 准教授 岡崎 昭仁  
 回答者数 30 名  
 水曜・2 限・3304 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.70 | 2. 学生の取組      | 3.30 | 3. 学修の到達度 | 3.43 |
| 4. 学修の環境  | 3.50 | 5. 教員のフィードバック | 3.03 | 6. 学修の満足度 | 3.17 |
| 7. 事前学修時間 | 2.43 | 8. 事後学修時間     | 2.83 |           |      |

「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、3.17 という結果で、まずまずだと思う。一方、「5. 教員のフィードバック」が 3.03 とやや低いので、次年度改善したい。その他の項目、授業の設計、学生の取組、学修の到達度、学修の環境については、現在の授業方法を維持しつつ、改善を図る。

なお、自由記述欄を見ると「小テストに関する解説が無い」とあるが、事前学修資料そのものが回答であるので、授業中に再度、示すようにする。また、資料を配布しているが、「資料ではなく映像にして欲しい」とのコメントがあり、昨今の読解力不足を示していると考えられる。読解力の確保は、本授業の目的ではないので、理解を促すべく、映像資料を増すようにする。

## 【自由記述（抜粋）】

上述したように、「小テストの回答を説明して欲しい」（→事前学修動画が回答そのものであることを示す）/文章の資料ではなく映像で示して欲しい（→可能な限り、文章を読み上げる映像資料にする）

## 次世代自動車動力（自動車システム開発工学科3年前期・選択）

機械工学科 准教授 岡崎 昭仁  
回答者数 21名  
水曜・3限・3602教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.67 | 2. 学生の取組      | 3.33 | 3. 学修の到達度 | 3.57 |
| 4. 学修の環境  | 3.71 | 5. 教員のフィードバック | 3.29 | 6. 学修の満足度 | 3.57 |
| 7. 事前学修時間 | 2.62 | 8. 事後学修時間     | 2.81 |           |      |

「6.学修の満足度」を総合評価と考えれば、3.57とまずまずだと考えられる。

本授業は、教室における説明を事前学修動画にし、学修者は授業時間に課題に取り組み、教員がサポートする反転学習を採用している。評価結果を見れば、1時間程度か1.5時間以上の事前・事後学修者が大半であるので、時間外学修時間を増す効果も出していると思われる。また、授業では、発表の場を設け、学習効果と汎用的能力を向上させるべく、ポスターセッションの形態を採用した。授業を観察する限り、学生は十分に対応ができており、授業の工夫により、教育効果を高められることを実感した。

なお、自由記述欄には「発表の機会があることで資料作成する機会ができ、ほかの人のモノから良い刺激を受けることができた。」とあり、教育効果を物語っていると思われる。一方で、「発表の順番を決めて欲しい」とのコメントがあり、任意的な施策は難しく、「指示」が必要であるようである（本科目では、発表の際には、順番を決めず、任意とした）。

## 【自由記述（抜粋）】

小テストの解説をしてほしい（→次年度、対応する）/期末発表のリハーサルは要らない（→次年度、授業全体の設計を見直す）

## 自動車要素設計Ⅰ（自動車システム開発工学科2年前期・必修）

機械工学科 助教 小宮 聖司  
回答者数 13名  
金曜・1限・5224教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.46 | 2. 学生の取組      | 3.31 | 3. 学修の到達度 | 3.38 |
| 4. 学修の環境  | 3.08 | 5. 教員のフィードバック | 3.23 | 6. 学修の満足度 | 3.31 |
| 7. 事前学修時間 | 2.00 | 8. 事後学修時間     | 2.00 |           |      |

昨年度と比較して、全項目「4はい」に対して「3どちらかといえば「はい」」の割合が増加したことから、理解度や取組姿勢に対し、自信を持って評価しにくかったと思われる。授業内容（配布資料や演習）や、例えば声の大きさなどは変えていないことから、授業に対する意識の低下が反映されていると思われる。よって、例年に比して授業に入る前の動機付けなどにも配慮が必要と考えられる。授業設計で今年度は例年に比して内容を厳選し、同じ内容を繰り返し説明したうえで、理解度を確認していく方法とした。本授業では、機械設計を行う場合にどのようにすればよいのか？目的に沿って、具体的に、教科書のどこに記載されているか？について、自ら発見・解決できる能力を身に着けることを心がけた。そのため、講義科目の性質上、新しい興味の引くような内容ではないが、現状でよいと考えている。

総じて3ポイント以上であるため、授業の内容や進め方の大枠はそのままよいと考えているが、例年に比して、演習内容を減じて指導を実施しているにも関わらず、到達度等の評価ポイントが低下している。このことから基礎力の低下傾向が推測でき、指導方法の検討が必要であると考えている。

しかし、基礎的な知識は今後の応用科目などを控えていることから必須であるため、知識定着のために予習や復習の時間をきちんと確保するように指導し、その確認が可能な方法を検討していく必要があると考えている。予習復習ともほぼ30分程度の回答が多かったが、授業進度が早い、難しいと感じた場合には予習復習の時間を増やすことにより効果が出ると思われる。

近年の傾向として、例えば棒材の強度が足りない場合に、直径を太くすればよいのかそのまま使用してかまわないか等の一般的な判断が困難。直径を与えた時の円の面積が算出できない等、基礎的な知識（や演習・経験）が足りないと思われる学生が散見される、機械設計において部材の面積計算等は必須であるため、本授業に入る前に単位換算も含めて習得しておくように強く勧めたい。

## ロボット・メカトロニクス学科

### 人間工学（ロボット・メカトロニクス学科 2 年前期・選択）

情報システム学科 教授 高尾 秀伸  
回答者数 5 名  
水曜・4 限・E3-202 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.20 | 2. 学生の取組      | 2.80 | 3. 学修の到達度 | 3.40 |
| 4. 学修の環境  | 2.80 | 5. 教員のフィードバック | 3.20 | 6. 学修の満足度 | 3.20 |
| 7. 事前学修時間 | 1.80 | 8. 事後学修時間     | 2.20 |           |      |

ユニット授業や卒業研究において「人に優しいものづくり」をどのようにすれば良いかについて講義している。毎回、事前にウェブページからダウンロードする授業ノート（配付資料）を用いてオリジナルの授業ノートが完成できるようにしている。また、毎回授業の小レポートを通して復習ができるようにするとともに、学生からのフィードバックを得ている。ただし、時間の関係でそのフィードバックに対してコメントを全てできなかったため、今後は時間配分を工夫して教員からのフィードバックをさらに行いたい。

学生諸君は、講義はテレビ番組を観覧するような気持ちではなく、ユニット授業や将来の自己実現にどのように役立てるか、という主体的な気持ちで臨むよう心がけて欲しい。

#### 【自由記述（抜粋）】

レポート提出での自己学習が新しい知識づくりにつながった。授業だけでなく世の中の人間工学について説明されていてよかった。

### 身体動作の科学（ロボット・メカトロニクス学科 2 年前期・選択必修）

情報システム学科 教授 高橋 勝美  
回答者数 11 名  
木曜・2 限・E1-202 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.45 | 2. 学生の取組      | 3.09 | 3. 学修の到達度 | 2.82 |
| 4. 学修の環境  | 2.82 | 5. 教員のフィードバック | 2.82 | 6. 学修の満足度 | 3.09 |
| 7. 事前学修時間 | 1.64 | 8. 事後学修時間     | 1.91 |           |      |

この科目の学習・教育目標は、身体動作の仕組みを学ぶことで、将来のロボット製作や生活支援機器開発に役立つ知識を習得することにある。学習・教育目標を達成させるための授業の工夫は、初めて学習する内容に興味を持たせること、授業の内容を十分に理解させることが必要と考えている。また、授業で常に意識をしていることは、授業を常に受講している人数は 30 名前後であることから、学生全体に目が届き、授業内でも学生とコミュニケーションが取りやすい環境の中で行えるため、学生の受け答えや表情から、理解度の確認や内容の理解を確認しながら授業を行うことである。回答者数が 11 名と受講者の 3 割程度ではあるが、授業目標の観点からアンケートの集計結果を評価すると、「授業の設計；3.45」、「学修の到達度；2.82」、「学修の満足度；3.09」であり、ある程度授業を行う上での目標の成果があげられていると考える。事前・事後学修時間を除いた他の設問項目においても 2.82～3.09 の平均点であり、学生に対して授業内容や方法が受け入れられたのではないかと考える。ただ、事前及び事後学修への取り組みが低く、今後、この評価を向上させる授業に努めることを実感する。

**アナログ回路 (ロボット・メカトロニクス学科 2 年前期・選択必修)**

情報システム学科 教授 河原崎 徳之  
回答者数 10 名  
水曜・1 限・3103 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.50 | 2. 学生の取組      | 3.10 | 3. 学修の到達度 | 2.90 |
| 4. 学修の環境  | 1.90 | 5. 教員のフィードバック | 3.10 | 6. 学修の満足度 | 3.20 |
| 7. 事前学修時間 | 2.60 | 8. 事後学修時間     | 2.70 |           |      |

「1. 授業の設計」や「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思う。

本講義では、ほぼ毎回宿題を果たしており、「事後学修」は行うようにしているが、その一方「事前学修」があまり行われていない。次年度からは来週に行うポイントを講義最後に説明し、事前に講義資料を読ませるようにしていきたい。また、昨年に引き続き「4. 学修の環境」で学生から意見を発表する場が少ないという結果なので、講義が一方向にならないよう、講義時に学生の理解度を発表させるように改善していきたい。また、アンケート回答者自体の人数が少ないので、来年度は学生にアンケート回答を徹底させたい。なお、自由記述では「問題の解説が丁寧でした。」とのことなので、次年度からも同様に丁寧に説明していきたい。

**【自由記述 (抜粋)】**

持ち込み可能にしてほしい (→いたしません)

**センサ工学 (ロボット・メカトロニクス学科 3 年前期・必修)**

情報システム学科 教授 河原崎 徳之  
回答者数 14 名  
木曜・2 限・1403 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.64 | 2. 学生の取組      | 3.29 | 3. 学修の到達度 | 3.43 |
| 4. 学修の環境  | 2.86 | 5. 教員のフィードバック | 3.71 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 2.29 | 8. 事後学修時間     | 2.36 |           |      |

「1. 授業の設計」や「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、良い結果だと思う。

本講義では、ほぼ毎回宿題を果たしており、その解説を講義の最初に行うので「5. 教員のフィードバック」のよい評価につながったと考える。また、「4. 学修の環境」は前回の評価値よりも低くなったため、次年度は講義中に学生の理解を確認する質問をしていきたいと思う。また、「7. 事前学修」の評価が低いので、次回講義の予習となるよう、毎回果たす課題に次回内容を調べさせるようなものを加えていきたい。尚、アンケート回答者自体の人数が少ないので、来年度は学生にアンケート回答を徹底させたい。

**メカトロニクス (ロボット・メカトロニクス学科 3 年前期・選択)**

情報システム学科 教授 兵頭 和人  
回答者数 8 名  
月曜・2 限・3408 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.63 | 2. 学生の取組      | 3.38 | 3. 学修の到達度 | 3.38 |
| 4. 学修の環境  | 2.63 | 5. 教員のフィードバック | 3.75 | 6. 学修の満足度 | 3.50 |
| 7. 事前学修時間 | 1.75 | 8. 事後学修時間     | 2.00 |           |      |

講義の難易度としては、「やや難しいけれども理解ができる」を目標として、体験型演習を増やしたスケジュールで授業を組み立てています。「学修の到達度」が 3.38、「教員のフィードバック」が 3.75 であることから、体験型演習を増やし実際にシステムの動作の確認を行う機会を増やした

ことが効果を上げていると考えます。学修した内容をより定着させるために、事後学修で使用可能なバージョンの体験的演習教材の開発を行いたいと思います。

また、「学修の満足度」が 3.50 であることから、今後も実際の開発業務との関連についての説明を入れ、講義で学ぶ事柄がどのように使われるのかについての説明は続けたいと思います。

なお、自由記述欄に「プログラムの解答が欲しい」との記述があるため、体験型演習時の個別確認に加えてプログラムの模範解答の説明も加えてゆこうと思います。

## ホームエレクトロニクス開発学科

### 電気電子回路Ⅲ (ホームエレクトロニクス開発学科 2 年前期・必修)

電気電子情報工学科 教授 奥村 万規子  
 回答者数 37 名  
 木曜・1 限・3402 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.51 | 2. 学生の取組      | 3.46 | 3. 学修の到達度 | 3.49 |
| 4. 学修の環境  | 3.32 | 5. 教員のフィードバック | 3.70 | 6. 学修の満足度 | 3.51 |
| 7. 事前学修時間 | 2.08 | 8. 事後学修時間     | 2.27 |           |      |

今年度より 100 分授業となったことで、演習問題の解説などに時間をかけることができた。また、演習問題の量を増やすことで理解度も上がり、試験結果の平均点はここ数年で最も高い点であった。反省点として、授業態度が良くない一部学生に対して、毅然とした態度を取ることができず、不愉快に感じた学生もいたのではないかとこの事がある。今後、この点を改善して、やる気のある学生の学修の環境を整えて行きたいと考えている。

#### 【自由記述 (抜粋)】

演習プリントの問題を応用からではなく基礎からしてほしい (→ 今後、基礎問題も増やしていく。)

### ホームエレクトロニクス (ホームエレクトロニクス開発学科 3 年前期・選択必修)

電気電子情報工学科 教授 広井 賀子  
 回答者数 8 名/19 名  
 木曜・1 限・E206 教室

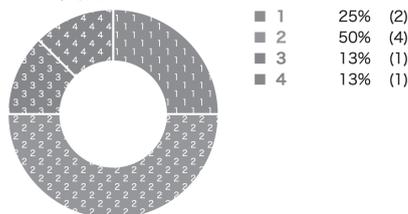
今回、アンケートに答えている母数が一桁と小さいこと、および自由記述に驚愕するコメントが書かれていたことを踏まえ、昨年度同科目の教育が非常に狙い通りに進み、履修者全員と論文を出版するまでに至った状況との差を比較・分析しながら事実関係を理解する目的で、以下のように集計結果を昨年度と並べて俯瞰することとした。

#### 自由記述の内容について

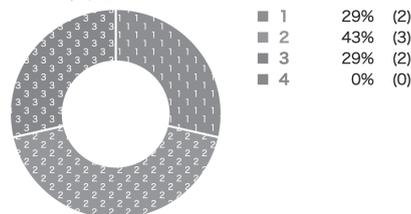
攻撃的かつ事実と反する数値に基づく記載を含め、2 件のみの記載であったため、該当する項目ごとに分割して掲載、分析を交えて考察し、個人攻撃のための罵詈雑言に当たるとも考えられる部分は掲載を避ける。

#### 1. 授業の設計

2024 年度



2023 年度



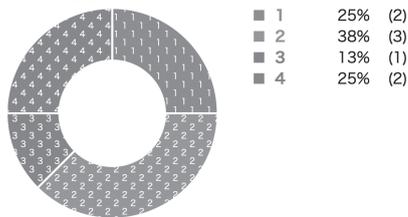
シラバスに沿っていたかどうかについて、シラバスに沿っているという意見が全体の 75%であった。昨年度と比較した場合、今年度の方が数値が高いこととなる。

当該自由記述には、授業が16回で計画されていたとの記述が見られたが、シラバスにそのような記載はなく、また実際に出席をとった回数も14回であるため、事実に反する思い込みに基づく記載であり、多数派の学生は当該記述者とは認識を異にしていることを確認した。

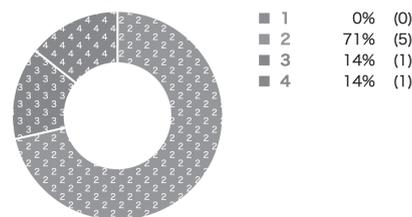
同時に、昨年度と比較し、今年度極端におかしな授業設計をした事実は存在しないことを確認した。

## 2. 学生の取組

2024年度



2023年度

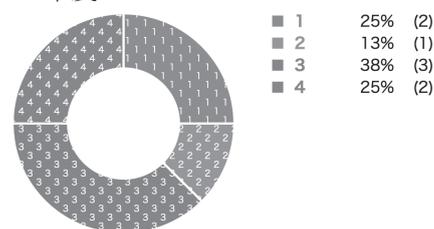


意欲的に取り組めた学生の割合が、昨年度5/7、今年度5/8であることから、数値的に大差があるとは言えない状況であることを確認した。

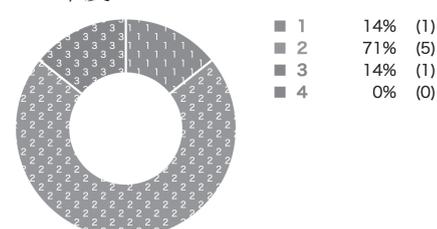
同時に、今年度は、昨年度はいなかった、自発的に取り組めたことを積極的に肯定する学生がむしろ複数いたこと、同様に積極的に否定する学生数も複数いたことから、提供した講義内容に対し、「合う学生」と「合わない学生」がおり、両者が分断しているという性質を持つ集団であったことが伺える。自由記述の中に、「(彼が思う)ホームエレクトロニクスと関連が低い」トピックの時間が多かった、という感想が生じた原因の一つと考えられる。

## 3. 学修の到達度

2024年度



2023年度



ここには大きな前年度との違いが見られる。

実際、今年度の講義に関し、問題があったと考えられる部分について述べる。

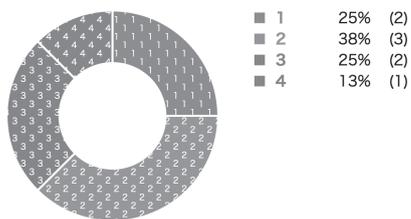
当該講義では、家電のデザインにデータドリブンな手法を取り入れるという授業内プロジェクトを設けており、データドリブンデザインに必要な解析手段を習得してもらうプロセスに、学外で生じた予定外の事由があった。その事由とは、今年6月まで国内のミラーサイトサーバーで提供されていたライブラリ群が、ミラーサイトの閉鎖に伴い、英語サイトからのインストールができなくなっており、3月時点で準備した資料と実作業内容の見た目の齟齬を解消することなく講義を続けたことが、理解困難に繋がった。そのため、「準備不足によって授業が進みに困難がある(学生の表現ママ)」という記載には事実に基づく一定の理があり、この事由のために意欲の低下を経験した学生が一人でもいた場合、これは私の猛省するべき点と言える。

今後、講義内で利用するツール環境の変化に随時注意を配り、本学学生の英語に対する強い苦手意識に対する適切な対応ができるようにしていきたい。

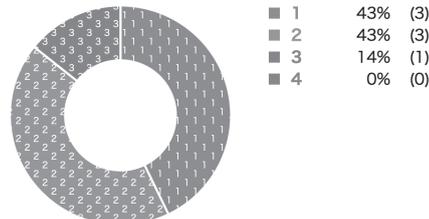
なお、英語の理解が難しことが到達度低下の原因と考える別の根拠として、講義中に、必要なツールが使用できているか、少なくとも一部の学生が実際に結果を出せていることを確認しながら進めていたのだが、目の前で結果を出せていることを確認した学生は、たまたま英語が比較的得意な学生であった事が別の講義の経緯でわかったことを申し添えておく。

#### 4. 学修の環境

2024 年度



2023 年度

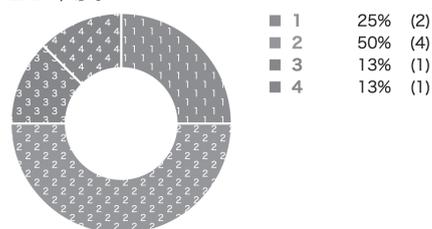


当該項目について、昨年度と比較した場合の発言機会の低下の一因は、講義回数の減少である。もう一つは、解析ツール使用方法の説明に、予定より時間がかかったことが挙げられる。

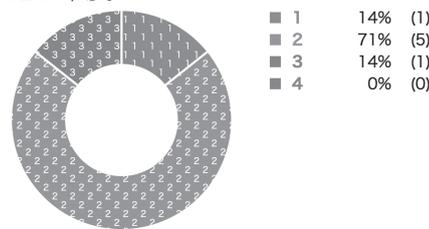
講義回数が減ったことを受け、昨年度は二人から四人 1 組で取り組み、発表してもらった家電デザインプロジェクトを、6~7 人 1 組で作業してもらい、発表してもらう形に変更した。これにより、一部の学生はプロジェクトにあまりコミットできなかつたと推測している。来年度は利用ツール環境のスムーズな提供を実現し、全ての学生が自分の作品の発表機会となるプロジェクトによりうまくコミットできるようにしていきたい。

#### 5. 教員のフィードバック

2024 年度



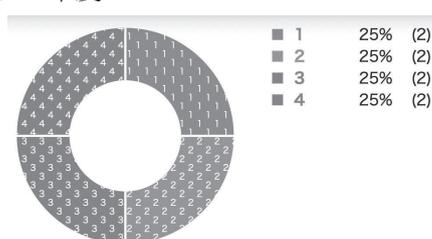
2023 年度



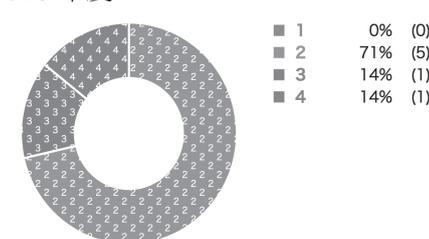
この項目は、昨年度 6/7、今年度 6/8 となっており、数値的には大きな違いがあるとは判断できない。同時に、増えているのがフィードバックがなかったと答える 1 名であることについては考察すべきであるのでいかに考察する。変化量は 1 名であることから、多数の意見と繋がるのか、個人的な問題であるかは判定できない。総じて、昨年度と違いがあるとは言えない。

#### 6. 学修の満足度

2024 年度



2023 年度



この項目に関しては、昨年度の結果と乖離が見られる。

昨年度と異なり、半数の学生が達成感を得られていないと答えている一方、達成感を得られてと明言している学生も出現している。

これは項目 2 で取り上げた、二つの異なる集団から全体が成り立っていることがここでも示唆されていると言える。特に否定的な学生の集団に関してその一部に、私がシラバスに記載および講義の始めに説明した内容を無視し、あらかじめ他者によって刷り込まれた「ホームエレクトロニクス」の概念への強い固執と、そこから外れたものを排除しようとする強固な意識を持った者が含まれていることが否定できない。

憂慮すべきことは、その強固な固定観念が、一部の教員によって意図的に作り出され、当該学生および扇動に乗った学生群がそれら一部教員の私的な利益に利用されている可能性がある点である。

アンケートは匿名で行われていることから、実際に事実と反する数値に基づき攻撃的な発言を行った人物が誰であるかは不明である。

にもかかわらず、アンケートは常に学生本人が答えていると仮定した場合、その記載内容から誰がその記述を行なったか、個人が特定できてしまう内容をわざわざ書いた上で、その後ろに攻撃的言動を続けていることに、一定の違和感を禁じ得ない。

7. 事前学修時間 1.75

8. 事後学修時間 2.12

本科目は、来年度のホームエレクトロニクス開発学科3年生に対する講義を最後とし、以降は「情報エレクトロニクス」と改名する計画である。それに合わせ、内容もより情報処理関連の内容を少しずつ増やし、情報エレクトロニクスコースで目指す、ソフトとハードの両方を扱える人材の教育に向けた内容としていく。また、大学院科目として来年度から開講する「データ解析特論」に繋がる内容として、数年をかけ改善していく計画である。

【自由記述（抜粋）】

上述。

**スマートハウスとエネルギー管理（ホームエレクトロニクス開発学科3年前期・選択）**

電気電子情報工学科 准教授 杉村 博

回答者数3名

木曜・2限・C2-E206教室

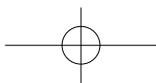
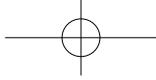
|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.67 | 2. 学生の取組      | 3.67 | 3. 学修の到達度 | 3.33 |
| 4. 学修の環境  | 3.67 | 5. 教員のフィードバック | 3.67 | 6. 学修の満足度 | 3.67 |
| 7. 事前学修時間 | 1.67 | 8. 事後学修時間     | 1.67 |           |      |

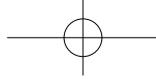
自由記述からもわかる通り、非常に好評な授業が実施できた。回答者数3名とあるが、授業の受講者は全体で4名である。択一の選択授業のために履修出来ない学生が聴講に來たり、他学科の聴講生もいて良い授業を実施出来たと感じている。

本授業は選択授業であり、択一方式という事や、他の選択授業が2年生で実施される事、他の選択授業が資格取得の支援をしているため人気であることから、本授業の履修者が少なくなってしまう。また、改組に伴って次年度で本授業が終了することが決まっている。この授業内容と経験を新たに設置される授業に活かして、また学生に喜ばれる授業を作っていくことを心掛けていきたい。

【自由記述（抜粋）】

素晴らしい授業なので、全学的に受講出来るようにしてほしい。



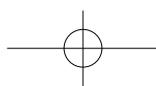
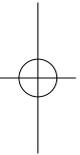


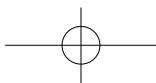
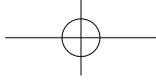
## V 担当教員からのコメント

### 【専門科目】

[応用バイオ科学部]

応用バイオ科学科.....133





## 応用バイオ科学科

### 植物バイオテクノロジー（応用バイオ科学科 3 年前期・選択）

応用化学生物学科 教授 岩本 嗣  
回答者数 32 名  
月曜・2 限・3403 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.88 | 2. 学生の取組      | 3.66 | 3. 学修の到達度 | 3.69 |
| 4. 学修の環境  | 3.75 | 5. 教員のフィードバック | 3.78 | 6. 学修の満足度 | 3.69 |
| 7. 事前学修時間 | 1.88 | 8. 事後学修時間     | 2.19 |           |      |

「1. 授業の設計」3.88、「2. 学生の取組」3.66、「3. 学修の到達度」3.69、「4. 学修の環境」3.75、「5. 教員のフィードバック」3.78、「6. 学修の満足度」3.69 の 6 項目について 3.66～3.88（平均 3.74）の高い評価を得た。毎年授業内容を見直し、パワーポイント・配付資料を充実させてきた結果であると素直に喜びたい。一方、「7. 事前学修時間」と「8. 事後学修時間」はそれぞれ 1.88 と 2.19 に留まった。事前学修・事後学修の重要性を説き、確認テストを毎回実施しているが、学修せずに授業に臨む学生が増加している点を危惧している。取組易いように、記述割合を減らし、選択肢の割合を増やしているが、効果は認められず、お手上げ状態である。易しい問題なので、満点をとる学生がいる一方、零点の学生もおり、期末・平常点共に低く、単位を落とす学生が増えている。これ以上、レベルを落とすのは難しく、頭が痛い問題である。

#### 【自由記述（全て）】

とても分かりやすく、楽しんで授業を受けれた/植物バイオテクノロジーについてもしっかり学べた実感がある/課題があつて勉強がしやすかった/このままで/毎週の課題プリントや授業展開は明瞭でとても学びやすかったが、プリントの穴埋めがしづらいタイミングがあつた（→穴埋めがしづらい箇所は質問する時間を設けているので活用すること）/授業内容は興味深いものが多く、わかりやすかった/授業内での課題が復習できるもので内容を定着させることができる良いものだった/バイオテクノロジーの内、植物を使用するいろいろな技術について学べて良かった/パワーポイントやレジュメを manaba に添付して欲しいです（→周知しているとおりに、休んだ学生や紛失したり、持ってくるのを忘れた学生には、授業開始時に再配布する時間を設けるとともに教員室前にも自由に持ち帰りができるよう余部を置いてあるので、積極的に活用すること）/授業終わりにあるまとめは、授業内容の復習に良いと思った/確認テストで授業内容の復習ができたのがよかったです）

### 食品機能化学（応用バイオ科学科 2 年前期・選択）

応用化学生物学科 教授 清水 秀信  
回答者数 32 名  
水曜・3 限・3603 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.44 | 2. 学生の取組      | 3.25 | 3. 学修の到達度 | 3.19 |
| 4. 学修の環境  | 2.94 | 5. 教員のフィードバック | 3.63 | 6. 学修の満足度 | 3.47 |
| 7. 事前学修時間 | 1.94 | 8. 事後学修時間     | 2.19 |           |      |

食品に含まれる様々な構成成分を、構造式という言葉を使って理解させることを目指した科目である。1 年後期の必修科目である有機化学の内容理解を前提としていることから[本学科の学生には理解が難しいとされている科目の 1 つである]、学生が授業内容を理解できているか不安であった。「3. 学修の到達度」や「6. 学修の満足度」が 3 点を超えていることから、構造式が食品分野の理解に深く関わっていることを学生は好意的に受け止めており、内容もある程度理解できてい

るように思われる。自由記述欄に書かれていることも考慮すると、『毎回の授業最後 20 分間で実施している「振り返り問題」とその場での質問対応』、あわせて、『振り返りの問題を翌週採点のうえ返却して、授業の最初に解説を行う』という授業スタイルが、学生の理解度向上に役立った可能性が考えられる。より理解度を高めるため多くの問題を解きたいという意見もあったことから、次年度はプラス $\alpha$ の課題を用意することを検討したい。

【自由記述（抜粋）】

食品についての基礎的な知識が学べて良かった/食品と化学の結びつきについて理解度を上げられた/演習問題がもっと用意されているとよい/授業内に問題の解説をしていただけたのはありがたかった/プリントに書いていないことについてもわかりやすく解説して下さった/大学選びで以前から興味があった分野だったので面白かった/解説もわかりやすかった/教室が狭いため黒板が見やすい席に座れないことがあった

生化学 I（応用バイオ科学科 2 年前期・必修）

応用化学生物学科 教授 小池 あゆみ  
回答者数 18 名  
火曜・2 限・3405 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.00 | 2. 学生の取組      | 2.94 | 3. 学修の到達度 | 2.83 |
| 4. 学修の環境  | 2.78 | 5. 教員のフィードバック | 3.11 | 6. 学修の満足度 | 2.83 |
| 7. 事前学修時間 | 2.22 | 8. 事後学修時間     | 2.72 |           |      |

「4. 学修の環境」「8. 事後学修時間」は昨年と変わらなかったが、それ以外は全体に昨年より低い値となった。アンケートに回答してくれた学生数も受講者の 20%なのでかなり低く、意見に偏りがあることも否めない。「8. 事後学修時間」が比較的高く、学生なりの努力した状況が伺えるため、勉強方法の改善を促し、学習効果と満足度を得られるよう指導したい。演習問題冊子の配布や、毎回の授業ごとの例題で説明した問題を試験の 9 割ほどで出題したが、自由記述を読むとそれさえ理解できなかったとわかる。理解力の差が大きい学生層に対してこの科目を教えることは、かなりの困難さを感じるが、補習講義と再試験で今年度も対応した。

【自由記述（抜粋）】

レジュメの内容がとても分かりやすかった。/生物への理解度を上げられた/ボリュームがとにかく多くて着いていくのが大変です。(→この後の専門分野学習に必要な内容を、かなり絞って実施しています) /対策プリントや章末問題以外の問題がテストで出てきて、対策法がわかりませんでした。授業内で触れた内容ではありましたが、例題などの実践と解法の解説を行ってほしいです。(→9 割以上の問題を授業内で解説しています。勉強の仕方を紹介しましたが、実践してみると対策ができたはずです。) /期末試験が難しすぎる (→この後の専門分野学習に必要な内容なので、理解してください)

植物科学（応用バイオ科学科 3 年前期・選択）

応用化学生物学科 教授 村田 隆  
回答者数 25 名  
月曜・1 限・3304 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.72 | 2. 学生の取組      | 3.64 | 3. 学修の到達度 | 3.56 |
| 4. 学修の環境  | 3.40 | 5. 教員のフィードバック | 3.64 | 6. 学修の満足度 | 3.56 |
| 7. 事前学修時間 | 1.72 | 8. 事後学修時間     | 2.16 |           |      |

今学期の植物科学は、授業回数 14 回、100 分授業になったことを機会として、授業計画を全面的に見直した。目標としたのは、1)植物の現物を見せること、2)項目を削って1つ1つの内容を深掘りし、高校教科書に書かれていない内容を解説すること、の2つである。また、従来からの問題であった授業の双方向性について、responによるクイズの導入、manabaでの振り返り（振り返り課題と集中して聴けたかの自己評価）への全員へのコメント、を行うことで改善を行った。結果として、評価点は6項目ともに3.5前後の高得点がついた。

特に、1)植物の現物を見せること、は教室から出て植物撮影と解説を行ったことについて、好意的な記述を複数もらうことができた。関連して、評価点【学生の取組】は意欲的、自発的に取り組むことができたかの評価だが、平均点は3.64と高かった。また、授業の双方向性についても【教員のフィードバック】平均点が3.64と高く、自由記述でも好意的なコメントを複数もらうことができた。【学修の環境】は意見を伝えたり質問・発表の機会があるかの項目だが、3.40は6項目の中で最低であるものの、全体集計で平均点が低い項目であることを考慮すれば、高評価だと思う。

このようなわけで、授業の準備は大変であったが、頑張った甲斐があったと思っている。来年度の授業も同じ方針で進める予定である。

#### 【自由記述（抜粋）】

質問や感想に回答を頂き、理解しやすかったです。/授業では植物科学の知識だけでなく、植物を観察して、授業の内容をよりよく理解することができます/植物クイズや野外での植物観察があり、植物について実物を交えながら学べたのがとても良かったです。また、植物の機能や反応、菌との関係など新しい知識を得られました。/クイズや写真を撮るなど、主体性を持って取り組みやすくて理解の助けになった。/植物のクイズをやったり、写真を撮影したりという他の講義にはない特徴があって楽しめた。/資料があり、振り返りを毎行なっていたので復習が行いやすかったです。植物クイズや実際に撮影に行ったりしてとても面白かったです。/manabaでの質問に対して、関心を引く内容の応答をしていただいた。

#### 環境工学（応用バイオ科学科3年前期・選択）

応用化学生物学科 教授 市村 重俊  
回答者数 16名  
水曜・1限・1307教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.44 | 2. 学生の取組      | 3.44 | 3. 学修の到達度 | 3.25 |
| 4. 学修の環境  | 3.31 | 5. 教員のフィードバック | 3.44 | 6. 学修の満足度 | 3.56 |
| 7. 事前学修時間 | 2.44 | 8. 事後学修時間     | 2.63 |           |      |

授業は、主な水処理技術を例として、現象の理解、数式を利用した定量化、グラフの作成と読み取りなど、基礎的な内容を重視して進めた。ただ、これらに苦手意識を持つ学生も多いため、実物に触れてもらう、動画でイメージしてもらう、身近なものを調査して普段から意識してもらう、別授業（応用バイオ科学実験など）の内容もできる限り取り入れながら説明をするなどの工夫をしている。到達度確認演習では、演習問題（プリント）を含め授業で扱った内容について、計算問題、具体的な条件を与えたときに生じる現象を模式的にグラフ化する問題、現象を論理的に説明する問題などで確認した。なお、普段の授業と事前・事後の学修を大切にもらうため、手書きのノートのみを持ち込み可として実施した。今後は、関心や理解度をより高めてもらうための工夫をしていきたいと考えている。

#### 【自由記述（抜粋）】

環境工学と環境保全学が繋がっていて理解しやすかったです/分かりやすかったです/プリントが理解しやすかったです/グラフの書き方や見方が少々難しかったです+プリントの問題を解説してくれるのがありがたかったです/

**細胞生物学（応用バイオ科学科 2 年前期・必修（BL）/選択（BB））**

応用化学生物学科 准教授 山下 直也

回答者数 46 名

水曜・1 限・K3-3606 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.63 | 2. 学生の取組      | 3.41 | 3. 学修の到達度 | 3.39 |
| 4. 学修の環境  | 3.50 | 5. 教員のフィードバック | 3.82 | 6. 学修の満足度 | 3.59 |
| 7. 事前学修時間 | 1.78 | 8. 事後学修時間     | 2.11 |           |      |

授業の設計、学修の環境、教員のフィードバック、学修の満足度の点数が、3.5 以上となっており、基本的な授業の進め方については十分な評価が得られていると判断できる。また、以下に抜粋した自由記述欄に記されていたように、分かりやすい内容であったという評価が多くを占めた。本講義をよりよくするためには、学生の取組、学修の到達度を上げていく必要があるが、これについては教員側の努力のみでは難しく、事前・事後の学修時間を増やしていく必要がある。講義内容を動画としてアップロードしており、また、講義資料は授業の 1 週間以上前に配布してあるので、これらを活用し、予習・復習の時間を設けるようにしてほしい。授業を聞くことで分かった気になると思われるが、そこで終わってしまうと知識は定着しないので、少しでも興味を持った部分については、自分自身で掘り下げる取り組みを進めるようにしてほしい。

**【自由記述（抜粋）】**

課題や質問のフィードバックが良く、分かりやすかった/マニアックな部分まで教えてくれて面白かった/確認テストで毎回授業のことを振り返れてよかった/授業資料に授業課題の問題が書かれていて特にどこが重要なかわかりやすかった/毎回質問へ回答し、確認テストのフィードバックも行われていたため、よく理解することができた/講義動画を残し、取りこぼしのないようにしていたのが良かった/確認テストの解答を講義動画だけでなくコンテンツの方にも置いて欲しかった

**神経生物学（応用バイオ科学科 3 年前期・必修）**

応用化学生物学科 准教授 山下 直也

回答者数 13 名

火曜・1 限・K3-3603 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.77 | 2. 学生の取組      | 3.69 | 3. 学修の到達度 | 3.38 |
| 4. 学修の環境  | 3.62 | 5. 教員のフィードバック | 3.85 | 6. 学修の満足度 | 3.62 |
| 7. 事前学修時間 | 1.69 | 8. 事後学修時間     | 2.15 |           |      |

本講義が開講されて 3 年目となるが、授業の設計、学生の取組、学修の環境、教員のフィードバック、学修の満足度の点数が、3.5 以上となっており、基本的な授業の進め方については洗練されてきていると判断できる。どの点をさらに改善すればよいかを挙げるのは難しいところではあるが、より上を目指す場合は、事前・事後の学修時間を増やしていくことではないかと思われる。本講義は自分自身の身体に関連することが多く、興味を持って取り組んでもらえたと思われる。そこで、楽しかった、面白かったで終わらせることなく、興味を持った部分については、自分自身で掘り下げるようにすると、知識が定着してくはずである。このように、まずは復習の時間をより多くとるようにすれば、学修の到達度の点数も上がってくると思う。

**【自由記述（抜粋）】**

未知の部分が多い脳の範囲なので興味を持って取り組めた/レジュメに書き込みが出来るところがあるため内容の定着がしやすかった/質問に対して授業の最初に丁寧に答えてくれ嬉しかった/様々な質問とその解説が聞けたのでとても面白かった/他大学の先生からのお話で知らないことを知ることが出来た/こういった穴埋め冊子形式の授業は個人的にとっても学習がしやすかった

**生物無機化学**（応用バイオ科学科 2 年前期・選択）

応用化学生物学科 准教授 和田 理征  
 回答者数 22 名  
 水曜・2 限・3301 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.32 | 2. 学生の取組      | 3.18 | 3. 学修の到達度 | 2.68 |
| 4. 学修の環境  | 3.09 | 5. 教員のフィードバック | 3.59 | 6. 学修の満足度 | 3.14 |
| 7. 事前学修時間 | 2.27 | 8. 事後学修時間     | 2.36 |           |      |

この講義では、生体内で有機化合物が織りなす生命活動を維持するために、多種類の無機元素が関わっていることを学ぶ内容となっている。特に、タンパク質と金属イオンがどのような関わりを持っているのかを中心に講義を行っている。そのため学生は、有機化学と無機化学の内容をこの講義で同時に学ぶことになる。また、無機元素が生体内で結合すると、結合する元素によって構造や性質が変化することを理解しないとならず、アンケートの自由記述欄に「講義内容が難しい」と感じている学生が多かった。これは、「3. 学修の到達度」の値が 2.68 と低くなった要因とも考えられる。来年度は、無機化学だけでなく有機化学の内容も振り返りながら丁寧に講義を行いたいと思っている。

この授業では、授業終了後に振り返り演習や宿題として演習課題を提出させている。また次週に、振り返り演習の解説や manaba で演習課題の解答をアップしている。そのため「2. 学生の取組」や「6. 学修の満足度」は比較的高い値になっていると考えられる。来年度も振り返り演習と演習課題を行い、授業内容の理解度の向上を目指したいと思っている。しかし、事前事後の学修が「2.27」と「2.36」と低いので、振り返り演習と演習課題の内容を精査したいと考えている。

**高分子科学**（応用バイオ科学科 3 年前期・選択）

応用化学生物学科 准教授 和田 理征  
 回答者数 21 名  
 木曜・3 限・1302 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.52 | 2. 学生の取組      | 3.43 | 3. 学修の到達度 | 3.29 |
| 4. 学修の環境  | 3.05 | 5. 教員のフィードバック | 3.57 | 6. 学修の満足度 | 3.38 |
| 7. 事前学修時間 | 2.19 | 8. 事後学修時間     | 2.29 |           |      |

この講義では、高分子の重合の種類や名前の付け方、熱的および力学的性質などに関する内容を行っている。特に、高分子の物性やレオロジー、機能性高分子に関する内容を多く取り入れている。高分子は種類によって異なる性質をもつことを理解させるために、身近な PET ボトルやポリ袋、発泡トレイを例にして講義を行った。また、分子模型を用いてポリプロピレン構造を学生に作ってもらい、高分子のタクチシティーやコンホメーション、ニューマン投影法を理解させる工夫をした。学生のアンケート結果より、「興味を持って取り組めた」や「高分子の性質が知れてよかった」などの意見があり、一定の効果があつたと考えられる。しかしながら、「授業内容が難しい」の意見もあるので、もう少し図などを増やして説明を丁寧に行いたいと思っている。また、授業内演習や演習課題を提出させているが、「復習ができてよかった」との意見があり、来年度も引き続き行っていく予定である。しかし、事前事後の学修時間が「30 分程度」が多いため、演習課題の内容を検討したいと考えている。

**発生生物学基礎（応用バイオ科学科2年前期・必修）**

応用化学生物学科 准教授 柴田 大輔  
 回答者数 14名  
 金曜・1限・3302教室

本科目では、発生生物学の基本的な知識を学修することを目標に掲げ、できる限り分かりやすく、授業内で復習しながら目標が達成できるよう支援を行いました。

授業を終えての感想ですが、重要点を繰り返し学修したことで基本的な知識は身に付いたように感じました。また、テスト前には積極的に勉強している様子も見受けられ、発生生物学に興味を持ってもらえたのではないかと考えています。授業アンケートの集計結果からも全体的に内容が理解できているように思います。

**免疫化学（応用バイオ科学科3年前期・選択）**

非常勤講師 栗原 誠  
 回答者数 25名  
 木曜・1限・K2-1307教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.40 | 2. 学生の取組      | 3.20 | 3. 学修の到達度 | 3.20 |
| 4. 学修の環境  | 2.72 | 5. 教員のフィードバック | 3.48 | 6. 学修の満足度 | 3.20 |
| 7. 事前学修時間 | 1.96 | 8. 事後学修時間     | 2.24 |           |      |

私たちのからだは「免疫」によって守られていることを知らない人はいないと思いますが、その詳細を正しく理解している人は決して多くありません。そこで、この授業では先ず、免疫学で用いられている用語の定義の確認から行いました。伝えたい事柄が多く、一方的に情報発信した場合もあり、受け身になりやすかったと思うので、「学修の環境」が低いのはある程度うなずけます。今後は、より双方向の授業になるよう、授業計画を工夫していこうと思います。その他の項目については概ね及第点ではないかと思えます。

私たちは、「免疫」に関わる製品やニュースに日々接しています。皆さんの関心も高いと思うので、それらの「正しい理解」を目指し、学びを続けていってほしいと思っています。

**【自由記述（抜粋）】**

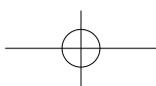
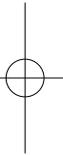
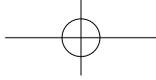
課題の解答が詳しく書かれていて理解しやすかった/レジュメがあるため授業内容の把握がしやすかった/詳しい資料があったのでわかりやすかった/プリントや資料が見やすかった/ノート綺麗にまとめられた/わかりやすく、とてもためになる授業だと思った/講義はわかりやすく難しいところを何度も説明してくれるので非常に助かる。良い授業だった/内容が難しかった

## V 担当教員からのコメント

### 【専門科目】

[健康医療科学部]

|              |     |
|--------------|-----|
| 看護学科 .....   | 141 |
| 管理栄養学科 ..... | 152 |
| 臨床工学科.....   | 158 |



## 看護学科

### 看護学概論（看護学科 1 年前期・必修）

看護学科 特任教授 前山 直美  
回答者数 52 名  
金曜・1 限・3407 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.83 | 2. 学生の取組      | 3.71 | 3. 学修の到達度 | 3.79 |
| 4. 学修の環境  | 3.88 | 5. 教員のフィードバック | 3.58 | 6. 学修の満足度 | 3.77 |
| 7. 事前学修時間 | 2.33 | 8. 事後学修時間     | 2.56 |           |      |

総合的にまずまずの授業評価だと考える。「看護学概論」科目は、看護学の基本とする専門科目である。看護の理念を構成する主要要素である「人間」「環境」「健康」「看護」の理解や看護職の歴史的な変遷、役割機能、専門性や責務、求められる倫理などは看護学を学ぶ上で欠かせない内容である。授業形態は学修目標を到達するために、視覚教材の活用や事前学修テーマをグループワークで共有し、その内容の全体発表およびディスカッションを行い、学びの深化を図る工夫を行った。教員は提出されたミニッツペーパーの内容から授業を振り返り、次回の授業に活かす努力を惜しまなかった。またミニッツペーパーの質問内容や感想等に対してはフィードバックを毎回行った。「5. 教員のフィードバック」評価が他の項目と比べて若干、低値である。フィードバックの仕方を再考していきたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

看護師として必要な知識と理解を深められたことで看護観にも結び付けることができた/学生の意見を反映した授業形態だったのがよかった/グループワークが多く、様々な観点から看護について考えることができ、自分の看護観の参考になりました/グループワークを通して、他の人の考えを知り、自分の考えをさらに広げることができた/発表を通してクラスの人の考えを知ることができてよかった/全体発表で多くの事を考えることができた/前回の授業の振り返りをしてから授業を進めて下さるのでわかりやすかったです/授業スライドがとてもわかりやすかったです/動画など流して理解を深められました

### 母性看護活動論（看護学科 3 年前期・必修）

看護学科 特任教授 前山 直美  
回答者数 42 名  
金曜・2 限・3405 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.62 | 2. 学生の取組      | 3.60 | 3. 学修の到達度 | 3.60 |
| 4. 学修の環境  | 3.52 | 5. 教員のフィードバック | 3.43 | 6. 学修の満足度 | 3.62 |
| 7. 事前学修時間 | 2.38 | 8. 事後学修時間     | 3.07 |           |      |

総合的にまずまずの授業評価だと考える。「母性看護活動論」科目は、母性看護学の展開に必要な基本的技術の習得と看護過程の展開技術の習得の 2 本柱で構成されている。基本的技術演習はグループワークを行い、看護過程の展開技術は個人ワークで行った。個人ワークの妊・産・褥婦及び新生児の看護過程では、書き方や考え方の理解を深める目的で「見本」を示し、説明した結果「2. 学生の取組」「3. 学修の到達度」「6. 学修の満足度」に反映されていると考える。「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」がともに 1 時間であったことから適切な量の事前および事後の課題提示であったと考える。

## 【自由記述（抜粋）】

アセスメントの視点がわかりやすく記載されていたため、どのようにアセスメントすべきかを理解しやすかったです/看護過程の展開する中で多くのことを学べた/意欲的に取り組むことができたと思う/先生の指導がわかりやすく、実習は大変で不安な点もあるが楽しんで看護を行いたいと思うことができた

## 地域・在宅看護援助論（看護学科3年前期・必修）

看護学科 教授 西田 幸典  
回答者数 43名  
金曜・1限・3405教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.55 | 2. 学生の取組      | 3.59 | 3. 学修の到達度 | 3.57 |
| 4. 学修の環境  | 3.59 | 5. 教員のフィードバック | 3.66 | 6. 学修の満足度 | 3.64 |
| 7. 事前学修時間 | 2.41 | 8. 事後学修時間     | 2.61 |           |      |

アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。「6.学修の満足度」を総合評価と考えれば、多くの学生にとって有意義な授業になっていたと思えました。具体的には、この科目は講義と演習で構成されていましたが、演習では、授業の前後で課題があり、「2.学生の取組」でも示されている通り、しっかりと取組んでいたと思えました。一方、「7.事前学修時間」「8.事後学修時間」が低いですが、授業時と演習時を平均した時間をあらわしているのかと思えました。その解釈が正しいのであれば、演習の事前事後学修はがんばったものの、授業の事前事後学修は少なかったのかと推測しました。また、授業のミニツッペーパーや演習課題に対するフィードバックに注力したことが、「5.教員のフィードバック」の評価から、学生の皆さんに届いたのではないかと嬉しく思います。一方、「1.授業の設計」について、シラバスに基づいて計画通り進めたのですが、皆さんの評価と教員の取組にやや解離があると思えました。来年度の参考にさせていただきます。

自由記述欄に、演習記録の提出方法、ミニツッペーパーのフィードバックの時間配分に関する意見は、来年度の授業に活かしたいと思えます。演習の記録物について、PCが使えると良かったという意見がありましたが、多くの学生がA3用紙での印刷が困難であることや、後期からの実習における記録が手書きであることなどを考慮して、手書きでの作成としました。

## 【自由記述（抜粋）】

実習や臨床に出ても活用できる知識を吸収できた（➡到達目標に達したようですね）/演習の時間やグループでの実施後の話し合いの時間が長すぎるように感じた（➡翌年度に活かします）

## 看護セルフマネジメント論（看護学科1年前期・必修）

看護学科 教授 新実 絹代  
回答者数 56名  
木曜・3限・3406教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.77 | 2. 学生の取組      | 3.77 | 3. 学修の到達度 | 3.73 |
| 4. 学修の環境  | 3.83 | 5. 教員のフィードバック | 3.64 | 6. 学修の満足度 | 3.84 |
| 7. 事前学修時間 | 2.54 | 8. 事後学修時間     | 2.79 |           |      |

「1.授業の設計」、「2.学生の取組」、「3.学修の到達度」、「4.学修の環境」、「6.学修の満足度」の5項目が3.7以上の評価で高い評価でした。自由記述欄の意見も「看護師になるために大切な学びを得た」、「自己肯定感があがった」、「自分自身のパフォーマンスを向上させたい」など意欲的な意見でした。授業方法についても、「小テストが多く良かった」、「演習、グループワークが多く良かった」、「授業前後のまとめが良かった」などの意見が多かった。本科目は、健康を支援

する看護職自身をセルフマネジメントできる能力を修得できることをねらいとしている。新カリキュラム科目で3年目を迎え、既成の教科書の販売もないため、授業者のオリジナリティで構築し試行錯誤してきたが、学生にとって有意義な科目となることが実現しつつあることは喜ばしく感じる。今後も科目運営は現在を踏襲し積み重ねていきたいと考える。

改善点は、小テストで理解度確認を行っているが、小テスト結果に個人差があることであり、全体の底上げが必要と考えている。「5. 教員のフィードバック:3.64」であり、3.7以下の唯一の項目であり、また、事前・事後学修時間も少ないことから、理解度を深める授業のまとめ、事前・事後学修の提示を工夫していきたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

看護師になっても活かせる授業内容/自分を変えられるようなアドバイスがあった/看護師になる将来展望とともに今何をすべきか考えられた/小テストが多くて良かった/授業の振り返りがあり分かりやすい/資料がわかりやすい/授業内のゲームが良かった/グループワークで仲間の意見が知れ楽しかった/グループワーク発表で理解が確かなものとなった/

#### 看護のための人間工学（看護学科1年前期・必修）

情報システム学科 教授 高橋 勝美  
回答者数 60名  
月曜・2限・3407教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.63 | 2. 学生の取組      | 3.45 | 3. 学修の到達度 | 3.43 |
| 4. 学修の環境  | 3.20 | 5. 教員のフィードバック | 3.28 | 6. 学修の満足度 | 3.57 |
| 7. 事前学修時間 | 1.77 | 8. 事後学修時間     | 2.12 |           |      |

この科目の学習・教育目標は、看護師となる本人自身の腰痛予防のために、身体動作が起こる生理学的仕組みや力学的特徴を理解することで、看護における効率の良い動作を学ぶことである。学習・教育目標を達成させるための授業の工夫は、看護対象となる弱者を取り巻く環境や、それに対する国や県の施策を含め、初めて学ぶ人間工学という分野に興味を持たせることである。授業を常に受講している人数は約80名であり、学生全体に目が届き難いため、常に授業内で学生とコミュニケーションをとる形態を意識し、授業内容について理解できたかを確認しながら授業を進めている。その観点からアンケートの集計結果を評価すると、「授業の設計；3.63」、「学修の到達度；3.43」、「学修の満足度；3.57」であり、ある程度授業を行う上での目標の成果があげられていると考える。事前・事後学修時間を除いた他の設問項目においても3.20～3.45の平均点であり、学生に対して授業内容や方法が受け入れられたのではないかと考える。ただ、事前及び事後学修への取り組みが低く、今後、この評価を向上させる授業に努めることを実感する。

#### 看護技術総論（看護学科1年前期・必修）

看護学科 教授 金子 直美  
回答者数 58名  
月曜・2限・101/103教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.74 | 2. 学生の取組      | 3.83 | 3. 学修の到達度 | 3.71 |
| 4. 学修の環境  | 3.41 | 5. 教員のフィードバック | 3.47 | 6. 学修の満足度 | 3.71 |
| 7. 事前学修時間 | 2.64 | 8. 事後学修時間     | 2.88 |           |      |

本科目は、看護実践における技術の概念的理解をと看護共通技術を習得することを目的とし、授業を行いました。初めて経験する大学での看護演習の緻密さに戸惑われたのではないかと思います。しかし、事前学修や演習中の皆さんの態度から、熱心に取り組んでいると感じていました。学修の到達度や満足度の評価が高いことから何えます。

また、イメージしやすいように教員のデモンストレーションを取り入れた形で今年度は授業を展開しました。自由記述の中に、「ナーシングスキルで見た工程を、先生方が実践して教えて下さったのでとても分かりやすかった。」との記載が多数ありました。皆さんの技術理解の一助になったと評価し、次年度も続けていきたいと思えます。

#### 【自由記述（抜粋）】

演習ノートのおかげで、内容を頭に入れやすかったです/実技の時に、1度先生が見本でやってくれたのを学生の練習時間にモニターに流してくれるのがとてもやりやすくて助かりました。また、練習時間に先生が回ってきて改善点を教えてくれることで、演習から本番により近い実技を身につけられた気がしました。/みんなで協力して、アドバイスしあったり、励まし合ったり、人間性も見つめ直すことができ、更に技術を見つけられてよかったです

#### 生活援助技術Ⅰ（看護学科1年前期・必修）

看護学科 教授 金子 直美  
回答者数 56名  
月曜・1限・101/103 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.82 | 2. 学生の取組      | 3.82 | 3. 学修の到達度 | 3.75 |
| 4. 学修の環境  | 3.57 | 5. 教員のフィードバック | 3.57 | 6. 学修の満足度 | 3.84 |
| 7. 事前学修時間 | 2.95 | 8. 事後学修時間     | 2.91 |           |      |

本科目は、生活行動の援助技術とは何かを理解し、技術の3要素を学ぶことを目的とし、授業を行いました。看護技術総論とは違い、人への援助となります。そのため、細心の注意を払いながら準備、実施、片付けが必要になります。学生の取組や学修の到達度、学修の満足度の評価が高いことから、より安全・安楽・自立の重要性と考慮した援助方法について学びが深まったことが伺えます。

授業の途中で早期体験実習があるため、技術テストの練習があまり出来ない状況でした。授業設定上、これ以上の練習期間を設けることは困難なので、空コマを活用する等効率のよい練習を心がけていただければと思います。

#### 【自由記述（抜粋）】

実技前にデモンストレーションをしてくれる所が、ナーシングスキルだけでは分かりづらかった所を復習することができてよかったです。/私が分からなかった時は分かりやすく教えてくれ、実際にやって教えてくれる時もあったので分かりやすかった。/演習練習の時に先生が見回りして改善点教えてくれるのが分かりやすくてとてもよかったです。/演習室を借りて自主練習をすることができるのでとてもよかったです。しかし実習前の週におむつ交換について教えてもらったということもありシーツ交換の時ほどは練習できなかったのが悔やまれる。

#### 診療の補助技術（看護学科2年前期・必修）

看護学科 教授 金子 直美  
回答者数 74名  
木曜・1限・101/103 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.38 | 2. 学生の取組      | 3.49 | 3. 学修の到達度 | 3.32 |
| 4. 学修の環境  | 3.38 | 5. 教員のフィードバック | 3.28 | 6. 学修の満足度 | 3.46 |
| 7. 事前学修時間 | 2.88 | 8. 事後学修時間     | 2.78 |           |      |

本科目は、診断・治療過程における看護の役割を理解し、科学的根拠をふまえて、診断・治療に伴う看護技術を安全・安楽に実施するための基本的な知識と技術を修得することを目的とし、

授業を行いました。清潔・不潔の操作、採血等患者の安全のみならず、自身の安全にも考慮しなければいけない複雑な手技が多く、また解剖学が理解出来ない授業修得が困難な科目なため、大変だったかと思います。また、身だしなみが整わず、授業開始に時間がかかり、学生の演習時間が削られる、休み時間が削られる、また予定していた授業が行えない等の問題もありました。演習の際、身だしなみや授業を受ける態度が重要視されるのかを今一度振り返っていただければと思います。準備物品など、連絡が遅くご迷惑をおかけいたしました。ガイダンス時に提示できるよう、次年度は準備をしていきたいと思っています。

【自由記述（抜粋）】

説明がたまに分からなくなるときがあった。/ワーク冊子の物品準備のところは個数も記載してもらえるとやりやすいと思います。/演習の際に先生たちがデモンストレーションしてくださって、重要な点やポイントを指導してくださったので、理解が深まった。/先生たちがお手本を分かりやすく見せてくださったので、とても分かりやすく、演習中に悩んだり困ることが少なくて安心しました。iPadで撮影してくれているのも見やすく、良かったです。

看護過程（看護学科2年前期・必修）

看護学科 教授 金子 直美  
回答者数 78名  
月曜・3限・2305教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.26 | 2. 学生の取組      | 3.36 | 3. 学修の到達度 | 3.05 |
| 4. 学修の環境  | 3.31 | 5. 教員のフィードバック | 3.47 | 6. 学修の満足度 | 3.29 |
| 7. 事前学修時間 | 3.51 | 8. 事後学修時間     | 3.72 |           |      |

本科目は、系統的な情報収集に基づき、問題解決技法のひとつである「看護過程」を活用しながら、看護診断の基礎知識を身につけるとともに、看護診断の視点で考えられる基礎知識を修得することを目的とし、授業を行いました。看護を実践するためには、実践する看護の根拠が必要となります。そのために、解剖生理、病態生理、疾病治療学の知識をもとに分析をしていく必要があります。1年次からの学びを統合できなければ、この科目の修得は困難であり、履修された皆様も苦労されたかと思います。看護過程に関する冊子には、考え方や記録用紙の記載方法が掲載されておりますので、あえて資料を提示いたしませんでした。しかしこれについて分かり辛いとのコメントもありました。また、先生によって言っていることが違うとのコメントもありました。途中から学生の理解度に関きが出てきたため、急遽個人指導に変更しました。学生の習熟度に合わせて指導をしましたので、説明方法等違ったために、違うこと言っていると思われたのだと考えます。説明された内容の本質を考えていただければと思います。また、午前中も授業をしている関係で、午後の始まりに間に合わないことがありました。これについては、次年度は改善していきたいと考えています。

【自由記述（抜粋）】

質問に何回も丁寧に対応してくれたところがよかった/もっと時間を多くとってほしい内容量でした。/修正の仕方や看護問題の出し方などを後付けして指導するのではなく、初めから大事なポイントは説明して教えてほしい/先生によって視点が様々だった。どれを信じてやったらいいのかよくわからなかった。

**認知症ケア論（看護学科4年前期・選択）**

看護学科 教授 金子 直美  
回答者数 22名  
月曜・1限・3403教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.86 | 2. 学生の取組      | 3.86 | 3. 学修の到達度 | 3.91 |
| 4. 学修の環境  | 3.77 | 5. 教員のフィードバック | 3.77 | 6. 学修の満足度 | 3.86 |
| 7. 事前学修時間 | 2.73 | 8. 事後学修時間     | 3.00 |           |      |

本科目は、認知症高齢者のQOLの向上に向け、認知症の進行と日常生活・社会に適応するための生活環境の整え方や進行に伴う行動変化への看護を学ぶことを目的とし、授業を行いました。今までの授業、臨地での学びをふまえて授業に臨んでいただきました。評価項目のほとんどの項目が高得点であることからこの授業を通して、様々な認知症ケアへの発見と理解に結びついたのではないのでしょうか。ますます認知症の患者さんは増えていきます。この学びをふまえて、よりよい看護を提供いただければと思います。

**【自由記述（抜粋）】**

自分が知りたいと思っていたことを聞くことができたので、履修してよかったと思いました。/選択授業ではあったのですが、認知症について深く知識を深めることが出来たので、とても充実した授業でした。特に授業で見た動画によってより内容を理解することができ、とても面白かったです。/授業で見た動画によってより内容を理解することができ、とても面白かったです。

**公衆衛生看護管理論（看護学科4年前期・保健師課程必修）**

看護学科 特命教授 村中 峯子  
回答者数 8名  
水曜・4限・307演習室

本科目は保健師養成の指定規則でも、社会の構造・機能、組織や施策の理解の基礎となる科目として、重要な位置づけとなっています。その中で、【授業の設計】、【学生の取組】【教員のフィードバック】【学修の満足度】において、4.0であったことは、履修者のみなさんの意欲の高さの表れと理解できました。しかし、【学生の取組】が3.75、【学修の到達度】が3.88と、改善の余地が見られました。これは、学生間のディスカッションの時間が十分確保できなかったことや、関連実習により授業期間が空く間の課題提示のあり方に工夫が必要であったと考えます。今後は、個々の学生が関連する資料や動画を事前事後学修で確認し、学びを深めて授業に臨めるよう、課題の提示を工夫するなどして、より充実した学びが得られるよう努めたいと考えます。また、演習なども多用し、自ら考え、学生間で共有・精錬を図る授業を目指します。

**保健医療福祉行政論（看護学科3年前期・保健師課程必修）**

看護学科 特命教授 村中 峯子  
回答者数 13名  
月曜・2限・K4-4201教室

本科目は、保健医療福祉に関する各種の法律や多様な制度や、行政の仕組みから地域診断・事業企画など、幅広く、深く理解することが必要なことから、苦手意識をもつ学生が多い科目です。その一方で、保健師国家試験はもとより、看護師国家試験でも「健康支援と社会保障制度」として、近年、出題数が増える傾向にある科目でもあります。そこで、授業では、できる限り、履修者のみなさんが、様々な制度やその制度の根本となる法律の主旨と私たちの暮らしが、どう関係しているのか、看護職となったときに、どのように自身の看護に活かしていけるのかといったことが理解できるように務めました。その結果、回を重ねるごとに、ミニットペーパーに、自身の体

験と各種法制度を結びつけて、理解し考え、時に「こうなるとよいのではないか」といった記述が多く見られたことは、大変、喜ばしいことでした。しかし、【学修の到達度】は3.54、【学修環境】は3.69に留まりました。学生間の意見交換のあり方などには、改善の余地があります。今後はより、学生間での活発なディスカッションの礎となる事前・事後学修課題の提示などの工夫を行います。また、ディスカッションへのフィードバックを丁寧に行うなど、より満足度の上がるよう、改善を図っていきたいと考えます。

#### 【自由記述（抜粋）】

意欲的に取り組むことができ、授業内容、指導方法共に充実した授業だったと感じています。ありがとうございました。← 教員のほうこそ、みなさんの学びの姿勢に良い刺激をもらいました。引き続き、よい学修を納めてください。

#### 精神看護活動論（看護学科2年前期・必修）

看護学科 准教授 田代 誠  
回答者数 54名  
火曜・2限・3502教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.70 | 2. 学生の取組      | 3.67 | 3. 学修の到達度 | 3.61 |
| 4. 学修の環境  | 3.76 | 5. 教員のフィードバック | 3.74 | 6. 学修の満足度 | 3.74 |
| 7. 事前学修時間 | 2.17 | 8. 事後学修時間     | 2.72 |           |      |

「6.学修の満足度」を総合評価と考えれば、高い評価をいただいた。授業設計も明確であり、グループワークを十分に取り入れた演習を実施したことで、[学生の取組][学修の到達度]の評価が高いと考える。何を理解しなければならないか、学習目標を提示しながら、授業内での簡潔するものと、継続して考え学修しなければならないものの二本立てでの授業計画であり、しっかりと提示したことおよび[教員のフィードバック]を的確に実施したことで効果をもたらしたと考える。自由記述欄からグループワークに対する好意的印象を持ち学修が深まったことを示す意見も多かった。次年度からもグループワークを活用した授業設計を行いたい。

一方、「7.事前学修時間」での評価が芳しくなく、これと[8.事後学修時間]の評価を併せて考えると、課題への取り組み方の不明瞭さが学生の事前・事後の学修を阻害している可能性が考えられる。毎回の授業時のみに学修目標が終結し、継続した学修内容がうまく設定できておらず、そのため課題が適切に機能していない可能性もある。次回開講時には、課題が明確に分かるような授業設計と運営を心掛けたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

他の領域とは違い看護過程をグループワークで行えたのが良かった。他の人の意見も取り入れながらできた/定期的にグループ内で話し合いの場を設けているため、他の人の意見を知り交流することが出来ました/配布資料がわかりやすい/精神看護学って面白いなと思える授業でした/2年時より深く学ぶことができとても面白かった

#### 災害看護学（看護学科3年前期・必修）

看護学科 准教授 奈良 唯唯子  
回答者数 46名  
水曜・2限・3405教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.61 | 2. 学生の取組      | 3.63 | 3. 学修の到達度 | 3.80 |
| 4. 学修の環境  | 3.70 | 5. 教員のフィードバック | 3.52 | 6. 学修の満足度 | 3.52 |
| 7. 事前学修時間 | 2.41 | 8. 事後学修時間     | 2.65 |           |      |

本科目は近年、災害が発生している、また災害発生の可能性のある状況において学生の関心が高い授業と考えます。【授業の設計】の評価から講義だけでなく、応急処置やトリアージの演習を組み入れ授業を展開したことで、より災害時の状況をイメージできたことや授業の目標を明確化したことが【学修の到達度】に繋がったのではないかと考えます。しかし、【授業の満足度】から、災害医療の特殊性から難しさや資料の見づらさなどが影響したのではないかと考えるため改善を図っていききたい。事前・事後学修時間からは、学生が継続して学び、日常生活でも活用できるような授業設計(授業を通して学生自身の災害対策を考えるなど)を検討していききたいと考えます。

#### 【自由記述(抜粋)】

将来、救急や災害の現場で働きたいと考えているため、とても楽しく深く学べた授業だった。/ありがとうございます。/とても勉強になりました。/特にありません/  
 ⇒ありがとうございます。学生の皆さんが授業で学んだ知識を活かせるよう、またより現実的に学べるよう演習も取り入れて授業を展開していききたいと考えております。  
 資料やメール、テストで誤字が多いです。/前に表示されるパワーポイントの背景色が緑色で見づらかったです。白の方がいいのではないかと思います。  
 ⇒申し訳ありません。授業前に確認して学生の皆さんが見やすいよう準備するよう心がけます。

#### 成人看護援助論(慢性期)(看護学科2年前期・必修)

看護学科 講師 久松 桂子  
 回答者数 53名  
 月曜・2限・2305教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.55 | 2. 学生の取組      | 3.45 | 3. 学修の到達度 | 3.47 |
| 4. 学修の環境  | 3.15 | 5. 教員のフィードバック | 3.43 | 6. 学修の満足度 | 3.43 |
| 7. 事前学修時間 | 2.28 | 8. 事後学修時間     | 2.47 |           |      |

100分授業となり回数が減り、内容は吟味したが実際は非常にボリュームのある内容であったと思う。聴講だけでも大変だったと思う。事前事後学修時間が不足したように評価されているが、授業では100分を少しずつ区切り、確認問題を実施、解説することで自己学修の不足を補えたのではないかと考える。また、確認問題に関連した到達度試験問題の正答率はよかった。周囲と相談する機会を設けることで、理解ができたと考える。次年度も実施したい。

一方、自己学修を実施する工夫を次年度の課題としたい。質問に対するフィードバックは必ず行っていたが、点数に反映されていなかったため、原因を振り返りたい。

#### 成人看護援助論(急性期)(看護学科2年前期・必修)

看護学科 講師 窪田 光枝  
 回答者数 68名  
 火曜・1限・3403教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.46 | 2. 学生の取組      | 3.34 | 3. 学修の到達度 | 3.13 |
| 4. 学修の環境  | 2.68 | 5. 教員のフィードバック | 3.15 | 6. 学修の満足度 | 3.28 |
| 7. 事前学修時間 | 2.35 | 8. 事後学修時間     | 2.57 |           |      |

「4.学修の環境」での評価が芳しくなかったのは、設定された授業時間数に対して学修内容が多く、教員が解説する時間が多くなり、学生が意見を述べる機会を授業内に設けることができなかつたためだと考えられる。その代わりとしてミニットペーパーを活用し、ミニットペーパーに書かれた事柄については次の授業内で回答するように対処したが、次回開講時には他の方法についても検討したい。また、学修内容については、実習や国家試験等を考えると内容を減らすこと

は難しいため、次回開講時にはより学生が学びやすい授業となるよう、授業設計と運営を検討する。

また、「7. 事前学修時間」「8. 事後学修時間」の結果より、事前事後学修の時間を十分に確保することが難しかったことがうかがえる。この原因として、自由記述にもあるように、開講時期が実習直前であったこと、1週間に4コマ開講であったことなどが挙げられた。開講時期（2年前期）の変更は難しいと考えるが、時間割の工夫（1週間に2コマ以内など）や事前・事後課題の内容について検討し、改善を図りたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

実習直前ではなく、もっと前から講義を受けたかった（2）/授業数が少ないのに内容が多い（5）/授業のスピードが速すぎてついていけない（6）/早口でわかりづらい（2）/授業時間に対して授業内容・授業資料が多すぎて、どこが重要なかわかりづらい（4）/理解すべき内容が多いので、もっと時間をかけてゆっくりやってほしい（2）/授業内容が多く苦戦したが、説明はわかりやすい（1）/生徒のペースに合わせて授業を進めてくれたので理解が深まりやすかった（1）

#### 老年看護援助論（看護学科1年前期・必修）

看護学科 講師 佐口 清美  
回答者数 76名  
金曜・3限・2105教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.38 | 2. 学生の取組      | 3.18 | 3. 学修の到達度 | 3.20 |
| 4. 学修の環境  | 3.37 | 5. 教員のフィードバック | 3.12 | 6. 学修の満足度 | 3.30 |
| 7. 事前学修時間 | 2.29 | 8. 事後学修時間     | 2.38 |           |      |

本科目では、老年期の身体、精神、心理、社会的特徴をふまえ、老年期に発症しやすい健康問題や疾病を理解するとともに、高齢者および家族の「その人らしさ」を尊重した看護実践を習得することを目的に授業を行いました。高齢者世帯の実際をインタビューや動画を取り入れ「その人らしさ」を尊重できる姿勢を育めるようにしました。また、臨床場面の実際を伝えることで、高齢者の疾患理解を補いました。しかし、資料が多い、授業が2コマ続きだと覚えられないとの記載もあり、「2. 学生の取組」「3. 学修の到達度」「6. 学修の満足度」の評価から、事前・事後学修も含め、一度に取り組む学修内容が多かったと考えています。次年度は授業進度を学修内容に合わせたかたちで改善したいと考えています。

#### 【自由記述（抜粋）】

先生が生徒のペースに合わせて授業を進めてくれていた/理解が深まりやすくよかった/2コマ連続だと覚えられないものも覚えられない/レジュメが多い/最終的には国試で試験なので国試形式でテスト出して欲しい

#### 看護のための数学基礎（看護学科1年前期・選択）

基礎・教養教育センター 基礎教育講師 谷戸 光昭  
回答者数 57名  
月曜・3限・3402教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.60 | 2. 学生の取組      | 3.54 | 3. 学修の到達度 | 3.47 |
| 4. 学修の環境  | 2.86 | 5. 教員のフィードバック | 3.67 | 6. 学修の満足度 | 3.53 |
| 7. 事前学修時間 | 1.89 | 8. 事後学修時間     | 2.35 |           |      |

本科目は看護実習で用いられる数学や看護師国家試験に出題される数学を学ぶ科目である。講義演習を6回行い、最後の7回目に期末試験を実施した。

「授業の設計」については、アンケートの点数も高く、特に問題は無かったと考えられる。実際、授業回数が昨年に比べて1回減ったものの、昨年と同じ内容を消化することができた。

授業回数減少に伴い、レジュメの再構成や配布物の見直しなどを行った。昨年まではレジュメと課題提出用プリントの2種類を配布していたが、今年はそれらに加えて、例題の解法が書き込めるプリントを用意した。その結果として課題の提出率の向上が見られ、「学修の到達度・満足度」の高得点に繋がったと考えられる。

自由記述欄は概ね好意的であった。「私語が多い」については、座席自由の影響が大きかったと考えられる。今後、座席指定も検討したい。また、「答えの途中式を manaba にも載せて欲しい」については、例題と数値が異なるだけの課題については、途中式を省いた解答を manaba に載せていた。今後、途中式を載せることも検討したい。

#### 【自由記述（抜粋）】

1問1問に対する解説が丁寧で有難かった／基礎を丁寧に教えていただいたので、課題を解きやすかった／自分で解く時間があって身につけやすかった／難しい問題が多かったけどプリントをゆっくりやったり先生の板書を見たりすると理解出来ることが多くて楽しかった／理解できていないのか出てないのか分からないけど、模擬プリントやってみたから割と解けた。国家試験でも使うと思うのでプリントは捨てずに取っておきます／自由席だったため、授業中の私語が気になった／挙手するタイミングを作ったら私語が少なくなりそう／答えの途中式を manaba にも載せて欲しい

#### 保健統計学Ⅰ（看護学科4年前期・選択）

非常勤講師 守田 憲崇  
回答者数 45名  
木曜・2限・3502教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 2.84 | 2. 学生の取組      | 2.58 | 3. 学修の到達度 | 2.20 |
| 4. 学修の環境  | 2.04 | 5. 教員のフィードバック | 2.20 | 6. 学修の満足度 | 2.29 |
| 7. 事前学修時間 | 1.93 | 8. 事後学修時間     | 2.44 |           |      |

評価は、「1. 授業の設計」が1番高い結果であった。シラバス通りに行えたことが評価されたと考えている。

一方、「4. 学修の環境」、「7. 事前学修時間」、の評価が低かった。授業は、講義形式で知識を紹介することに多くの時間が割かれていたためだと考えている。今後は、事前学修を促すための授業開始時の小テスト、これらの小テストの解説を授業に組み込むことで質問等の機会を設けて「4. 学修の環境」、「7. 事前学修時間」について向上を図りたいと考えている。

#### 保健統計学Ⅱ（看護学科4年前期・選択）

非常勤講師 守田 憲崇  
回答者数 62名  
木曜・3限・3502教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.47 | 2. 学生の取組      | 3.11 | 3. 学修の到達度 | 2.89 |
| 4. 学修の環境  | 2.35 | 5. 教員のフィードバック | 2.85 | 6. 学修の満足度 | 3.27 |
| 7. 事前学修時間 | 2.18 | 8. 事後学修時間     | 2.77 |           |      |

評価は、「1. 授業の設計」が1番高い結果であった。シラバス通りに行えたことが評価されたと考えている。

一方、「4. 学修の環境」、「7. 事前学修時間」、の評価が低かった。授業は、講義形式で知識を紹介することに多くの時間が割かれていたためだと考えている。今後は、事前学修を促すための授

業開始時の小テスト、これらの小テストの解説を授業に組み込むことで質問等の機会を設けて「4. 学修の環境」、「7. 事前学修時間」について向上を図りたいと考えている。

### 形態機能学Ⅰ・Ⅱ（看護学科1年前期・必修）

非常勤講師 片山 久王

回答者数 62名

水曜・1限/金曜・2限・3406教室

形態機能学Ⅰ・Ⅱではこれから看護師を目指す皆さんに人間のからだの構造と仕組みを知ることが目標として講義を組み立てていきました。

看護師になれば否応なく診ていくことになる患者の身体に対して、まずは病気になっていない状態がわからなければ始まらないので嫌いになることなく興味が出るように文字だけでなくイラストや写真などのビジュアル面について特に意識をおいてレジュメの作成を行っていきました。

そして形態機能学Ⅰでは各講義の最後に確認ミニテストを盛り込むことで入学間もない皆さんに学習内容が定着することを意識しました。

形態機能学Ⅱでは学んだ内容をアニメ「はたらく細胞」を視聴して身体の中で起きていることをアニメという世代的に親近感のあるコンテンツを使用することで形態機能学Ⅰとは違う形で学びが深められるように配慮してみました。

なお、自由記述欄では、レジュメと普段の生活での体のはたらきを実例で説明することで理解が深めた。と一定の評価があったようでよかったです。

また看護師国家試験を早い段階から意識できるように学習習得試験を国家試験問題で出題されたことも今後の学生生活で使える教材になったと言ってもらえてよかったです。

ただ、座席後方の方にスライドが見にくかったようなのでこの点は改善できればと思いました。

これからの病理や看護論への基礎土台として活用してください。

#### 【自由記述（抜粋）】

分かりやすく、丁寧で理解しやすかったです。大事なポイントを国試を踏まえて教えて貰えて、国試ってこんななんだなとわかることができ良かったです/問題集やレジュメが分かりやすくまとめられていて学習の助けになりました。/スクリーンの文字が少し薄くて見づらかったです。電気をもう少し消してくれると嬉しいです/働く細胞のおかげ覚えられたことがかなりあった。今後もやって欲しい。/前回の講義の復習から講義に入って下さるのでとても分かりやすかったです。先生の臨床での経験談を話して下さるのがとても面白かったです。

## 管理栄養学科

### 微生物学（管理栄養学科1年前期・選択）

管理栄養学科 教授 澤井 淳  
回答者数 26名  
火曜・2限・3101教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.77 | 2. 学生の取組      | 3.22 | 3. 学修の到達度 | 2.99 |
| 4. 学修の環境  | 3.47 | 5. 教員のフィードバック | 3.66 | 6. 学修の満足度 | 3.69 |
| 7. 事前学修時間 | 1.57 | 8. 事後学修時間     | 2.11 |           |      |

食の安全に関わる微生物の特性が理解できるよう、それが2年次の食品衛生学、大量調理の講義・実習、さらに臨地実習に繋がること、本科目の設置意義です。本年度は微生物学、化学に加え食品製造学までを盛り込んでテキストおよび内容を一新しました。また、食品添加物を理解するための化学的な取り扱い、増殖や死滅の計算、さらに概算などの内容も沢山盛り込んでいます。講義では、説明に当たって皆さんの生活と関連させ、事例を多く話すように意識しています。今年説明のための雑談が多くなってしまいました。自覚しています。

そして今年は盛り込みすぎたことを自覚しております。準備した演習も実際は時間の都合でできなかったモノもあり、来年度は内容を精査して望みたいと思います。

昨年度とは講義形態・内容が変わっているため単純には比較できませんが、全体としては点数が下がりました。これは盛り込みすぎてしまったことが原因と考えます。次年度は動画等も取り入れ、ハイブリット型の講義を行って行きたいと思います。

#### 【自由記述（抜粋）】

演習のおかげで覚えやすかった。/先生がやさしくて良かったです（←それは勘違いです）。

### 食品衛生学（管理栄養学科2年前期・必修）

管理栄養学科 教授 澤井 淳  
回答者数 24名  
月曜・3限・オンラインリアルタイム

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.63 | 2. 学生の取組      | 3.50 | 3. 学修の到達度 | 3.54 |
| 4. 学修の環境  | 2.79 | 5. 教員のフィードバック | 3.33 | 6. 学修の満足度 | 3.13 |
| 7. 事前学修時間 | 1.83 | 8. 事後学修時間     | 1.92 |           |      |

本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目であるだけでなく、3年次における臨地実習に出るためにも必ず単位を取得しなければならない科目です。講義では、管理栄養士国家試験ガイドラインの範囲を網羅し、さらに教科書にはまだ掲載されていませんが、今後重要になってゆく課題についても、皆さんの生活と関連させ話すようにしました。本科目の覚えるべき内容はかなり多いので、なるべく関連した話や体験談を盛り込み、無機質な項目の羅列にならないよう気を付けています。

今年、5, 6のフィードバック、学修の満足度が下がりました（それぞれ0.4↓と0.2↓）。14回になって授業内容を組み替え、授業内で完結させることが多く、5のフィードバックをする機会が減少したことが要因かと思えます。次年度はテキストを変更し、今年反省点も踏まえ、内容を一新する予定です。

#### 【自由記述（抜粋）】

澤井先生の授業は、分かりやすく、1番楽しく学ぶことが出来る授業でした。

**化学基礎（管理栄養学科1年前期・必修）**

管理栄養学科 教授 澤井 淳  
 回答者数 25名  
 金曜・1限・3103教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.72 | 2. 学生の取組      | 3.68 | 3. 学修の到達度 | 2.64 |
| 4. 学修の環境  | 3.04 | 5. 教員のフィードバック | 3.76 | 6. 学修の満足度 | 3.44 |
| 7. 事前学修時間 | 2.12 | 8. 事後学修時間     | 2.25 |           |      |

今年度から新たに基礎化学の講義を担当することになりました。久しぶりの基礎化学講義であり、プレイズメントテストの皆さんの点数は把握していたものの、実際の力を手探りで感じながら進めてきました。講義では、原子の構造、周期表、化学結合、物質質量（モル）、濃度計算、酸・塩基、酸化還元、状態図といった基礎的な内容を一通り取り扱いました。

まず反省点として、1年目にありがちなのですが、内容を詰め込みすぎたことが挙げられます。テキストに多数の演習問題を付け加え、さらに追加の演習も行いましたが、時間に対して多すぎたかもしれません。

ただ、特に濃度計算などは、多くの演習をこなすことで初めて身につくものです。これは今後もどこへ行っても必要なスキルですので、いつでも対応できるように、刀を研いでしっかりと準備をしておいてください。

授業評価については、今年度から担当した科目のため昨年との比較はできませんが、次年度は内容をもう少し絞り、評価を向上させたいと考えています。

**【自由記述（抜粋）】**

演習をできればすべて解説してほしいです。（←大変申しわけございません、演習の解説一回分、確かに私が勘違いしておりました。）/先生が厳しくも丁寧に指導してくださいました。

**栄養生命科学概論（管理栄養学科1年前期・必修）**

管理栄養学科 教授 饗場 直美  
 回答者数 34名  
 火曜・3限・3601教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.59 | 2. 学生の取組      | 3.41 | 3. 学修の到達度 | 3.59 |
| 4. 学修の環境  | 3.91 | 5. 教員のフィードバック | 3.68 | 6. 学修の満足度 | 3.59 |
| 7. 事前学修時間 | 2.76 | 8. 事後学修時間     | 2.79 |           |      |

学生の総合的評価として「学修の満足度」から見ると、学生はおおむね本科目に対して満足していると考えられる。特に、本科目においてはアクティブラーニングを取り入れ、学生主体での調べ学習、まとめ学習、討議、発表で構成していることが、「学修の環境」の非常に満足の高い評価や「学生の取組」の高い評価につながり、今後もこの方針を踏襲していきたい。また、レポートも添削した後一人一人に学生に返していることや、今年度取り入れた授業後のルーブリック式授業評価をミニットペーパーとして行い、教員の意図と異なる理解をしている場合には、次回の授業において再度振り返り、学生の理解を正しい方向性に導いたことにより、「学修の到達度」や「教員のフィードバック」の評価も高かったと考える。毎回の授業において、レポート作成または課題を明確にしておいたことから、多くの学生が事前、事後学修として1.5時間以上を選択していることから、授業の振り返り及び事前準備を十分に行っており、授業時間内での討議も活発に行われていた。レポート作成について、学生の負担を考え、字数制限を設けたことから、適度な学修時間であったと考える。

**栄養教育論Ⅱ（管理栄養学科3年前期・必修）**

管理栄養学科 教授 饗場 直美  
 回答者数 37名  
 水曜・2限・3603教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.57 | 2. 学生の取組      | 3.51 | 3. 学修の到達度 | 3.41 |
| 4. 学修の環境  | 3.51 | 5. 教員のフィードバック | 3.57 | 6. 学修の満足度 | 3.59 |
| 7. 事前学修時間 | 1.51 | 8. 事後学修時間     | 1.73 |           |      |

学生の総合的評価として「学修の満足度」から見ると、学生はおおむね本科目に対して満足していると考えられる。特に、本科目は、管理栄養士国家試験の科目であることから、学修時から国家試験への応用を常に念頭に置いて、毎回新たな内容について試験問題へ展開していることから、どのようなことを理解すべきかについて学生が明確に理解でき、「学修の到達度」及び「学生の取組」として高い評価を得たものと考えられる。また、今年度から取り入れた授業後のルーブリック式授業評価をミニットペーパーとして行い、教員の意図と異なる理解をしている場合には、次の授業において再度振り返り、学生の理解を正しい方向性に導いたことにも「学修の到達度」の高い評価につながったと考える。

「学修の環境」においては、学生参加式の授業を展開し、教員の問いかけに対しての、学生の意見交換や発表を行うことにより、授業への参加を促すことが可能となり、良い評価であったと考えられる。事前及び事後学修時間としては、あまり長くないが、管理栄養学科では多くの実習等が同じ3年前期に配置されており、効率的な学修方法として、栄養教育論Ⅰ（2年後期）から、勉強方法やノート作成法について教授しており、効率的な学修ができていると考える。しかしながら、事前事後学修時間が「ほぼ0分」という学生もいることから、より良い授業での理解に向けて、簡単にできる課題等によって、事前事後学修として30分程度を確保していきたい。

**生化学Ⅱ（管理栄養学科2年前期・必修）**

管理栄養学科 教授 清瀬 千佳子  
 回答者数 24名  
 月曜・4限・3407教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.42 | 2. 学生の取組      | 3.25 | 3. 学修の到達度 | 3.08 |
| 4. 学修の環境  | 2.42 | 5. 教員のフィードバック | 2.83 | 6. 学修の満足度 | 3.17 |
| 7. 事前学修時間 | 1.75 | 8. 事後学修時間     | 2.13 |           |      |

「6.学修の満足度」を総合評価と考えれば、少し低めかなと感じた。本科目は管理栄養学科の中でも専門基礎科目の1つである事から、教科書を中心に語句や内容の理解を中心に授業を組んでいる事から、なかなか、意見を発表したりする場を設けていない。【学修の環境】のポイントが低いのもそこからきていると推察される。授業の終わりには質問や疑問を個別に受ける時間を取っているが、なかなか活用されていないので、その点をもう少しアピールしたいと思う。【事前学修時間】がほとんど取っていないと推察されるので、予習時間を作るように何か工夫が必要だと思った。この時間が取れると知識の定着にも大きく寄与するのではないかと考えられた。

**【自由記述（抜粋）】**

（履修して感じた事は生化学Ⅰ、Ⅱともにこちらが理解しているのかの確認なく、どんどん進んでしまうため、講義では内容を理解しにくい。また、今年まで使っている教科書ではわかりにくいところもあると感じた。

最初からノートを取っていたが、ノートに転記し終える前にスライドが進んでしまうため授業スライドの配布が一番最初にした方がいいと思う。再履修してようやくしっかりと内容を理解できた。）

コメント、ありがとうございました。時間のわりには内容が多いので、どうしてもPPTを進めるペースが速くなってしまったのではないかと思います。少し時間を取って進める確認出来る所は確認しながら進めたいと思います。PPTの資料を最初に配布してしまうと授業に対する集中力がなくなると思い、最後の復習のために配布していました。意見を参考に次回から工夫をしたいと思います。

#### 基礎栄養学（管理栄養学科2年前期・必修）

管理栄養学科 教授 花井 美保  
回答者数 16名  
火曜・3限・3101教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.44 | 2. 学生の取組      | 3.44 | 3. 学修の到達度 | 3.38 |
| 4. 学修の環境  | 3.31 | 5. 教員のフィードバック | 3.25 | 6. 学修の満足度 | 3.38 |
| 7. 事前学修時間 | 2.50 | 8. 事後学修時間     | 2.50 |           |      |

本科目は1年次に履修した食品学、生化学、調理学の知識をベースに栄養素の消化・吸収・代謝および各種栄養素の体内での働きを理解することを目的としている。管理栄養士国家試験ガイドラインに準じる内容だが、学生の評価は「3.学修の到達度 3.38」、「6.学修の満足度 3.38」であり、学生にとっては難しい内容が多かったかと思われる。内容をもっと容易なものとし、学生が親しみを感じるような授業内容にしたい。先にある国家試験のことを考えると頭が痛い、基礎の基礎をしっかり押さえることを来年度は、目標としたい。また、「7.事前学修」、「8.事後学修」の平均時間は、5割の学生が0～30分程度であり、こちらの想定時間よりも短かった。事後学修用にmanabaで課題を課しているが、授業内容の理解により効果的なものとなるよう課題の見直しもしていきたい。尚、回答者数が受講者数52名中16名と少なかったため、全員の意見を反映していない。授業中にアンケート回答時間を設けなかったためである。今回は、授業時間内に実施することを失念しないようにしたい。

#### 臨床栄養学Ⅰ（管理栄養学科2年前期・必修）

管理栄養学科 教授 菅野 丈夫  
回答者数 48名  
火曜・1限・3503教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.60 | 2. 学生の取組      | 3.25 | 3. 学修の到達度 | 3.31 |
| 4. 学修の環境  | 2.73 | 5. 教員のフィードバック | 2.88 | 6. 学修の満足度 | 3.42 |
| 7. 事前学修時間 | 1.60 | 8. 事後学修時間     | 1.77 |           |      |

「6.学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思う。一方、「4.学修の環境」の評価が芳しくなかった。「4.学修の環境」は「意見を伝えたり、質問・発表したりする機会が設けられていたかどうか」が評価のポイントであるが、この教科は学生に覚えてもらう事項が多く、どうしても一方的な講義にならざるを得ない。この点については来年以降も同じような授業にせざるを得ない。なお、授業の最後に質問の時間を設けてはいたものの、残念ながら質問が皆無であった。「7.事前学修時間」や「8.事後学修時間」が少なかったが、これは「5.教員のフィードバック」すなわち課題や宿題をほとんど課していなかったことにも原因があると思われる。来年度からはこの点について考慮したいと思う。

**公衆栄養学Ⅱ（管理栄養学科 3 年前期・選択）**

管理栄養学科 准教授 原島 恵美子  
 回答者数 44 名  
 木曜・3 限・1407 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.43 | 2. 学生の取組      | 3.02 | 3. 学修の到達度 | 3.05 |
| 4. 学修の環境  | 2.98 | 5. 教員のフィードバック | 3.09 | 6. 学修の満足度 | 3.05 |
| 7. 事前学修時間 | 1.57 | 8. 事後学修時間     | 1.61 |           |      |

「1. 授業の設計」「2. 学生の取組」「3. 学修の到達度」の評価から、管理栄養士課程の専門科目としての目的は達成されているものと考えられる。

講義では、練習課題により理解度を確認しながら、解説を加えている。このことは、「5. 教員のフィードバック」の評価につながっていると思われる。しかし、「7. 事前学修時間」がほぼ 0 分と回答した学生が 5 割となっており、予習の努力によりさらなる内容の理解につながっていくことを期待したい。同様に、「8. 事後学修時間」の結果から、約 4 割の学生が 0 分と回答しており、ポートフォリオへ毎回復習問題を提示しているものの、学習時間が短いことから、より学びを深められる項目に改めていきたい。今後は、事前・事後学修に確実に取り組むように「1. 授業の設計」の仕掛けを見直してさらなる改善を図りたい。

**【自由記述（抜粋）】**

毎回、授業の振り返り問題があったので復習でき、理解しやすかった。/授業の最後に、国試問題をとくことで、その授業の復習ができ、よかった。/国試などにでる大切なところがどこなのかレジュメだとよくわからなかったので穴埋めなどが欲しかった。/印刷でスライドにないけどスクリーンに出しているものも印刷として出して欲しいです（→資料の出典を紹介しているので、自身で調べてみましょう）。

**応用栄養学Ⅱ（管理栄養学科 3 年前期・選択）**

管理栄養学科 准教授 三宅 理江子  
 回答者数 28 名  
 水曜・3 限・3503 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.71 | 2. 学生の取組      | 3.46 | 3. 学修の到達度 | 3.64 |
| 4. 学修の環境  | 3.32 | 5. 教員のフィードバック | 3.71 | 6. 学修の満足度 | 3.61 |
| 7. 事前学修時間 | 1.54 | 8. 事後学修時間     | 2.00 |           |      |

「学修の満足度」についてはおおむね良好だった。学修の環境がやや低かった。低かった原因として、授業の途中で質問時間を設けたり、授業後に manaba から質問を受けたりして、質問できる機会を設けたつもりだったが、対面では質問がでにくく、機会をうまく使えていなかったものと考えられる。また、教員から学生に質問して回答してもらう機会があったが、学生自らの意見を発表する機会は授業の設計上無かった。次学期からは、授業後の manaba からの質問は継続し、授業中の質疑や学生の意見を発表する機会を ICT も活用しながら有効に活用できるようにしたいと考えている。事前学修時間については「ほぼ 0 分」もしくは「30 分程度」が大半であったことから、事前学修を進めるような指導が行えていなかったことが考えられる。事後学修については課題として manaba を用いた理解度の確認をしたことと、対面で行った動画をオンデマンドとして視聴できるようにしたため「30 分程度」以上を選択した者が最も多かった。事後学修の内容は、今後も継続していきたいと考えている。

自由記述欄は、授業の復習がしやすい授業設定ができており、理解の定着につながったという意見が多かったので継続していきたいと考えている。資料の提示は学生の反応にさらに気を配りながら行なう。

## 【自由記述（抜粋）】

毎回、前回授業内容の振り返りがあり、復習になったのでとても分かりやすかった(2名)。/分野ごとに国家試験の過去問を解く機会があつて、習ったことが定着しやすかった(2名)。/教科書やプリントに線を引くことによって復習がしやすかった。/資料がみやすく、ポイントを抑えてくれたので、勉強しやすかった。/資料が多く、どこを読んでいるかわからないときがあつた。

## 調理学（管理栄養学科1年前期・必修）

管理栄養学科 准教授 野村 知未  
回答者数 26名  
月曜・2限・3307教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.85 | 2. 学生の取組      | 3.62 | 3. 学修の到達度 | 3.81 |
| 4. 学修の環境  | 3.54 | 5. 教員のフィードバック | 3.62 | 6. 学修の満足度 | 3.81 |
| 7. 事前学修時間 | 2.42 | 8. 事後学修時間     | 2.64 |           |      |

「3.学修の到達度」と「6.学修の満足度」同じ評価点であり、授業内容を理解できたと感じたことから学修の満足度が高得点につながったと考えている。

一方、「7.事前学修時間」、「8.事後学修時間」の評価点が低く、到達度評価の平均点と併せて考えると、理解していないものの理解したつもりになっている学生が多いのではないかと懸念している。本科目は、管理栄養士国家試験の出題範囲に含まれることから、事後学修として過去の国家試験問題（国試ノート）を課している。しかし、下記に示した自由記述欄のコメントより、事後学修が不完全なまま到達度評価を迎える学生がいたと考えられる。そのため、最終授業日には復習をかねた総まとめの時間がとれるよう授業設計を再度検討したい。

## 【自由記述（抜粋）】

国試ノートの答えがあっているかわからない部分があつたため、マナバで解説が見られるようにしてほしいと思ひました。/先生が厳しくも丁寧に指導してくださいました。

## 臨床工学科

### 応用数学（臨床工学科 1 年前期・必修）

臨床工学科 教授 松田 康広  
回答者数 6 名  
火曜・3 限・3603 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.67 | 2. 学生の取組      | 3.83 | 3. 学修の到達度 | 3.83 |
| 4. 学修の環境  | 3.50 | 5. 教員のフィードバック | 3.33 | 6. 学修の満足度 | 3.67 |
| 7. 事前学修時間 | 1.67 | 8. 事後学修時間     | 2.33 |           |      |

微分積分、ベクトル、行列、複素数について学習する授業で、応用数学演習と合わせて、週 2 回の授業として進めました。100 分、28 回の授業となったことから、内容を見直し、これまで使用していた教科書から配付資料に変更しました。授業では、前半は講義内容と例題の説明を行い、後半は演習としました。100 分授業となったことから、内容に応じて、講義の内容を前半と後半に分け、講義→演習→講義→演習といった回も設けました。演習問題（宿題）と解答は昨年までと同じものを使用しました。宿題は回収せず、次の授業中に問題集を確認し、確認印を押すようにしました。微分、積分、ベクトル・行列について、3 回分野別テストを行い、理解の確認を行いました。微分と積分の分野別テストの成績がよくなかった学生には補習を 2 回行いました。分野別テスト、期末テストの結果は、例年よりやや低くなっていました。引き続き、演習に取り組みながら、理解を深めて欲しいと思います。

### 計測工学（臨床工学科 2 年前期・必修）

臨床工学科 教授 松田 康広  
回答者数 11 名  
金曜・1 限・3101 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.55 | 2. 学生の取組      | 3.45 | 3. 学修の到達度 | 3.45 |
| 4. 学修の環境  | 3.55 | 5. 教員のフィードバック | 3.82 | 6. 学修の満足度 | 3.55 |
| 7. 事前学修時間 | 1.36 | 8. 事後学修時間     | 2.09 |           |      |

計測の基礎、機械的測定、A/D 変換、デジタル信号処理、周波数解析について学習する授業です。100 分、14 回授業となったことから、これまでの授業内容を見直し、機械的測定の内容を取り入れ、ノギスとマイクロメータによる長さの計測実習を行いました。これまで同様、コンピュータを使用した演習を行い、A/D 変換や移動平均、フィルタ、フーリエ解析をシミュレーションによって学習し、理解を深めることを目指しました。期末試験は、コンピュータを使用した実技試験（持ち込み可）と、筆記試験（持ち込み不可）を実施しました。例年に比べてやや理解が低かったと感じています。

### 電気工学 I（臨床工学科 1 年前期・必修）

臨床工学科 教授 河口 進一  
回答者数 18 名  
月曜・1 限・3408 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.72 | 2. 学生の取組      | 3.17 | 3. 学修の到達度 | 3.00 |
| 4. 学修の環境  | 2.72 | 5. 教員のフィードバック | 3.61 | 6. 学修の満足度 | 3.28 |
| 7. 事前学修時間 | 1.72 | 8. 事後学修時間     | 2.78 |           |      |

授業では電気工学の基礎修得を目指しました。新たなことは複数回を通じて最低でも3度の学修機会が得られるよう構成しました。manabaの機能を活用して、皆さんが授業時間以外で学修しやすい材料を提供し支援ができるように心がけました。資料についてはよりわかりやすい解説や知識定着につながる問題を整備したいと思います。期末試験前の問題まとめ資料が無かった点のご指摘がありました。毎回の授業後の配布資料ですでに課題問題と解説を配布していましたので、今回改めてまとめた資料の配布は行いませんでした。この点がきちんと伝わるように授業の中でも気を配りたいと思います。質問を受ける環境整備についても課題を感じており、何らかの改善を図ることを考えております。今後も頂いたコメントを参考に改善を続けたいと思います。

#### 【自由記述（抜粋）】

解説を載せる際、なぜそのような答えになるのか具体的な説明が載っていて復習する際に理解しやすかった。小テストで授業の内容を復習できるので、定着しやすい仕組みだと感じた。授業中の演習問題をまとめたスライドをテスト前に出して欲しい。確認テストの答えを提出期限後に出して欲しい。（テスト前に確認するため。）中間では問題まとめのスライドがあったのに対し、期末ではなかったので問題まとめのスライドが欲しかったです。授業においては、最初前回の復習から入ってくれていたのが新しい内容が頭に入りやすかったです。ありがとうございました。授業資料をもう少し見やすくして欲しい。例えば、内容で使う公式と、その方針を示した図と一緒に文章が書いてあると、図の何がどの式を示しているかは一目で分かるが、その式の説明がどの文でされているか分かりにくいため。

#### 医用工学概論（臨床工学科1年前期・必修）

臨床工学科 教授 金 大永  
回答者数10名  
木曜・2限・4203教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.80 | 2. 学生の取組      | 3.80 | 3. 学修の到達度 | 3.80 |
| 4. 学修の環境  | 3.70 | 5. 教員のフィードバック | 3.60 | 6. 学修の満足度 | 3.70 |
| 7. 事前学修時間 | 2.10 | 8. 事後学修時間     | 2.30 |           |      |

「6.学修の満足度」を総合評価と考えれば、悪くはないと思っている。

しかし、「7.事前学修時間」と「8.事後学修時間」の時間が短いと感じる。特に「8.事後学修時間」の結果からは、小テストに必要な時間が30分未満の学生が多数であることは非常に残念である。これも「1.授業の設計」の仕方を見直すことによって改善を図りたい。

#### 【自由記述（抜粋）】

初学であり、基礎的な内容ながらも難しい内容を含んでおり、授業内容を理解するのに苦しむことが多々あったが、少しでも疑問に思ったことは質問をすれば直ぐに解答をだしてくれ、さらに同じ内容をそのまま繰り返す言うのではなく分かりやすく噛み砕いて説明して下さり、とても助かりました。（→ありがとうございます。力になります）

#### 体外循環装置学（臨床工学科3年前期・必修）

臨床工学科 准教授 酒井 徳昭  
回答者数31名  
水曜・2限・4203教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.65 | 2. 学生の取組      | 3.55 | 3. 学修の到達度 | 3.52 |
| 4. 学修の環境  | 3.13 | 5. 教員のフィードバック | 3.52 | 6. 学修の満足度 | 3.55 |
| 7. 事前学修時間 | 2.39 | 8. 事後学修時間     | 3.26 |           |      |

科目の到達目標と評価点数に大きな乖離はないと考えている。

評価点数は、去年と比較して、平均で0.15ポイント増加(3.17→3.32)しており、満足のいく結果となった。

去年の課題であった「7. 事前学修時間」と「8. 事後学修時間」については、小テストの位置付けを上げ、事前と事後の学修方法を一部学生においては一緒に考えるなど改善を図った。その効果もあってか、「7. 事前学修時間」については0.30ポイント増加、「8. 事後学修時間」についても0.73ポイント増加した。しかしながら、「7. 事前学修時間」は、未だ平均で2.39(学修時間30分～1時間程度)と課題が残る結果となった。

課題としては、講義が一方向型授業となってしまったことで、学生の発言する機会を失わせたことにあると捉えている(「4. 学修環境」)。これに関しては、限られた授業時間内で、国家試験に向けての知識を修得させるといった大きな難題があり、カリキュラムの見直しも視野にいたした改善が必要ではないかと考えている。

#### 【自由記述(抜粋)】

講義資料は講義中の閲覧は可能だが、ダウンロードや印刷はできない設定にしてデータを配付していたので、それに関する改善コメントが幾つか見受けられた。これに関しては、幾つか検討すべき事項もあるが、前向きに改善を図っていきたい。

#### 生体機能代行技術学Ⅰ(臨床工学科2年前期・必修)

臨床工学科 助教 川崎 路浩

回答者数 23名

火曜・3限・K4-4203 教室

|           |      |               |      |           |      |
|-----------|------|---------------|------|-----------|------|
| 1. 授業の設計  | 3.74 | 2. 学生の取組      | 3.39 | 3. 学修の到達度 | 3.39 |
| 4. 学修の環境  | 3.26 | 5. 教員のフィードバック | 3.65 | 6. 学修の満足度 | 3.39 |
| 7. 事前学修時間 | 2.13 | 8. 事後学修時間     | 2.35 |           |      |

「6. 学修の満足度」を総合評価と考えれば、まずまずだと思う。

一方、「4. 授業の環境」での評価が芳しくない。次回開講時には、学生からの意見、質問がしやすい授業設計と運営を心掛けたい。また、「7. 事前学修時間」や「8. 事後学修時間」の結果からは、毎回の授業時以外にも授業前後で一定の学習時間を設けていることが読み取れる。引き続き、学生が自主的に学習に取り組むことを促しつつ、分かりやすい授業をおこなっていきたい。

#### 【自由記述(抜粋)】

去年と比較すると全ての内容で同じ教授が担当したため、非常に理解しやすく、勉強に対する意欲を維持することが出来た。課題、テストについても何度も反復勉強する機会ができ、内容を覚えやすかったと思う。/スライドで画像が多く使われていたため分かりやすかった。/どこまで覚えればいいのかわからなかった。が授業はとてもわかりやすかった。/講義や試験当日に持ち物の連絡があるのは、既に大学にいる場合も多いため、前日に連絡するなどして改善して頂きたいです。僕の場合、朝7時には既に大学にいるため、「レポートを印刷して持ってくる」等の指示があった際にはネットプリントでお金が必要になってしまいます。前日など事前に連絡があればその必要がありません。(→早めに連絡するようにします)

## VI コメント教員索引

## ア

饗場 直美, 153, 154

浅川 友幸, 33, 34

新井 健太, 74

荒船 俊太郎, 31

有川 敬輔, 79

## イ

五百蔵 重典, 98, 99

石川 敢也, 103

石塚 英雄, 58

石綿 良三, 40, 68

市村 重俊, 135

伊藤 勝久, 19, 20

伊藤 伸也, 97

稲葉 達也, 100

井家 敦, 108

井上 哲理, 106

今井 健一郎, 80

岩城 孝明, 63, 70

岩本 嗣, 133

## エ

江澤 弘和, 89

## オ

大木 富, 36

大平 哲史, 109

大塚 真吾, 101

大庭 武泰, 91

大場 宏明, 85

大平 道広, 35

岡崎 昭仁, 120, 121

岡崎 秀俊, 103

岡本 剛, 106

岡本 学, 107

奥村 万規子, 126

押鐘 由理子, 58

小田切 祐詞, 19

## カ

格和 純, 69

春日 秀雄, 111

片山 久王, 151

門田 和雄, 57

金森 克洋, 53

金子 直美, 143, 144, 145, 146

兼頭 ゆみ子, 30

神谷 克政, 41, 68

神谷 亮, 66

河口 進一, 158

川口 隆史, 54

川崎 路浩, 160

川島 豪, 79

河原崎 徳之, 124

菅野 丈夫, 155

## キ

菊地 哲也, 65

北折 典之, 92

金 大永, 159

木村 誠聡, 98

清瀬 千佳子, 154

## ク

工藤 嗣友, 87

窪田 光枝, 148

熊谷 俊司, 44, 48, 85

栗田 泰生, 71

栗原 誠, 138

黒川 真毅, 115

## コ

小池 あゆみ, 134

小池 利康, 82, 83

河野 智子, 35, 38

兒玉 健, 42

牛腸 政孝, 23

小林 雅博, 25

小宮 聖司, 121

## サ

齋藤 貴, 90

齋藤 礼弥, 45

酒井 徳昭, 159

酒井 雅裕, 114

佐口 清美, 149

佐々木 千恵, 24

佐藤 史緒, 27

佐藤 尚, 111

澤井 淳, 51, 152, 153

## シ

塩川 茂樹, 107

師玉 真理, 21

柴田 大輔, 138

清水 秀信, 133

## ス

須賀 弘道, 43

杉村 博, 129

瑞慶覧 章朝, 87

須藤 康裕, 102

陶山 大一郎, 33

## セ

セーナーカ シヤカ, 49, 54

## タ

高尾 秀伸, 123  
 高橋 勝美, 123, 143  
 高橋 宏, 88  
 高橋 明史, 31  
 高見 実智己, 92  
 竹田 裕一, 51  
 竹村 厚士, 29, 39  
 田代 誠, 147  
 田中 博, 101  
 田中 美穂, 26

## ナ

中山 裕之, 50  
 奈良 唯唯子, 147  
 南葉 利道, 44, 70, 72, 73

## ニ

新実 絹代, 142  
 西田 幸典, 142  
 西村 広光, 112

## ノ

納富 一宏, 52  
 信田 勝美, 48  
 野村 知未, 157

## ハ

萩野 直人, 81  
 服部 元史, 113  
 花井 美保, 155  
 林 直樹, 81  
 端山 喜紀, 89  
 原島 恵美子, 156

## ヒ

久松 桂子, 148  
 広井 賀子, 43, 52, 126  
 兵頭 和人, 124

## フ

福山 圭介, 24, 25  
 藤村 陽, 42, 74  
 藤森 雅巳, 63

## マ

前山 直美, 141  
 町田 直子, 36  
 松井 陽征, 22  
 松下 優一, 22  
 松田 康広, 158  
 松本 拓真, 32  
 松山 英人, 49, 50  
 守田 憲崇, 150

## ミ

三浦 嵩広, 53  
 三浦 直子, 26  
 三橋 大輔, 30  
 宮城 学, 34  
 三宅 理江子, 156  
 宮崎 剛, 102  
 宮田 統馬, 46, 88

## ム

村田 隆, 134  
 村中 峯子, 146

## モ

望月 厚志, 64  
 森山 誠二郎, 38  
 門田 英子, 67, 72

## ヤ

谷代 一哉, 100  
 谷戸 光昭, 149  
 山内 俊明, 46  
 山口 淳一, 90, 91  
 山下 直也, 136

山本 一雄, 40, 68  
 山本 桂, 37

## ヨ

吉川 紀夫, 84  
 義澤 幸恵, 28

## ラ

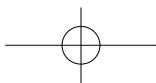
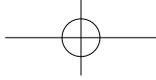
ラザファイナンテナ エトウアルド, 55, 56, 65

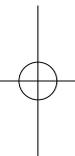
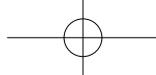
## リ

凌 暁萍, 108

## ワ

若原 拓己, 45, 47, 104, 105  
 脇田 敏裕, 119  
 渡辺 演久, 32  
 渡部 智樹, 114  
 和田 理征, 137





より良い教育を目指して

-学生による授業アンケート結果と教員から学生の皆様へのコメント-  
24号

2024年12月15日 印刷・発行

発行 神奈川工科大学 教育開発センター

〒243-0292

神奈川県厚木市下荻野1030番地

印刷 株式会社 サンテクノ

〒162-0814

東京都新宿区新小川町3丁目20番

